

目 次

設置の趣旨等を記載した書類（明海大学保健医療学部口腔保健学科）

1	設置の趣旨及び必要性	1
(1)	学校法人明海大学の沿革と教育理念	1
(2)	設置の理由・必要性	1
(3)	教育研究上の理念・目的（ディプロマポリシー）	3
2	学部・学科の特色	4
(1)	既設の他学部他学科との連携	4
(2)	建学の精神等を具現化する共通科目	4
(3)	社会的ニーズに応える専門教育	5
(4)	国際性の涵養	6
3	学部・学科の名称及び学位の名称	7
(1)	学部・学科の名称及び学位の名称	7
(2)	当該名称とする理由	8
4	教育課程の編成の考え方及び特色	8
(1)	教育課程編成の方針（カリキュラムポリシー）と教育課程の全体像	8
(2)	共通科目	10
(3)	専門科目	11
5	教員組織の編成の考え方及び特色	14
(1)	専任教員数	14
(2)	専任教員の配置	14
(3)	専任教員の年齢構成と定年	14
(4)	教員組織の将来構想	15
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	17
(1)	授業の方法等	17
(2)	授業を行う学生数	17
(3)	配当年次	17
(4)	履修指導方法	18
(5)	進級要件	18
(6)	卒業要件	19
(7)	履修モデル	19
(8)	履修科目の年間登録上限（CAP制）	19
(9)	GPA制度	20
7	施設、設備等の整備計画	20
(1)	校地、運動場	20
(2)	校舎等の施設及び設備等	20
(3)	図書等の資料及び図書館	21

8	入学者選抜の概要	22
(1)	学生受入れの方針（アドミッションポリシー）	22
(2)	入学者選抜試験の実施計画と選抜方法	22
9	取得可能な資格	23
10	実習の具体的計画	24
(1)	実習の基本方針、目的等	24
(2)	実習先の確保の状況	25
(3)	実習先との契約内容	25
(4)	実習水準の確保の方策	26
(5)	実習先との連携体制	27
(6)	実習前の準備	27
(7)	事前・事後における指導計画	28
(8)	教員の配置及び巡回指導計画	28
(9)	実習施設における指導者の配置計画	28
(10)	成績評価体制及び単位認定方法	29
11	管理運営	29
12	自己点検・評価	31
(1)	実施体制・方法	31
(2)	評価項目	32
(3)	結果の活用・公表	33
13	情報の公表	34
(1)	法人の基本情報	34
(2)	法人の経営及び財務に関する情報	34
(3)	教育研究活動に関する情報	34
(4)	教員の養成の状況（教職課程）に関する情報	37
(5)	自己点検・評価及び第三者評価に関する情報	37
(6)	その他の情報	37
14	教育内容等の改善を図るための組織的な取組	37
(1)	授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の計画	37
(2)	大学職員に必要な知識・技能を習得させるとともに、必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組	39
15	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	42
(1)	教育課程内の取組	42
(2)	教育課程外の取組	42
(3)	適切な体制の整備	43

明海大学 保健医療学部 口腔保健学科 設置の趣旨等を記載した書類

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 学校法人明海大学の沿革と教育理念

学校法人明海大学（以下「本法人」という。）は、昭和 45 年 4 月、埼玉県坂戸市に「城西歯科大学」として歯学部を開設し、同年 6 月には付属病院を設置した。その後、昭和 52 年 4 月に大学院歯学研究科博士課程を設置。さらに総合大学化をめざして、昭和 63 年 4 月に千葉県浦安市に外国語学部日本語学科・英米語学科・中国語学科、経済学部経済学科を増設し、これを機に大学名を「城西歯科大学」から「明海大学」に変更した。また、平成 4 年 4 月には不動産学部不動産学科、平成 10 年 4 月には大学院応用言語学研究科、経済学研究科及び不動産学研究科、平成 17 年 4 月にはホスピタリティ・ツーリズム学部ホスピタリティ・ツーリズム学科を増設、5 学部 7 学科、4 研究科を擁し現在に至っている。

本法人が設置する「明海大学」は、創立以来、建学の精神として「社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざす」を掲げ、学則第 1 条に規定する目的「明海大学は、教育基本法ならびに学校教育法の定めるところに従い、広く一般教養および専門教育の学術を教授研究し、社会性、合理性、創造性豊かな人材を育成すると共に、人類共存の理念に基づき広く社会の発展に貢献することを目的とする。」に基づき教育、研究及び歯科医療を始めとする社会貢献活動を展開している。

なお、歯学部においては、埼玉県坂戸市の付属病院のほか、埼玉県入間市、東京都渋谷区及び千葉県浦安市の 3 か所に PDI* 歯科診療所を設置し、歯科医師の育成のみならず地域社会の健康増進のための歯科医療機関として中核的役割を担っている。

* PDI : Post-Doctoral Institute of Clinical Dentistry（歯科医師臨床研修機関）

(2) 設置の理由・必要性

ア 社会的ニーズへの対応

超高齢社会、平均寿命の伸長、さらには健康志向の高まりの中において、歯・口腔の健康は、「いかに豊かな人生を送るか」という QOL（Quality of Life）の観点から、その社会的ニーズはますます増加し、同時に多様化と高度化が求められている。また、近年では、歯・口腔と全身の健康の因果関係が注目されており、国民の健康増進の観点からも歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を担う歯科衛生士の育成が重要になってきている。

歯科衛生士のニーズは、平成 29 年度に一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会が行った「歯科衛生士教育に関する現状調査」（資料 1）の結果によると、平成 28 年度の歯科衛生士の求人は全国で 84,811 件、求人人数は 133,189 人、それに対する就職者数は 6,487 人で、求人倍率は過去最高の 20.5 倍と年々増加する傾向にある。とりわけ関東、甲信越地域は、調査結果にあるとおりその求人倍率は 25.2 倍となり、人材不足は深刻な状況にあると

言っても過言でない。また、このような歯科衛生士の需給環境の中、「一般社団法人千葉県歯科医師会」、「一般社団法人浦安市歯科医師会」及び「一般社団法人市川市歯科医師会」からの歯科衛生士養成課程設置の要望にも応え、千葉県浦安市に「保健医療学部 口腔保健学科」を設置する運びとなったものである（資料 2：一般社団法人千葉県歯科医師会、一般社団法人浦安市歯科医師会及び一般社団法人市川市歯科医師会からの歯科衛生士養成課程設置に関する要望書）。

イ 多様化、高度化への対応

超高齢社会の進展に伴い、介護予防事業における口腔機能向上のための支援や、要介護高齢者施設における誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアが重要になってきている。すなわち、国の健康増進の施策でもある「21 世紀における国民の健康づくり運動（健康日本 2 1（第二次）」にもあるように、歯科衛生士の役割は従前の「歯科診療補助」から「歯科予防処置」や「歯科保健指導」といった歯及び口腔の健康増進に繋がる歯科保健対策に移りつつある（資料 3：厚生労働省「健康日本 21（第 2 次）」（「⑥歯・口腔の健康」抜粋）。また、これまでの病院又は診療所における口腔ケアに加え、在宅医療や在宅看護・介護に伴う口腔ケアの必要性がますます高まっている。

「保健医療学部口腔保健学科」の所在地である千葉県では、平成 22 年 4 月に「千葉県歯・口腔の健康づくり推進条例」が施行され、これを受けて平成 23 年 3 月には「千葉県歯・口腔保健計画」が策定された。

当該計画では、歯・口腔の健康は、生涯を通じて自分の歯でしっかりと噛んで食べることを可能にするだけでなく、バランスのとれた適切な食生活を送ることを可能にし、肥満や糖尿病などの生活習慣病の予防へとつながるなど、全身の健康を保持増進するための重要な要素になっているとしている。また、「歯・口腔の健康づくり」は、乳幼児期から高齢期までライフステージを通じて継続的に取り組む必要があるとしている。

因みに、当該計画における現状と課題の中では、県内の就業歯科衛生士数は年々増加しているものの、都道府県別に人口 10 万人対の率で見ると、千葉県は 58.3 と全国の 75.5 に比較して少ない状況にある。また、歯・口腔の健康づくりの業務に携わる者の確保及び資質の向上のための施策の方向として、市町村の歯科衛生士が歯・口腔保健サービスに果たす役割は大きいことから、今後、歯・口腔保健サービスをさらに展開するにあたり、市町村等に歯科衛生士の配置を働きかけていくとしている（資料 4：千葉県歯・口腔保健計画）。

ウ 設置の必要性

このように歯科衛生士の役割は、今後ますます多様化と高度化が進展すると同時に、歯科医療現場から行政や介護、福祉領域などに拡大し、これらに対応する人材の育成は急務であると考えられる。また、多様化と高度化に対応するためには、「保健医療学部口腔保健学科」を設置し、学部教育の 4 年間を通じて、人間性と感性に富み、かつ幅広い知識と口腔保健学分野における学識、高度な臨床能力及び研究能力を備えた専門性の高い人材の育成が必要である。

なお、関東地域で歯科衛生士養成に係る学部学科等を置く大学数は、国公立の 3 校のみ

であり、その入学定員の総数は 77 人と僅かである。このようなことから、関東地域の私立大学として初の歯科衛生士を養成する学部学科を設置することは、前述の社会的ニーズ及び多様化、高度化への対応に資するものであると考える。

エ 本法人の社会的責務と使命

沿革と教育理念でも述べたとおり、本法人は歯学部、大学院歯学研究科及び付属病院のほかに、埼玉県入間市、東京都渋谷区及び千葉県浦安市の 3 か所に PDI 歯科診療所を設置し、歯科医師の育成のみならず地域社会の健康増進のための歯科医療機関として中核的役割を担ってきている。

このように、本法人は歯学及び歯科保健学分野に関する教育・研究者を擁し、かつこれまでの教育研究の蓄積と地域社会の歯科医療を担ってきた実績等からも、「保健医療学部口腔保健学科」を設置し、4 年間の教育研究を通じてより高度で専門性の高い歯科衛生士を育成することは本法人に課せられた社会的責務であると考えている。加えて、口腔保健学分野の将来的な発展と国民の健康増進のためにも、同分野に携わる優れた教育者又は研究者を養成することは正に本法人に課せられた使命であると考えている。

(3) 教育研究上の理念・目的 (ディプロマポリシー)

ア 人材養成の目的

本学の建学の精神は、「社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざす」にある。また、学則第 1 条に規定する大学の目的は、「明海大学は、教育基本法ならびに学校教育法の定めるところに従い、広く一般教養および専門教育の学術を教授研究し、社会性、合理性、創造性豊かな人材を育成すると共に、人類共存の理念に基づき広く社会の発展に貢献することを目的とする。」としている。

これらの建学の精神と学則第 1 条に規定する大学の目的に基づき、「保健医療学部口腔保健学科は、国際未来社会で活躍し得る人間性、感性に富む歯科衛生士を育成するため、広く知識を授け、口腔保健学分野における学識、臨床能力及び研究能力を培うことを目的とする。」を掲げ、これを教育上の目的とする。

イ 学位授与の方針 (ディプロマポリシー) (学生に修得させる能力を含む。)

(ア) 大学全体のディプロマポリシー

明海大学は、厳格な成績評価の下、建学の精神としての社会性（変わりゆく社会の中でも課題を発見し、主体的に解決する思考力や判断力）の資質、創造性（自ら求めゆく理想に到達するための思考過程や技術の創造と表現力）の資質、そして合理性（主体的に行動する自律性・自立性と自己の確立）の資質が認められる人材を学位授与の基礎とし、各学部学科及び研究科にて基準を定めている。

(イ) 「保健医療学部口腔保健学科」のディプロマポリシー

「保健医療学部口腔保健学科」では、次の要件を満たした者に「学士（口腔保健学）」の学位を授与する。

- ① 口腔保健にかかる健康増進・医療・福祉に携わることができる知識と技能を有し

実践することができる。

- ② 歯科衛生士としての誇りと職業倫理を有し、生涯にわたって国民の健康な生活を確保することができる。
- ③ 医療にかかわる他の職種とも連携して、口腔保健の立場から社会的な貢献ができる。
- ④ 口腔保健の専門職種として国際社会で活躍することができる。
- ⑤ 課題に対して論理的思考力を発揮して解決することができる。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

「保健医療学部口腔保健学科」は、主に歯科医師及び歯科衛生士としての教育・研究及び臨床の経験を有する各専門領域の専門家をもって構成している。このようなことから「保健医療学部口腔保健学科」では、歯学及び口腔保健学の幅広い領域が研究対象となり得るが、昨今の超高齢社会、平均寿命の伸長、さらには健康志向の高まりの中において、とりわけ介護予防事業における口腔機能向上のための支援や、要介護高齢者施設における誤嚥性肺炎予防などに関わる研究を中心に推進する。

2 学部・学科の特色

(1) 既設の他学部他学科との連携

「保健医療学部口腔保健学科」は、国際未来社会で活躍し得る人間性、感性に富む歯科衛生士を育成するため、広く知識を授け、口腔保健学分野における学識、臨床能力及び研究能力を培うことを目的としている。

専門教育では、既設の歯学部と連携を図ることで、これまでの教育研究の蓄積を生かし、学部学科の専門領域である口腔保健学分野における学識、臨床能力及び研究能力を培う教育を強力に推進することが可能になる。具体的には、埼玉県坂戸市にある付属病院又は埼玉県入間市、東京都渋谷区若しくは千葉県浦安市にある PDI 歯科診療所などの臨床実習の場の提供と高度で専門性の高い指導を行うことができることにある。また、教育研究に支障のない範囲で、歯学部の専任教員が授業の一部を兼担することで専門性の高い授業を提供することができる。加えて、必要に応じ両学部の教員が共同研究を推進することで、これらの研究成果に裏付けられたより高度で専門性の高い専門教育を提供することが可能になる。一方、教養教育では、既設の外国語学部日本語学科、同学部英米語学科、同学部中国語学科、経済学部経済学科、不動産学部不動産学科及びホスピタリティ・ツーリズム学部ホスピタリティ・ツーリズム学科と連携を図ることで、多彩で充実した授業科目と学修環境を提供することが可能となり、心豊かな幅広い教養を身につける充実した教育を展開することができる。

(2) 建学の精神等を具現化する共通科目

本学の建学の精神は、「社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざす」にある。また、学則第 1 条に規定する大学の目的は、「明海大学は、教育基本法ならびに学校教育法の定めるところに従い、広く一般教養および専門教育の学術を教授研究し、社会性、合理性、創造性豊かな人材を育成すると共に、人類共存の理

念に基づき広く社会の発展に貢献することを目的とする。」としている。

建学の精神を具現化し大学の目的を達成するため、今般設置を構想している保健医療学部口腔保健学科、同キャンパスにある既設の外国語学部日本語学科、同学部英米語学科、同学部中国語学科、経済学部経済学科、不動産学部不動産学科及びホスピタリティ・ツーリズム学部ホスピタリティ・ツーリズム学科の共通科目では、「常に変化する社会の中で、自ら課題を見つけ解決する能力」「新たなモノや考え方を生み出し、前に進もうとする姿勢」「情報社会の中での確かな判断基準を持ち、自分自身を確立する力」「豊かな感性」「国際性」からなる「明海の人間力」を育む教育活動を多彩で充実した科目を提供し推進する。

これら共通教育の概要は次のとおりである。

(共通教育の概要)

科目区分		概 要	主要科目
基礎教育		コミュニケーション能力やITの基礎知識など、大学における学修に必要な基礎力や社会生活に必要な汎用的技能を中心に学修する。	学修の基礎Ⅰ（スタディプロモーション） 学修の基礎Ⅱ（コミュニケーションスキル） 学修の基礎Ⅲ（論理的推論、情報リテラシー）
人間力形成教育	人間形成	多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解など、幅広い分野の学問を学修することにより、自らの生活において課題発見・解決を行うことができる「人間力」を育成する。	社会生活と倫理、文学の世界、人類と文化、心理学、コミュニケーション論、生命と遺伝子、ほか
	国際理解		国際関係論、国際貢献論、民族と宗教、異文化コミュニケーション論、中国語と中国文化、ほか
	社会生活		法学、日本国憲法、経済のしくみ、政治のしくみ、自然環境論、行動科学、生活と安全、行動科学、ほか
キャリア形成教育		企業など実社会における実務・実践的な能力・技術を身につけ、生涯を通じた持続的な就業力を育成するための効果的なキャリア形成教育を行う。	キャリアプランニングⅠ～Ⅲ キャリアデザイン

(3) 社会的ニーズに応える専門教育

超高齢社会、平均寿命の伸長、さらには健康志向の高まりの中において、近年では、歯・口腔と全身の健康の因果関係が注目されており、国民の健康増進の観点からも歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を担う歯科衛生士の育成が重要になってきている。とりわけ超高齢社会と言われる現代社会において、介護予防事業における口腔機能向上のための支援や、要介護高齢者施設における誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアが重要になってきている。

そこで、「保健医療学部口腔保健学科」の専門教育においては、「歯科衛生士学校養成所指定規則（昭和二十五年文部省・厚生省令第一号）」及び「歯科衛生士養成所指導ガイドライン（平成27年3月31日付け医政発0331第61号）」に定める教育内容を充足することはもちろんのこと、臨床歯科医学では「高齢者・スペシャルニーズ歯科学」及び「摂食嚥下リハビリテーション学」、歯科予防処置論では「臨床歯科衛生活動論」、歯科保健指導論では「摂食嚥下リハビリテーション実習」、歯科診療補助論では「チーム歯科医療学実習Ⅰ」及び「チーム歯科医療学実習Ⅱ」を独立した授業科目として開設し、ライフステージに応じて柔軟に対応できる歯科衛生士を育成する。特に、近年、地域包括ケアの推進が叫ばれ「医療連携」が必須となっており、医療連携の骨格であるチーム医療の実現が重要になってきている。本学部においても歯学、医学、看護学、リハビリテーション学など多職種連携の教育により歯科

衛生士として口腔保健の立場から、チーム医療連携を実践できる人材輩出を考えている。そのため、チーム医療連携を修得可能なカリキュラムとして「チーム歯科医療学実習Ⅰ」「チーム歯科医療学実習Ⅱ」を開設している。さらに、これらの授業に加えて、付属病院（医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士）、健康センター（保健師、歯科衛生士、栄養士）や老人福祉施設（看護師、社会福祉士、介護福祉士）などの臨床臨地実習施設において、チーム医療連携の在り方について実践体験を通じて学修する。

なお、チーム歯科医療学実習Ⅰでは、歯科衛生士で介護支援専門員（ケアマネージャー）の実務経験を有する専任教員と、医師、看護師である兼任又は兼任教員がオムニバスで授業を担当する。チーム歯科医療学実習Ⅱでは、チーム歯科医療学実習Ⅰの授業担当者のほか、理学療法士である兼任教員が加わりオムニバスで授業を行う。

(4) 国際性の涵養

建学の精神、大学の目的及び学部学科の目的にもあるように、国際性の涵養は大学全体としてはもちろんのこと、「保健医療学部口腔保健学科」においても重要な教育研究活動の一つとして位置付けている。

歯学・口腔保健学の領域においては、世界的な視野で幅広い研究活動が行われており、また、歯科衛生士の職域においても、国際歯科衛生士連盟（IFDH）に日本国を始め世界30か国が加盟し、各国の持ち回りでシンポジウムが開催されている。

このように、歯科衛生士の職域においてもグローバル化が進展しており、これに対応できる国際感覚を身につけた人材を育成することは重要になってきている。そこで、「保健医療学部口腔保健学科」では、教育課程の共通教育において次のとおり「国際理解」に関する授業科目（選択科目）を開設するとともに、専門教育では、1年次から3年次にかけて必修の英語科目を配置し、国際性を涵養する教育を展開する。

（「国際理解」関係の授業科目）

日本の歴史、国際関係論、国際貢献論、民族と宗教、異文化コミュニケーション論、日本語と日本文化A・B、フランス語とフランス文化A・B、ドイツ語とドイツ文化A・B、スペイン語とスペイン文化A・B、韓国語と韓国文化A・B、中国語と中国文化A・B、英語文化研究A・B、国際理解ゼミナール

また、本学では、国際化を推進するため14か国・地域の41大学と姉妹校又は学術協力の協定を締結し、学生の派遣、留学生の受入れ、研究者の相互交流等多様な交流を行っている。とりわけ歯学の分野では、次に掲げる協定校において学生の相互交換研修プログラム（奨学派遣）が行われており、「保健医療学部口腔保健学科」においても同様に推進すべく協定校と協議を進める予定である。

（歯学部における交換研修先）

- アメリカ
カリフォルニア大学ロサンゼルス校、アラバマ大学バーミングハム校、テキサス大学サンアントニオ校、タフツ大学
- メキシコ
メキシコ州立自治大学
- 中国
北京大学、第四軍医大学
- フィンランド
トゥルク大学
- イタリア
シエナ大学

なお、「保健医療学部口腔保健学科」のディプロマ・ポリシーにおいては、「口腔保健の専門職種として国際社会で活躍することができる」ことを掲げている。

本学では、歯科衛生士国家資格の取得および学士の学位取得にとどまらず、その後の修士、博士の学位取得までのキャリアパスを円滑に進め、多くの人材を輩出することを想定しており、活躍の場は多岐にわたると考えている。

本学が養成する人材が将来活躍することを想定している場面は、以下のとおりである。

ア 海外で口腔保健を担う人材を養成すること。

アジア諸国には「歯科衛生士」という職種や国家資格が存在していない国が多く、日本の歯科衛生士教育がアジア諸国のスタンダードともなり得る。本学の姉妹校である北京大学からも「歯科衛生士制度」創設のための人材育成の要請を受けている。本学の養成する人材が活躍する場面として、現地の大学教員として歯科衛生士制度の創設に携わり、歯科衛生士を養成することが想定される。学問的裏付けを持った口腔保健に携わる者として、母国での口腔保健業務での活躍が期待できる人材を育成することが可能である。

イ インバウンドの歯科治療対応を円滑に行うこと。

平成 29 年の訪日外国人旅行者数は 2,869 万人におよび（出典：日本政府観光局（JNTO））、日本を訪れる外国人観光客は年々増加している。外国人観光客が日本で歯科治療を受ける際には、歯科衛生士として適切な説明や良好なコミュニケーションを行うことが求められるため、国際性豊かな教育を受けた本学の人材が活躍することが期待される。

ウ 学士の学位取得後、修士課程、博士課程へ進学し、口腔保健領域の研究者・教員として重要な役割を担うとともに国際学会、留学など海外で活躍すること。

エ 国際的な視野を持ち、口腔保健の専門家として JAICA などの国際協力組織へ参画すること。

オ 歯科関連企業において歯科関連製品の開発・生産に携わり世界的な展開を行う人材の育成が期待できる。

上記のような人材を養成するために、教育課程においては、専門科目の「基礎分野」の「科学的思考の基盤・人間と生活」の「英語コミュニケーション」の他に、教育課程の共通科目の「人間力形成教育」において「国際理解」に関する授業科目を開設しており（選択必修：2科目4単位以上）、専門科目のみならず、共通科目においても国際性を涵養する教育を展開する。特に「国際理解」では、国際関係と民族や文化、異文化コミュニケーションのほか、諸外国の言語を通じてそれぞれの国・地域の歴史、文化、社会などを理解することで、広い視野とともに、異文化に対する理解や、異なる文化を持つ人々と共に協調する態度などを育成する。また、本学では、国際化を推進するため多くの海外の大学と交流協定を締結している。保健医療学部口腔保健学科においても、グローバルな口腔保健事情を学ぶ機会として海外姉妹校との連携を積極的に進めることとする。

3 学部・学科の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科の名称及び学位の名称

保健医療学部 School of Health Sciences
口腔保健学科 Department of Oral Health Sciences
学士（口腔保健学） Bachelor of Oral Health Sciences

(2) 当該名称とする理由

「保健医療学部口腔保健学科」は、保健・医療・福祉といった現場において歯科衛生士として活躍する人材を育成することに主眼を置いている。また、既設の歯学部と連携しつつ、「歯・口腔の健康と全身の健康」を多面的に教育研究することで、国民の健康増進を図ることを目的としている。このことから、学部名については、教育研究の目的に相応しく、かつ将来的な教育研究領域の拡充等を勘案して「保健医療学部」とし、学科名については、育成する人材の目的を適切に表す「口腔保健学科」とした。学位に付記する専攻分野の名称「口腔保健学」についても学科名と同様である。学部・学科及び学位に付記する専攻分野の英訳名称については、国際的な通用性を考慮したものである。

なお、将来的には、少子高齢化のさらなる進展に伴う人口構造の大きな変化とこれに伴う保健医療制度の変革に対応するため、中長期的な視点に立った保健医療分野における教育研究領域の拡充等を考えている。具体的には健康の維持・増進に資する「食と栄養」若しくは「運動と健康」といった人間の健康を科学する学科、又は高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービスを提供する体制「地域包括ケアシステム」を支える医療専門職を育成する学科を候補とし、今後、社会的需要と学生確保の見通し等を慎重に分析した上で学科増設を構想する予定である。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の方針（カリキュラムポリシー）と教育課程の全体像

ア 大学全体のカリキュラムポリシー

明海大学は、技術の進歩と人間性の調和を図りつつ世界への貢献を果たすという創造性を建学の精神の一つとしている。大学としてその時代の最先端をどのようにリードしていくかという課題に直面しながらも、一方的な技術の振興を図ることではなく、技術の進歩と人間性の調和を図りつつ世界への貢献を果たさなければならない。この意味において、大学生としての学修を通じて社会性、創造性、そして合理性を身につけ「明海の人間力」を形成するための基盤を形成する基礎教育、自らの知識技能を高める人間力形成科目、そして培った力を社会で発揮するためのキャリア教育を共通科目に置き、加えて、各学部学科および研究科のディプロマポリシーに到達するためのカリキュラムを専門科目として配置している。

「明海の人間力」：常に変化する社会の中で、自ら課題を見つけ解決する能力

新たなモノや考え方を生み出し、前に進もうとする姿勢

情報社会の中での的確な判断基準を持ち、自分自身を確立する力

豊かな感性

国際性

イ 「保健医療学部口腔保健学科」のカリキュラムポリシー

「広い視野・豊かな感性・国際性」を兼ね備えた、常に変化し続ける社会状況に対応可能な“国際未来社会で活躍し得る歯科衛生士”を養成するため、4年間一貫教育のカリキュラム編成を行っている。

- 1 人間性の陶冶を図るための教養教育を充実し社会人としての基礎力を向上する。
- 2 社会性、創造性、合理性の高揚を図り、国際性を進展させるための科目の充実を図る。
- 3 超高齢社会での口腔保健の実践力を育成するため医学的知識の涵養に加え、摂食嚥下機能や周術期療法にかかる知識と技能の高揚を図る。
- 4 スペシャルニーズに対応できる知識と技能を修得する。
- 5 実習を通じて他職種連携の重要性を理解する。
- 6 臨床および地域保健あるいは地域包括ケアにおいて総合的に活躍できる知識と技能の修得を図る。
- 7 国際性の向上を図るため語学学修を充実する。
- 8 問題解決能力や研究能力の育成を図るための課題研究を行う。

ウ 教育課程の全体像

共通科目及び専門科目の各分野等の科目を、基礎・応用・実践と順序立て、かつ、専門科目については、歯科衛生士の主要業務である①歯科予防処置、②歯科診療補助、③歯科保健指導を、基礎及び関連分野の専門基礎を含め体系的に学修できるよう科目区分を設定している。

なお、4年間の教育課程の全体像は次のとおりである。

科目区分等	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業
	基礎力の養成	将来の目標設定	自己実現に向けてスキルアップ		
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎教育 ・コミュニケーション能力や IT の基礎など大学における学修に必要な基礎力や社会生活に必要な汎用的技能を中心に学修 				明海大学の人間力形成↓理想の進路・就職の実現
	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間力形成教育(教養教育) → 「人間形成」「国際理解」「社会生活」 ・多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解など、幅広い分野の学問を学修することにより、自らの生活において課題発見・解決を行うことができる「人間力」を育成 				
	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア形成教育 ・企業など実社会における実務・実践的な能力・技術を身につけ、生涯を通じた持続的な就業力を育成するための効果的なキャリア教育を実施 				
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎分野 ・科学的思考の基盤の修得 ・人間と生活の理解 				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門基礎分野 ・人体の構造と機能の理解 ・歯・口腔の構造と機能の理解 ・疾病の成り立ち及び回復過程の促進の理解 ・歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みの理解 				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野 ・歯科衛生士概論 		<ul style="list-style-type: none"> ・臨床歯科医学 ・歯科予防処置論 ・歯科保健指導論 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療補助論 		<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習(臨床実習を含む。) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合演習 ● 卒業研究 			<ul style="list-style-type: none"> ・歯科総合演習 ・卒業研究 	

(2) 共通科目

ア 基礎教育

基礎教育は、大学におけるコミュニケーション能力やITの基礎など大学における学修に必要な基礎力や社会生活に必要な汎用的技能を中心に、入学してまもない1年次に必修科目として履修することとしている。開設授業科目は、「学修の基礎Ⅰ」(スタディプロモーション)、「学修の基礎Ⅱ」(コミュニケーションスキル)、「学修の基礎Ⅲ-a」(論理的推論)、「学修の基礎Ⅲ-b」(情報リテラシー)の4科目で、特にスタディプロモーションとして位置付けている「学修の基礎Ⅰ」は前期に配当し、入学後の早い時期から大学生活に馴染むよう学修のモチベーション向上を図る。

イ 人間力形成教育

人間力形成教育は、多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解など、幅広い分野の学問を学修することにより、自らの生活において課題発見・解決を行うことができる「人間力」を育成する授業科目で、いわゆる教養教育に相当するものである。

当該分野は、「人間形成」、「国際理解」及び「社会生活」の3分野で構成し、特徴的で多彩な科目群の中から学生自身の学修の深度と知的好奇心に応じて1年次から4年次にかけて選択履修することとしている。

なお、履修の方法は、各分野から2科目4単位以上、計6科目12単位以上を選択履修しなければならない。

(ア) 「人間形成」分野の開設授業科目

人間存在の課題、社会生活と倫理、文学の世界、人類と文化、美とは何か、コミュニケーション論、心理学、からだと健康、日本人の生活意識、性格とは何か、生命と遺伝子、スポーツ科学講義A、スポーツ科学講義B、スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B、ボランティア講義、人間形成ゼミナール、以上17科目

(イ) 「国際理解」分野の開設授業科目

日本の歴史、国際関係論、国際貢献論、民族と宗教、異文化コミュニケーション論、日本語と日本文化A(外国人留学生対象)、日本語と日本文化B(外国人留学生対象)、フランス語とフランス文化A、フランス語とフランス文化B、ドイツ語とドイツ文化A、ドイツ語とドイツ文化B、スペイン語とスペイン文化A、スペイン語とスペイン文化B、韓国語と韓国文化A、韓国語と韓国文化B、中国語と中国文化A、中国語と中国文化B、英語文化研究A、英語文化研究B、国際理解ゼミナール、以上20科目

(ウ) 「社会生活」分野の開設授業科目

法学、日本国憲法、経済のしくみ、政治のしくみ、自然環境論、生活と安全、行動科学、データのまとめ方、数理の世界、身近な化学、社会生活ゼミナール、以上11科目

ウ キャリア形成教育

企業など実社会における実務・実践的な能力・技術を身につけ、生涯を通じた持続的な就業力を育成するための効果的なキャリア教育を1年次から3年次にかけて開講する。なお、履修方法は、キャリアプランニングⅠ～Ⅲ及びキャリアデザインの4科目を開設し、学生自身の進路に応じて履修できるよう自由選択とする。

エ 特別科目（外国人留学生対象選択科目）

アカデミック日本語Ⅰ、アカデミック日本語Ⅱ、アカデミック日本語Ⅲ、アカデミック日本語Ⅳ、以上4科目

(3) 専門科目

「歯科衛生士学校養成所指定規則（昭和二十五年文部省・厚生省令第一号）」及び「歯科衛生士養成所指導ガイドライン（平成27年3月31日付け医政発0331第61号）」に則った教育課程を編成するとともに、より高度で専門性の高い授業科目を配置するなど、歯学部を擁する本学の強みを生かした教育課程を編成した。特に、超高齢社会、平均寿命の伸長、さらには健康志向の高まりの中において、とりわけ介護予防事業における口腔機能向上のための支援や、要介護高齢者施設における誤嚥性肺炎の予防などに関わる授業科目を充実させた。

なお、履修は、すべて必修科目で51科目105単位を履修しなければならない。

ア 基礎分野

科学的思考の基盤・人間と生活

「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎となる授業科目で主に1年次に開設している。併せて、科学的思考力を育て、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容としている。また、人間を幅広く理解できる内容とし、人間関係論、カウンセリング論と技法等を含む内容とし、加えて国際化にも対応しうる能力を育成するため、英語の授業科目を開設している。

「共通科目」の「人間力形成教育」（教養科目）における教育と相俟って、「科学的思考の基盤」及び「人間と生活」に関する理解を深められるよう編成している。

(ア) 人間科学

生命哲学、医療心理学、以上2科目

(イ) 自然科学

生物学、化学、以上2科目

(ウ) 英語コミュニケーション

歯学基礎英語、歯学臨床英語、英会話Ⅰ、英会話Ⅱ、以上4科目

イ 専門基礎分野

人体並びに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防と回復過程に関する知識を修得させ、併せて観察力、判断力を培う内容としている。また、人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や、地域における関係諸機関等との調整能力を培う内容としている。

なお、年次配当は、1、2年次に口腔保健学に係る基礎科目、3年次には臨床応用に繋がる介護福祉及び医科系の基礎科目を配置した。

(ア) 人体の構造と機能

解剖学、生理学、以上2科目

*解剖学については、解剖学の知識の修得と同時に、生命の尊厳、生命倫理、医療倫理を認識させることを目的に、歯学部において解剖実習の見学を含めることを予定している。

(イ) 歯・口腔の構造と機能

口腔解剖学、口腔生理・機能学、口腔組織・発生学、以上3科目

(ウ) 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

口腔病理・微生物学、生化学・栄養生化学、薬理学・歯科薬理学、以上3科目

(エ) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

口腔衛生学、公衆衛生学、介護福祉、臨床医科学、以上4科目

*口腔衛生学には衛生統計及び医療倫理の領域を含む。

*公衆衛生学には衛生行政の領域を含む。

ウ 専門分野

歯科衛生士の意義、業務の枠組みと理論を理解し、職業倫理を高める態度を養う。歯科医療の概要とその診療補助の基礎的理論や基礎技術を学ぶ内容で、高齢者や要介護者、障がい者等を対象とした歯科医療における補助診療の能力を養うものとし、主に2年次から4年次の臨地実習（臨床実習を含む。）にかけて順序立てて学修できるよう年次配当している。また、生涯を通じた継続的な口腔保健管理について十分に理解させ、疾病やライフステージ別の予防法や予防システムの構築を学ぶとともに、業務記録の記載法や記録の必要性の理解を深める内容としている。さらに、ライフステージ毎に多様な生活環境・健康状態にある個人及び集団に対して、専門的な立場から歯科保健指導・健康教育の支援ができる能力を養えるような内容としている。また、チーム医療の一員として歯科診療補助業務の基礎的理論や基礎的技術を修得するほか、地域包括ケアにおける歯学、医学、看護学、リハビリテーション学など多職種連携の教育により歯科衛生士として口腔保健の立場から、チーム医療連携を実践できる内容としている。なお、臨地実習（臨床実習を含む。）は、知識・技術を歯科臨床や地域保健等の実践の場面で適用し、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うとともに、チーム医療連携の在り方について実践体験を通じて学修することができる内容とし、歯科医療機関における臨床実習は、キャンパス内にある「明海大学 PDI*浦安歯科診療所」を中心に、埼玉県坂戸市にある「明海大学歯学部附属明海大学病院」、東京都渋谷区にある「明海大学 PDI*東京歯科診療所」及び埼玉県入間市にある「明海大学 PDI*埼玉歯科診療所」等で行うこととし、臨床実習以外の実習は、地域の社会福祉施設、健康センター及び学校で実施する。

*PDI : Post-Doctoral Institute of Clinical Dentistry（歯科医師臨床研修機関）

(ア) 歯科衛生士概論

口腔保健学概論、以上 1 科目

* 専門分野の導入科目であることから、学生の学修意欲を高めるため本学の歯科診療所における臨床見学を併せて行うことを予定している。

(イ) 臨床歯科医学

臨床検査・放射線学、歯科保存学、歯科補綴学、口腔外科・麻酔学、小児・矯正歯科学、高齢者・スペシャルニーズ歯科学、摂食嚥下リハビリテーション学、以上 7 科目

* 歯科保存学には、歯内療法学及び歯周病学の領域を含む。

* 歯科補綴学には、歯科材料学、義歯学及びクラウンブリッジ補綴学の領域を含む。

(ウ) 歯科予防処置論

歯科予防処置論Ⅰ、歯科予防処置論Ⅱ、歯科予防処置実習Ⅰ、歯科予防処置実習Ⅱ、臨床歯科衛生活動論、口腔保健管理学実習、以上 6 科目

(エ) 歯科保健指導論

歯科保健指導論Ⅰ、歯科保健指導論Ⅱ、歯科保健指導実習Ⅰ、歯科保健指導実習Ⅱ、摂食嚥下リハビリテーション実習、以上 5 科目

(オ) 歯科診療補助論

歯科診療補助論Ⅰ、歯科診療補助論Ⅱ、歯科診療補助実習Ⅰ、歯科診療補助実習Ⅱ、歯科診療補助実習Ⅲ、チーム歯科医療学実習Ⅰ、チーム歯科医療学実習Ⅱ、以上 7 科目

(カ) 臨地実習（臨床実習を含む。）

口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ、口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ、口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ、以上 3 科目

エ 総合演習

4 年次の「歯科総合演習」は、これまでに学修した各分野、領域の学修内容を統合・発展させた授業内容とする。4 年間の学びの集大成としての「卒業研究」に繋がる確かな基礎力と応用能力を修得する。

オ 卒業研究

「保健医療学部口腔保健学科」における 4 年間の学びの集大成として、4 年次に「卒業研究」を配置している。当該授業科目では、口腔保健学又は関連する専門的な領域に関するテーマをグループ又は個人単位で設定し、卒業論文の提出又は症例研究発表などを行うことで、「学士」の学位を授与するに相応しい研究活動を通じて知的探究心を醸成するものである。特に、将来の進路として、教育者又は研究者をめざす学生には、卒業論文の提出を必須とする。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 専任教員数

「保健医療学部口腔保健学科」の専任教員数は、学部・学科の教育研究が円滑に実施できるよう、大学設置基準で定める基準を満たすことはもちろんのこと、「歯科衛生士学校養成所指定規則（昭和二十五年文部省・厚生省令第一号）」に定める基準を満たすよう 16 人（うち教授 10 人）を配置する。

なお、大学設置基準に定める専任教員数は、学部の種類が「保健衛生学関係（看護学関係を除く。）」で収容定員が 280 人（入学定員 70 人）であることから 14 人（うち教授 7 人）となる。

(2) 専任教員の配置

医療専門職である「歯科衛生士」を育成するとともに、口腔保健学に関する教育研究を行うことから、主に「歯科医師」又は「歯科衛生士」として豊富な臨床経験を有し、又は、「歯学・口腔保健学」若しくは関連分野の教育研究能力のある者を専任教員として配置している。加えて、各教員の専門領域についても考慮することで、専門科目の主要科目に専任教員を配置している。

なお、医療連携の骨格であるチーム医療の観点からは、専任教員のうち 1 人は、歯科衛生士で介護支援専門員（ケアマネージャー）の実務経験を有する者を配置するほか、医師、看護師又は理学療法士である兼任教員又は兼任教員を配置することで、多職種連携にも対応できる教員組織編成とした。

区 分		教 授	准教授	講 師	計	備 考
歯科医師	博士	8 人	1 人	1 人	10 人	
	修士					
歯科衛生士	博士	1 人		2 人	3 人	
	修士			2 人	2 人	
その他	博士	1 人			1 人	
	修士					
計		10 人	1 人	5 人	16 人	

(3) 専任教員の年齢構成と定年

ア 年齢構成

専任教員の開設時の年齢構成は次のとおりであり、学部全体に占める各年代の割合はおおむね適正であると考ええる。

区 分	29 歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計
教 授			1 人	2 人	3 人	4 人		10 人
准教授				1 人				1 人
講 師		2 人	3 人					5 人
計		2 人	4 人	3 人	3 人	4 人		16 人
		12.5%	25.0%	18.8%	18.8%	25.0%		100%

イ 定年年齢及び定年到達者の取扱い等

本法人の就業規則に基づく定年制度は次のとおりとなっている。

就業規則	定年年齢	根拠となる条文等
学校法人明海大学職員定年規程 (資料 5)	65 歳	第 1 条 この規程は、学校法人明海大学就業規則第 17 条の規定に基づき、職員の定年に関する事項を定める。 第 2 条 職員の定年は、教育職員及び研究職員は満 65 歳、その他の職員は満 63 歳とする。
学校法人明海大学特定契約職員就業規則 (資料 6)	70 歳 延長制度あり	第 1 条 この規則は、学校法人明海大学就業規則第 2 条の 6 に基づき、特定契約により採用され一定期間又は常時勤務する職員の就業等に関し、定めることを目的とする。 第 2 条 この規則は、本法人に特定契約により採用された、次に掲げる職員にして第 2 項に定める者に適用する。 (1) 教育職員 (2) ～ (7) (略) 2 前項第 1 号及び第 2 号の職員については満 65 歳、それ以外の号の職員については満 63 歳を超えた者であって、本法人が必要とする高度な業務又は特殊な業務を行う能力を有する特定の者とする。 (略) 第 5 条 特定契約職員の定年は満 70 歳とする。 2 本法人が特に認める者については、理事会において期間を定めて定年を延長することができる。

なお、就任時 65 歳以上の 4 人は、「学校法人明海大学特定契約職員就業規則」に基づき専任教員として採用する者であり、うち 2 人は完成年度前に 70 歳の定年に到達することから、同規則第 5 条第 2 項により 71 歳（完成年度）まで定年を延長する。また、開設時 60 歳から 64 歳の 3 人のうち、2 人は完成年度前に「学校法人明海大学職員定年規程」に定める 65 歳の定年に到達することから、「学校法人明海大学特定契約職員就業規則」に基づく専任教員として再雇用（定年 70 歳）する。

なお、完成年度以降、順次定年により退職となる者の補充は、「学校法人明海大学教育職員採用及び昇任手続規程」(資料 7)に基づき、(4)で述べる教員組織の将来構想により行う。

(4) 教員組織の将来構想

教育研究の継続性を踏まえ、常に適正な編成(年齢構成と各専門領域の職位別の教員配置)とするため、次のとおり計画し実行する方針である。なお、保健医療学部口腔保健学科では、教授職にあつては博士の学位を有する者、准教授及び講師にあつては博士の学位を有している者又は取得計画のある者で教員組織を編成する方針である。

博士の学位は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力等を身に付けていることの証でもある。学士課程教育における教育研究の質保証の観点と、将来的な教育者又は研究者の育成の観点からも博士の学位を有する者は必要であると考える。

ア 若手教員の育成方針

(ア) FD 活動を通じて若手教員の教育力の向上を図る。具体的には、若手教員を対象に教育者としての自覚や意識の涵養、口腔保健学に関する理解の促進、教授方法や教材開発などの教育方法に関する研修会を定期的を開催する。→学部開設後、毎年度定期的に実

施する。

- (イ) 科学研究費補助金をはじめ外部の研究費助成制度への積極的な応募を薦めるとともに、不採択になった場合は、本学独自の研究費助成制度（宮田研究奨励金）から研究費を助成することで、教育研究活動の活性化を図り、研究業績の質的向上に繋げる。→学部開設後、毎年度定期的実施する。
- (ウ) 博士の学位未取得者には、早期の取得を促進するよう、大学院（社会人対象のコース）への進学を推奨する。→適時実施する。
- (エ) 国内又は海外の大学等において研修を希望する者には、本学の国内・海外研修員制度により、授業運営に支障がでないよう計画的な研修派遣を行う。→適時実施する。

イ 今後(学部完成年度以降)の採用計画

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っているため、主に助教又は講師の採用を進めると同時に、アによる若手教員の育成を積極的に推進することで、ウの教授又は准教授昇任の資格基準を充足させ、専任教員の年齢構成の適正化を図っていくこととする。

ウ 資格基準の制定

学部開設後、すみやかに保健医療学部口腔保健学科の教員資格基準を制定するとともに、若手教員の育成方針、教員人事の方針及び当該教員資格基準を周知する方針である。なお、保健医療学部口腔保健学科の教員資格基準は、次の（案）により制定する予定である。

- (ア) 教授は、次のいずれかに該当する者とする。
 - ① 博士の学位を有し、学術論文数が10編以上（その内、最近5年以内に公刊されたものが3編以上）、かつ、教育・研究上の経歴・経験年数が14年以上（医歯大卒は12年以上）ある者
 - ② 前記①の者に準ずると認められる者
- (イ) 准教授は、次のいずれかに該当する者とする。
 - ① 博士又は修士の学位を有し、学術論文数が6編以上（その内、最近4年以内に公刊されたものが3編以上）、かつ、教育・研究上の経歴・経験年数が9年以上（医歯大卒は7年以上）ある者
 - ② 前記①の者に準ずると認められる者
- (ウ) 講師は、次のいずれかに該当する者とする。
 - ① 博士又は修士の学位を有し、学術論文数が3編以上（その内、最近3年以内に公刊されたものが2編以上）、かつ、教育・研究上の経歴・経験年数が5年以上（医歯大卒は3年以上）ある者
 - ② 前記①の者に準ずると認められる者
- (エ) 助教は、次のいずれかに該当する者とする。
 - ① 修士の学位を有し、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者
 - ② 前記①の者に準ずると認められる者
- (オ) 助手は、学士の学位を有し、歯科医師又は歯科衛生士の臨床経験を有する者とする。

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業の方法等

ア 授業の方法

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。なお、講義及び演習は、1人の授業担当教員が行うことを原則とするが、専門分野が多岐にわたるなど授業科目の特性によっては、教育効果を考慮し、必要に応じて複数の教員が分担するオムニバス方式又は複数の教員が共同で授業を担当する方法により授業を行う。実験、実習及び実技については、教育効果を考慮し、必要に応じて複数の教員が共同で担当する。

イ 単位

各授業科目の単位数は、明海大学学則第5条の2の規定により1単位の授業を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

(ア) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。

(イ) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

(ウ) 上記(ア)及び(イ)によりがたい授業科目は、各学部の定めによるものとする。

なお、学修効果の観点から、外国語科目については30時間の授業をもって1単位、臨地実習（臨床実習を含む。）については45時間の実習をもって1単位（基本的に1週間の実習に相当）とする。

ウ 授業期間

1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを標準とし、前期15回、後期15回の実授業日数を確保している。

(2) 授業を行う学生数

一の授業科目について同時に授業を行う学生数は、おおむね次のとおりである。

科目区分等		学生数	備考
共通科目 (教養選択科目)	講義	30～150人以内	
	語学	30人以内	
	演習、実技	20人以内	
専門科目	講義、演習、実習	50人以内	原則2クラス編成
	臨地実習	2人以上10人以内	グループ単位

(3) 配当年次

専門科目の配当年次は、1年次に「専門科目」の導入として、口腔保健学の基礎について学び、2年次については、口腔保健学の基礎と実践科目について展開する。3年次については、口腔保健学の実践科目として、歯科保健指導や歯科診療補助に関する「専門科目」に加え、歯科医療機関での「臨地実習」が展開される。さらに、4年次には、3年次に引き続き「臨地実習」として学校現場、社会福祉施設や健康センターにおける実習のほか、4年間の

集大成としての「歯科総合演習」及び「卒業研究」を展開する。

当該授業では、口腔保健学又は関連する専門的な領域に関するテーマをグループ又は個人単位で設定し、卒業論文の提出又は症例研究発表などを行うことで、「学士」の学位を授与するに相応しい研究活動を通じて知的探究心を醸成するものである。特に、将来の進路として、教育者又は研究者をめざす学生には、卒業論文の提出を必須とする。

なお、共通科目において、1年次の導入教育である「基礎教育」以外の人間力形成教育（教養教育）は、学生自身の学修の深度と知的好奇心に応じて1年次から4年次にかけて選択履修できるよう配置している。

科目区分等	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎分野 ・ 科学的思考の基盤の修得 ・ 人間と生活の理解 			
	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門基礎分野 ・ 人体の構造と機能の理解 ・ 歯・口腔の構造と機能の理解 ・ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進の理解 ・ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みの理解 			
	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野 ・ 歯科衛生士概論 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床歯科医学 ・ 歯科予防処置論 ・ 歯科保健指導論 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療補助論 			
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地実習（臨床実習を含む。）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合演習 ● 卒業研究 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科総合演習 ・ 卒業研究 	

(4) 履修指導方法

履修指導は、学年始めに全体のガイダンスを行うほか、オフィスアワーを設定するなど個別相談にも常時応じる体制を敷く。また、専任教員による担任制度を設け、履修指導のみならず進路や生活指導を含め幅広くきめ細かい指導・相談体制を構築する。

加えて、教育後援会（在学生のすべての父母で組織）とも連携し、大学所在地のみならず各地方で開催する父母懇談会や個別面談を通じて、学生、父母、大学の三位一体による指導を行う。

(5) 進級要件

2年から3年への進級要件は、次のとおりである。

授業科目等	必要単位数	備考
「共通科目」の必修科目	8単位	
「専門科目」の必修科目「歯科衛生士概論」	2単位	
上記で修得した科目以外の必修科目	34単位	
計	44単位	

(6) 卒業要件

卒業要件は、4年以上在学し、125単位以上を修得することとし、その内訳は次のとおりである。

科目区分			区分	科目数	単位数	備考		
共通科目	基礎教育		必修	4	8	基礎教育は、全学生共通に必要な学ぶ基礎力を養うもので原則として全学生必修とする。 人間力形成教育は、学生自身の学修の深度と知的好奇心に応じて4年間の中で主体的に学べるよう多様な科目の中から選択とする。 キャリア形成教育及び特別科目は学生の個々の事情によるため自由選択とする。		
	人間力形成教育	人間形成	選択	17	4			
		国際理解	選択	20	4			
		社会生活	選択	11	4			
	キャリア形成教育		選択	4	—			
特別科目（外国人留学生対象科目）		選択	4	—				
共通科目計			—	60	20			
専門科目	基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活	人間科学	必修	2	4	専門科目は、医療専門職としての歯科衛生士養成の趣旨から、すべての授業科目を必修とする。 なお、4年次必修科目の「卒業研究」については、4年間の学びの集大成として、口腔保健学又は関連する専門的な領域に関するテーマを、グループ又は個人単位で選定し、当該専門領域の指導教員（授業担当教員）の下で、卒業論文の執筆又は症例研究発表を行うこととする。	
			自然科学	必修	2	4		
				英語コミュニケーション	必修	4		4
				小計	—	8		12
	専門基礎分野	人体の構造と機能		必修	2	4		
		歯・口腔の構造と機能		必修	3	6		
		疾病の成り立ち及び回復過程の促進		必修	3	6		
		歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		必修	4	8		
				小計	—	12		24
	専門分野	歯科衛生士概論		必修	1	2		
		臨床歯科医学		必修	7	14		
		歯科予防処置論		必修	6	9		
		歯科保健指導論		必修	5	7		
		歯科診療補助論		必修	7	9		
		臨地実習（臨床実習を含む。）		必修	3	20		
				小計	—	29		61
	総合演習	歯科総合演習		必修	1	4		
		卒業研究		必修	1	4		
				小計	—	2		8
	専門科目計			—	51	105		
合計			—	111	125			

(7) 履修モデル

資料8のとおり

(8) 履修科目の年間登録上限（CAP制）

単位の実質化のため、日々の学修が無理なく効果的に行われるよう、各年次、学期ごとに履修科目の上限（CAP制）を定めている。

なお、2年（3学期）から4年（8学期）の履修単位数の上限を24単位から28単位としているのは、学修意欲の高い優秀な学生又は何らかの止むを得ない事情により前年度までの修得単位数が不十分な学生に配慮したもので、クラス担任の指導の下に履修登録することとしている。

年次	学期		履修単位数の上限	備考
	前期	後期		
1	前期	1学期	22	注1：通年科目は、単位数の1/2を前期及び後期にそれぞれ算入する。 注2：集中授業で、学生の休業期間中に行われる授業の単位数は上限に含まれない。
	後期	2学期	22	
2	前期	3学期	24	
	後期	4学期	24	
3	前期	5学期	26	
	後期	6学期	26	
4	前期	7学期	28	
	後期	8学期	28	

(9) GPA 制度

学則に定める成績評価（A 評価～D 評価）のほか、GPA 制度を導入することにより、学生の履修指導及び学修指導に活用するほか、奨学金給付候補者選考等の基礎資料とする。

7 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場

本学浦安キャンパスの校地及び運動場は、都心や近隣県からも利便性の高い千葉県浦安市にある。今般の「保健医療学部口腔保健学科」の設置に伴う校地及び運動場用地の整備については、学生の休息その他の利用のための適当な空地を考慮しても十分な面積と施設を有していることから、既設学部との共用を図ることとしている。

なお、体育施設では、グラウンド3面（400mトラック併設メイングラウンド、第2グラウンド、サブグラウンド）、テニスコート13面、屋外バスケットボールコート1面、体育館（バスケットボール又はバレーボール2面）、トレーニングセンター、プール（ダイビングプール1面、スイミングプール1面）、トレーニングジム1室、マルチスタジオ1室などがあり、その他の施設としては、屋外円形ステージやメインステージと芝生の広場、四阿や遊歩道沿いのベンチなど、学生が休息したり、課外活動を行うに十分な広さと設備を有している（資料9：浦安キャンパス施設配置図）。

区分	面積 (㎡)	学生1人当たりの面積 (㎡)	設置基準上必要な面積 (㎡)	備考
浦安キャンパス校舎敷地	75,559.40	32.80	41,200.00	注：学生1人当たりの面積と設置基準上必要な面積は、収容定員変更（定員減）及び本学部の完成年度の収容定員（入学定員1,030人、収容定員4,120人）を基に算出している。
浦安キャンパス運動場用地	59,560.43			
計	135,119.83	32.80	41,200.00	

(2) 校舎等の施設及び設備等

本学浦安キャンパスの校舎等の面積は、36,838.90㎡で、設置基準上必要な面積24,535.73㎡*を上回り、かつ、十分な施設及び設備等を有していることから、原則として既存の教室及び演習室等で対応する計画である。ただし、次に掲げる施設については、「保健医療学部口腔保健学科」の専用施設として新たに整備（新設）する（資料10：実習室改修図面）。

*学生1人当たりの面積と設置基準上必要な面積は、収容定員変更（定員減）及び本学部の完成年度の収容定員（入学定員1,030人、収容定員4,120人）を基に算出している。

ア 臨床歯科実習室

最新の歯科診療台を 24 台設置する。歯科予防処置、歯科保健指導及び歯科診療補助の実習を中心に行うこととしているが、臨床実習に臨む前に、実際の診療室での模擬体験を行い、実習現場での学びをより深く効果的に行えるよう活用する。また、滅菌器、その他診療器具、予防処置器具及び歯科保健指導器具などの機械器具等を備えるほか、摂食嚥下リハビリテーションの実習にも活用できるよう、IH の調理器具と流し台等を備えた調理・配膳コーナーを設ける。

イ 基礎歯科実習室

臨床歯科実習の前に、マネキンを使用しての実習を行う。最大 70 人が 1 人 1 台のマネキンを使用できるよう 70 台整備する計画である。なお、実習台には、マネキンのほか、インストラクターの動きをそれぞれの実習台で確認できるようモニターを設置し、予防措置や診療補助で使用するバキューム、3 ウェイシリンジ、エンジンなどを備える。

ウ 歯科用エックス線装置室

デンタルとパノラマ撮影ができるエックス線装置を各 1 台設置する。撮影は、歯科医師が行うが、歯科衛生士は撮影補助を行うため、それに必要な実習を行う。

エ 標本・模型保管庫

授業で使用する人体骨格模型、人体解剖模型、頭蓋骨模型、歯牙着脱顎模型、歯列発育顎模型、救急蘇生法実習モデルなどの標本や模型などを保管する倉庫を整備する。

オ 学生ロッカー室

実習は白衣で行うことから、更衣を行うための全学生分のロッカー室を整備する。

(3) 図書等の資料及び図書館

本学の図書館は、4,081 m²（内閲覧スペース 1,628 m²、書庫スペース 406 m²）で、学生閲覧室の座席数が 396 席、その他の学習室（ラーニングコモンズを含む。）の座席数が 142 席ある。また、オンライン蔵書目録（Online Public Access Catalog）システムにより学内外からインターネットを通じて他大学等を含めた蔵書検索ができるなど、教育研究を促進できる機能が備わっている。

蔵書数は、図書は 290,020 冊、国内雑誌 433 種、外国雑誌 531 種、視聴覚資料の所蔵数 7,115 点、電子ジャーナルの種類 23,699 タイトル、データベースの契約数 11 種と、教養関連を除き、主に既設学部学科に関連した専門図書が配置されている。

そこで、今般の「保健医療学部口腔保健学科」の設置に伴い、口腔保健学及びその周辺領域を中心に図書 1,000 冊、国内雑誌 12 種、外国雑誌 5 種、視聴覚資料 26 点、電子ジャーナル 8,331 タイトル、データベース 2 種の整備を計画している（資料 11：保健医療学部口腔保健学科専門図書等一覧）。

なお、埼玉県坂戸市にある歯学部の図書館との連携はもちろんのこと、私立大学図書館協会及び千葉県大学図書館協議会に加盟している他の大学図書館との相互貸借や文献複写など

の連携を行っている。また、地元浦安市との相互協力に関する合意に基づき、市図書館との相互貸借や文献複写なども行っている。

8 入学者選抜の概要

(1) 学生受入れの方針（アドミッションポリシー）

ア 大学全体のアドミッションポリシー

明海大学は、建学の精神「社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成」をめざして、豊かな人間力を基盤とした高度専門職業人養成を含む幅広い職業人養成を教育の目的としている。そのため、入学予定者には、学業、技術・技能、文化、芸術、スポーツなどの分野で活躍した体験を活かし、入学後、本学での学修を通して、これからの国際社会で通用する実力を身につけ、将来、各分野で活躍したいという強い意志を持つ学生を求めている。さらに、生涯学習社会の到来に対し、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材の育成を目途として、生涯学習型学修に取り組み、自己の更なる確立をめざす者を求めている。

イ 保健医療学部口腔保健学科のアドミッションポリシー

保健医療学部口腔保健学科では、口腔保健学を学ぶことに対して強い意欲を持つ次のような人材を求めている。

- (ア) 口腔保健学の学修に必要な基礎学力を有している人（特に数学、自然科学又は生命科学関連科目を履修していることが望ましい。）
- (イ) 医療人として必要なホスピタリティマインドを有している人
- (ウ) コミュニケーション能力を身につけている人
- (エ) 保健・医療・福祉の分野で自分の能力を発揮したいと願っている人
- (オ) 口腔保健を通じて、国民の生活の向上を図る強い意識を持っている人
- (カ) 国際社会で活躍する希望を持っている人

(2) 入学者選抜試験の実施計画と選抜方法

入試要項、ホームページ等を通じて保健医療学部口腔保健学科のアドミッションポリシー（以下「AP」という。）を周知し、これらを十分理解させた上で出願させることとする。また、一般入試（大学入試センター試験利用入学試験を含む。）においては、主にAPの(ア)の項目にある基礎学力の確認を行うとともに、英語を必修とすることでAPの(カ)の項目における英語力の確認を行う。推薦入試においては、調査書等の出願書類を基にAPの(ア)の項目の基礎学力を確認するとともに、面接試験を通じて主にAPの(イ)から(カ)の項目について確認を行う。その他の特別入試においては、調査書等の出願書類及び講義理解力診断又は小論文を基にAPの(ア)の項目の基礎学力を確認するとともに、面接試験を通じて主にAPの(イ)から(カ)の項目について確認を行う。

このように、受験生の能力、適性、意欲又は関心等を多面的、総合的に評価する多様な入試と複数の受験機会を設けることで、保健医療学部口腔保健学科のAPに適う人材の確保に努める。

なお、外国人留学生については、日本国内の高等学校等に在籍している留学生で、一般入学試験を始めとする通常の入学試験をもって合格した者を受入れるものとし、外国人留学生を対象とする特別入学試験は、当面の間、実施しない方針である。

入試区分	募集人数	選抜方法（試験科目）等
一般入学試験 A 日程（2月）	20	● 必修 英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ） ● 選択（1教科選択）
一般入学試験 B 日程（3月）	5	物理（物理基礎・物理） 化学（化学基礎・化学） 生物（生物基礎・生物） 数学（数学Ⅰ・数学A）
一般入学試験 統一試験（2月）	5	● 必修 英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ） 国語（古文・漢文を除く） 数学（数学Ⅰ・数学A）
大学入試センター試験利用入学試験 A 日程（2月）	10	● 必修 英語 リスニングを除く ● 選択（1教科選択）
大学入試センター試験利用入学試験 B 日程（3月上旬）	5	理科（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から2科目選択、又は「物理」「化学」「生物」から1科目選択）
大学入試センター試験利用入学試験 C 日程（3月中旬）	5	数学（「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」から1科目選択）
指定校推薦入学試験	3	● 出願書類 ● 面接
アドミッション・オフィス（AO） 入学試験 10 月期	3	● 出願書類 ● 理解力診断 ● 面接
アドミッション・オフィス（AO） 入学試験 12 月期	3	【出願条件】 (1) アドミッションポリシーを十分に理解し、本学での勉学を強く希望し、第一志望として入学を志し、合格後の入学を確約できる者
アドミッション・オフィス（AO） 入学試験 3 月期	3	(2) 出願時に高等学校等に在学中の者は、担任又は進路指導部の先生から出願の承認を得た者
生涯学習型社会人特別入学試験 A 日程（12月）	5	● 出願書類 ● 小論文 ● 面接
生涯学習型社会人特別入学試験 B 日程（3月）	3	【出願条件】 (1) 入学年度の4月1日に年齢満23歳以上の者 (2) アドミッションポリシーを十分に理解し、本学での勉学を強く希望する者
計	70	

9 取得可能な資格

4年以上在学し、所定の単位を修得して卒業が認定された者には、学士（口腔保健学）の学位が授与され、同時に「歯科衛生士国家試験の受験資格」を得ることができる。また、厚生労働大臣の指定する社会福祉関係科目*3科目以上修得し卒業が認定された者には、「社会福祉主事任用資格」を取得することができる。

なお、歯科衛生士法（昭和二十三年法律第二百四号）第12条第1号の規定に基づく歯科衛生士学校の指定に関することは、別途申請を行う予定である。

* 本学における社会福祉関係科目

共通教育：「心理学」「法学」

専門教育：「公衆衛生学」「介護福祉」

10 実習の具体的計画

(1) 実習の基本方針、目的等

ア 基本方針

既設の歯学部、歯学部附属病院、PDI*埼玉歯科診療所、PDI*東京歯科診療所及び PDI*浦安歯科診療所における教育研究と臨床の蓄積を最大限生かすことで、より高度で専門的かつ実践的な臨地実習を展開し、臨床に強い歯科衛生士を育成する。加えて、知識・技術を地域保健等の実践の場でも適用し、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う。

*PDI : Post-Doctoral Institute of Clinical Dentistry (歯科医師臨床研修機関)

イ 目的、目標

歯科医療の高度化、専門化が進展する中、質の高い臨地実習を通して、より高度で専門的かつ実践的な能力を修得させるとともに、高い倫理観と幅広い視野・知的探究心を身につけ、チーム医療を支えることのできる歯科衛生士又は口腔保健学の専門家を育成する。

(ア) 目的

- ① 学内で修得した口腔保健の実践に必要な専門的知識、技術及び態度を実際の場面に応用し、総合的な実践力を修得する。
- ② 対象を全人的に捉え、理論と実践を結びつけた包括的な口腔保健活動を展開する能力を養う。
- ③ 実習を通じて、歯科衛生士としての自覚と責任感を養い、保健、医療及び福祉の分野における医療職としての理解を深める。
- ④ 実習を通じて、歯科衛生士に求められる倫理性を養い、自己の人間的成長と専門職業人としての自覚を育む。

(イ) 目標

- ① 口腔保健の対象者と良好な人間関係を築きながら、総合的に理解し、援助的關係を形成することができる。
- ② 多様な対象の特性や状態を理解した上で、根拠に基づき口腔保健の方向性を決定し、問題解決法による計画と口腔保健の実践・評価・改善を行い、それらを記録することができる。
- ③ 修得した専門知識に基づき、基本的な口腔保健に関する技術を実践でき、論理的・科学的に実践することの重要性を認識することができる。
- ④ 歯科医療従事者の役割を理解し、チーム歯科医療についての知識と実践を理解するとともに、保健・医療チームの一員としての歯科衛生士の責任と役割、医療関連従事者との連携が理解できる。
- ⑤ 実習を通じて、自己の歯科衛生士観を深め、豊かな人間性を養う。
- ⑥ 実習を通じて、自己の口腔保健学に対する実践能力の充実・向上を図るために、研究的視点を持つことの重要性が理解できる。

(2) 実習先の確保の状況

ア 臨床実習施設

「明海大学歯学部付属明海大学病院」、「明海大学 PDI 埼玉歯科診療所」、「明海大学 PDI 東京歯科診療所」及び「明海大学 PDI 浦安歯科診療所」において臨床実習を計画している。臨床実習は、少人数グループを編成し、上記臨床実習施設の各診療科をローテーションすることにより行う。

なお、「明海大学歯学部付属明海大学病院」は、学部所在地から公共交通機関で約 1 時間 50 分、「明海大学 PDI 埼玉歯科診療所」は約 1 時間 40 分かかることから、居住地から臨床実習施設までの移動時間が負担となる学生については、その移動時間に応じて実習グループ編成を行うとともに、実習時間数の確保に支障のない範囲内で実習開始時刻を 30 分から 1 時間程度繰り下げる措置を講じる。さらに、居住地が遠方で時間の繰り下げ措置を行ってもなお通学が困難、又はその負担が大きく特別の配慮が必要であると認められる学生については、「明海大学歯学部付属明海大学病院」にあつては代替可能な一部診療科の実習を他の実習施設に変更するなどの措置を講じる。「明海大学 PDI 埼玉歯科診療所」における臨床実習にあつては、実習の質及び内容等の差異のない「明海大学 PDI 浦安歯科診療所」、「明海大学 PDI 東京歯科診療所」又は他の実習施設に変更するなど、実習の質及び内容等に差異が生じない範囲内で柔軟な措置を講じ、学生の負担軽減を図る。加えて、「一般社団法人千葉県歯科医師会」、「一般社団法人浦安市歯科医師会」及び「一般社団法人市川市歯科医師会」からは、歯科衛生士養成課程設置の要望とともに、実習協力の承諾を得ていることから、必要に応じて協力を仰ぐこととする。

イ 臨床実習施設以外の実習施設

市内の介護付き有料老人ホーム（一般型特定施設入居者生活介護）、健康センター及び小学校を計画しており、それぞれ実習受入の承諾を得ている。

なお、実習は、当該年度の実習開始前に上記各施設と各学校との事前協議により、人数の割振りと日程（ローテーションを含む。）を決定する。

（資料 12：実習施設一覧）

（資料 13：実習受入承諾書）

（資料 14：一般社団法人千葉県歯科医師会、一般社団法人浦安市歯科医師会及び一般社団法人市川市歯科医師会からの実習受入協力に関する承諾書）

(3) 実習先との契約内容

本学の歯学部付属病院及び診療所に関しては、特に契約書を交わすことは行わない。ただし、実習内容、期間、実習生の遵守義務、実習中の事故・疾病、個人情報・機密情報の保護、損害保険の加入等に関することは、要項等により学生、教員及び実習指導者に周知徹底を図る。特に事故防止、感染防御対策、個人情報保護、機密情報保護に関することは、学生の实習前オリエンテーションを通じて確実に認識させることとする。

なお、有料老人ホーム（一般型特定施設入居者生活介護）、健康センター及び小学校との契

約に関しては、当該実習先の定めるところに従い、必要に応じて契約を締結することとする。

なお、その場合の契約の項目は次のとおりである。

- 実習委託の内容
- 実習の内容
- 実習期間
- 実習生の遵守事項
- 実習中の事故及び疾病の取扱い
- 個人情報・機密情報の保護
- 損害保険の加入
- その他必要な事項

(4) 実習水準の確保の方策

ア 臨地実習要項の作成・配布

学生、教員及び実習指導者（実習施設）に「臨地実習要項」を配布し、臨地実習の目的・目標、実習方法、実習内容、注意事項等を事前共有することで、実習水準の確保を図る。また、学生は臨地実習中、常に「臨地実習要項」を携帯することを義務づける。

なお、「臨地実習要項」（資料 15）は、最終的には「保健医療学部口腔保健学科臨地実習委員会」において十分検討した上で内容等の充実を図り、臨地実習開始前には正式なものとして発行する予定である。

イ 実習責任者及び実習指導教員の配置と臨地実習委員会の設置

実習水準の維持・向上と円滑な実施に資することを目的に、学科主任の下に、「実習責任者」及び「実習指導教員」を配置する。加えて、学部長、学科主任、実習責任者及び実習指導教員で構成する「保健医療学部口腔保健学科臨地実習委員会」を組織し、次に掲げる事項を処理する。

なお、「実習責任者」は学部長が指名した専任の教授又は准教授をもって充て、「実習指導教員」は、臨床経験を有する歯科医師又は歯科衛生士である専任教員をもって充てる。

- (ア) 臨地実習の年間計画の立案・調整
- (イ) 実習施設の検討
- (ウ) 臨地実習指導者会議の計画立案・実施・運営
- (エ) 臨地実習施設との連絡・調整
- (オ) 実習指導者研修会の計画立案・実施・運営
- (カ) 学生オリエンテーションの計画立案・実施・運営
- (キ) その他

ウ 実習指導者研修会の実施

より効果的で円滑な臨地実習を行うため、原則として年 1 回、実習指導者研修会を行うことを計画している。

(5) 実習先との連携体制

当該年度の臨地実習前に、本学の「実習指導教員」と実習先の「実習指導者」で、実習の目的・目標、実習方法、指導方法、評価基準、指導担当者の役割などについて協議・決定する。また、実習後は、当該年度の実習の成果、指導内容、指導方法、指導上の課題などについて総合的に点検評価し、次年度の臨地実習に繋げる。

(6) 実習前の準備

ア オリエンテーション

オリエンテーションは、全体で行う臨地実習全般のものと、病院、歯科診療所、介護福祉施設、教育機関といった実習施設の形態別にグループごとに行うものがある。

前者の全体オリエンテーションでは、実習の目的・目標、実習科目と実習計画・単位数、実習方法、提出物、単位認定基準及び注意事項について指導を行う。

後者の実習施設の形態別オリエンテーションでは、それぞれの実習先の機能や特性等独自の事項の説明のほか、全体オリエンテーションで行った重要事項を再確認する。

イ 感染予防対策

実習先での感染予防のため、麻疹、風疹、水痘、B 型肝炎抗原・抗体検査、ツベルクリン検査等を行うよう指導する。また、抗体がない場合は、ワクチン接種を推奨する。

ウ 保険等の加入

(公財) 日本国際教育支援協会による「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」及び学研災付帯賠償責任保険に全員加入する。

これにより、正課中、学校行事中、大学施設内にいる間、課外活動中の事故に対する補償が得られる。また、学研災付帯賠償責任保険により、実習中に他人に怪我をさせた場合や第三者の財物を損壊した場合の損害賠償が補償される。

エ 事故等危機管理体制

(ア) 事故対応

学生は、被災、過失にかかわらず事故などにあった場合、速やかに「実習指導教員」に報告し、その指示を仰ぐことを徹底する。

「実習指導教員」は、学生から事故等の報告を受けた場合、直ちに「実習責任者」に報告し、「実習責任者」は実習施設、学部長及び学科主任へ連絡する。

学部長は、事故等の程度に応じ、必要があるときは、「保健医療学部口腔保健学科臨地実習委員会」を招集し、必要な対策を講じる。

なお、これらの報告及び連絡は文書により行うことを原則とするが、緊急を要する場合は口頭で行うことができるものとする。その場合、後日すみやかに文書で記録するものとする。

(イ) 感染症対応

学生が感染症を発症した場合は、患者や他の学生などへの感染を防ぐため、登校禁止

とする。この場合、「実習指導教員」は学生からの連絡に基づき「実習責任者」に報告し、「実習責任者」は実習施設へ連絡する。

なお、学生は後日「欠席届」（診断書等添付）を「実習指導教員」へ提出することにより、実習期間の延長等補講の措置を受けることができる。

(7) 事前・事後における指導計画

ア 事前指導計画

臨地実習においては、患者等の人権に配慮しつつ、実習を受けるよう事前の教育を十分に行う。実習前には、全体で行う臨地実習全般のオリエンテーションと、病院、歯科診療所、社会福祉施設及び学校といった実習施設の形態別にグループごとに行うオリエンテーションにおいて、実習計画を詳細に説明し、実習の動機づけを図ることとする。また、事前学習と実習施設の形態別オリエンテーションでは、実習先の概要、特徴、実習時の注意事項個人情報・機密情報の保護を含む。）と実習計画を再確認させる。

イ 事後指導計画

実習最終日には、グループごとに実習報告会を実施することで実習体験を共有するとともに、実習の総括を行う。「実習指導教員」は、学生の「実習の記録」を基に、個別面談を実施し、実習内容の振り返りと、次の実習とその他の学修に向けた指導を行う。

なお、「実習の記録」は、個人情報保護の観点から、最終の実習終了後に大学が回収する。

(8) 教員の配置及び巡回指導計画

「実習指導教員」には、臨床経験を有する歯科医師又は歯科衛生士である専任教員 15 人のうち、学部長及び比較的授業担当コマ数の多い 1 人を除く 13 人を充てる。「実習責任者」には、これら「実習指導教員」13 人のうち、講義と実習を同時期に担当しない教授又は准教授のうちから学部長が指名する。なお、実習先の巡回指導は、原則として「実習責任者」及び「実習指導教員」全員で行うものとするが、教員の負担等の観点から、授業、授業以外に担当する業務及び居住地等を考慮して割振りを行う。

(9) 実習施設における指導者の配置計画

原則的に実習ごとに本学の専任教員である「実習指導教員」が実習指導に当たる。また、臨床実習施設は、本学の歯学部附属病院及び診療所であることから、歯科医師である本学の歯学部専任教員と歯科衛生士である本学医療職員を「実習指導者」として各施設及び各診療科からそれぞれ複数名委嘱する。本法人職員として責任ある教育、指導を行う体制が整っており、「実習指導教員」と「実習指導者」との連携・情報共有を図ることができる「実習指導体制」を構築することで、教員による巡回指導の役割の一部を本学歯学部附属病院及び診療所勤務の教員である「実習指導者」に委嘱するなど、教育の質を担保しつつ教員の移動に係る負担軽減を図ることとする。

なお、本学の施設以外の実習施設については、実習指導能力があると認められた「実習指導者」の配置を要請するとともに、適宜「実習指導教員」による巡回指導の強化を図り、実

習教育の充実を図ることとする。

(10) 成績評価体制及び単位認定方法

ア 成績評価

臨地実習の評価は、「実習指導教員」及び「実習指導者」の意見を参考に、次の（ア）及び（イ）に掲げる事項を加味して授業科目担当責任者である「実習責任者」が総合評価する。

（ア） 各実習とも、原則として所定の時間数の 80%以上出席しなければならない。

（イ） 評価には、各実習施設における到達度と習熟度の項目と、出席状況、態度、協調性、積極性及び実習の記録や課題レポートの内容の評価を含める。

なお、成績は、明海大学学則第 38 条の規定により、A（100～80 点）、B（79～70 点）、C（69～60 点）、D（59 点以下）の 4 種とし、A、B 及び C を合格、D を不合格とする。

イ 単位認定

単位の認定は、明海大学学則第 38 条の規定により合格（C 評価 60 点以上）した授業科目につき所定の単位を認定する。

11 管理運営

本法人及び本法人が設置する学校等の管理運営の基本に関する事項は、「学校法人明海大学管理運営基本規則（以下「基本規則」という。）」（資料 16）の定めるところによる。

基本規則において、本法人の管理運営に関することは、建学の精神に基づき、寄附行為に従い、理事会の決するところにより、理事長が総理して行うとしている。一方、本学の教育研究に関することは、建学の精神に基づき、学則に従い、理事長の決するところにより、学長が、所属職員を統督して行うとしている。

本学では、この基本規則に基づいて、教学面における管理運営の組織として教育基本問題協議会、総合協議会、教授会その他各種委員会を設置している。

ア 教育基本問題協議会

（ア） 役割

法人と大学の意思疎通と連携

（イ） 構成員

理事長、副理事長、常務理事、学長、副学長、大学院研究科長、学部長、事務局長、その他理事長が指名した者

（ウ） 開催頻度

毎月 1 回

（エ） 審議事項

理事長の提案又は諮問に基づき、教育に係わる基本問題及び教学に関する重要事項について意見を述べる。

（オ） 根拠規程

明海大学教育基本問題協議会規程（資料 17）

イ 総合協議会

(ア) 役割

全学的な教育研究に関する事項の審議機関

(イ) 構成員

学長、副学長、大学院研究科長、学部長、メディアセンター長、病院長、教務部長、学生部長、事務局長、その他学長が指名した者

(ウ) 開催頻度

毎月1回（原則）

(エ) 審議事項

学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該事項を審議し意見を述べる。

① 全学的な教育研究に関する重要事項で、学長が意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

② 各学部、大学院及びその他の機関において、相互の調整を必要とする事項

③ 国際交流に関する事項

④ インスティテューショナル・リサーチ（IR）に関する事項

(オ) 根拠規程

明海大学総合協議会規程（資料18）

ウ 教授会

(ア) 役割

学部の教育研究に関する事項の審議機関

(イ) 構成員

専任の教授、准教授、講師

ただし、教育職員の採用、昇任に係る資格審査に関する事項は専任の教授をもって構成する。

(ウ) 開催頻度

毎月1回（原則）

(エ) 審議事項

学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該事項を審議し意見を述べる。

① 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

② 学位の授与に関する事項

③ 教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

（学長裁定）

・学生の転学、休学、復学、留学、転学部転学科、退学、再入学、除籍及び進級に関する事項

・教育課程、その履修方法及び授業に関する事項

・学生の試験及び成績に関する事項

・学生の表彰及び懲戒に関する事項

- ・教育職員の採用、昇任に係る資格審査に関する事項
- ・教員及び学生の国際交流に関する事項
- ・教育職員の学内及び国内外の研修に関する事項
- ・学生団体、学生活動及び学生生活に関する事項

(オ) 根拠規程

明海大学保健医療学部教授会規程（資料 19）

エ その他各種委員会

アからウ以外に、教授会前に特定事項を審議し、又は浦安キャンパスの各学部間の調整を行う各種委員会を置く。

教学面に関する主要な委員会は次のとおりである。

- ① 浦安キャンパス国際・地域交流推進委員会（国際交流・地域交流）
- ② 浦安キャンパス教務委員会（授業・履修・試験・単位認定等）
- ③ 浦安キャンパス学生支援委員会（学生生活）
- ④ 浦安キャンパスアドミッションセンター委員会（入試）
- ⑤ 浦安キャンパスキャリアサポートセンター運営委員会（就職）
- ⑥ 浦安キャンパスメディアセンター委員会（図書館）
- ⑦ 浦安キャンパスファカルティ・ディベロップメント委員会（FD）

12 自己点検・評価

(1) 実施体制・方法

「明海大学自己点検・評価規程（以下「点検・評価規程」という。）」（資料 20）に基づき、学長、副学長、学部長、大学院研究科長、メディアセンター長、付属病院長、教務部長、学生部長、事務局長及びその他学長が必要と認めた者で組織する「自己点検評価委員会（以下「全学委員会」という。）」において、全学の自己点検・評価の実施計画、年次報告書の作成及び公表に関することを策定している。また、第三者による大学機関別認証評価においても同様に、全学委員会でもって認証評価機関の選定から受審体制の編成などの実施計画についても策定している。

さらに、全学委員会の下部組織として、浦安、坂戸それぞれのキャンパスに「キャンパス自己点検・評価委員会」を置き、それぞれの部局の具体的な自己点検・評価活動を行っている。

「浦安キャンパス自己点検評価委員会」は、外国語学部長、経済学部長、不動産学部長、ホスピタリティ・ツーリズム学部長、大学院応用言語学研究科長、大学院経済学研究科長、大学院不動産学研究科長、メディアセンター長、教務部長、学生部長、学科主任、別科長、保健管理センター所長、事務部長及びその他学長が必要と認めた者で構成し、全学委員会で策定した実施計画等に基づき具体的な点検・評価活動を実施している。第三者による大学機関別認証評価においても同様である。

なお、保健医療学部口腔保健学科については、設置認可後に点検・評価規程を一部改正し、当該学部長及び学科主任を構成員として加える予定である。

(2) 評価項目

点検及び評価を行う事項は、点検・評価規程第 10 条第 1 項に規定しており、具体的な点検・評価項目については、点検・評価規程第 10 条第 2 項に全学委員会が別に定めると規定している。

なお、本学は平成 18 年度から公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審していることから、点検・評価項目の継続性を考慮し、これに準じた評価項目を採用している。

ア 点検・評価規程第 10 条第 1 項に規定する点検及び評価を行う事項

- (ア) 教育理念・目標等
- (イ) 学生の受入れ
- (ウ) 学生生活への配慮
- (エ) カリキュラム、授業時間割等の編成
- (オ) 教育指導のあり方
- (カ) 試験、成績評価、単位認定
- (キ) 教育方法の工夫、改善
- (ク) 卒業生の進路状況
- (ケ) 研究活動
- (コ) 教員組織
- (サ) 施設設備・環境
- (シ) 国際交流
- (ス) 社会との連携
- (セ) 管理運営、財務
- (ソ) 大学院の教育・研究活動
- (タ) 附属病院及び PDI 歯科診療所の活動
- (チ) 附属研究所・センター等の活動
- (ツ) 自己点検・評価体制
- (テ) その他学長が全学委員会及びキャンパス委員会の意見を聴き必要と認める事項

イ 点検・評価規程第 10 条第 2 項に規定する全学委員会が別に定める点検・評価項目

- (ア) 使命・目的等
 - ① 使命・目的及び教育目的の明確性
 - ② 使命・目的及び教育目的の適切性
 - ③ 使命・目的及び教育目的の有効性
- (イ) 学修と教授
 - ① 学生の受入れ
 - ② 教育課程及び教授方法
 - ③ 学修及び授業の支援
 - ④ 単位認定、卒業・修了認定等

- ⑤ キャリアガイダンス
 - ⑥ 教育目的の達成状況の評価とフィードバック
 - ⑦ 学生サービス
 - ⑧ 教員の配置・職能開発等
 - ⑨ 教育環境の整備
- (ウ) 経営・管理と財務
- ① 経営の規律と誠実性
 - ② 理事会の機能
 - ③ 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ
 - ④ コミュニケーションとガバナンス
 - ⑤ 業務執行体制の機能性
 - ⑥ 財務基盤と収支
 - ⑦ 会計
- (エ) 自己点検・評価
- ① 自己点検・評価の適切性
 - ② 自己点検・評価の誠実性
 - ③ 自己点検・評価の有効性
- (オ) その他

(3) 結果の活用・公表

独自に行う自己点検・評価及び第三者による大学機関別認証評価を共通の評価項目とすることで周期性と継続性を持たせ、かつP D C Aサイクルを確立することで点検・評価結果の活用に繋げている。

なお、これらの自己点検評価書等は、次のとおりホームページに公表している。

<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 18 年度大学機関別認証評価 評価報告書 ● 平成 18 年度自己点検評価書 *公益財団法人日本高等教育評価機構による平成 18 年度大学機関別認証評価の結果、評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。 	<p>http://www.meikai.ac.jp/</p> <p>MEIKAI HOME>大学概要 >自己点検評価・認証評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 24 年度大学機関別認証評価 評価報告書 ● 平成 24 年度自己点検評価書 ● 平成 24 年度大学機関別認証評価結果に対する改善報告書 *公益財団法人日本高等教育評価機構による平成 24 年度大学機関別認証評価の結果、評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 27 年度自己点検評価書 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 31 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構で受審予定 	

13 情報の公表

本法人が公共性の高い法人として社会的説明責任を果たし、もって公正かつ透明性の高い運営を実現することを目的とし、「学校法人明海大学情報公開規程」(資料 21)を制定し、これに基づいてホームページにより公表している。

(1) 法人の基本情報 (規程第 2 条第 1 項第 1 号)

- ア 建学の精神、使命・目的
- イ 沿革
- ウ 組織
- エ 役員、職員、施設設備の概況等

(2) 法人の経営及び財務に関する情報 (規程第 2 条第 1 項第 2 号)

- ア 事業報告書
- イ 財務諸表
- ウ 監査報告書

(3) 教育研究活動に関する情報 (規程第 2 条第 1 項第 3 号)

ア 教育研究上の目的 (学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 1 号)

学部・学科及び研究科・専攻・課程ごとの教育研究上の目的を学則及び大学院学則を掲載することで公表している。

(<http://www.meikai.ac.jp/>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>学則)

イ 教育研究上の基本組織 (学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 2 号)

組織図及び委員会等の一覧(委員会等名称、審議事項及び構成員等)を掲載することで公表している。

(<http://www.meikai.ac.jp/>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>組織図)

(<http://www.meikai.ac.jp/>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>委員会等)

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 (学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 3 号)

役職者等名簿、学部等別教員数、教員一人当たりの学生数、職階別教員数及び専任教員と非常勤教員の比率、年齢別教員数及び学部学科等別教員の学位・業績(氏名、職名、有する学位、専門分野、主要研究テーマ、提供できる教育内容、主な業績、職務実績等)を掲載することで公表している。

(<http://www.meikai.ac.jp/>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>役職者等)

(<http://www.meikai.ac.jp/>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>教職員数等)

(<http://www.meikai.ac.jp/>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>教員の学位・業績)

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 (学校教育法施

行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号)

大学、学部・学科ごとのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシー、学部・学科・研究科ごとの入学定員・志願者数・入学者数、学部・学科・研究科ごとの収容定員数、学部・学科・研究科ごとの在籍学生数・男女比・留学生内数・社会人内数、学部・学科・研究科ごとの卒業又は修了者数、学部・学科ごとの進学者数・就職者数及び業種比率を掲載することで公表している。

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>入学者受入・教育課程編成・学位授与に関する方針 <学部・学科>)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>入学者受入・教育課程編成・学位授与に関する方針 <研究科>)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>入学者数>受験生サイト>入学者数等)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>入学者数>受験生サイト>入学定員・収容定員)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>在学生数)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>卒業・修了者数及び学位授与者数・取得可能な学位)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>就職者数・進学者数・その他人数)

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 (学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 5 号)

各学部・学科・研究科の授業計画 (シラバス) のページへリンクさせることで公表している。

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>外国語学部、経済学部、不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部>

<http://syllabus.meikai.sugawara-p.co.jp/web/show.php>)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>歯学部>
<http://www.dent.meikai.ac.jp/Syllabus/>)

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 (学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号)

学則別表 (学部・学科・研究科ごとの授業科目名・単位数 (時間数)・授業を行う年次・履修方法)、履修の手引 (学部・学科ごとの成績評価基準・進級要件等)、学部・学科・研究科ごとの取得可能な学位を掲載することで公表している。

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>修業年限に必要な修得単位数 学部 大学院)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>成績評価基準・進級要件等><http://urayasu.meikai.ac.jp/tebiki/>)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>卒業・修了者数及び学位授与者数・取得可能な学位)

キ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境（学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 7 号）

交通アクセス、各キャンパス施設紹介、体育会紹介及び各キャンパスの課外活動紹介を掲載することで公表している。

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>交通アクセス)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>受験生サイト>学生サポート>浦安キャンパス施設紹介)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>受験生サイト>学生サポート>坂戸キャンパス施設紹介)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>

<http://meikai-sports.jp/>)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>受験生サイト>学生サポート>体育会・クラブ・サークル)

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用（学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 8 号）

学部・学科・研究科ごとの学費及び諸会費等の納付額と納付方法、各学部ごとの奨学金制度を掲載することで公表している。

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>学費等納付金)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>受験生サイト>学生サポート>浦安キャンパス・奨学金制度)

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>受験生サイト>学生サポート>坂戸キャンパス・奨学金制度)

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援（学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 9 号）

キャンパスごとの学生支援、奨学支援、キャリアサポート、資格取得支援、インターンシップ、外国人留学生支援、施設紹介、課外活動、キャンパス周辺情報、学生提携寮又は海外研修制度等を掲載することで公表している。

([http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI HOME](http://www.meikai.ac.jp/MEIKAI_HOME)>大学概要>大学情報>受験生サイト>学生サポート)

コ 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力（学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 2 項）

履修の手引（履修モデル等）を掲載することで公表している。なお、学則については**(3) のア**、自己点検・評価報告書及び認証評価の結果については**(5)**にそれぞれ掲載することで

公表している。

(<http://www.meikai.ac.jp>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>学生が修得すべき知識及び能力(履修モデル等)><http://urayasu.meikai.ac.jp/tebiki/>)

(<http://www.meikai.ac.jp>,MEIKAI HOME>大学概要>大学情報>学則)

(<http://www.meikai.ac.jp>,MEIKAI HOME>大学概要>自己点検評価・認証評価)

サ 国際交流及び社会貢献

(4) 教員の養成の状況(教職課程)に関する情報(規程第2条第1項第4号)

ア 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画

イ 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目

ウ 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

エ 卒業者の教員免許状の取得の状況及び卒業者の教員への就職状況

オ 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

(5) 自己点検・評価及び第三者評価に関する情報(規程第2条第1項第5号)

ア 自己点検評価書

イ 大学機関別認証評価 評価報告書

(6) その他の情報(規程第2条第1項第6号)

ア 法令により公表しなければならない情報

イ 理事長が必要と認めた情報

14 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

(1) 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の計画

ア 授業評価アンケート

教育目標の達成状況の点検・評価、教育内容・方法及び学修指導等の改善のため、毎年、学生による授業評価アンケートを実施している。

授業評価アンケートは、当該授業に対する学生の取組み方(予習・復習の時間を含む。)を回答させた上で、「板書(スクリーン・画像)・配布物の読みやすさ」「話し方」「説明の分かりやすさ」「進捗」「理解度」「教員の意欲や熱意」「学生への対応」「授業に相応しい環境の確保」「興味・関心の深まり」といった9項目のほか、授業全般に対する満足度や教員が個別に設定する項目について5段階で評価する。また、5段階評価によるもののほか、当該授業に関し「良かったと思う点」「改善してほしいと思う点」について自由に記述できるようになっている。

授業評価アンケートの集計は、科目ごとの平均点、標準偏差、各回答数の分布、学部・学科又は科目区分ごとの平均点とアンケート項目ごとの比較(レーダーチャート)を行っている。当該集計結果は、教員個人へはもちろんのこと、各学部学科又は科目区分のFD

(ファカルティ・ディベロップメント) 担当教員へフィードバックしている。また、キャンパス内のイントラネットにおいて公表している。

各授業担当教員は、フィードバックされた授業評価アンケートの集計結果に対し、その改善策等を FD 委員長に報告することを義務付けている。また、各学部・学科又は科目区分の FD 担当教員は、この集計結果に基づき総括した改善策等を FD 委員長へ報告することを義務付けている。

これらの授業評価アンケートは FD 活動の一環として行っており、これらの業務を所掌する FD 委員会(資料 22: 明海大学浦安キャンパスファカルティ・ディベロップメント委員会規程)と担当事務局を中心に組織的に関与し、授業評価アンケートの企画、実施、集計、結果のフィードバック、集計結果を受けての改善策等の策定といった PDCA サイクルが構築されている。

「保健医療学部口腔保健学科」についても、このしくみの中に組入れ、同様の周期、方法で実施する計画である。

イ FD 活動

FD 委員会は、毎年度初めに年間活動計画を策定し、これに基づいて FD 活動を実施している。「保健医療学部口腔保健学科」についても、この活動計画の中に組入れ、同様の方法で実施する計画である。

なお、平成 28 年度及び平成 29 年度の活動実績は次のとおりである。

【平成 28 年度】

実施日時	内 容	参加人数
3 月 31 日	新任教員 F D 研修会の実施 (3 月 31 日実施)	7 人
5 月 26 日	経済学部:「科研費獲得のための F D」	16 人
7 月 21 日	不動産学部 F D 研修会 (前期) 「教育効果を高める教授法等について考える(1)研究会」	17 人
7 月 14 日	競争的資金獲得セミナー (外国語学部 大津由紀雄教授)	39 人
9 月 22 日	英米語学科:「ライティングとリーディング教科書選定のための F D 勉強会」	10 人
11 月 1~12 月 23 日	ホスピタリティ・ツーリズム学部: 教員による授業相互オブザーブ(年 1 回)実施 授業数 13 回	6 人
1 月 12 日	中国語学科: F D セミナー (年 2 回)「産業界が求める大学教育」	9 人
1 月 19 日	英米語学科: アクティブ・ラーニング実践に向けたシラバス作成勉強会	14 人
2 月 1 日	新任教員 F D 研修会の実施	11 人
2 月 3 日	不動産学部 F D 研修会 (後期) 「教育効果を高める教授法等について考える(2)講演会」 内容:「まちづくり分野から見た大学教育への期待」 講師: 鈴木奏到氏(一般財団法人計量計画研究所 理事兼研究部長)	17 人
2 月 24 日	経済学部:” つばさ” プロジェクト「大地連携ワークショップ」及び「学生主体型授業コンテスト」の紹介	17 人
2 月 24 日	FD 講演会 講師: 武蔵野学院大学副学長・大学院国際コミュニケーション研究科長 佐々木隆氏 演題: 「大学院改革と明海大学の対応」	33 人
3 月 13 日	日本語学科: 教員対象「進級要件の日本語検定合格のための講習及び教授法について」講習会 講師: 新島尚子氏	5 人

【平成 29 年度】

実施日時	内 容	参加人数
3月31日	新任教員FD研修会	5人
4月1日	英米語学科：英語科目担当者のためのコーディネーション会議	40人
4月13日	英米語学科：進級要件を見据えた「テキスト選択と授業改善」のためのFDワークショップ	16人
4月13日	複言語・複文化教育センター：所属ネイティブ教員によるIntegrated Englishカリキュラムに関するプレゼンテーション	20人
6月1日	新任教員FD研修会「授業評価アンケートの意義と分析結果のフィードバックについて」	7人
6月15日	FD・SD研修会「外部資金の獲得に向けて」 講師：大津由紀雄副学長	教員59人 職員30人
7月13日	英米語学科：講演会「自立した英語学習者の育成をめざして」 講師：小嶋義勝氏	11人
7月13日	不動産学部FD研修会（前期） 「教育効果を高める教授法等について考える(1)研究会」	15人
9月14日	FD・SD研修会「3つのポリシー（DP・CP・AP）の策定とその取組」 説明者：佐々木文彦日本語学科主任、津留崎毅英米語学科主任、遊佐昇中国語学科主任、下田直樹経済学部長、中城康彦不動産学部長、草野健ホスピタリティ・ツーリズム学部長	教員120人 職員41人
11月30日	複言語・複文化教育センター：授業を活かすICT-学びの質の向上を目指して- Web教材を活用した授業外学修の拡充方法を学ぶ	9人
12月21日	教職課程・地域学校教育センターFD研修「日本の伝統文化を知り国際人へ」 講師 橋岡久太郎氏	教員9人 職員13人
1月11日	教職課程・地域学校教育センターFD研修「英語で伝える“MAGIC OF WORDS”言葉に息を吹き込もう！」 講師 青谷優子氏	教員8人 職員9人
2月6日	中国語学科：講演会「日本で女性リーダーを増やすために」 講師：橋本ヒロ子氏	10人
2月14日	日本語学科：講演会「地域の小学校の教育の現状と求められる地域貢献」 講師：江黒友美氏	5人
2月15日	不動産学部FD研修会（後期） 「教育効果を高める教授法等について考える(2)講演会」 内容：「まちづくり分野から見た大学教育への期待」 講師：鈴木奏到氏（一般財団法人計量計画研究所理事兼研究部長）	15人

(2) 大学職員に必要な知識・技能を習得させるとともに、必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組

ア 外部研修会

大学職員としての知識、能力、専門性の向上及び業務の効率化等を図るため、本学が加盟する日本私立大学協会、一般社団法人日本私立歯科大学協会その他地域の私立大学で組織する各種研修会等に職員を派遣している。「保健医療学部口腔保健学科」設置後も、引き続き積極的に各種研修会等に職員を派遣する。

なお、平成 28 年度及び平成 29 年度の派遣実績は次のとおりである。

【平成 28 年度】

実施日時	内 容	派遣人数
5月20日	平成 28 年度関東地区学生生活連絡協議会 通常総会・講演会（神奈川大学）	1人
5月22日	2017 年度大学入試結果説明会「駿台予備学校のデータに基づく2017 年度入試結果の説明」「新入試制度の改革を控えて」	1人

5月31日	私立大学経常費補助金説明会	5人
6月4日	第17回FDネットワーク“つばさ”FD協議会(山形大学)	1人
6月8日	留学生インターンシップ連絡会議	1人
6月9日	2017年度私立大学図書館協会東地区総会・研究講演会	1人
6月14日	全国キャリア・就職ガイダンス	2人
6月17日	千葉県大学就職指導会第2回研究会	1人
6月24日	千葉県私立大学総務経理事務担当者連絡会科研費研修	2人
6月24日	第58回千葉県私立大学学生支援研究協議会	2人
6月30日	千葉県大学教務事務担当者連絡会(淑徳大学)	4人
7月5日	日本学術振興会科研費担当者説明会	2人
7月13~15日	平成28年度(第62回)学生生活指導主務者研修会	2人
7月14日	千葉・茨城地域私立大学教職課程研究連絡協議会	2人
7月15日	留学生担当者研修会(関東地区学生生活連絡協議会主催)	1人
7月15・16日	千葉県私立大学総務経理事務担当者連絡会 合宿研修(マイナンバー、被用者年金制度一元化等について)	2人
8月24日	全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会保健・看護分科会千葉支部会研修会	1人
8月30・31日	千葉県大学就職指導会夏期合宿研修会	1人
8月31~9月2日	平成28年度(第50回)夏期合同研修会関東地区学生連絡協議会	1人
9月2日	第23回千葉県私立大学学生支援研究協議会実務担当者研修部会	1人
9月9日	職員研修会(千葉県私立大学短期大学協会)	1人
9月9日	消費税・法人税セミナー	1人
9月29日	外国人の入国・在留手続と申請等取次研修会(入管協会)	1人
9月29・30日	GAKUEN ユーザー研修会(玉川大学)	1人
10月5~6日	第54回全国大学保健管理研究集会	4人
10月12日	私学スタッフセミナー(日本私立学校振興・共済事業団)	1人
10月16日	第102回全国図書館大会分科会「図書館の自由」「出版流通」「多文化サービス」「大学図書館」	2人
10月18~20日	大学教務部課長相当者研修会(日本私立大学協会主催)	1人
10月21日	2016年度私立大学図書館協会東地区部会地域研修	1人
11月1日	埼玉県大学・短期大学図書館協会(SALA) Open Library Weeks 2017(明海大学企画)	11人
11月16~17日	私立大学図書館協会東地区部会研究部2017年度研修会	1人
11月18日	平成28年度日本語教育連絡協議会(日本私立大学団体連合会)	1人
11月18日	平成28年度関東地区学生生活連絡協議会講演会(神奈川大学)	1人
11月24日	千葉・茨城地域私立大学教職課程研究連絡協議会(川村学園大学)	1人
11月24~26日	第54回全国学生相談研修会	1人
12月2日	第59回千葉県私立大学学生支援研究協議会	2人
12月9日	埼玉県大学・短期大学図書館協議会第28回研修会	2人
12月10日	第18回FDネットワーク“つばさ”FD協議会(山形大学)	1人
12月17日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会(帝京平成大学)	2人

【平成29年度】

実施日時	内 容	派遣人数
4月27日	千葉県大学就職指導会第1回研究会	1人
5月18日	全国私立大学就職指導研究会2017年度定時総会及び第32回企業と大学との就職セミナー	1人
5月20・21日	全国私立大学教職課程研究連絡協議会(玉川大学)	1人
5月26日	平成29年度関東地区学生生活連絡協議会通常総会・講演会(東洋大学)	1人
5月27日	第19回FDネットワーク“つばさ”FD協議会(山形大学)	1人
6月5日	私立大学経常費補助金説明会	2人
6月23日	第60回千葉県私立大学学生支援研究協議会	2人

6月30日	千葉県大学教務事務担当者連絡会（聖徳大学）	3人
7月5～7日	平成29年度（第63回）学生生活指導主務者研修会	2人
7月14日	留学生担当者研修会（関東地区学生生活連絡協議会主催）	1人
7月14日	千葉県私立大学総務経理事務担当者連絡会合宿研修（私立大学の現状・課題、学校法人の税務等について）	1人
7月15日		
7月19日	大学留学生担当者協議会（留学生支援企業協力推進協会）	1人
7月24日	教師力向上フォーラム（文部科学省）	1人
8月23日	全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会保健・看護分科会千葉支部会研修会	1人
8月30・31日	千葉県大学就職指導会夏期合宿研修会	1人
8月31日	第55回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研修会	1人
9月13日	平成29年度国際交流推進協議会（文部科学省）	1人
9月15日	第24回千葉県私立大学学生支援研究協議会実務担当者研修部会	2人
10月10～12日	私大協経理部課長相当者研修会	1人
10月18～20日	大学教務部課長相当者研修会（日本私立大学協会主催）	1人
11月15日	千葉県大学教務事務担当者連絡会（神田外語大学）	3人
11月16日	千葉・茨城地域私立大学教職課程研究連絡協議会（川村学園大学）	2人
11月17日	平成29年度日本語教育連絡協議会（日本私立大学団体連合会）	1人
11月24日	平成29年度関東地区学生生活連絡協議会 講演会（東洋大学）	1人
11月29日	第1回千葉県私立大学学生支援研究協議会要支援学生対応研究部会	1人
11月29～30日	第55回全国大学保健管理研究集会	4人
12月1日	第61回千葉県私立大学学生支援研究協議会	1人
12月17日	第55回全国学生相談研修会	1人
12月17日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会（法政大学）	2人
2月17日	第20回FDネットワーク“つばさ”FD協議会（山形大学）	1人

イ 内部研修会

学校法人明海大学事務職員研修規程（資料23）に基づき、新入職員研修及び階層別研修その他職員の要望も取入れたSD研修会などが行われている。「保健医療学部口腔保健学科」設置後は、これまでの取組みに加え、保健医療又は口腔保健に関連するSD研修会の実施を検討する。

なお、平成28年度及び平成29年度に行われた研修は次のとおりである。

【平成28年度】

実施日時	内 容	参加人数
6月20・21日	朝日大学との教務事務関係合同研修	12人
7月21・22日	朝日大学との管理職合同職員研修	11人
8月8日	朝日大学との歯学部学事事務交流・研修	7人
8月30日	浦安キャンパスグローバル化対応研修	48人
9月7・8日	朝日大学との経理事務関係合同職員研修	4人
11月1日	歯学部新任事務職員研修	2人
11月11日	浦安キャンパス事務部事務職員内定者研修	2名
11月22日	FD・SD合同 浦安キャンパス・メンタルヘルスセミナー	教員6人 職員26人
5月26日	FD・SD合同研修会 講演者：文部科学省初等中等教育局教職員課長 茂里毅 氏 演題：「大学教育改革について」	教員77人 職員42人
7月12日	歯学部FD・SD合同研修会 講演者：東京歯科大学歯科医学教育開発センター 河田英司 教授 演題：「求められた教育改善・その対応～ある歯科大学の15年～」	教員101人 職員20人

【平成 29 年度】

実施日時	内 容	参加人数
6月9日	朝日大学との人事・給与業務関係合同職員研修	4人
6月26・27日	朝日大学との教務事務関係合同職員研修	4人
7月20・21日	明海大学新入職員研修会	12人
7月28・29日	朝日大学との歯学部学事事務交流・研修	4人
8月24・25日	朝日大学との中堅職員合同研修	25人
9月7・8日	朝日大学との経理事務関係合同職員研修	8人
5月27日	FD・SD合同研修会 「グローバル高大接続改革の時代到来－2020年大学入試改革の本 当のねらいを明らかにする－」	教員 77人 職員 22人
11月24日	浦安キャンパス・メンタルヘルスセミナー	教員 2人 職員 22人
6月22日	歯学部FD・SD合同研修会 講演者:品川女子学院高等部校長 仙田直人氏 演題:「当世中高生気質(かたぎ)」	教員 102人 職員 22人
2月15日	FD・SD合同研修会 「カリキュラム改正の学修成果と今後の取組」	教員 95人 職員 42人

15 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組

既設学部においては、「共通科目」の「キャリア形成教育」において、社会に出て働く意義について考えることを通して、大学生生活の目標を設定し、さらに、実際に仕事を進めていく上で重要な能力「基礎力(ジェネリックスキル)」の修得をめざす「キャリアプランニングⅠ(1年次後期必修2単位)」「キャリアプランニングⅡ(2年次前期必修2単位)」「キャリアプランニングⅢ(2年次後期必修2単位)」や、実践トレーニングと振り返りを通じて基礎力と就活力を伸ばす「キャリアデザイン(3年次通年選択4単位)」を開講している。

さらに、より実践的なキャリア教育の展開と職業観の醸成を目的に、企業との連携による教育プログラムやインターンシッププログラムを提供している。なお、インターンシッププログラムでは、平成28年には述べ158人の学生を企業等へ派遣している。

「保健医療学部口腔保健学科」では、「歯科衛生士概論」や医療機関及び介護福祉施設等における「臨地実習」などの授業に加え、これらの授業を選択科目として提供することで、学生の多様な進路にも対応できるよう配慮している。

(2) 教育課程外の取組

3、4年生を対象に、就職ガイダンス、SPI・筆記試験対策講座、業界・職種研究セミナー、自己分析、女子学生ヘア&メイク講座、グループディスカッション講座、公務員対策講座、学内企業セミナーなど、多彩な講座等を開講している。

特に、就職ガイダンスでは、一般的な就職活動の流れや諸注意事項等を一方的に説明するのではなく、就職活動の流れに沿って、必要な情報や知識が身につくようテーマを分割し体系的にきめ細かく実施している。また、これらの取組みを所掌しているキャリアサポートセンター(「(3)適切な体制の整備」の項目を参照)に所属する「キャリアアドバイザー(就活コーチ)」が、キャリア関連授業の到達目標を踏まえつつ教員、事務職員と三位一体となり、

学生の能力開発、就活スキルの向上のための個別指導等を行っている。

区 分	内 容	対象年次・時期
就職ガイダンスⅠ	就職活動スタート対策	3年次 5月
就職ガイダンスⅡ	自己分析対策、内定者報告会	3年次 6月
就職ガイダンスⅢ	筆記試験対策	3年次 7月
就職ガイダンスⅣ	就職活動振り返り対策、リクルートスーツ着こなし講座	3年次 9月
就職ガイダンスⅤ	エントリーシート対策	3年次 10月
就職ガイダンスⅥ	面接・グループディスカッション対策	3年次 11月

「保健医療学部口腔保健学科」の就職先は、主に歯科診療所、歯科系病院及び医科系病院が想定されるが、これらの医療機関のみならず、広く行政機関、介護福祉関連施設、口腔保健に直接又は間接的に係わる民間企業等への就職も視野に入れている。また、教育者又は研究者をめざす学生のために、大学院進学のための支援も視野に入れ、広く社会的・職業的自立に関する指導等を行う。

(3) 適切な体制の整備

教育課程内で行われる授業は、「総合教育センター」「キャリア教育部門」が組織的に授業運営を行なっている（資料 24：明海大学浦安キャンパス総合教育センター規程）。一方、教育課程外の各種講座等は、「キャリアサポートセンター」及び所掌する事務局が総合教育センターと密に連携しつつこれらの運営を行なっている（資料 25：明海大学浦安キャンパスキャリアサポートセンター規程）。

「保健医療学部口腔保健学科」と、既設の「総合教育センター」「キャリア教育部門」及び「キャリアサポートセンター」との連携を密にするため、必要に応じて連絡・調整を行う機会を設け、又はセンター規程を改正し、保健医療学部口腔保健学科の教員をセンター若しくはセンター委員会の構成員に加えるなどの適切な措置を講じる予定である。

【添付資料】

- ① 歯科衛生士教育に関する現状調査（一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会）：資料 1
 - ② 一般社団法人千葉県歯科医師会、一般社団法人浦安市歯科医師会及び一般社団法人市川市歯科医師会からの歯科衛生士養成課程設置に関する要望書：資料 2
 - ③ 厚生労働省「健康日本 21（第 2 次）」（「⑥歯・口腔の健康」抜粋）：資料 3
 - ④ 千葉県 歯・口腔保健計画：資料 4
 - ⑤ 学校法人明海大学職員定年規程：資料 5
 - ⑥ 学校法人明海大学特定契約職員就業規則：資料 6
 - ⑦ 学校法人明海大学教育職員採用及び昇任手続規程：資料 7
 - ⑧ 履修モデル：資料 8
 - ⑨ 浦安キャンパス施設配置図：資料 9
 - ⑩ 実習室改修図面：資料 10
 - ⑪ 保健医療学部口腔保健学科専門図書等一覧：資料 11
 - ⑫ 実習施設一覧：資料 12
 - ⑬ 実習受入承諾書：資料 13
 - ⑭ 一般社団法人千葉県歯科医師会、一般社団法人浦安市歯科医師会及び一般社団法人市川市歯科医師会からの実習受入協力に関する承諾書：資料 14
 - ⑮ 臨地実習要項：資料 15
 - ⑯ 学校法人明海大学管理運営基本規則：資料 16
 - ⑰ 明海大学教育基本問題協議会規程：資料 17
 - ⑱ 明海大学総合協議会規程：資料 18
 - ⑲ 明海大学保健医療学部教授会規程：資料 19
 - ⑳ 明海大学自己点検・評価規程：資料 20
 - ㉑ 学校法人明海大学情報公開規程：資料 21
 - ㉒ 明海大学浦安キャンパスファカルティ・ディベロップメント委員会規程：資料 22
 - ㉓ 学校法人明海大学事務職員研修規程：資料 23
 - ㉔ 明海大学浦安キャンパス総合教育センター規程：資料 24
 - ㉕ 明海大学浦安キャンパスキャリアサポートセンター規程：資料 25
-

歯科衛生士養成機関 各位

平成 29 年 6 月

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
理事長 眞木 吉信

歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告

拝啓

貴校におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

全国歯科衛生士教育協議会では、歯科衛生士教育の現状を把握し、将来の歯科衛生士教育について検討するために、全国歯科衛生士教育協議会会員校の協力を得て、アンケート調査を実施いたしました。今回は、昨年に引き続き全国歯科衛生士教育協議会理事会の要請に基づいて、①専任教員の職種と人数、②志願者、入学者、就職率、求人数の地区別データ、③男子学生数、④入学者の卒業までの動向について分析を行いました。以下はその調査結果をまとめたものです。

各養成校の教育に対する現状と入学者の動向や就職状況を把握する上で欠くことのできない資料となるのではないかと考え、ご協力いただきました各校に送らせていただきます。

本調査へのご理解とご協力に対して、歯科衛生士養成機関各位に御礼申し上げます。

敬具

【現状調査報告】

1. 調査対象

本調査の対象は、平成 29 年 4 月 28 日現在、全国歯科衛生士教育協議会に加盟していた歯科衛生士養成校 163 校。

2. 調査実施期間

平成 29 年 4 月 11 日から 4 月 28 日にかけて郵送によるアンケート調査を行った。

3. 調査内容

本調査は各養成校に記名方式の調査用紙を封書で郵送し、下記の項目について回答を得た。

- 1) 平成 28 年度 卒業生数、就職者数、求人件数、求人人数
- 2) 平成 29 年度 入学定員、志願者数、入学者数
- 3) 平成 29 年度 在学外国人留学生の国籍と人数
- 4) 在学中の男子学生数および男子学生受け入れの有無
- 5) 専任教員の人数

4. 結果

調査対象とした 163 校の養成校すべてから回答を得、回収率は 100%であった。

ただし、平成 28 年度の求人人数が未記入の回答があったため、求人人数については求人件数と同数であるとして統計処理を行った。

163 校中 4 年制の大学は 11 校、短期大学は 14 校、専門学校は 140 校であった。(学校数の合計は 2 校の移行中の養成校があるため、165 校となっている。) 専門学校 4 校が入学生の募集を行わず、そのうち 2 校は大学・短期大学に移行したため、入学定員等の学校数は 161 校で、また、昼間部と夜間部の 2 部制の養成校が 12 校あったが、昼・夜間を合計して集計した。

① 入学定員と入学者の推移

全国の入学定員は 8,835 名(127 名増)、入学者数は 7,863 名(41 名増)と共に過去最多となった(表 1)。全国の入学定員に対する入学者数(入学定員充足率)は、平成 25 年度では 97.1%にまで達したが、平成 26 年度から再び減少傾向となり、平成 29 年度は 89.0%まで低下した。この減少傾向は、入学者に対する入学定員の著しい増加によるものと思われる。(表 2, 図 1)。

平成 25 年以降、入学者数は 7,800 名程度のほぼ横ばいとなっているが、本調査が 100%となった平成 22 年と比較しても、約 1,200 名の増加となっている。

また、入学者数が入学定員に満たない養成校は、平成 25 年度には 35.8%まで回復したが、平成 26 年度からは再び増加し、平成 29 年度は 55.9%と半数以上となった(表 2)。

入学定員充足率の年次推移を地区別に比較すると、北海道、東北地区は増加が見られたが、九州/沖縄地区では減少となった。

また、平成 24 年以降 100%を超えているのは、近畿/北陸のみであった。(図 2)。

② 入学定員と入学志願者の推移

全国の入学定員に対する志願者倍率は平成 25 年度では 1.32 倍となったが、平成 26 年度からはやや減少傾向となり、平成 29 年度は 1.21 倍と昨年と同じであった。最も高い養成校は 7.47 倍であった。志願者数が定員に満たない養成校は 37.9%で昨年度よりもさらに増加した(表 2)。

志願者倍率の年次推移を地区別に比較すると、東海地区は減少傾向であった(図 3)。

学校種別で志願者倍率では大学が、入学定員充足率では短期大学が高かった(表 3)。

③ 就職者数・求人件数・求人倍率の状況

平成 28 年度は卒業生数 6,955 名、就職者数 6,487 名で就職率は 93.3%であった。求人件数は 84,811 件で求人人数は 133,189 名、就職者に対する求人人数は 20.5 倍に増加し、調査開始以降、最も高かった(図 4)。

また、地区別に求人倍率と就職率を比較すると求人倍率が最も高かったのは関東/甲信越 25.2 倍、最も低い九州/沖縄地区でも 13.1 倍であった。就職率が高かったのは東北 96.3%と東海 96.2%で、最も低かったのは九州/沖縄 89.0%であった。

④ 在学外国人留学生の国籍と人数

在学外国人留学生は平成 25 年度では 15 名、平成 26 年度では 13 名、平成 27 年度および平成 28 年度は 11 名、平成 29 年度は 18 名で中国籍の学生が 10 名と多かった。

⑤ 在学中の男子学生数と男子学生入学受入れの有無

在学中の男子学生数は平成 25 年度には 28 名、平成 26 年度は 31 名、平成 27 年度は 36 名、平成 28 年度は 32 名、平成 29 年度は 33 名で毎年約 30 名程度であった。

男子学生入学受入れの有無については受入れ「有り」の養成校は 70 校 42.46%であった。

⑥歯科衛生士養成校の専任教員数

歯科衛生士養成校の専任教員数は合計 1,176 名で昨年度よりも 54 名減少した。その内訳は、歯科衛生士 930 名(5 名増)、歯科医師 155 名(21 名減)、その他 91 名(38 名減)であった。専任歯科衛生士 1 名に対する在學生数の平均は約 25 名程度で昨年とほぼ同じであった。

⑦入学者数と卒業生数の比較

本年度は平成 25～26 年度の入学者の卒業までの動向を調査することによって、3～4 年間の脱落者の割合を算出した。その結果、全体の脱落者の割合は 10.5%で約 1 割の者が卒業に至っていない。平成 28 年度の卒業生について専門学校では 11.3%、短期大学では 7.3%、であったが大学では 0.9%と非常に少なかった。(この値は入学者数と卒業生数の差から割合を算出したもので、留年者および休学者などは考慮していない)

平成 29 年 3 月卒業生	
入学時からの減少人数	減少率
-817	10.5%
-735	11.3%
-79	7.3%
-2	0.9%

歯科衛生士養成校入学定員・志願者数等の動向経年調査 2017

表1 卒業、就職、求人状況および入学定員、志願者、入学者数について

平成28年度				平成29年度			163校/163校中(回答率 100%)	
卒業 者数	就職 者数	求人 件数	求人 人数	入学 定員	志願 者数	入学 者数		
6,955	6,487	84,811	133,189	8,835	10,662	7,863		
▲ 67	64	10,439	12,167	127	114	41	(前年比)	
就職者に対する求人件数倍率				13.1				
就職者に対する求人人数倍率				20.5				
志願者倍率=志願者数/入学定員				1.21			最低	0.13
							最高	7.47
定員充足率=入学者数/入学定員×100				89.0%			最低	12.5%
							最高	127.5%
志願者数が定員に満たない学校				37.9%				
入学者が定員に満たない学校				55.9%				

表2 入学定員充足率と志願者倍率等の年次推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
入学定員充足率	79.4%	85.2%	91.2%	93.2%	97.1%	93.6%	91.8%	89.8%	89.0%
入学者が定員に満たない養成校の割合(%)	60.1%	56.8%	47.0%	45.7%	35.8%	46.5%	47.1%	48.7%	55.9%
志願者倍率	1.01	1.13	1.21	1.21	1.32	1.29	1.26	1.21	1.21
志願者が定員に満たない養成校の割合(%)	50.0%	43.2%	35.8%	35.1%	25.2%	29.0%	32.5%	36.1%	37.9%

表3 学校種別の志願者倍率と入学定員充足率

平成29年度	志願倍率(倍)	入学定員充足率(%)
専門学校	1.07	87.9
短期大学	1.59	96.5
大学	2.77	89.7

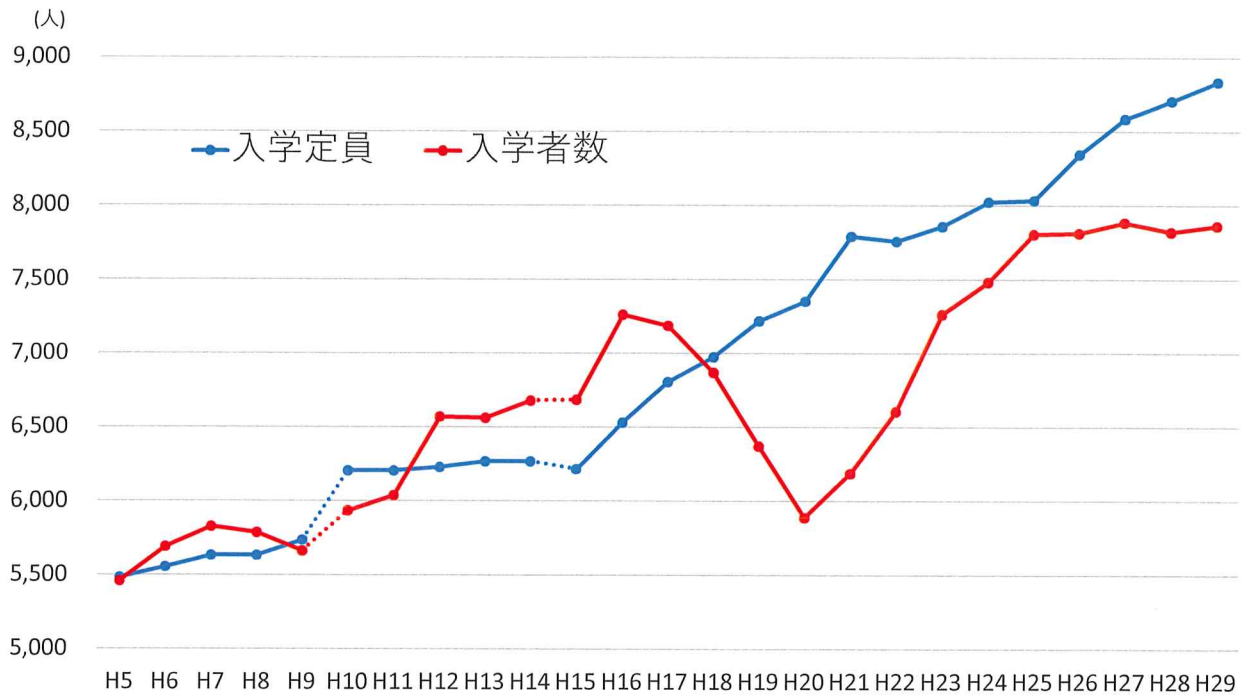


図1 歯科衛生士養成所の入学定員と入学者数の推移

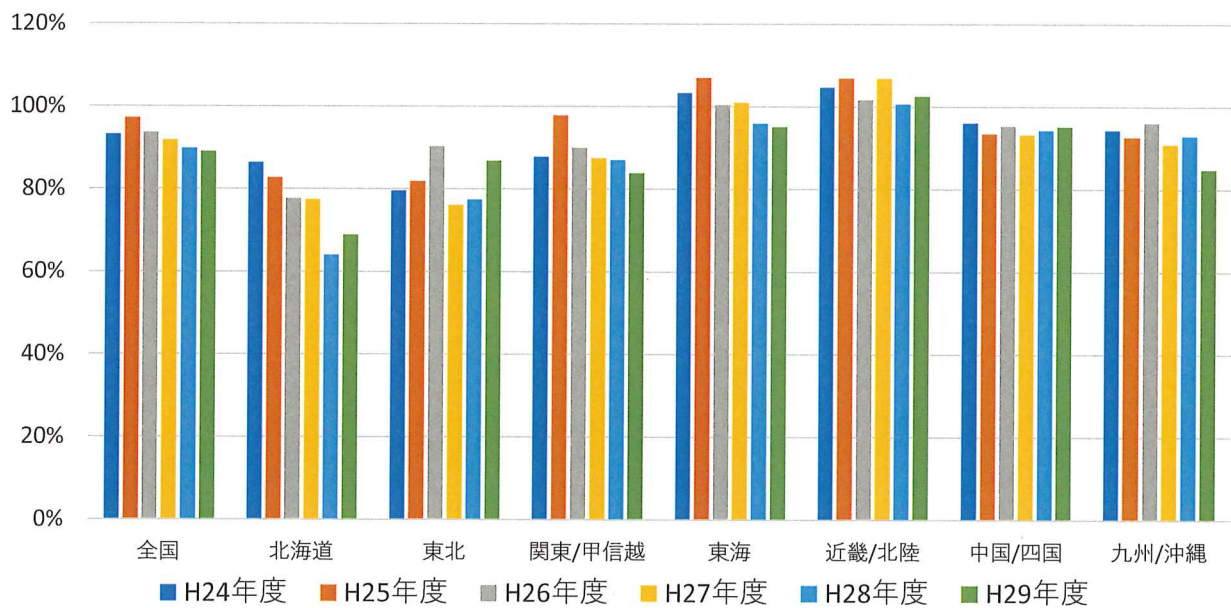


図2 地区別入学定員充足率の年次推移(平成24年度～29年度)

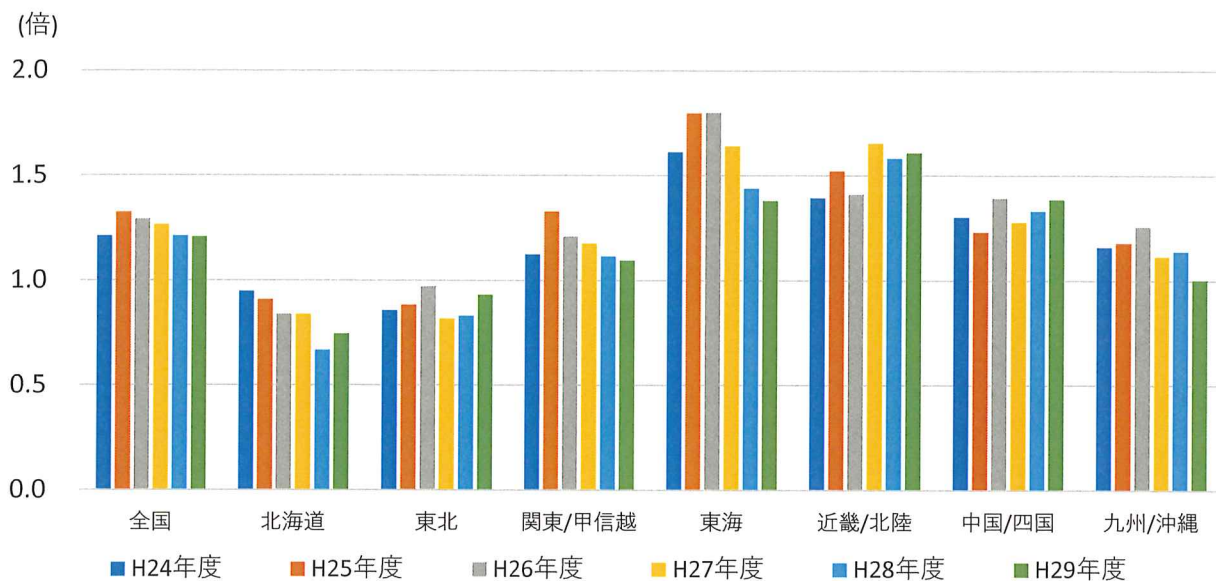


図3 地区別志願者倍率の年次推移(平成24年度～平成29年度)

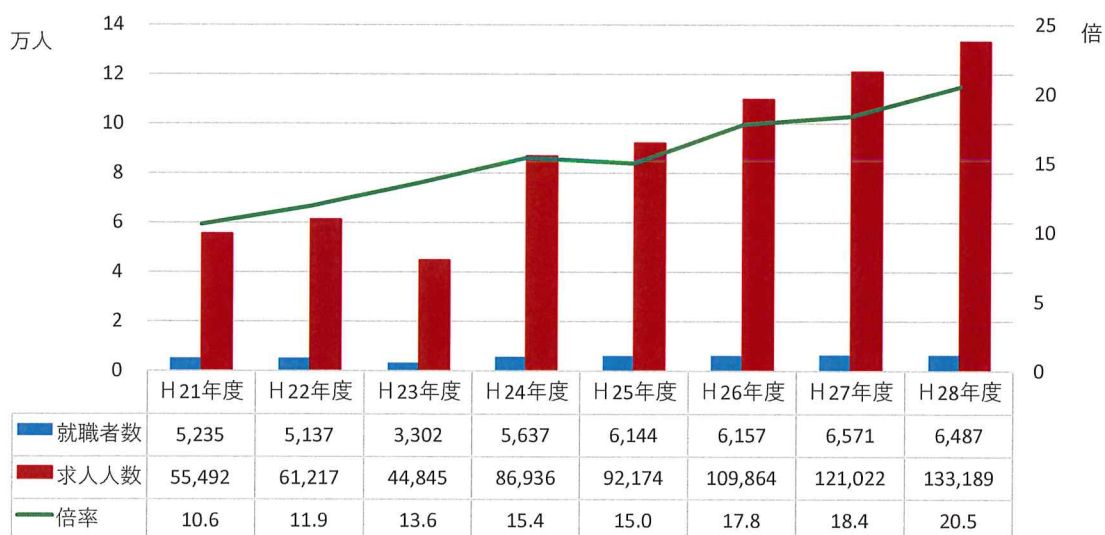


図4 就職者数・求人人数・求人倍率の年次推移

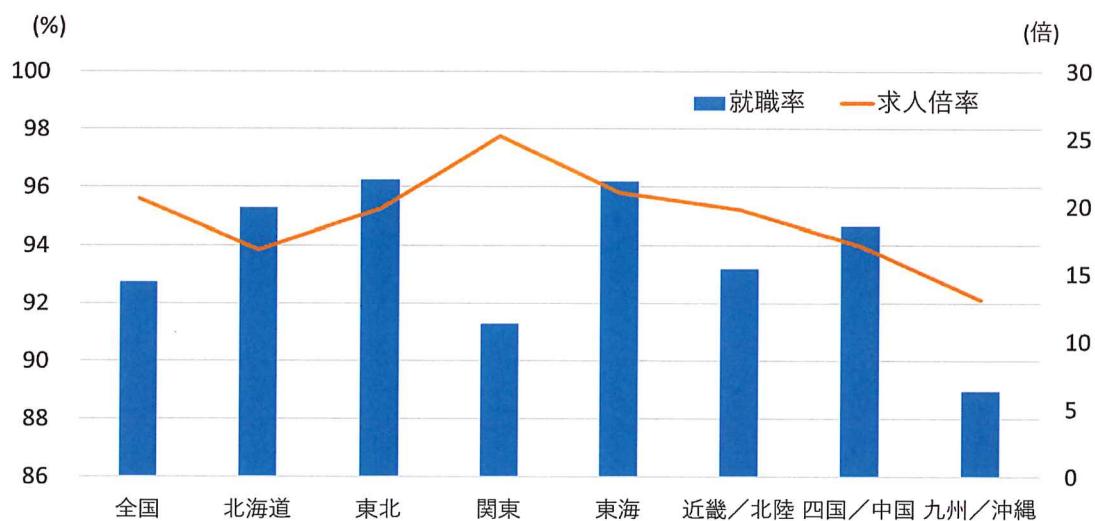


図5 地区別求人倍率と就職率

要望書 一覧

No	種類	名称	所在地
1	歯科医師会	一般社団法人 千葉県歯科医師会	千葉県千葉市美浜区新港3-2-17
2	歯科医師会	一般社団法人 浦安市歯科医師会	千葉県浦安市猫実1丁目2番5号
3	歯科医師会	一般社団法人 市川市歯科医師会	千葉県市川市八幡2丁目9番9号

⑥ 歯・口腔の健康

i. はじめに

(i) 背景

歯・口腔の健康は、口から食べる喜び、話す楽しみを保つ上で重要であり、身体的な健康のみならず、精神的、社会的な健康にも大きく寄与する¹⁾⁻³⁾。歯の喪失による咀嚼機能や構音機能の低下は多面的な影響を与え、最終的に生活の質に大きく関連する。平成 23 年 8 月に施行された歯科口腔保健の推進に関する法律（以下「歯科口腔保健法」という。）の第 1 条においても、歯・口腔の健康は、国民が健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしていることが定められている。

従来から、すべての国民が生涯にわたって自分の歯を 20 本以上残すことをスローガンとした「8020（ハチマルニイマル）運動」が展開されているところであるが、超高齢社会の進展を踏まえ、さらなる取組が必要である。生涯を通じて歯科疾患を予防し、歯の喪失を抑制することは、高齢期での口腔機能の維持につながるものであり、今まで以上に大きな意義を有するものと考えられる。

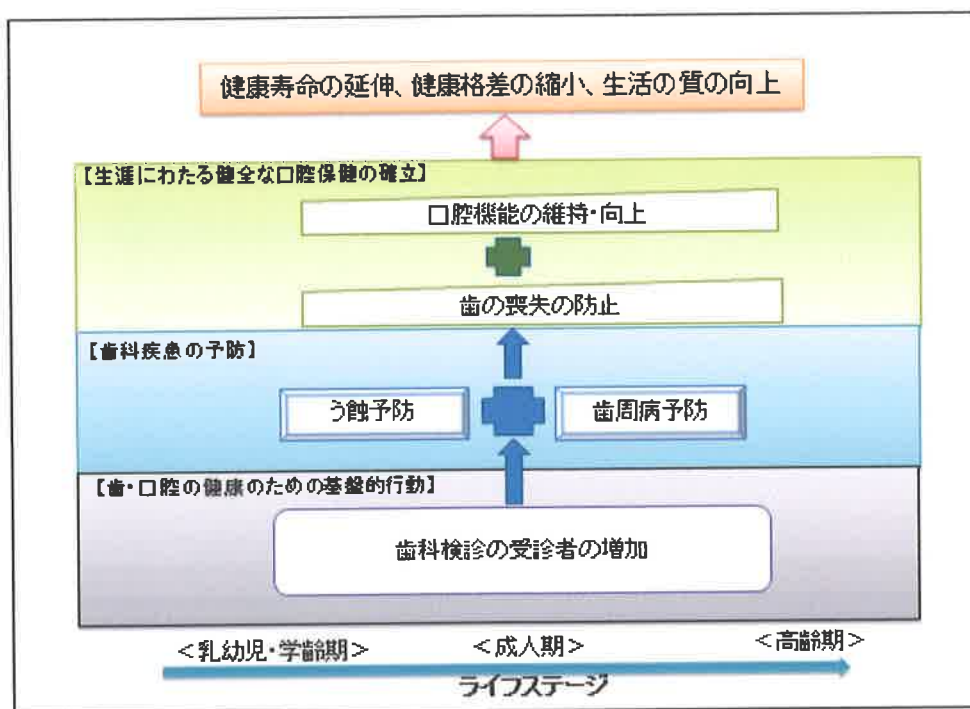
歯の喪失の主要な原因疾患は、う蝕（むし歯）と歯周病であり、歯・口腔の健康のためには、う蝕と歯周病の予防は必須の項目である。小児期のう蝕の有病状況は、健康日本 21 等による地域での歯科保健活動等の進展により、この 10 年間で大きく改善した。しかし、その地域格差は未だに大きく⁴⁾、早急な改善が求められる。平成 21 年の 3 歳児歯科健康診査によると、3 歳児う蝕有病者率の都道府県別データにおいて、最も高値を示す自治体と最も低値を示す自治体の間には、約 2.5 倍の地域格差が存在する（図 1）。また、平成 22 年の学校保健統計調査によると、う蝕有病状況を示す代表的な指標である 12 歳児の一人平均う歯数（未治療のう歯とう蝕により喪失した歯数、ならびに治療済みのう歯数の合計の 1 人あたりの平均値）の都道府県別データにおいては、最も高値を示す自治体と最も低値を示す自治体の間には、約 3.5 倍の地域格差が存在する（図 2）。

歯周病の有病状況については、平成 17 年の歯科疾患実態調査によると、40 歳代の 37.3%は進行した歯周炎を有している。また、20 歳代で歯肉炎に関する自覚症状を有している者の割合が 31.7%にのぼり、未だに多くの国民が何らかの歯周病を有している状況である。さらに、近年のいくつかの疫学研究において、歯周病と糖尿病や循環器疾患等との密接な関連性が報告されており⁵⁾⁻⁷⁾、成人期の健康づくりにおいて「歯周病予防」の推進は不可欠と考えられる。

であることと、高齢期においても自分の歯を有する者の増加に伴い、その対策は高齢期での大きな健康課題の一つであること、また全身疾患との関係が注目されていることから、より一層の歯周病予防対策の推進が求められている。

このため、歯・口腔の健康に関する目標については、歯科疾患の予防の観点から「う蝕予防」および「歯周病予防」を設定し、これらの予防を通じて、生涯にわたる健全な口腔保健の確立を図るために、器質的な観点から「歯の喪失の防止」および機能面の観点から「口腔機能の維持・向上」を設定する。その際、ライフステージごとの特性を踏まえて目標を設定する。また、生涯にわたって歯・口腔の健康を保つために、個人個人で自身の歯・口腔の状況を的確に把握することは重要な保健行動であることから、歯・口腔の健康を保つための基盤的項目として、歯科検診についての目標を設定する。

「歯・口腔の健康」の目標設定の考え方



iii. 現状と目標

(i) 口腔機能の維持・向上

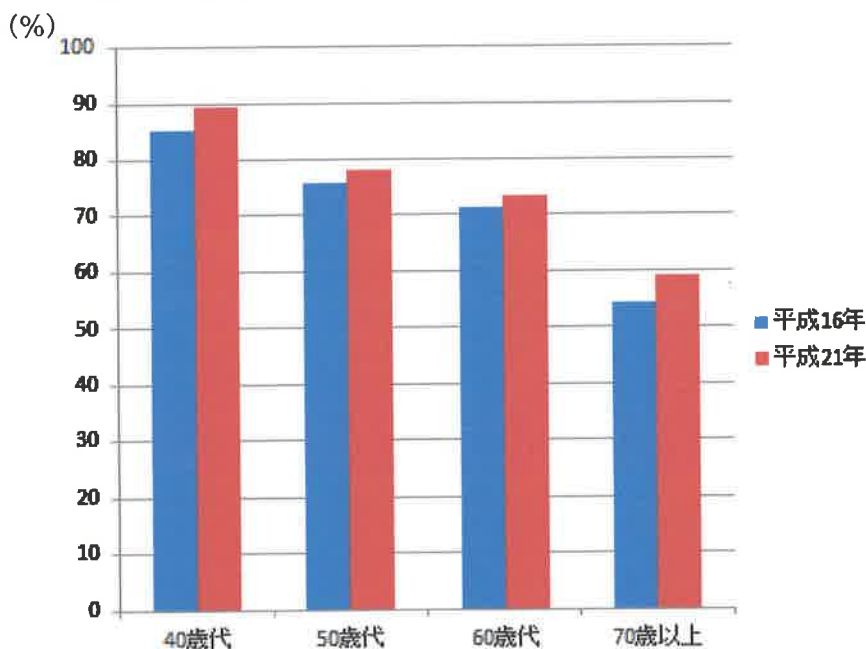
口腔機能は、日常生活を営むために不可欠な摂食と構音と密接に関連するものであり、その良否は寿命の延伸や生活の質の向上に大きく関係している⁸⁾⁹⁾。特に、咀嚼機能については、主観的な健康感や運動機能と密接な関連性を有するとの研究知見も多い¹⁰⁾¹¹⁾。高齢者における咀嚼機能の低下は、野菜摂取量の低下と有意な関連性を示すことが報告されており、摂取できる食品群にも大きな影響を与えられ¹²⁾¹³⁾。このような口腔機能の低下は、虚弱高齢者や要介護高齢者では低栄養を招くリスク要因のひとつとなり、生命予後にも大き

な影響を与える¹⁴⁾。

生涯を通じて健やかな日常生活を送る上で、咀嚼機能をはじめとする口腔機能は大きな役割を果たすため、中高年になっても若年期と同程度の機能を維持することが望ましい。平成21年の国民健康・栄養調査での主観的咀嚼良好者の割合は、50歳代で78.2%、60歳代で73.4%、70歳以上で59.2%であり、年齢とともに大きく低下していた（図3）。高齢期においても口腔機能をできる限り維持することは、重症化予防の観点からも大きな意義を有する。これらのことから、「60歳代における咀嚼良好者の増加」を目標項目とし、目標値としては、平成21年に50歳代の主観的咀嚼良好者の割合が78.2%であったことから、50歳代の状況の保持を目指すことを踏まえ、80%と設定した。

咀嚼機能は、歯の状態や舌運動の巧緻性等のいくつかの要因が複合的に関係するものであるため、地域保健研究・調査等において主観的な評価方法がしばしば使用されていること等も踏まえ、データソースとして国民健康・栄養調査を利用し、生活習慣調査の項目のひとつである「咀嚼の状況」において、「何でも噛んで食べることができる」と回答した者を咀嚼良好者とする。

図3 咀嚼の状況（40歳以上の咀嚼良好者の割合）



（資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」）

目標項目	60歳代における咀嚼良好者の増加
現状	73.4%（平成21年）
目標	80%（平成34年度）
データソース	厚生労働省「国民健康・栄養調査」

(ii) 歯の喪失防止

歯の喪失は器質的な障害であり、健全な摂食や構音などの生活機能にも影響を与える。また、歯の喪失と寿命との間に有意な関連性があることは複数の疫学研究によっても明らかにされている¹⁵⁾¹⁶⁾。

「8020運動」は、歯の喪失防止を目指した包括的な歯・口腔の健康目標であり、健康日本21においても目標項目のひとつとして掲げられていたものである。しかし、歯の早期喪失の防止を目指すためには、より早い年代から対策を始める必要がある。そこで、今回、健康日本21で掲げた目標項目「80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加」と「60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加」に加え、40歳での目標項目「40歳で喪失歯のない者の増加」を掲げることにより、成人期から高齢期にかけての目標を段階的に設定した。

80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合については、平成5年の時点では10.6%であったが、平成17年には25.0%と増加した。今後もこの改善傾向が続くと仮定すると、平成35年には約46%と推計されるため、目標値としての区切りの良さも考慮して目標値を50%と設定した。

60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合については、平成11年の時点では58.3%であったが、平成17年には60.2%と僅かに増加した。今後もこの近年の改善傾向が続くと仮定すると、平成35年には約66%と推計されるため、目標値を70%と設定した。

40歳で喪失歯のない者の割合については、平成5年の時点では40歳で28歯以上の自分の歯を有する者の割合は35.6%であったが、平成17年には54.1%となった。今後もこの改善傾向が続くと仮定すると、平成35年には約81%と推計されるが、「喪失歯がない者の増加」という指標達成の難しさを考慮して目標値を75%と設定した。

データソースとしては、客観的なデータを得ることができる歯科疾患実態調査を利用する。なお、歯数については、地方公共団体において目標設定する場合、自己評価でその保有状況を評価する方法も代替手段のひとつになると考えられる¹⁷⁾。

目標項目	ア 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 イ 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 ウ 40歳で喪失歯のない者の割合の増加
現状	ア 25.0% (平成17年) イ 60.2% (平成17年) ウ 54.1% (平成17年)
目標	ア 50% (平成34年度) イ 70% (平成34年度) ウ 75% (平成34年度)
データソース	厚生労働省「歯科疾患実態調査」

(Ⅲ) 歯周病を有する者の減少

歯周病は、日本人の歯の喪失をもたらす主要な原因疾患である。歯周病のうち、歯肉に局限した炎症が起こる病気を歯肉炎、他の歯周組織にまで炎症が起こっている病気を歯周炎といい、これらが大きな二つの疾患となっている。また、近年、歯周病と糖尿病や循環器疾患との関連性⁵⁾⁻⁷⁾について指摘されていることから、歯周病予防は成人期以降の重要な健康課題のひとつである。

国民健康・栄養調査の生活習慣調査項目のひとつである「歯ぐきの状態」において、「歯ぐきが腫れている」、「歯を磨いた時に血が出る」のいずれかに該当する者は20代において31.7%にも達していた（平成21年）。一方、歯周炎が顕在化し始めるのは40歳以降といわれており、平成17年歯科疾患実態調査によると、40歳代で4mm以上の歯周ポケットを有する進行した歯周炎を有する者は37.3%にも達していた。これらのことより、ライフステージと病態の両者を勘案して、20歳代においては歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少を、40歳代および60歳代以上においては進行した歯周炎を有する者の割合の減少を指標とした。

また、歯の寿命が延伸していることを踏まえ、高齢期においても歯周病対策を継続して実施する必要がある。60歳代で歯周炎を有する者の割合は54.7%と高率であり、成人期から高齢期にかけての連続的な対策が必要である。

これらのことより、歯周病については「20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少」、「40歳における進行した歯周炎を有する者の割合の減少」並びに「60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少」の3つの目標を設定した。

20歳代ではセルフチェックによる自己管理が重要である視点から、今回は国民健康・栄養調査の生活習慣調査項目のひとつである「歯ぐきの状態」において、「歯ぐきが腫れている」、「歯を磨いた時に血が出る」のいずれかに該当する者を「歯肉に炎症所見を有する者」とする。国民健康・栄養調査によれば、平成16年の時点で「歯肉に炎症所見を有する者」の割合は32.2%であったのに対し、平成21年でも31.7%とほとんど変化しなかったことから明らかなように、20歳代での歯科保健行動の変容は難しい傾向にある。しかし、歯肉炎は、適切なセルフケアを行い、良好な口腔管理が維持できれば改善すると言われていたことより、25%を目標値とした。

40歳代については、平成11年の時点では進行した歯周炎を有する者の割合は39.2%であったが、平成17年には37.3%と僅かに減少した（歯科疾患実態調査）。今後もこの減少傾向が続くと仮定すると、平成35年には約32%となると推計されるが、糖尿病や循環器疾患のリスク低減を図るうえでも、40歳代の歯周炎有病状況をさらに改善する必要がある。これらのことを踏まえ、25%を目標値とした。

60歳代についても、平成11年の時点では進行した歯周炎を有する者の割合は56.7%であったが、平成17年には54.7%と僅かに減少した（歯科疾患実態調査）。今後もこの傾向が続くと仮定すると、平成35年には約49%となると推計されたが、この年代からの歯周炎の病態改善の難しさを考慮し、45%を目標値とした。

なお、上記の数値算出にあたっては、歯周疾患のスクリーニング評価法であるWHOのC

PI (Community Periodontal Index, 地域歯周疾患指数) にて、4 mm以上の深いポケットを有する者(コード3以上の者)を「進行した歯周炎を有する者」とする。また、歯の喪失のため対象歯がない者を示すコードXについては総数から除外し、有病者率を算出する。

目標項目	ア 20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少 イ 40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少 ウ 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少
現状	ア 31.7% (平成21年国民健康・栄養調査) イ 37.3% (平成17年歯科疾患実態調査) ウ 54.7% (平成17年歯科疾患実態調査)
目標	ア 25% (平成34年度) イ 25% (平成34年度) ウ 45% (平成34年度)
データソース	ア 厚生労働省「国民健康・栄養調査」等 イ、ウ 厚生労働省「歯科疾患実態調査」

(iv) 乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加

乳幼児期のう蝕有病状況は、近年大きく改善し、3歳児でう蝕のない者の割合は77.1%に達している(平成21年厚生労働省実施状況調べ(3歳児歯科健康診査))。この傾向は永久歯でも同様にみられ、永久歯う蝕の代表的評価指標である12歳児の一人平均う蝕数についても1.3歯まで減少した。しかし、う蝕有病状況に関する地域格差は未だに明確に存在しており、乳歯う蝕と永久歯う蝕の各々について地域格差の縮小を目指す必要がある。

乳幼児期は生涯にわたる歯科保健行動の基盤が形成される時期であり、乳歯咬合の完成期である3歳児のう蝕有病状況の改善は、乳幼児の健全な育成のために不可欠である。平成21年において、う蝕がない者の割合が最も高率である都道府県のう蝕有病者率が84.4%であったことを踏まえ、「3歳児でう蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加」を目標項目とする。平成17年の時点では80%以上を達成している都道府県は1都道府県のみであったが、平成21年には6都道府県に増加した。今後もこの傾向が続くと仮定すると、平成35年には23都道府県まで増加すると推計されるため、約5割の都道府県での達成を目指して、目標値を23都道府県と設定した。

一方、学齢期のう蝕有病状況の評価では、12歳児一人平均う蝕数を用いる。12歳児一人平均う蝕数は国際間比較の尺度としても用いられており、学齢期でのう蝕の都道府県格差をみる上で最も適した指標である。平成22年の学校保健統計調査で最も低い値を示す都道府県での値が0.8歯、最も高い値を示す都道府県での値が2.6歯であったことを踏まえ、「12歳児の一人平均う蝕数が1.0歯未満の都道府県の増加」を目標とした。平成19年の時点で12歳児の一人平均う蝕数が1.0未満の都道府県は1都道府県のみであったが、平成23年には7都道府県に増加した。今後もこの傾向が続くと仮定すると、平成35年には28都道府県

まで増加すると推計されるため、約6割の都道府県での達成を目指して、目標値を28都道府県と設定した。

データソースとしては、乳幼児のう蝕有病状況については、母子保健法による3歳児健康診査での歯科健診結果を利用する。また、学齢期のう蝕有病状況については、データソースとして学校保健統計調査を利用する。

目標項目	ア 3歳児でう蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加 イ 12歳児の一人平均う歯数が1.0歯未満である都道府県の増加
現状	ア 6都道府県（平成21年） イ 7都道府県（平成23年）
目標	ア 23都道府県（平成34年度） イ 28都道府県（平成34年度）
データソース	ア 厚生労働省実施状況調べ（3歳児歯科健康診査） イ 文部科学省「学校保健統計調査」

（v）歯科検診の受診者の増加

定期的な歯科検診による継続的な口腔管理は、歯・口腔の健康状態に大きく寄与する。特に、定期的な歯科検診は成人期の歯周病予防において重要な役割を果たす¹⁸⁾。定期的な歯科検診の受診により、自身の歯・口腔の健康状態を把握することができ、各自のニーズに応じて、歯石除去や歯面清掃ないしは個別的な歯口清掃指導といったプロフェッショナルケアに適切につながることを期待される。

成人期の歯周病を予防し、歯の喪失を抑制することにより、生涯を通じて円滑な口腔機能を営むことが可能になるため、20歳以上の年代において、歯科検診を受診する者の割合の増加を図ることは大きな意義を有する。目標値設定については、平成11年の時点で過去1年間に歯科検診を受診した20歳以上の者の割合は16.6%であったが、平成21年には34.1%と増加した。今後もこの傾向が続くと仮定すると、平成35年には約61%と推計されることと、歯科口腔保健法の基本的事項に基づく「歯科口腔保健の知識等の普及啓発」と「定期的に歯科検診を受けること等の勧奨」が今後進展することが期待されることを踏まえて目標値を65%と設定した。

データソースについては、国民健康・栄養調査を利用し、生活習慣調査の項目のひとつである「過去1年間に歯科健康診査を受けた者の割合」を用いる。

目標項目	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加（20歳以上）
現状	34.1%（平成21年）
目標	65%（平成34年度）
データソース	厚生労働省「国民健康・栄養調査」

iv. 今後必要となる対策

今回、歯・口腔の健康の指標として口腔機能の維持・向上に係る項目を新たに導入したところであるが、今後は、器質的障害である「歯の喪失」だけでなく、機能的障害である「口腔機能の低下」についても対策を進め、機能向上面からのアプローチを強化する必要がある。口腔機能評価の結果に基づく咀嚼訓練や口腔周囲筋機能訓練等の実施を推進するうえでも、口腔機能のスクリーニング評価法の開発ならびに標準値の提示についても、今後取り組む必要がある。

従来のがわが国の歯科保健対策は、小児期のう蝕予防対策に大きく重点が置かれてきたが、これまでの歯科保健施策等の効果もあり、国全体としてのう蝕有病状況は大きく改善している。しかし、う蝕有病状況が未だ改善していない地域もあり、その地域格差の解消には至っていない。今後、う蝕予防を進めるに当たっては地域格差を含めた健康格差の縮小を目指す必要がある、地方自治体は地域診断の結果に基づき、積極的な健康支援を行うとともに、フッ化物応用法や小窩裂溝填塞法（シーラント）等のエビデンスが確立しているう蝕予防法について、地域の現状に応じて実施することが求められる。

歯周病は、成人期以降の歯の喪失の主要原因であるばかりでなく、糖尿病や循環器疾患のリスク要因となることから、より一層の予防対策が求められるところである。そのための有効な保健行動の一つとして定期的な歯科検診の受診が挙げられる。歯科検診受診の勧奨については、平成 23 年に制定された歯科口腔保健法でも「国及び地方公共団体は、国民が定期的に歯科に係る検診を受けること及び必要に応じて歯科保健指導を受けることを促進するため、定期的に歯科検診を受けること等の勧奨その他の必要な施策を講ずるものとする。」と定められているところであり、歯科口腔保健の知識の普及と併せて、より一層取り組む必要がある。また、禁煙支援に関わる保健指導の実施を含む歯科保健対策を充実していくことも大切である。

こうした歯・口腔の重点目標項目の実現を図るためには、8020運動を更に推進し、個人が歯・口腔の健康づくりに取り組むとともに、地域、職場、学校、医療機関等を含めた社会全体としてその取組を支援することが必要である。その際、ライフステージごとの特性を踏まえて、歯・口腔に関する正しい知識の普及啓発や、個人の状況に応じた食生活の改善、歯間部清掃用器具の使用等の歯科保健指導を行うことが重要である。

また、今回の目標項目には取り入れていないが、高齢期に多い誤嚥性肺炎については、予防策として栄養管理とともに口腔ケアが効果的である¹⁹⁾⁻²¹⁾。肺炎がわが国の死因の第4位であること、さらに誤嚥性肺炎患者数の増加が予想されることを踏まえると、器質的口腔ケア（口腔内の歯や粘膜、舌などの汚れを取り除くケア）、機能的口腔ケア（口腔機能の維持・回復を目的としたケア）および栄養管理をバランスよく組み合わせて実施することが、ますます重要になる。今後は、高齢者の誤嚥リスクを評価し、その結果を踏まえた口腔ケアを実施する体制を構築していく必要がある。

v. 参考文献

- 1) Miura H, et al.: Factors influencing oral health related quality of life (OHRQoL) among the frail elderly residing in the community with their family. *Archs Gerontol Geriatr* 2010; 51: e51-e65.
- 2) Shimazaki Y, et al. Influence of dentition status on physical disability, mental impairment, and mortality in institutionalized elderly people. *J Dent Res.* 2001; 80: 340-345.
- 3) Petersen PE. : Global policy for improvement of oral health in the 21st century -implications to oral health research of World Health Assembly 2007, World Health Organization. *Community Dent Oral Epidemiol* 2009; 37: 1-8.
- 4) Aida J, et al. : An ecological study on the association of public dental health activities and sociodemographic characteristics with caries prevalence in Japanese 3-year-old children. *Caries Res* 2006; 40: 466-72.
- 5) Teeuw WJ, et al. Effect of periodontal treatment on glycemic control of diabetic patients. *Diabetes Care* 2010; 33:421-7.
- 6) Bascones-Martines A, et al. Periodontal disease and diabetes-Review of the literature. *Med Oral Patol Oral Cir Bucal* 2011; 16: e722-e729.
- 7) Humphrey LL, et al. : Periodontal disease and coronary heart disease incidence: A systematic review and meta-analysis. *J Gen Intern Med* 2008; 23: 2079-86.
- 8) Nakanishi N, et al. : Relationship between self-assessed masticatory disability and 9-year mortality in a cohort of community-residing elderly people. *J Am Geriatr Soc* 2005; 55: 54-58.
- 10) Ansai T, et al. : Relationship between chewing ability and 4-year mortality in a cohort of 80-year-old Japanese people. *Oral Dis* 2007; 13: 214-219.
- 11) Moriya S, et al. : Relationship between oral conditions and physical performance in a rural elderly population in Japan. *Int Dent J* 2009; 59: 369-75.
- 12) Miura H, et al. : Relationship between general health status and the change in chewing ability: a longitudinal study of the frail elderly in Japan over a 3-year period. *Gerodontology* 2005; 22:200-205.
- 12) Yoshida M, et al. : Correlation between dental and nutritional status in community-dwelling elderly Japanese. *Geriatr Gerontol Int* 2011; 11: 315-319.
- 13) 神森秀樹、他 : 健常高齢者における咀嚼能力が栄養摂取に及ぼす影響. *口腔衛生会誌* 2003 ; 53 : 13-22.
- 14) Gil-Montoya JA, et al. : Oral health-related quality of life and nutritional status. *Am. Assoc. Public Health Dent* 2008; 68: 88-93.
- 15) Homl-Pedersen P, et al. : Tooth loss and subsequent disability and mortality in old age. *J Am Geriatr Soc* 2008; 56: 429-435.
- 16) Morita I, et al. Relationship between survival rates and number of natural teeth in an elderly Japanese population. *Gerodontology* 2006; 23: 214-218.
- 17) 安藤雄一他. : 質問紙法による現在歯数調査の信頼性. *口腔衛生会誌* 1997 ; 47: 657-662.
- 18) 山本龍生他. : 地域における 14 年間の歯周疾患予防活動の評価. *口腔衛生会誌* 2007 ; 57: 192-200.
- 19) Yoneyama T, et al. Oral care reduces pneumonia in older patients in nursing homes. *J Am Geriatr Soc* 2002; 50: 430-3.
- 20) Watando A, et al. Daily oral care and cough reflex sensitivity in elderly nursing home patients. *Chest* 2004; 126: 1066-70.
- 21) Sarin J, et al. Reducing the risk of aspiration pneumonia among elderly patients in long-term care facilities through oral health interventions. *J Am Med Dir Assoc* 2008; 25: 128-35.

千葉県歯・口腔保健計画



チーバくん

千葉県

はじめに

歯や口腔を健やかに保つことは、いくつになっても自分の歯でしっかり噛んで食べられるようにするだけでなく、バランスのとれた適切な食生活を通じて、糖尿病をはじめとする生活習慣病の予防など、全身の健康の保持増進にも寄与します。

県では、「県民が自ら歯・口腔の健康づくりに取り組むことを促進するとともに、県内すべての地域で生涯を通じ最適な歯・口腔の保健医療サービスを受けられるよう環境整備を推進する」ことを基本理念とする、「千葉県歯・口腔の健康づくり推進条例」を平成22年4月1日から施行しました。

この度、本条例に基づき、乳児期から高齢期までライフステージを通じて、継続的に県民の歯・口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「千葉県歯・口腔保健計画」を策定しました。

今後は、本計画にのっとり、むし歯などの歯科疾患の地域間格差の解消を図り、乳幼児から高齢者まで、また、障害のある方や介護を必要とする方を含め、すべての県民の方々に対しまして、生涯を通じて途切れることのない歯・口腔保健サービスを推進していきます。

市町村や関係団体、県民の皆様と「チームスピリット」の精神で、歯・口腔の健康づくりを推進してまいりますので、皆様の御協力を賜われますようお願い申し上げます。

終わりに、本計画の策定にあたり、多大なる御尽力をいただいた千葉県歯・口腔保健審議会の委員の皆様、市町村や関係団体、さらにはパブリックコメント等を通じ、計画案に御意見を寄せていただきました多くの県民の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成23年3月

千葉県知事 森田 健作

目 次

第1章 計画の基本方針

第1節 計画の趣旨	4
第2節 計画の性格	4
第3節 計画の期間	4

第2章 目標

第1節 乳幼児のむし歯予防等の目標	6
第2節 児童生徒のむし歯予防等の目標	7
第3節 成人及び高齢者の歯周病予防、歯の喪失防止の目標	8

第3章 歯・口腔保健の現状と課題

第1節 歯科疾患の状況	
1 乳幼児のむし歯の状況	10
2 児童生徒のむし歯の状況	12
3 成人及び高齢者の歯周疾患、歯の喪失の状況	14
第2節 歯・口腔保健意識状況	
1 乳幼児	15
2 児童生徒	18
3 成人及び高齢者	21
第3節 保健医療従事者等の状況	
1 歯科医師	23
2 歯科衛生士	24
3 歯科技工士	25
第4節 保健医療施設等の状況	
1 歯科診療所	26
2 訪問診療（自宅）を行っている歯科診療所	26

第4章 施策の方向

第1節 情報の収集及び提供	
1 情報の収集及び提供	28
2 歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及啓発	28
第2節 市町村その他関係者の連携体制の構築	
1 県の役割	29
2 市町村の役割	29

3	歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士等の役割	30
4	教育関係者の役割	30
5	保健医療福祉関係者の役割	30
6	事業者・保険者の役割	30
7	県民の役割	30
8	歯・口腔保健医療関係団体の役割	31
9	研究機関との連携	31
10	かかりつけ歯科医機能の充実	31
11	病診連携体制等の整備	31
第3節 フッ化物応用等のむし歯の予防対策		
	フッ化物応用等のむし歯の予防対策	32
第4節 母子、児童生徒、成人、高齢者等の生涯にわたる歯・口腔の健康づくり		
1	母子の歯・口腔の健康づくり対策	33
2	児童生徒の歯・口腔の健康づくり対策	37
3	成人の歯・口腔の健康づくり対策	38
4	高齢者の歯・口腔の健康づくり対策	39
第5節 障害を有する者、介護を必要とする者等の適切な歯・口腔の健康づくり		
1	障害を有する者の歯・口腔の健康づくり対策	41
2	介護を必要とする者の歯・口腔の健康づくり対策	43
3	病院入院患者の歯・口腔の健康づくり対策	45
第6節 歯・口腔の健康づくりの業務に携わる者の確保及び資質の向上		
	歯・口腔の健康づくりの業務に携わる者の確保及び資質の向上	46
第7節 歯・口腔の健康づくりの効果的な実施に資する調査研究		
	歯・口腔の健康づくりの効果的な実施に資する調査研究	47

資料編

	千葉県歯・口腔の健康づくり推進条例	49
	生涯を通じた歯・口腔の健康づくり対策の概要（千葉県）	52
	県民の行動指針	53
	計画（案）に関する県民アンケート調査結果の概要	54
	用語解説	56

第1章

計画の基本方針

第1節 計画の趣旨

歯・口腔の健康は、生涯を通じて自分の歯でしっかりと噛んで食べることを可能にするだけでなく、バランスのとれた適切な食生活を送ることを可能にし、肥満や糖尿病などの生活習慣病の予防へとつながるなど、全身の健康を保持増進するための重要な要素となっています。

また、乳幼児期から成長期のむし歯などの歯科疾患や噛むこと飲みこむことの習得は、子ども達の健全な成長や成人期以降の歯・口腔の健康に大きな影響を与えます。

さらに、高齢者や要介護者の口腔ケアは、高齢者等の歯科疾患の重症化予防だけでなく、食生活の充実など日常の生活の質（QOL・Quality of Life）を高め、元気な高齢者等を増やし、健康寿命の延伸に寄与します。

そこで、全身の健康につながる「歯・口腔の健康づくり」については、乳幼児期から高齢期までライフステージを通じて継続的に取り組む必要があるため、生涯にわたる県民の歯・口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、歯・口腔の健康づくりに関する基本的な計画を策定します。

第2節 計画の性格

- (1) 千葉県歯・口腔の健康づくり推進条例第9条の規定による計画です。
- (2) 本県の歯科保健医療に関して総合的・効果的に推進するための基本的な指針です。
- (3) 市町村に対しては計画策定や施策の指針となるものです。
- (4) 県民その他の関係機関・団体にとっては、自主的・積極的活動の指針となるものです。
- (5) 関連する県の計画との整合を図るものです。

第3節 計画の期間

千葉県保健医療計画と整合性をとりながら、平成23年度を初年度とし、平成27年度を目標年度とします。ただし、計画策定後の歯科保健医療を取り巻く状況の変化によって、必要に応じ再検討を加え、見直すこととします。

第 2 章

目標

第1節 乳幼児のむし歯予防等の目標

指 標		現状	目標 (平成 27 年度)	出典
3 歳児におけるむし歯のない者の割合の増加		76.1%	80%以上	平成 21 年度 千葉県 3 歳児歯科健康診査
(新規) 3 歳児の県平均と最も高い市町村のむし歯有病者率の差を縮小		32.5%	15%以内	平成 21 年度 千葉県 3 歳児歯科健康診査
3 歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合の増加		57.7%	75%以上	平成 22 年度 千葉県歯科保健実態調査
間食として甘味食品・飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣を持つ者の割合の減少	1 歳 6 か月児	9.9%	5%以下	平成 22 年度 千葉県歯科保健実態調査
(新規) 毎日保護者が仕上げ磨きをする習慣のある者の増加	1 歳 6 か月児	96.7%	100%	平成 22 年度 千葉県歯科保健実態調査

第2節 児童生徒のむし歯予防等の目標

指 標		現状	目標 (平成27年度)	出典
12歳児における1人平均むし歯数の減少		1.4本	1本以下	平成21年度 児童生徒定期健康診査結果
(新規) 12歳児の県平均と最も高い市町村の1人平均むし歯数の差を縮小		1.7本	1本以内	平成21年度 児童生徒定期健康診査結果
児童生徒における歯磨剤使用者の割合の増加	小学校第1学年	93.1%	100%	平成22年度 千葉県歯科保健実態調査
	小学校第4学年	96.5%	100%	
	中学校第1学年	96.5%	100%	
	高等学校第1学年	97.4%	100%	
児童生徒において過去1年間に個別的歯と口腔の清掃指導を受けたことのある者の割合の増加	15歳～19歳	13.4%	30%以上	平成21年度 千葉県生活習慣に関するアンケート調査
(新規) 週1回以上鏡で自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣の増加	小学校第4学年	45.8%	60%以上	平成22年度 千葉県歯科保健実態調査
	中学校第1学年	38.7%	60%以上	
	高等学校第1学年	36.9%	60%以上	
(新規) 歯間部清掃用器具を使用している者の割合の増加	中学校第1学年	26.9%	60%以上	平成22年度 千葉県歯科保健実態調査
	高等学校第1学年	17.9%	60%以上	

第3節 成人及び高齢者の歯周病予防、歯の喪失防止の目標

指 標		現 状	目 標 (平成 27 年度)	出 典
80歳で20本以上を有する者の割合の増加	80歳で20本以上を有する者の割合	20.3%	25%以上	平成 21 年度 千葉県生活習慣に関するアンケート調査
1人平均現在歯数の増加	30歳代	26.1本	28本	平成 21 年度 千葉県生活習慣に関するアンケート調査
	40歳代	25.4本	27本以上	
	50歳代	21.0本	25本以上	
	60歳代	20.2本	22本以上	
	70歳代	15.8本	17本以上	
	80歳代	9.6本	11本以上	
進行した歯周炎を有する人の割合の減少	40歳代	39.0%	20%以下	平成 22 年度 千葉県歯科保健実態調査
	50歳代	41.9%	30%以下	
歯間部清掃用器具を使用している者の割合の増加	20歳代	27.0%	60%以上	平成 21 年度 千葉県生活習慣に関するアンケート調査
	30歳代	44.1%	60%以上	
	40歳代	49.1%	60%以上	
	50歳代	53.1%	60%以上	
	60歳代	48.9%	60%以上	
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合の増加	20歳以上	33.6%	60%以上	平成 21 年度 千葉県生活習慣に関するアンケート調査
定期的に歯科検診を受けている者の割合の増加	20歳以上	37.6%	60%以上	
喫煙する者の割合の減少	成人男性	29.4%	26%以下	平成 21 年度 千葉県生活習慣に関するアンケート調査
	成人女性	11.1%	6%以下	

第3章

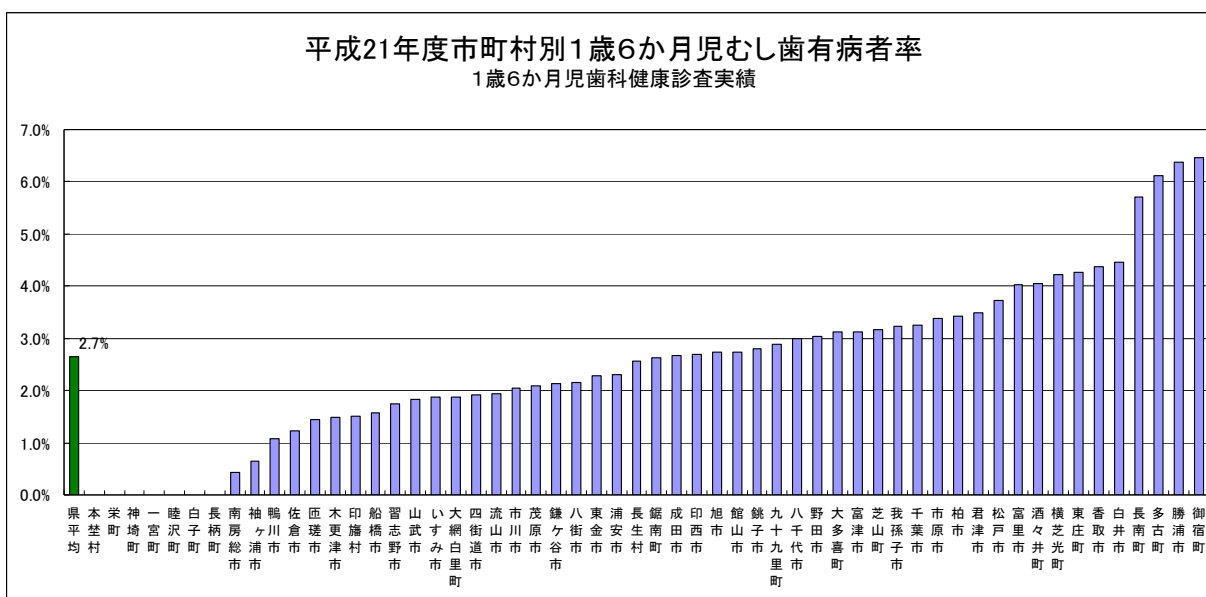
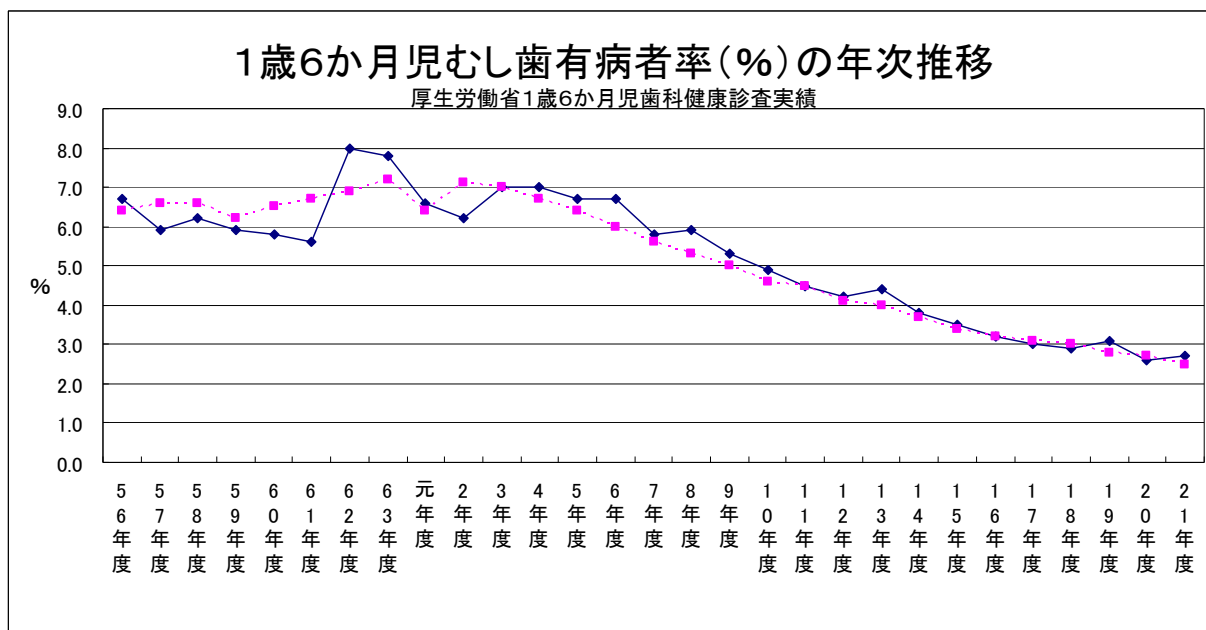
歯・口腔保健の現状と課題

第1節 歯科疾患の状況

1 乳幼児のむし歯の状況

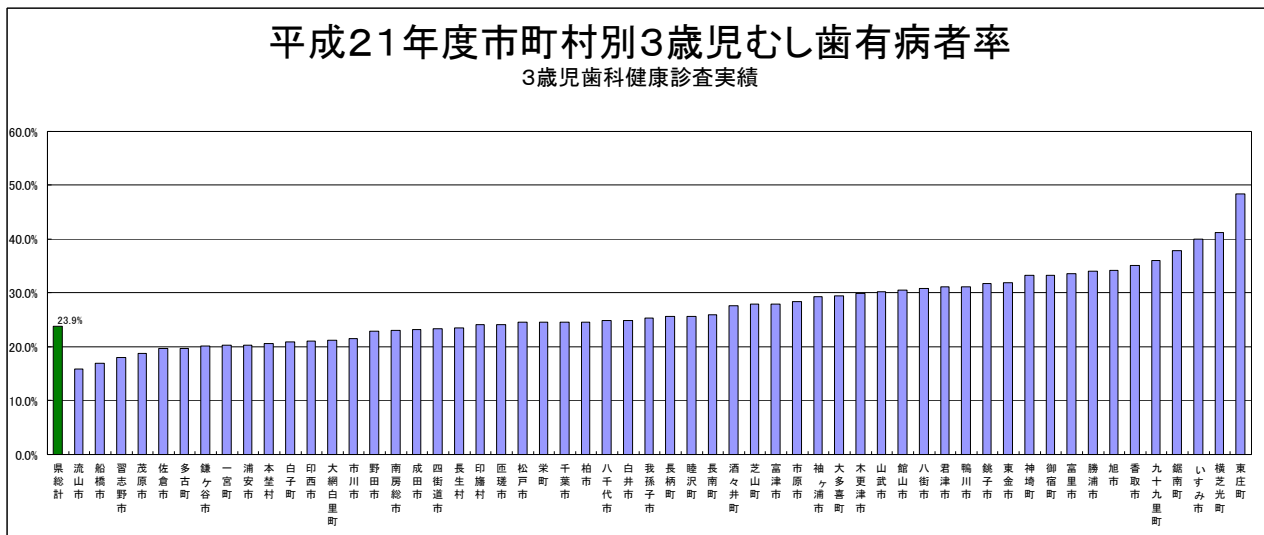
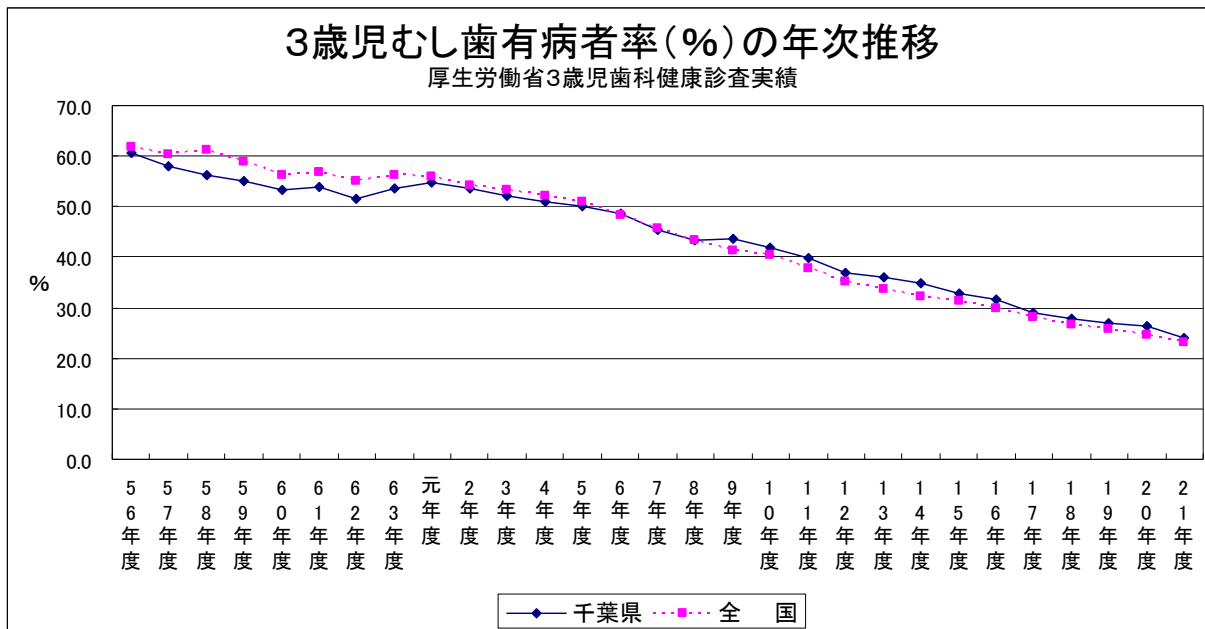
(1) 1歳6か月児（1歳6か月児歯科健康診査実績）

むし歯有病者率は年々減少傾向にあります。市町村別にみると、平成21年度のむし歯有病者率は、市町村間で0%から約6%の開きがあります。



(2) 3歳児（3歳児歯科健康診査実績）

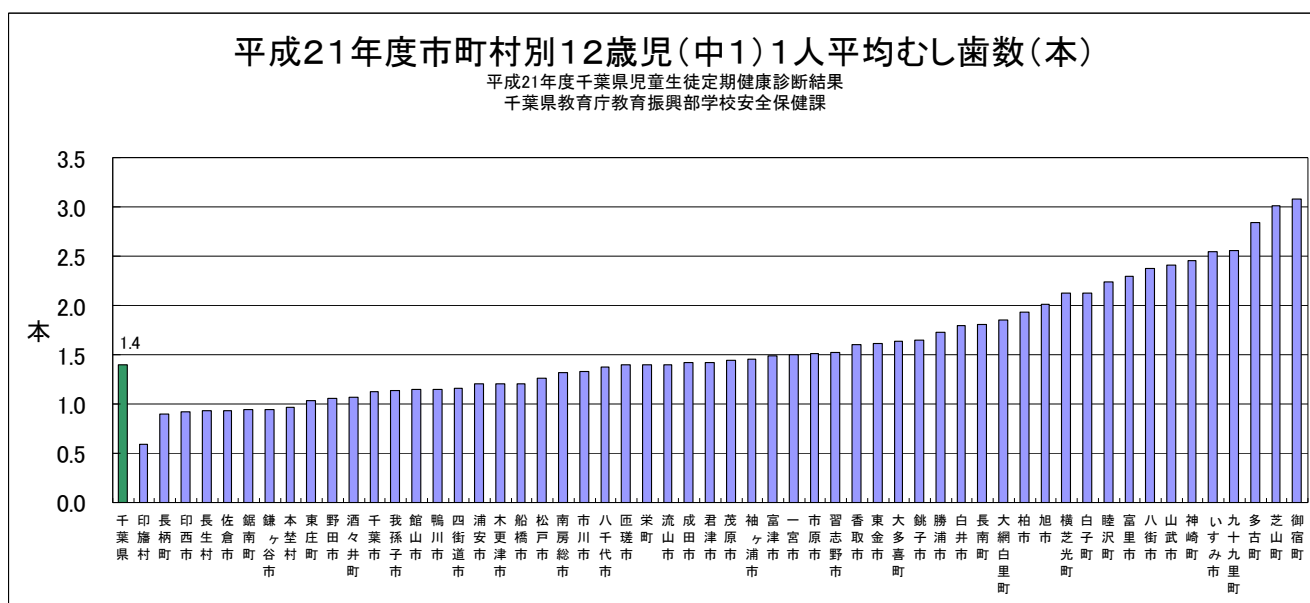
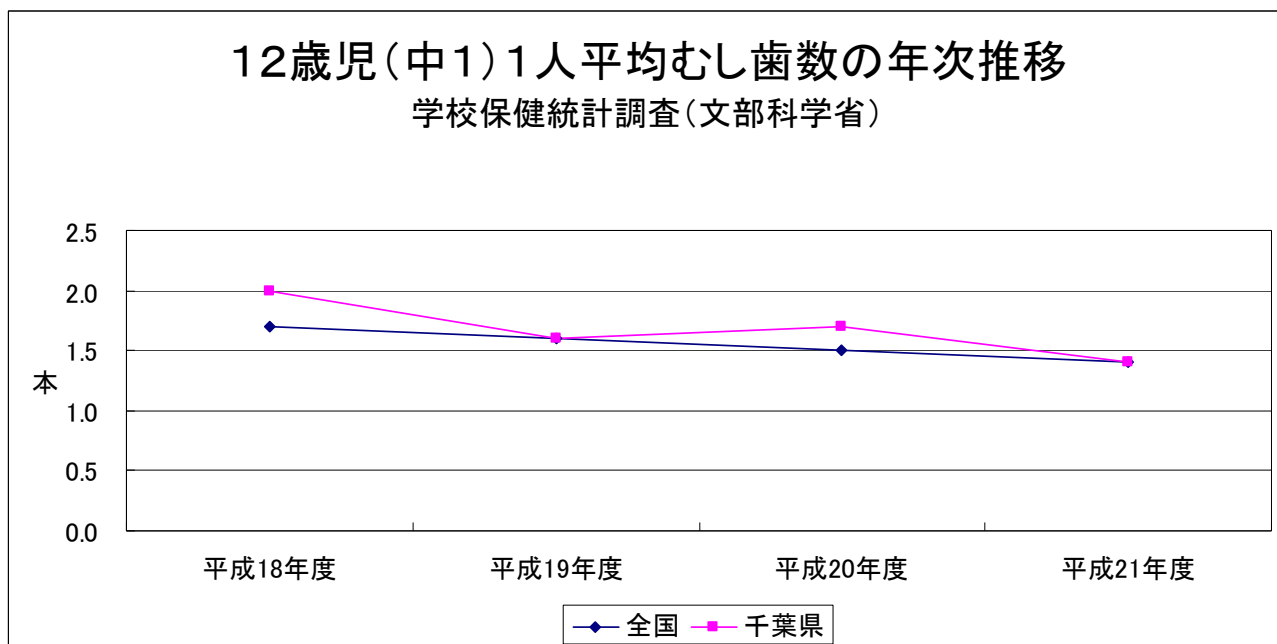
むし歯有病者率は年々減少傾向にあります。市町村別にみると、平成21年度のむし歯有病者率は、市町村間で約16%から約48%の開きがあります。



2 児童生徒のむし歯の状況

(1) 12歳児のむし歯の状況（学校保健統計調査報告）

1人平均むし歯数は年々減少傾向にあります。市町村別にみると、平成21年度の1人平均むし歯数は、市町村間で約0.5本から約3.0本の開きがあります。



(2) 歯垢・歯肉の状態（平成 21 年度千葉県児童生徒定期健康診断結果）

平成 21 年度の児童生徒の歯垢の状態は、「ほとんど付着なし」が小学校 89.3%、中学校 83.4%、全日制高等学校 84.9%であり、歯肉の状態は、「異常なし」が小学校 92.7%、中学校 85.5%、全日制高等学校 87.7%です。

児童生徒の歯垢・歯肉の状態

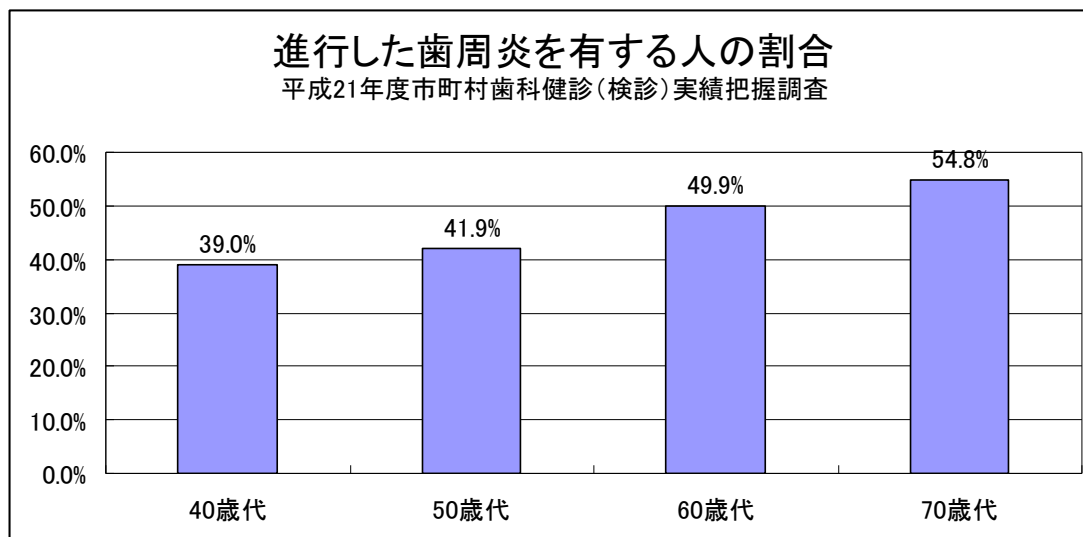
		小学校	中学校	全日制高等学校
歯垢の状態	ほとんど付着なし	89.3%	83.4%	84.9%
	若干の付着あり	13.1%	21.3%	18.1%
	相当の付着	2.4%	4.7%	3.1%
歯肉の状態	異常なし	92.7%	85.5%	87.7%
	定期的観察が必要	8.9%	18.7%	15.4%
	専門医(歯科医師)による診断が必要	1.6%	4.2%	3.1%

平成21年度千葉県児童生徒定期健康診断結果

3 成人及び高齢者の歯周疾患、歯の喪失の状況

(1) 歯周疾患の状況

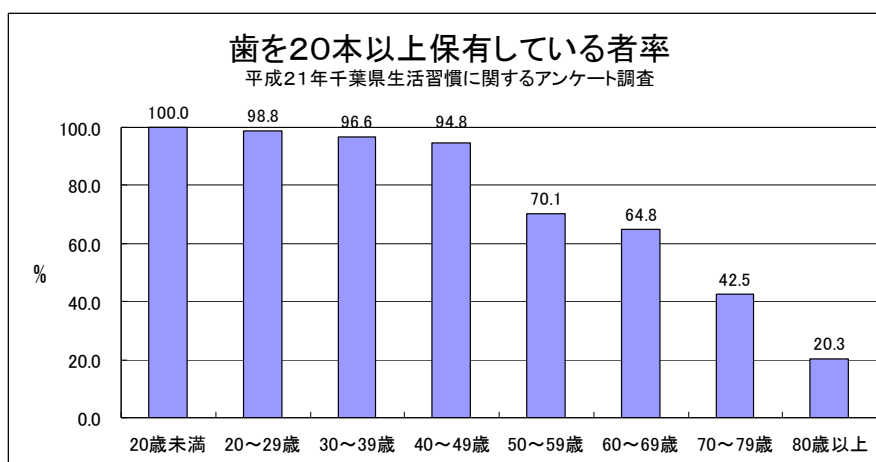
進行した歯周炎を有する人の割合(CPITN=3,4)は、40歳代が39.0%、50歳代が41.9%、60歳代が49.9%、70歳代が54.8%と年齢が増加するにつれて増えています。



(2) 歯の喪失の状況

平成17年度国勢調査結果によれば、本県の高齢化率は全国で5番目に低いものの、高齢者人口は全国2番目の伸び率で増加しており、平成27年には、約4人に1人が高齢者となる見込みです。

高齢者にとって自分の歯で噛むことは、生活の質の向上に重要です。40歳代までは、歯を20本以上保有している者率は、90%以上を保有しているものの、50歳代から急激に減り、80歳以上では20.3%に減少しています。

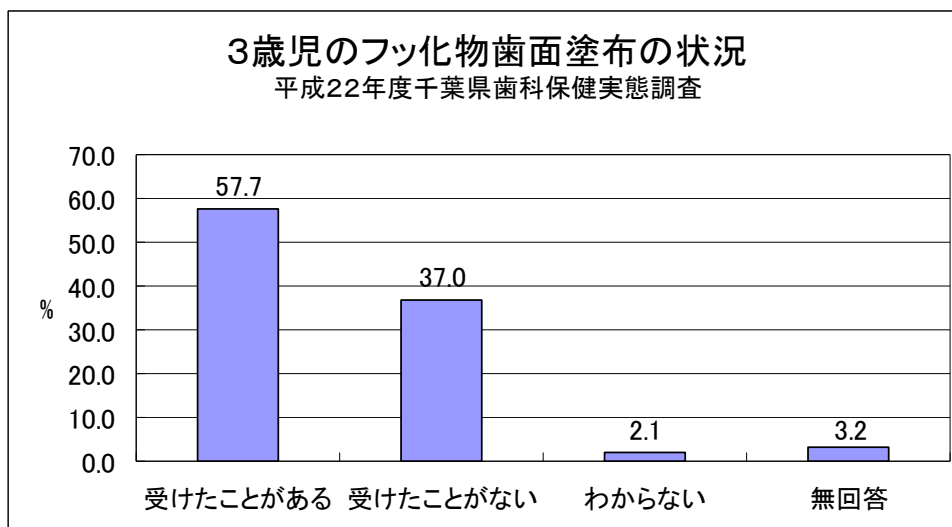


第2節 歯・口腔保健意識状況

1 乳幼児

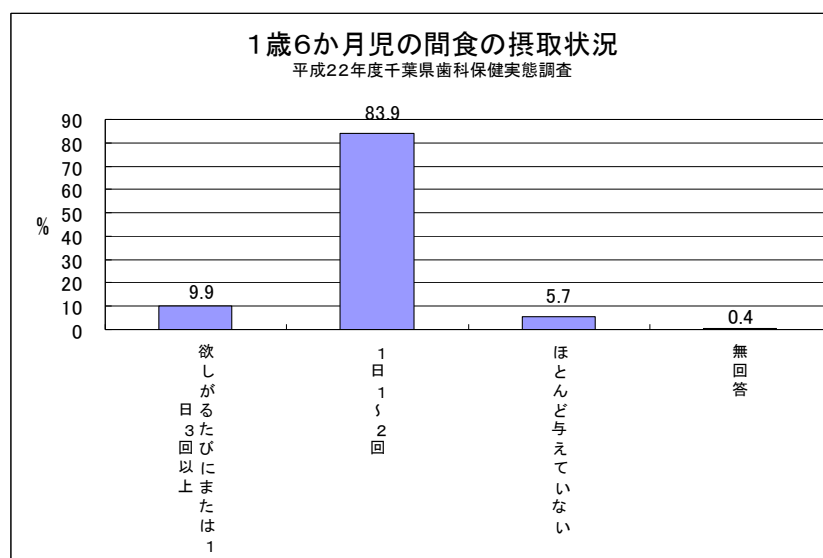
(1) 3歳児のフッ化物歯面塗布の状況

3歳児のフッ化物歯面塗布の状況は、「受けたことがある者」は57.7%、「受けたことがない者」は37.0%でした。



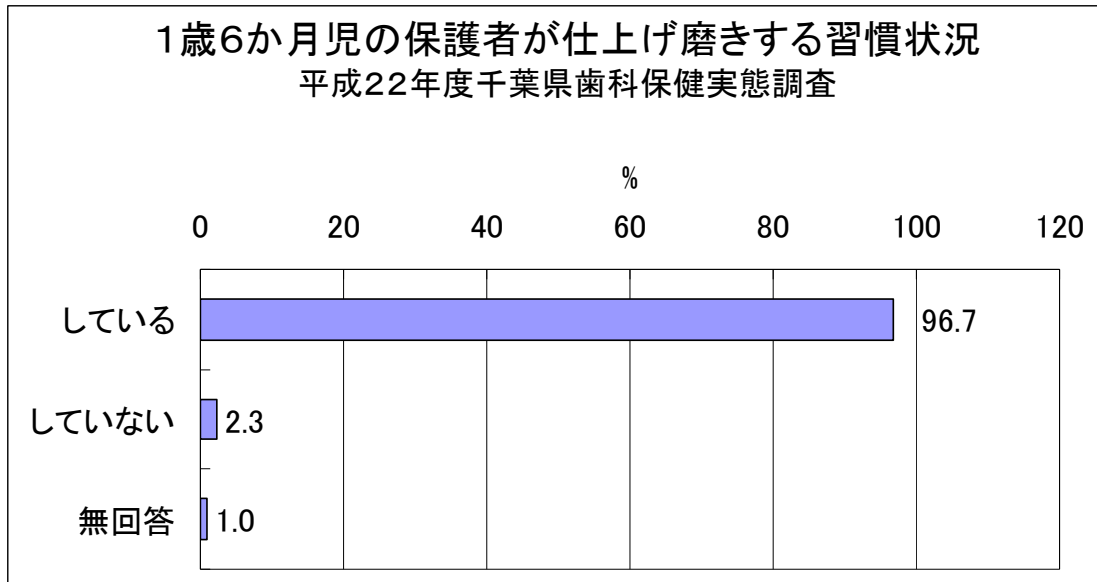
(2) 1歳6か月児の間食の摂取状況

1歳6か月児の間食の摂取状況は、「1日に1~2回」が最も多く83.9%だった。また、「欲しがるたびにまたは1日3回以上」は9.9%でした。



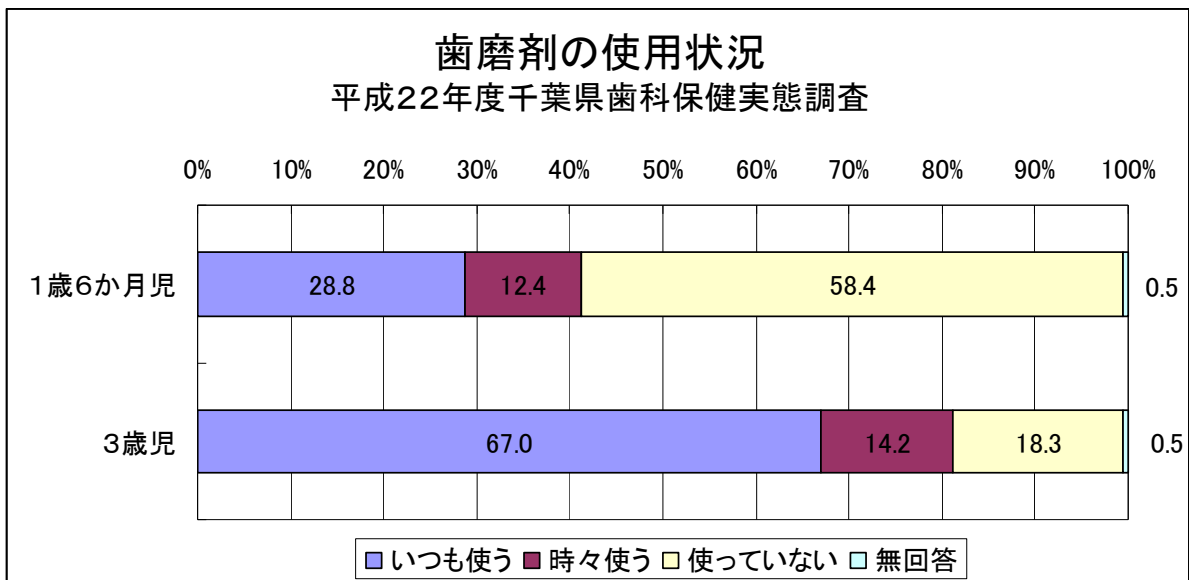
(3) 1歳6か月児の保護者が仕上げ磨きをする習慣状況

仕上げ磨きをしている1歳6か月児の保護者は、96.7%でした。



(4) 歯磨剤の使用状況

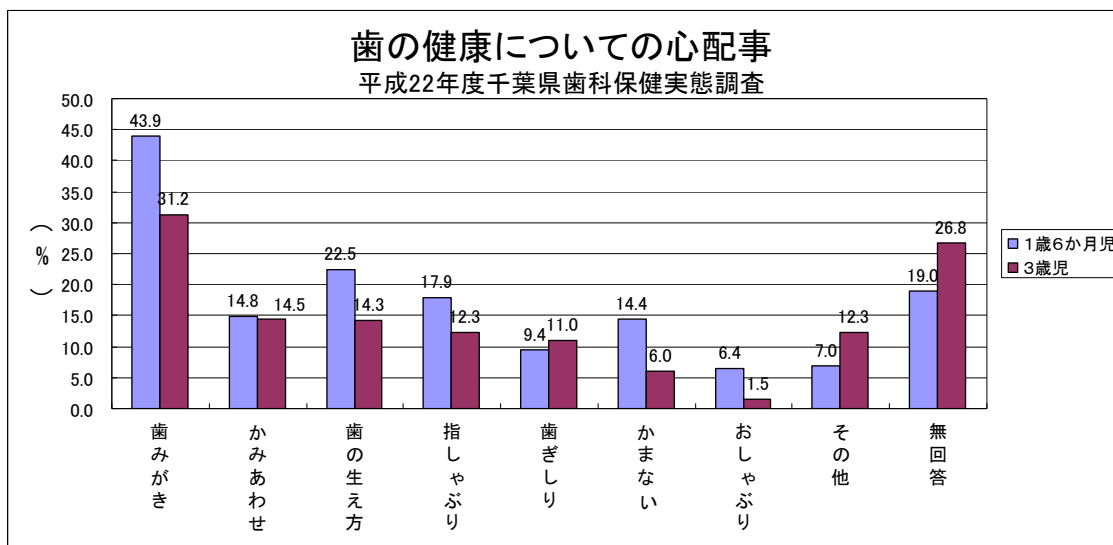
歯磨剤の使用状況は、1歳6か月児では「使っていない」が最も多く58.4%、3歳児では「いつも使う」が最も多く67.0%でした。



(5) 歯の健康についての心配事

1歳6か月児では、「歯みがき」(43.9%)が4割を超えて最も高く、次いで「歯の生え方」(22.5%)、「指しゃぶり」(17.9%)、「かみあわせ」(14.8%)、「かまない」(14.4%)などの順となっていました。

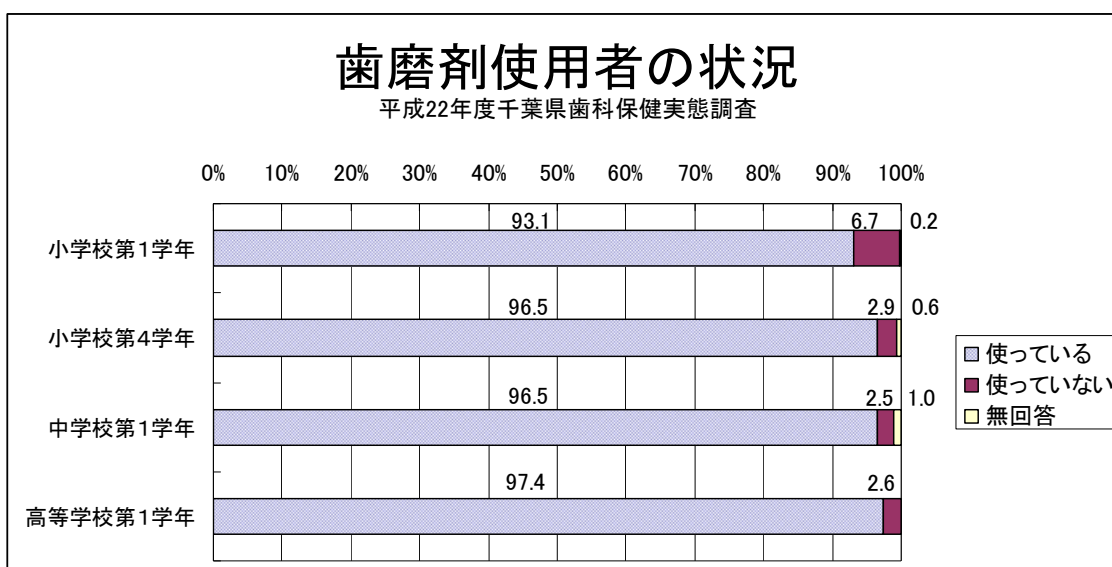
3歳児では、「歯みがき」(31.2%)が3割を超えて最も高く、次いで「かみあわせ」(14.5%)、「歯の生え方」(14.3%)、「指しゃぶり」(12.3%)、「歯ぎしり」(11.0%)などの順となっていました。



2 児童生徒

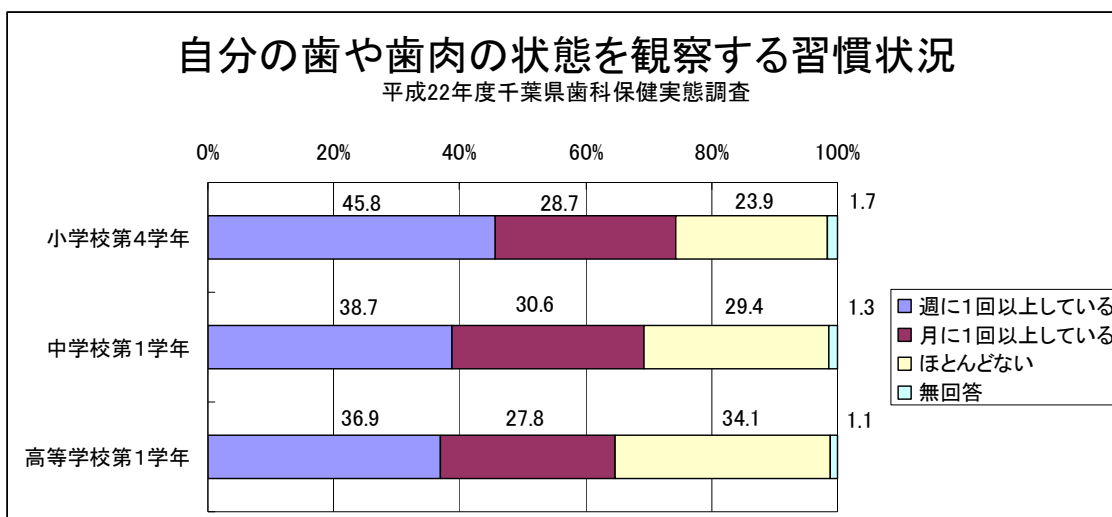
(1) 歯磨剤使用者の状況

歯磨剤を使っている者は、小学校第1学年 93.1%、小学校第4学年 96.5%、中学校第1学年 96.5%、高等学校第1学年 97.4%でした。



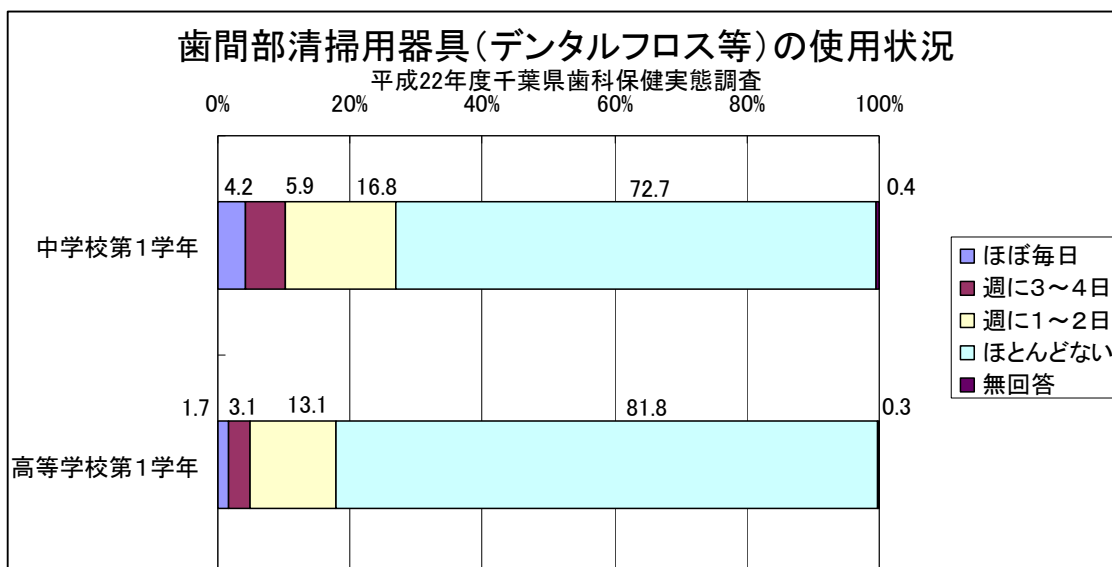
(2) 自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣状況

自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣を週に1回以上している者は、小学校第4学年 45.8%、中学校第1学年 38.7%、高等学校第1学年 36.9%でした。



(3) 歯間部清掃用器具の使用状況

歯間部清掃用器具の使用状況は、「ほとんどない」が最も多く中学校第1学年72.7%、高等学校第1学年81.8%でした。



(4) 歯の健康についての悩みや気になること

歯の健康についての悩みや気になることについては、小学校第1学年、中学校第1学年、高等学校第1学年では、「歯ならび」が最も多くそれぞれ45.0%、31.8%、30.4%に対して、小学校第4学年では「ものがはさまる」が43.8%と最も多かったです。

歯の健康についての悩みや気になること

	歯ならび	ものがはさまる	歯が痛んだり、しみてりする	かみあわせがよくない	歯ぐきから血が出たり、はれたりする	口臭がある	口をあけるとあごがゴリゴリ音がる	粘るような不快感がある	その他	無回答
小学校第1学年	45.0	6.7	2.4	8.3	3.8	13.7	0.2	0.2	13.1	30.4
小学校第4学年	41.2	43.8	17.5	16.8	19.8	9.8	7.7	3.6	8.5	16.8
中学校第1学年	31.8	29.2	18.1	12.2	13.6	4.7	5.6	1.9	7.4	27.2
高等学校第1学年	30.4	21.3	19.0	12.8	10.8	5.4	11.4	2.6	6.0	31.5

平成22年度千葉県歯科保健実態調査

(5) 市町村別フッ化物洗口実施状況

平成22年3月現在、12市町村内の98施設でフッ化物洗口を実施していました。また、実施人数は7,992人でした。

市町村別フッ化物洗口実施施設数 (平成22年3月現在)

	市町村名	実施施設数					計
		保育所	幼稚園	小学校	中学校	養護(障害)等	
1	八千代市	1		1			2
2	鎌ヶ谷市	5	8	1			14
3	成田市			1			1
4	匝瑳市	1		2			3
5	山武市	8	6				14
6	大網白里町		2				2
7	茂原市	1		2			3
8	長生村	3					3
9	鴨川市	4	10	10	3		27
10	木更津市			1	1		2
11	君津市			3			3
12	市原市	7	14	3			24
	計	30	40	24	4	0	98

千葉県健康福祉部健康づくり支援課調査

市町村別フッ化物洗口実施人数 (平成22年3月現在)

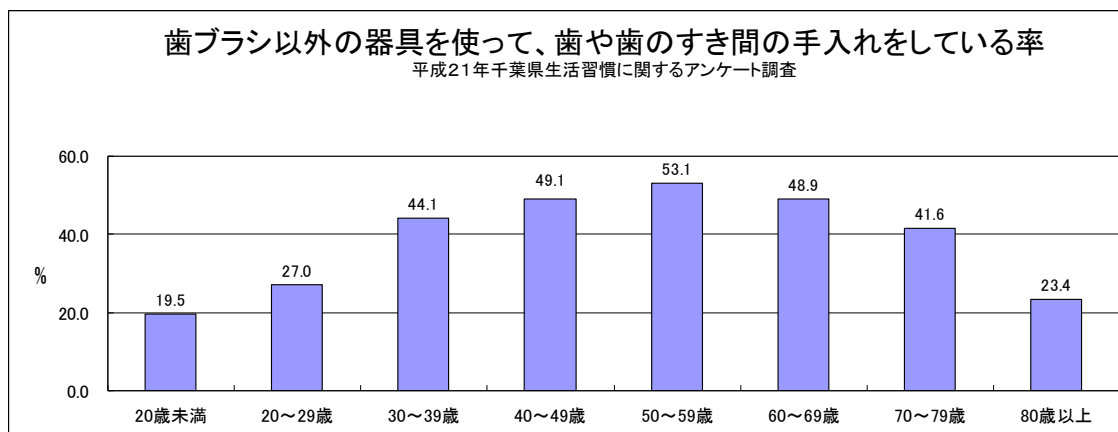
	市町村名	実施人数					計
		保育所	幼稚園	小学校	中学校	養護(障害)等	
1	八千代市	34		92			126
2	鎌ヶ谷市	284	1,303	399			1,986
3	成田市			245			245
4	匝瑳市	13		212			225
5	山武市	366	338				704
6	大網白里町		265				265
7	茂原市	33		729			762
8	長生村	116					116
9	鴨川市	66	342	1,056	338		1,802
10	木更津市			96	17		113
11	君津市			507			507
12	市原市	211	764	166			1,141
	計	1,123	3,012	3,502	355	0	7,992

千葉県健康福祉部健康づくり支援課調査

3 成人及び高齢者

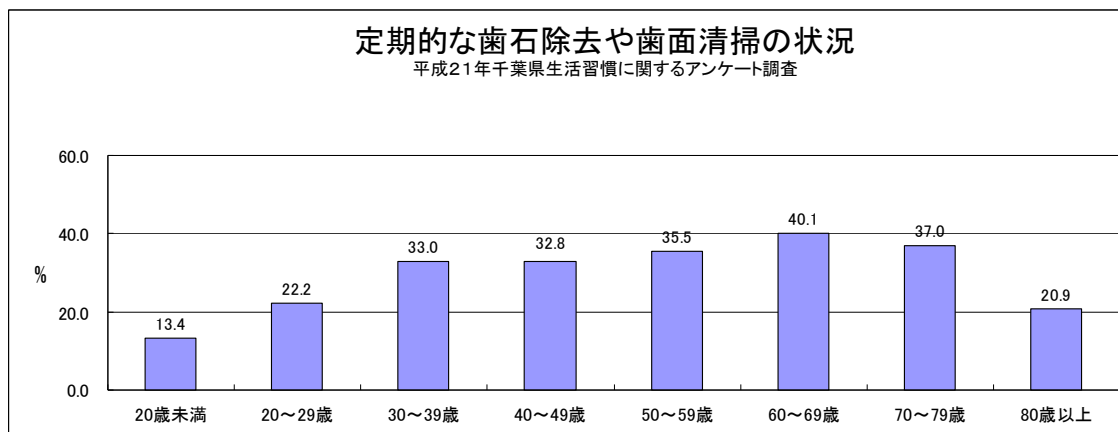
(1) 歯ブラシ以外の器具の使用状況

歯ブラシ以外の器具を使って、歯や歯のすき間の手入れをしている者について、年齢階級別にみると、50歳代の53.1%を除いて、すべての年代において50%に満たない状況でした。



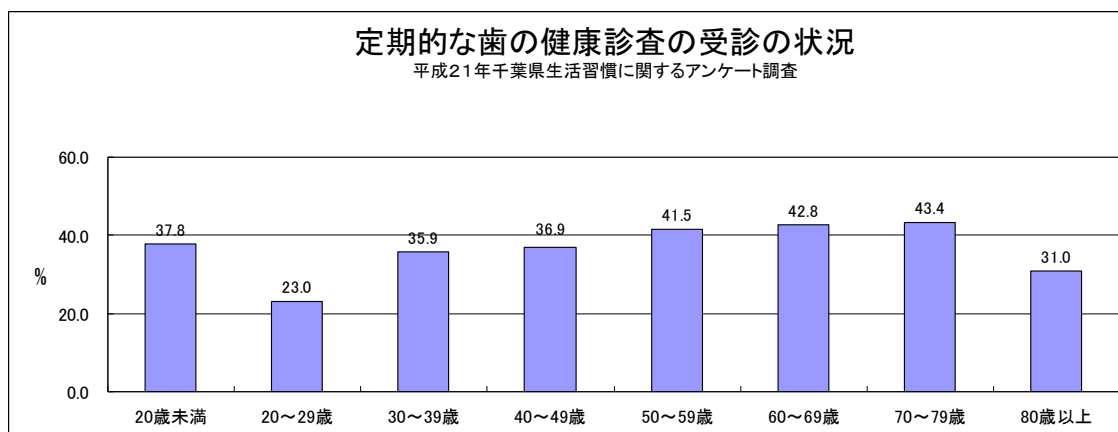
(2) 定期的な歯石除去や歯面清掃の状況

定期的な歯石除去や歯面清掃を受けている者について、年齢階級別にみると、60歳代の40.1%を除いて、すべての年代において40%に満たない状況でした。



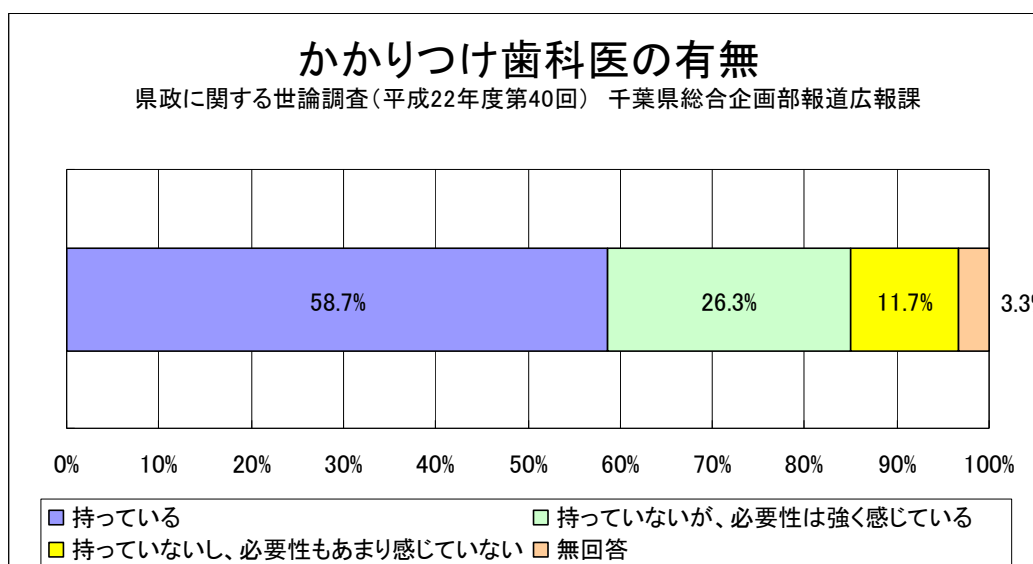
(3) 定期的な歯の健康診査の受診の状況

定期的な歯の健康診査の受診を受けている者について、年齢階級別にみると、すべての年代において、70歳代の43.4%を最高に50%に満たない状況でした。



(4) かかりつけ歯科医の有無

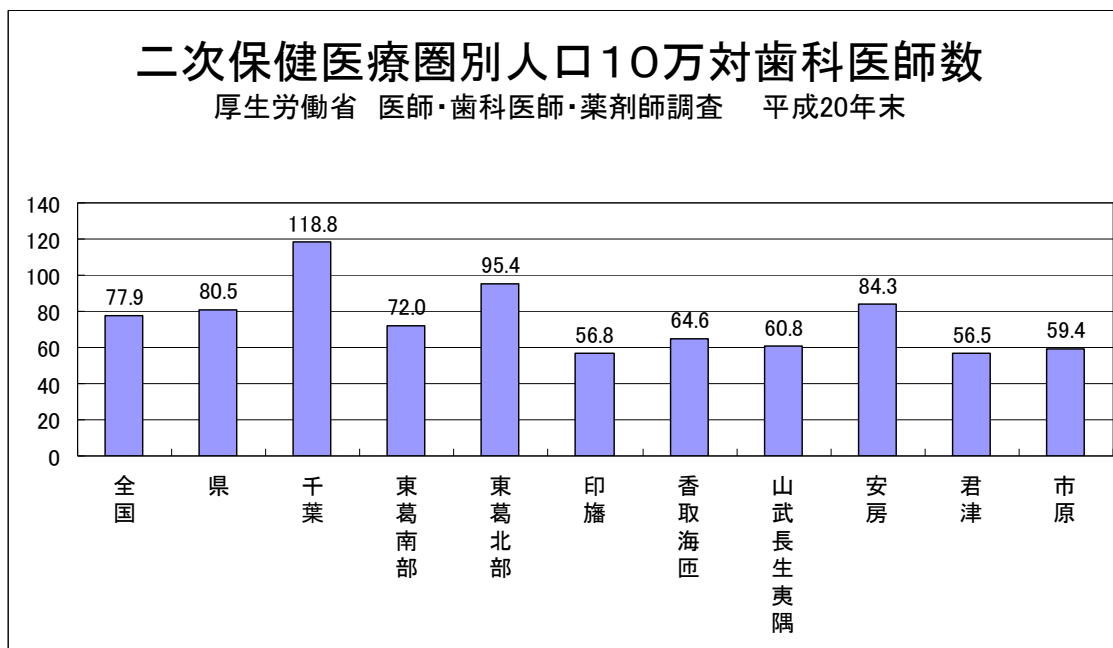
20歳以上の県民のうち、58.7%の者がかかりつけ歯科医を持っていると回答していました。



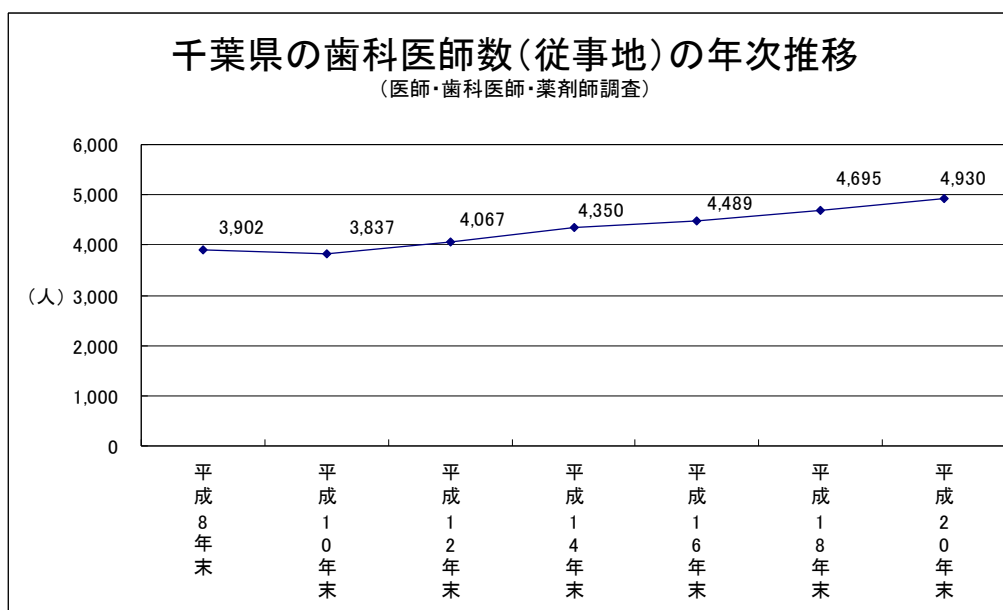
第3節 保健医療従事者等の状況

1 歯科医師

平成20年末現在、人口10万対歯科医師数で見ると、千葉県は80.5と全国の77.9より多い状況でした。二次保健医療圏別にみると、千葉保健医療圏が118.8と最も多く、君津保健医療圏は56.5と少ない状況でした。

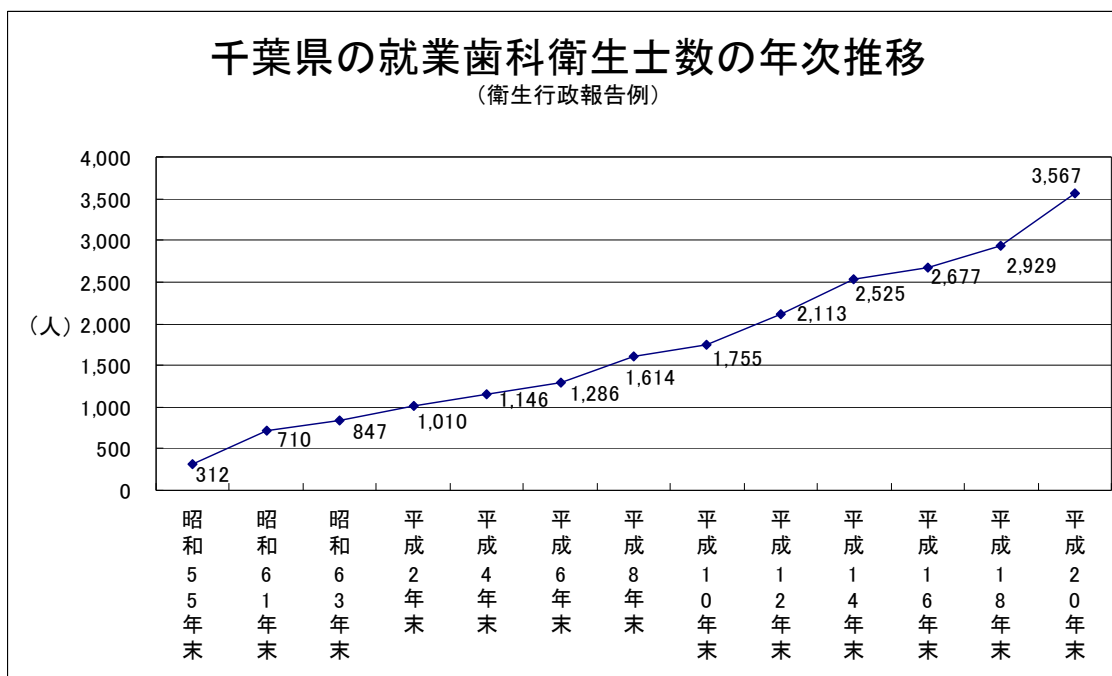


歯科医師数を年次推移で見ると、県内の歯科医師数は年々増加しています。

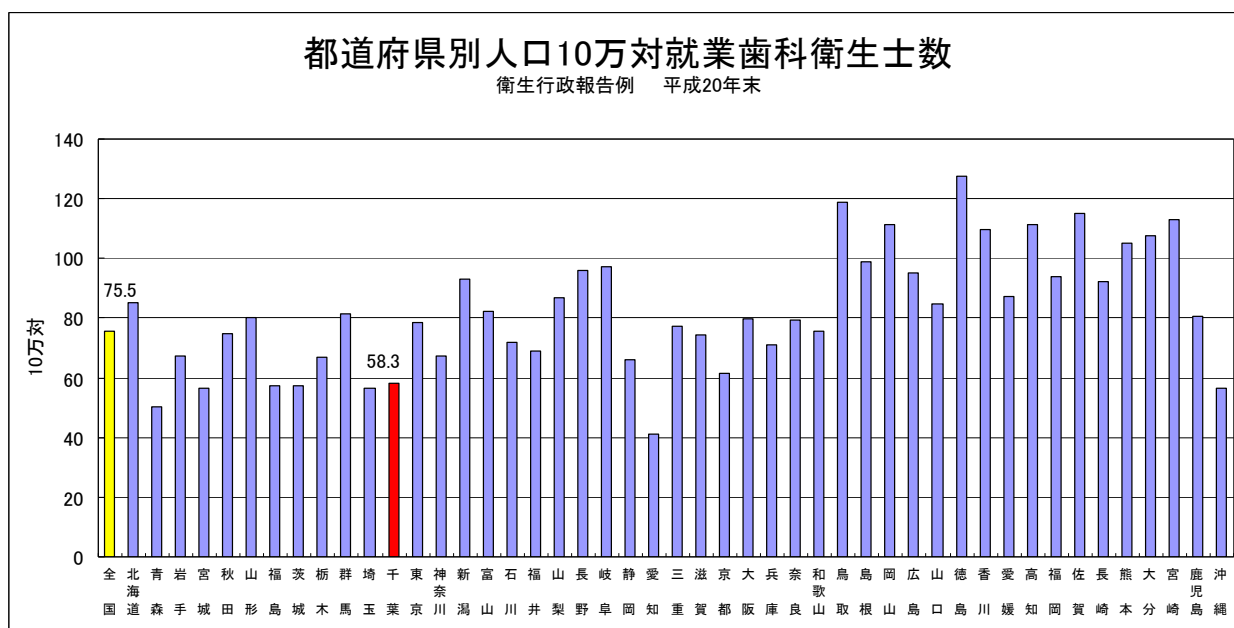


2 歯科衛生士

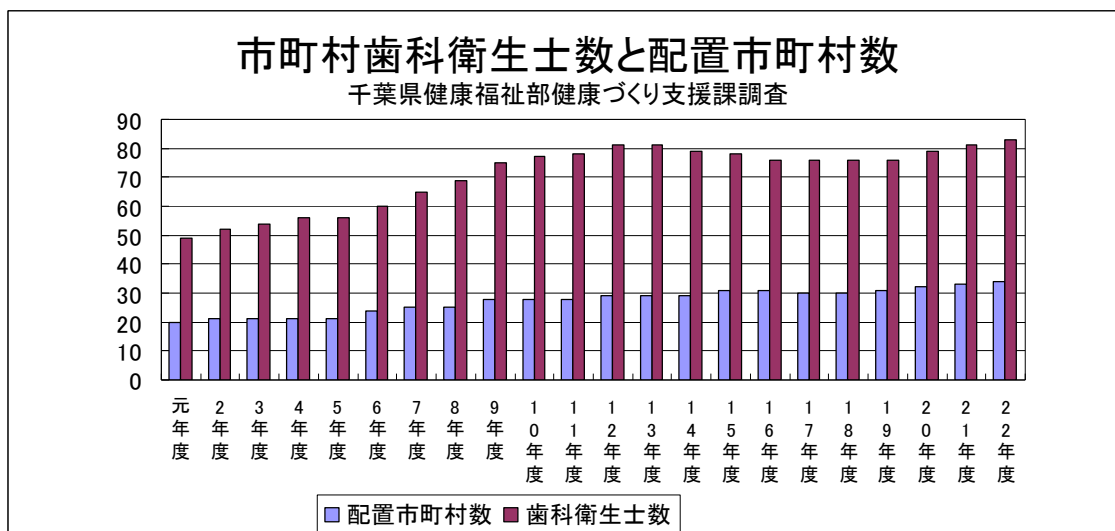
歯科衛生士数を年次移でみると、県内の就業歯科衛生士数は年々増加しています。



就業歯科衛生士を都道府県別に人口10万対の率でみると、千葉県は58.3と全国の75.5に比較して少ない状況でした。

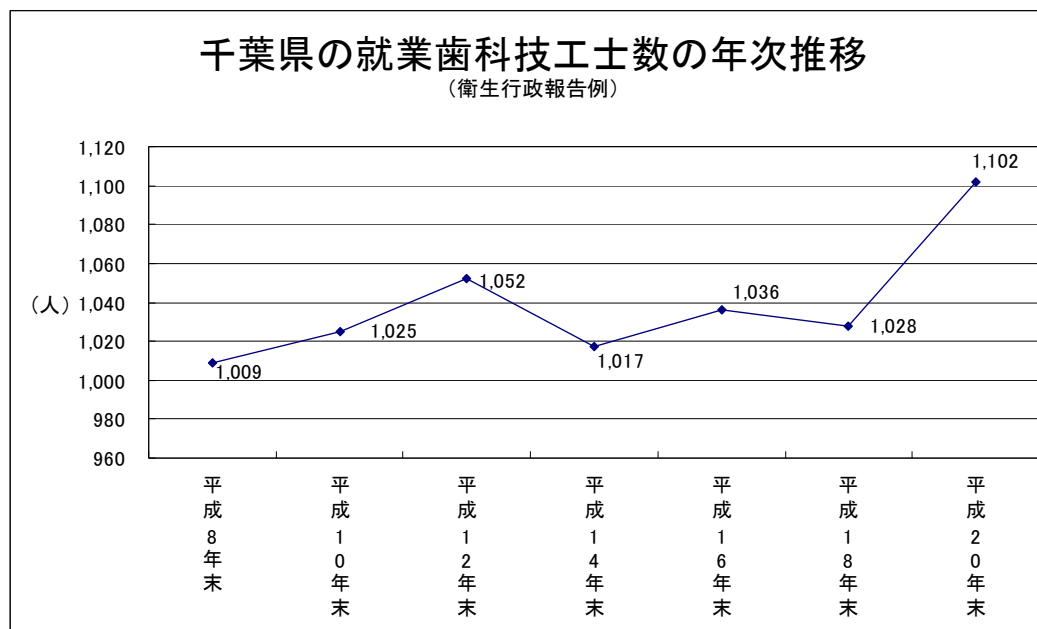


市町村に勤務する歯科衛生士は 34 市町村 83 名（平成 22 年 4 月 1 日現在）です。また、近年、市町村に勤務する歯科衛生士数及び配置市町村は増加傾向にあります。



3 歯科技工士

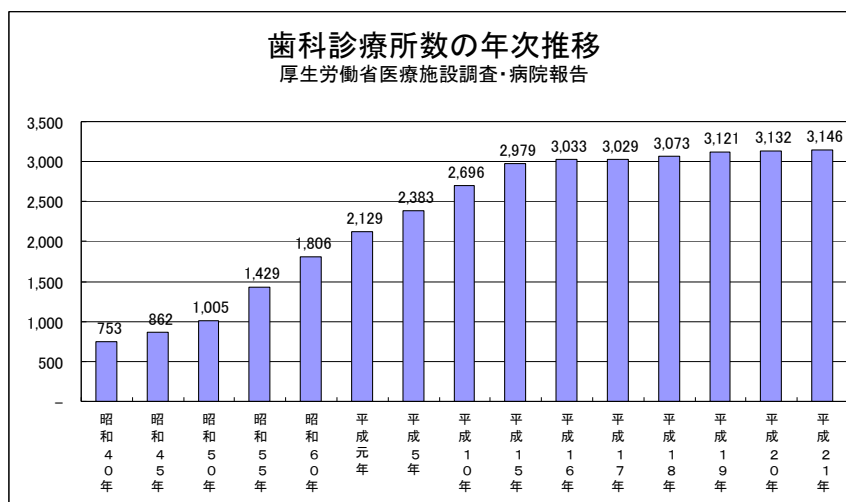
歯科技工士数を年次推移で見ると、県内の就業歯科技工士数は平成 18 年までは、ほぼ横ばいの状態でしたが、平成 20 年に増加傾向になりました。



第4節 保健医療施設等の状況

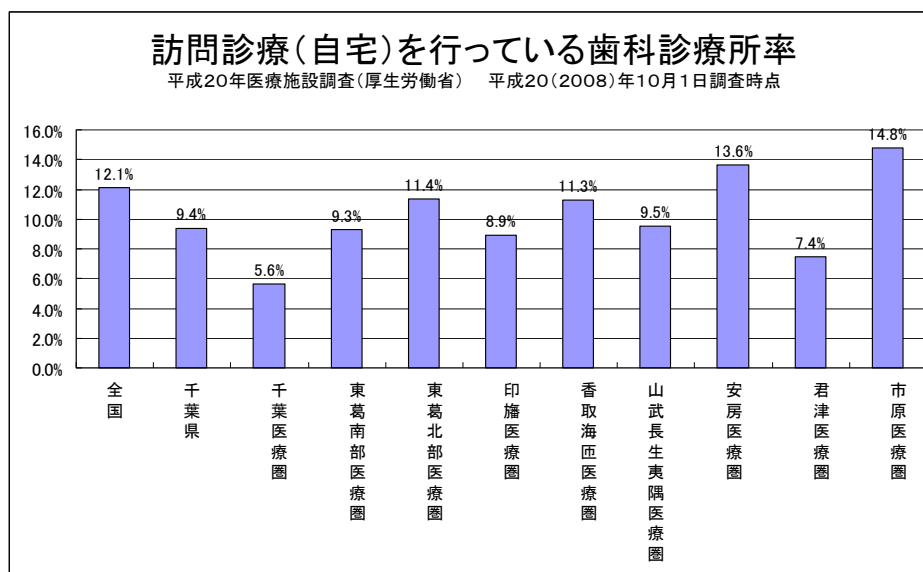
1 歯科診療所

歯科診療所数を年次推移で見ると、平成16年頃までは急増していましたが、平成17年度以降は微増傾向にありました。



2 訪問診療（自宅）を行っている歯科診療所

歯科診療所のうち、訪問診療（自宅）を行っている歯科診療所は、全国が12.1%に対して千葉県は9.4%と低い状況にあります。二次保健医療圏別にみると、市原医療圏が14.8%と最も多いのに対し、千葉医療圏は5.6%と低い状況です。



第4章

施策の方向

第1節 情報の収集及び提供

1 情報の収集及び提供

【現状と課題】

○市町村等の歯・口腔保健サービスの推進やむし歯の地域間格差の縮小などを図るため、歯・口腔の健康づくりの推進に資する関係情報の収集と関係者への提供、及び市町村との連携協力が重要です。

【施策の方向】

○県は、幼児や児童生徒のむし歯の状況や市町村の歯・口腔保健事業実施状況などの情報を広域的に収集し、市町村その他関係者にその情報を提供します。

2 歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及啓発

【現状と課題】

○歯・口腔の健康は、生涯を通じて自分の歯でしっかりと噛んで食べることでなく、バランスのとれた適切な食生活を送り、肥満や糖尿病などの生活習慣病の予防へとつながることを普及啓発する必要があります。

○乳幼児から成長期のむし歯などの歯科疾患の予防や正しい噛むこと飲むことの習得は、子ども達の健全な成長や成人期以降の歯・口腔の健康に大きな影響を与えること、高齢者や要介護者の口腔ケアは、食生活の充実など日常の生活の質を高め、健康寿命の延伸に寄与することを普及啓発する必要があります。

○歯の主な喪失の原因となるむし歯と歯周疾患は、歯と口腔の清掃、食生活、基本的日常生活習慣等が大きく関与しているため、啓発普及を積極的に行い、県民の歯・口腔保健意識の向上を図る必要があります。

【施策の方向】

○しっかりと噛んで食べる習慣が身につくことにより、メタボリックシンドロームの予防につながっていきます。そこで、生活習慣病の予防や全身と口腔の関係等を考慮しながら、県民の歯・口腔保健意識の向上を図るため、口腔保健週間（歯の衛生週間）や「いい歯の日」の実施など、市町村等と連携しながら普及啓発を行います。

第2節 市町村その他関係者の連携体制の構築

【現状と課題】

○生涯を通じた歯・口腔の健康づくりの推進には、地域特性を踏まえ、市町村との一層の連携、学校保健、産業保健をも含めた保健・医療・福祉等の幅広い連携が重要です。

○保健では、肥満や糖尿病などの生活習慣病の予防、乳幼児から児童生徒のむし歯や噛むこと飲みこむことの習得、成人の歯周疾患、高齢者や要支援・要介護者の口腔ケアなど保健活動の連携などが求められていることです。

○医療では、がん治療に伴う口内炎等口腔内合併症の予防や脳卒中等患者の摂食嚥下障害への対応などの円滑化を図るため、病院、かかりつけ医等とかかりつけ歯科医の連携強化などが求められていることです。

○福祉では、介護事業者と医療機関が情報を共有することで、患者（利用者）の身体機能に合ったケアや退院時の円滑な地域生活への移行が可能となることから、かかりつけ歯科医との連携などが期待されています。

【施策の方向】

1 県の役割

県は、住民の生涯を通じた歯・口腔の健康づくりの推進のため、千葉県歯・口腔保健計画の策定、情報の収集及び提供、普及啓発、生涯にわたる歯・口腔の健康づくりに関する先進的事業、障害を有する者や介護を必要とする者等の歯・口腔の健康づくり、調査研究等を、市町村、関係団体・機関と連携しながら効率的に行います。

2 市町村の役割

市町村では、従来から、母子歯科保健活動（乳幼児（1歳6か月児、3歳児等）の歯科健診や保健指導など）、学校や保育園等における歯科保健の協力（保育園、幼稚園、小学校等における歯科健診、保健教育などへの協力）、成人歯科保健活動（健康教育、健康相談、歯周疾患検診など）、高齢者への介護予防活動（口腔機能の向上）などが実施されてきました。

今後、さらに、地域住民にとって身近で参加しやすい歯・口腔保健サービ

スを推進していく必要があります。

3 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士等の役割

県民の歯・口腔にかかる保健及び医療のいずれの分野においても、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士等の果たす役割が特に重要であることから、県が実施する歯・口腔の健康づくりの推進に関する施策及び歯・口腔の保健サービスを実施している市町村に協力するよう努める必要があります。

4 教育関係者の役割

児童生徒が、基本的な生活習慣や自己観察（セルフチェック）を身に付けることなどが大切であることから、学校歯科医、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員はもとより、学校職員（学級担任、保健体育科教諭、家庭科教諭、保健主事など）及び学校職員を指揮、指導する立場にある校長等の管理職が、口腔衛生指導など、教育の場における児童生徒の歯・口腔の健康づくりの取組に努める必要があります。

5 保健医療福祉関係者の役割

ライフステージを通じた歯・口腔の健康づくりの推進、また、障害を有する者、要支援・要介護高齢者の口腔ケアや摂食嚥下指導等の推進などを図る上で、医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、准看護師、言語聴覚士、管理栄養士、栄養士、理学療法士、作業療法士、保育士、介護支援専門員（ケアマネージャー）、介護福祉士、訪問介護員（ホームヘルパー）、食生活改善推進員、医療施設、社会福祉施設、医療関係及び福祉関係の団体が、それぞれの業務において歯・口腔の健康づくりの推進に努め、またその推進に当たっては、歯・口腔の健康づくりに関する活動を行う他の者と連携・協力する必要があります。

6 事業者・保険者の役割

事業者・保険者の役割としては、成人の歯周疾患の予防等が、生活習慣病の予防にも結びつくことから、定期的な歯科健診、保健指導の機会の確保等歯・口腔の健康づくりの取組に努める必要があります。

7 県民の役割

県民自らの健康の保持増進のため、その重要性に対する関心と理解を深め、日頃から積極的に歯・口腔の健康づくりに取り組むよう努めていくことが必要です。

例えば、日頃から歯や歯肉等の自己観察（セルフチェック）をすること、正しい磨き方に基づいて毎食後欠かさず歯磨きをすること、定期的に歯科健診を受けることなどがあげられます。また、歯・口腔の健康づくりにかかる基本的な日常生活習慣を身につけることができる家庭の役割も大切です。

8 歯・口腔保健医療関係団体の役割

歯科医師会、歯科衛生士会等の歯・口腔保健医療関係団体は県民の方々等に対し、歯・口腔専門家団体として歯・口腔保健の重要性等の普及啓発を図るとともに、県及び市町村等が実施する事業に対し積極的に協力できる体制を構築していきます。

9 研究機関との連携

歯・口腔保健施策の決定においては、幅広い分野からの研究データが必要であり、また行政的なニーズから、今後解決しなければならない研究課題が多くなっています。今後、行政機関と研究機関との連携強化は重要です。

また、その研究結果を県民にわかりやすく提供する必要があります。

10 かかりつけ歯科医機能の充実

各ライフステージに沿って、歯科疾患の予防、早期発見や治療などプライマリ・ケアを継続的に実施することにより、地域住民の健康管理を行うかかりつけ歯科医機能の充実に図ります。

11 病診連携体制等の整備

かかりつけ歯科医機能を十分に発揮するために病院歯科等との病診連携及び歯科診療所間の診診連携等の地域での歯・口腔医療提供体制の在り方を検討していきます。

がん、脳卒中、心疾患、糖尿病等の患者が途切れのない歯・口腔保健医療サービスを受けられる体制を構築するため、これらの疾患の治療にあたる医療機関との連携を図ります。

第3節 フッ化物応用等のむし歯の予防対策

【現状と課題】

○むし歯を予防する上で、歯みがき習慣、保護者の仕上げ磨き、適切な甘味食品・飲料の摂取など基本的な生活習慣を身につけることが大切ですが、さらに、有効なむし歯予防手段（歯質強化など）として、フッ化物応用（フッ化物配合の歯磨剤、フッ化物の歯面塗布、フッ化物による洗口）を継続的に行うことも必要です。また、むし歯に罹患しやすい臼歯の溝を樹脂で填塞して予防する方法（フィッシャーシーラント）やむし歯になりにくい人工甘味料等の利用も有効な手段です。

【施策の方向】

○県では、歯みがきや間食などに関する基本的な生活習慣の習得を支援するとともに、フッ化物応用（フッ化物配合の歯磨剤、フッ化物の歯面塗布、フッ化物による洗口）、フィッシャーシーラント、人工甘味料等など個人で利用可能な方法について、県民に対して正しい情報を提供し、個人の自由な選択のもとで、県民の利用について支援を行っていきます。

○市町村や施設関係者（障害児者施設、保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校等）を通して、フッ化物応用等によるむし歯の予防対策を啓発していきます。また、市町村その他関係者がフッ化物応用等によるむし歯の予防対策を行う場合に、効率的・効果的に行われるよう情報提供や技術的助言を行います。

第4節 母子、児童生徒、成人、高齢者等の生涯にわたる歯・口腔 の健康づくり

子どもから高齢者にいたるまで、全てのライフステージにおいて、市町村、教育、保健、医療、福祉など様々な分野の関係者が実施する歯科保健事業を通じて、県民の歯・口腔の健康づくりの推進を図っていきます。

1 母子の歯・口腔の健康づくり対策 (ア) 妊産婦及び胎児

【現状と課題】

○妊産婦は、ホルモン等分泌機能の生理的変化とともに、つわり等による不十分な歯みがき、間食回数の増加、生活習慣の変化等により、むし歯や歯周病が急増したり、悪化しやすい傾向にあります。

○妊娠中は、胎児の歯の形成に重要な時期なので母親のバランスのとれた栄養摂取が必要です。

【施策の方向】

○市町村等で実施する妊産婦歯科健診や保健指導等を推進し、歯科治療の推奨と歯と口腔の清掃等の充実を図ります。

○妊産婦に対する保健指導は、市町村が実施する母親教室等の場を活用して、妊婦の健康状態や生活習慣等を踏まえ、母子保健指導の一環として実施します。

○妊産婦の保健指導に併せ、胎児の歯の形成に望ましい食生活や、歯と口腔の清掃、噛む力や飲み込む力の育成等の保健指導も充実させます。

○市町村で実施する母親教室等において、丈夫な歯をつくるため食生活指導を充実させます。

(イ) 乳児

【現状と課題】

○乳児期は、乳歯の萌出の時期なので、保護者等に対して正しい歯と口腔の清掃などの知識の普及が必要です。

○乳児期は、口で、食べ物を取り込み、すりつぶし、飲み込む能力を獲得する大切な時期です。

【施策の方向】

○市町村で実施する乳児相談等の機会を活用して、乳歯のむし歯の予防や歯と口腔の清掃の重要性の指導を充実します。

○「噛んで食べること」は、子どもの成長とともに自然に身につくものではなく、適切な離乳の進め方があって、はじめて獲得できる発達的な能力であることから、乳幼児を持つ母親や子育てを支援する関係者に対して、乳幼児の噛む力、飲み込む力の育成を支援するための正しい知識の啓発を図ります。

(ウ) 幼児（1～3歳）

【現状と課題】

○3歳児のむし歯有病者率及び一人平均むし歯数は、近年減少傾向にあります。しかしながら、依然、1歳6か月から3歳児にかけ、むし歯が急激に増加しています。さらに、むし歯の地域間格差が認められます。

○幼児のむし歯は、食べ物の嗜好や顎の発達の阻害につながり、不正咬合を引き起こすなどの問題もあります。

○この時期は健康づくりの基礎である食生活が確立されていく時期です。離乳が完了し、食事内容も豊富になり、歯肉で食べる時期から歯で噛んで食べる時期になります。

○食生活の基本である「バランスの良い食事を摂り、様々な食材を良く噛んで食べる」習慣の形成が重要です。

【施策の方向】

○市町村等で実施する1歳6か月児歯科健診や3歳児歯科健診等において、むし歯の予防、歯と口腔の清掃指導、間食等の食生活指導、不正咬合等の早期発見、予防処置等を充実させていきます。

○市町村等では、むし歯罹患のハイリスク児（むし歯になりやすい、または多発しやすい可能性がある児）の把握方法を明確にし、地域における幼児歯科健診や歯科健康相談等において、ハイリスク児に対して重点的な保健指導や予防処置を充実させていきます。

○1歳6か月児・3歳児・保育園児・幼稚園児等の歯科健診を行っている歯科医師会や関係団体と連携を図り、ネグレクト等の児童虐待を受けている子どもの早期発見を図るシステムや乳幼児健診の未受診者に対する対応などにより、児童虐待の防止を推進していきます。

(エ) 幼児（4～5歳）

【現状と課題】

○この時期は、乳臼歯のむし歯急増期であるとともに、咬み合せの中心である永久歯の第1大臼歯が生え始める時期です。第1大臼歯は永久歯の咬合の中心であり、咀嚼能力に大きな影響を与えるにもかかわらず、むし歯に罹患しやすく、将来的に他の歯と比較して抜歯に至ることが多いです。

○生活習慣が確立する重要な時期であることから、歯みがき、糖分の適正な摂取、よく噛む習慣などを身につけることが大切です。

【施策の方向】

○保育所・幼稚園における歯科健診や保健指導等において、むし歯の予防と早期治療の推進とともに、家庭や地域のかかりつけ歯科医等との連携の強化を図っていきます。

○市町村等と連携して、保育士等に歯・口腔保健に関する基本的知識を習得できるように研修を行っていきます。

2 児童生徒の歯・口腔の健康づくり対策

【現状と課題】

○児童生徒期は、むし歯が増え、歯肉の炎症が増加し、不正咬合などがみられます。このため、学校教育の場を通して、児童生徒が歯・口腔の健康づくりの大切さを意識する環境を作ることが大切です。

○1人平均むし歯数は年々減少傾向にあります。市町村別にみると、平成21年度の1人平均むし歯数は、市町村間で約0.5本から約3.0本の開きがあります。

【施策の方向】

○学校で実施する定期的な歯科健診や保健教育などで、むし歯の予防と早期治療の推進、歯肉の炎症の予防、不正咬合の予防、セルフチェックなどを充実させていきます。

○集団生活の中で、正しい歯みがき習慣や歯科疾患の予防に関する正しい知識を身につけることは、大変重要かつ効果的であることから、年間の指導計画に位置づけられた学校内の歯科保健推進体制の充実や、家庭や地域のかかりつけ歯科医等との連携の強化を図ります。

○児童一人一人が楽しく「食」について学びながら、自らの食生活を振り返り、より望ましい食生活を身につけられることを願って、咀嚼の重要性も盛り込まれた食に関する学習ノート「いきいきちばっ子」を活用していきます。

○千葉県学校歯科保健研究大会の開催等を通して、教育関係者の研修を実施していきます。

3 成人の歯・口腔の健康づくり対策

【現状と課題】

○成人期は、歯周病の急増期であり、歯の喪失が始まる時期ですが、歯周病は慢性的に進行する傾向があることから、定期的な歯科健診、保健指導を受けることが必要です。しかしながら、学校卒業後、歯科健診を受ける機会が減り、歯科保健への関心が薄れがちになります。

○県では、80歳で20本以上の歯を保とうという8020（ハチマル・ニイマル）運動を推進していますが、40歳代までに歯を20本以上保有している者率は、90%以上を保っていますが、50歳代から急激に減り、80歳以上では20.3%に減少しています。

【施策の方向】

○市町村や専門団体、企業等と連携しながら、地域や職場において正しい歯・口腔保健知識、歯・口腔の健康と肥満や糖尿病などの生活習慣病との関係、喫煙と歯周病の関係、妊娠前の口腔ケアの大切さなどの普及啓発を図ります。

○市町村、事業者、関係団体と連携し、定期的な歯科健診やセルフチェック（自己観察）などの重要性を啓発するとともに、市町村で実施する健康増進法に基づいた歯の健康教育、歯の健康相談、歯周疾患検診等を充実させていきます。

○事業主、労働者、健康保険組合などに歯科健診、保健指導、健康教育の重要性について普及啓発を行います。

○がん予防展における口腔がんコーナーなどの設置など、関係団体等と連携をとりながら口腔がんの啓発を行います。

4 高齢者の歯・口腔の健康づくり対策

【現状と課題】

○平成17年度国勢調査結果によれば、本県の高齢化率は全国で5番目に低いものの、高齢者人口は全国2番目の伸び率で増加しており、平成27年には、約4人に1人が高齢者となる見込みです。

○県では、80歳で20本以上の歯を保とうという8020（ハチマル・ニイマル）運動を推進していますが、80歳以上の歯を20本以上保有している者率は、20.3%です。

○高齢者は、歯の喪失が多くなり、噛む機能が低下し、義歯を入れることが多くなります。

○また、歯肉が退縮し、露出した歯根や治療済みの歯、義歯の金具がかかっている歯にむし歯などが多くなります。

○加齢によって、咀嚼・嚥下機能の低下により、食物・飲み物の誤嚥が起りやすくなります。

○健康な歯・口腔の状態を維持するとともに、咀嚼・嚥下機能の低下を防ぐために、かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科健診や保健指導を受けることが重要です。

【施策の方向】

○県では、市町村や歯科医師会、歯科衛生士会と連携しながら、歯の健康が優れている高齢者を表彰する「高齢者のよい歯のコンクール」を実施することにより、県民が生涯にわたって自分の歯で食べられるよう、歯科疾患予防の正しい知識を普及啓発しています。

○舌を上下左右に動かし唾液分泌を促したり、また、表情筋が動くことにより表情が和やかになるように、千葉県歯科衛生士会に委託して作成した「健口体操」を普及していきます。

○高齢者が自らの歯で噛むことができ、健康な歯・口腔を維持できるよう、市町村、関係団体等と連携し、市町村が実施する歯・口腔の健康づくりの普及啓

発、歯科健康教育や歯科健康相談、歯周疾患検診、介護予防事業（口腔機能の向上）等の取組を充実させていきます。

○高齢者が、できる限り住み慣れた家庭や地域で生活を続けていくために、かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科健診や保健指導を受けられるように啓発していきます。

第5節 障害を有する者、介護を必要とする者等の適切な歯・口腔の健康づくり

1 障害を有する者の歯・口腔の健康づくり対策

【現状と課題】

○障害によって、咀嚼・嚥下機能の発達の遅れ等の歯・口腔機能の問題を抱えていたり、健常児者に比べ歯磨き等の自己管理や歯科疾患を訴えることが不十分なため、歯科疾患に罹患するリスクが高く、医療機関等への受診が難しい等の理由から、治療が遅れがちで重症化しやすい傾向にあります。

○障害のある人の歯・口腔健康管理の重要性が必ずしも十分に理解されないこと、定期的に障害のある子どもの歯科健診等を行っている施設や家庭はまだ少ない状況にあること、地域において障害のある人に対する歯科保健相談、歯科健診、歯科治療等を積極的に対応してくれるかかりつけ歯科医がまだ十分に普及されていないこと等の課題があります。

【施策の方向】

○障害のある人のむし歯や歯周病の予防、特に、全身性の障害を持つ人や抵抗力の弱い人については、全身の健康状態の改善や要介護状態の軽減等を目指した計画的かつ総合的な歯・口腔健康管理の大切さについて、障害のある人、施設職員及び保護者等への周知を図ります。

○障害のある人が地域で安心して歯科相談や治療を受けられる体制を整備するため、施設や家庭において、障害児者が定期的に歯・口腔健康管理や治療、相談等を受けられる「かかりつけ歯科医」の普及を図ります。

○診療機会に恵まれない施設や在宅の心身障害児(者)の口腔保健対策として、千葉県歯科医師会に委託して、巡回歯科診療車(ビーバー号)による定期的な歯科健診や保健指導、介護者への口腔衛生思想及び技術の普及などの心身障害児者歯科保健巡回指導事業を実施していきます。さらに、施設に入っていない在宅の障害のある人の適正な歯・口腔健康管理を実施するため、市町村等との連携により公民館等にビーバー号を派遣していきます。

○障害のある人が地域で行き届いた摂食嚥下障害に対する機能訓練が受けられるよう関係団体等と連携し、医療システムの構築を推進します。また、病診連携の機能を充実し、適切な医療機関への移行が円滑に行える体制づくりを推進します。

2 介護を必要とする者の歯・口腔の健康づくり対策

【現状と課題】

○平成17年度国勢調査結果によれば、本県の高齢化率は全国で5番目に低いものの、高齢者人口は全国2番目の伸び率で増加しており、平成27年には、約4人に1人が高齢者となる見込みです。この急速な高齢化に伴い、介護や支援を必要とする者が急増していきます。

○要支援・要介護認定者にとって、歯と口腔の健康を保ち、「口から食べること」は、食生活の改善、円滑な日常会話の促進、誤嚥性肺炎等の疾病の予防につながるなど、QOL（生活の質）の向上のためにとっても重要です。

○要支援・要介護認定者は、咀嚼や嚥下機能が著しく低下している場合があります。また、歯・口腔内の不衛生による誤嚥性肺炎等の問題があることから、口腔ケアが重要となっています。

○失語や認知の障害により、口腔の問題を訴えることも困難になるので、保健医療従事者や介護者が気付くことが肝要です。入院時にも病院の診療が必要ですし、その人にあった口腔ケアの指導も重要です。退院して地域生活期になった要介護者が訪問歯科診療を受けやすい機構の整備も必要です。

【施策の方向】

○市町村等では、高齢者の介護予防や要介護度の重症化を防止するため、摂食嚥下障害に対する機能訓練を含む歯科保健医療対策を充実し、口腔機能の向上の必要性とその対応についての正しい知識を普及啓発するとともに、県では、健康福祉センターにおいて、訪問介護員（ホームヘルパー）等介護専門職が口腔ケアに積極的に取り組んでいけるよう資質向上を図ります。

○在宅歯科医療における医科や介護等の他分野との連携を図るための窓口を設置することにより、在宅歯科医療を受ける者・家族等のニーズに応え、地域における在宅歯科医療の推進及び他分野との連携体制の構築を図っていきます。

○増加する要支援・要介護認定者の歯科保健医療の確保を図るため、回復期リハビリテーション病棟を有する病院とかかりつけ医等が連携し、円滑な在宅復帰に向け、要支援・要介護認定者の摂食嚥下指導を提供できる体制を構築します。

○かかりつけ歯科医には、脳卒中患者に安心して質の高い医療と手厚い福祉・介護を提供するため、脳卒中に関わる専門医、かかりつけ医をはじめとする医療関係者と地域生活におけるリハビリテーション・介護等に関与する福祉・看護関係者と患者に関する情報を共有することが求められていることから、千葉県共用脳卒中地域医療連携パスの歯科診療情報シート（連携シート）、歯科シート（診療経過表）を活用して、かかりつけ歯科医と医療関係者等との連携を図っていきます。

○居宅介護支援サービス等の利用者が入院した際、介護支援専門員が必要な情報を医療機関に提供するための「千葉県地域生活連携シート」では、医療機関と介護事業者が情報を共有することで、患者（利用者）の身体機能に合ったケアや退院時の円滑な地域生活への移行が可能となることから、かかりつけ歯科医と介護事業者との連携を図っていきます。

3 病院入院患者の歯・口腔の健康づくり対策

【現状と課題】

○病院の入院患者に対して、口腔ケアを実施することで、誤嚥性肺炎の予防、平均在院日数の減少等につながるといわれています。しかしながら、病院の多くは、歯科医師、歯科衛生士等が勤務していないため、病院と歯科医療機関等が連携し、看護師等が入院患者の口腔ケアを提供できる体制を構築することが必要です。

○がん治療は患者への身体的負担が比較的大きく、特に口内炎等口腔内に合併症を生ずると摂食などQOLに大きな影響を及ぼします。このため、治療前に口腔ケアを行うことにより、その障害を最小限にすることが重要です。

【施策の方向】

○入院患者が適切に口腔ケアを受けることができ、口腔内環境の改善及び生活の質の向上が図れるよう看護師等に対し、口腔ケアに関する研修を行うとともに、病院とかかりつけ医等が連携する仕組みを構築します。

○がん患者の治療前の口腔ケアを普及していきます。

第6節 歯・口腔の健康づくりの業務に携わる者の確保及び資質の向上

【現状と課題】

○歯・口腔の健康づくりの推進が円滑かつ適切に実施するためには、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、教育関係者及び保健医療福祉関係者、事業者及び保険者等の意識を向上させていくことが必要です。

○市町村に勤務する歯科衛生士は34市町村83名（平成22年4月1日現在）ですが、市町村の歯科保健事業の充実を図る上で、市町村歯科衛生士の役割は重要であることから、市町村において歯科衛生士の確保を図る必要があります。

【施策の方向】

○県は関係団体等と連携して歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、教育関係者及び保健医療福祉関係者等の研修会を行っていきます。

○市町村の歯科衛生士が歯・口腔保健サービスに果たす役割は大きいことから、今後、歯・口腔保健サービスをさらに展開するにあたり、市町村等に歯科衛生士の配置を働きかけていきます。

第7節 歯・口腔の健康づくりの効果的な実施に資する調査研究

【現状と課題】

○県は、県民の歯・口腔の健康づくりを推進する施策を効果的に実施するためには、あらかじめ県民の歯・口腔の健康状況について把握し、整理しておく必要があります。

【施策の方向】

○県民の歯科疾患や歯・口腔保健意識の実態について必要な調査を行っていきます。また、国、市町村、関係団体、大学等が実施している調査等により、県では、歯・口腔の健康づくりの現状を把握及び分析します。

資料編

千葉県歯・口腔の健康づくり推進条例

平成 22 年 3 月 26 日条例第 24 号
(平成 22 年 4 月 1 日施行)

(目的)

第一条 この条例は、県民の歯・口腔の健康づくりについて、基本理念を定め、県、歯科医師等の責務及び教育関係者、保健医療福祉関係者、県民等の役割を明らかにするとともに、県の施策の基本的な事項を定めることにより、県民の歯・口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって県民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。

(基本理念)

第二条 歯・口腔の健康づくりは、その推進が子どもの健やかな成長及び糖尿病をはじめとする様々な生活習慣病の予防など県民の全身の健康づくりに重要な役割を果たすことにかんがみ、県民が日常生活において自ら歯・口腔の健康づくりに取り組むことを促進するとともに、県内すべての地域において生涯を通じて最適な歯・口腔の保健医療サービスを受けることができるよう環境整備を推進することを基本理念として行われなければならない。

(県の責務)

第三条 県は、前条に規定する基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、歯・口腔の健康づくりの推進に関する総合的かつ計画的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(市町村との連携協力等)

第四条 県は、前条に規定する施策を策定し、及び実施するに当たっては、住民に身近な歯・口腔の保健サービスを実施している市町村との連携協力及び調整に努めなければならない。

(歯科医師等の責務)

第五条 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士その他の歯科医療又は保健指導に係る業務に携わる者（以下「歯科医師等」という。）は、基本理念にのっとり、県が実施する歯・口腔の健康づくりの推進に関する施策及び歯・口腔の保健サービスを実施している市町村に協力するよう努めなければならない。

(教育関係者及び保健医療福祉関係者の役割)

第六条 教育又は保健、医療若しくは福祉に係る職務に携わる者であって、歯・口腔の健康づくりに関する業務を行うもの（歯科医師等を除く。）は、基本理念にのっとり、それぞれの業務において、歯・口腔の健康づくりの推進に努めるとともに、その推進に当たっては、歯・口腔の健康づくりに関する活動を行う他の者と連携し、及び協力するよう努めるものとする。

(事業者及び保険者の役割)

第七条 事業者は、基本理念にのっとり、県内の事業所で雇用する従業員の歯科健診及び保健指導の機会の確保その他の歯・口腔の健康づくりを推進するよう努めるものとする。

2 保険者は、基本理念にのっとり、県内の被保険者の歯科健診及び保健指導の機会の確保その他の歯・口腔の健康づくりを推進するよう努めるものとする。

(県民の役割)

第八条 県民は、基本理念にのっとり、歯・口腔の健康づくりに関する正しい知識及び理解を深め、自らの歯・口腔の健康づくりに積極的に取り組むよう努めるものとする。

(千葉県歯・口腔保健計画の策定)

第九条 知事は、生涯にわたる県民の歯・口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、歯・口腔の健康づくりに関する基本的な計画（以下「千葉県歯・口腔保健計画」という。）を定めなければならない。

2 千葉県歯・口腔保健計画は、次の各号に掲げる事項について定めるものとする。

一 歯・口腔の健康づくりに関する基本的な方針

二 歯・口腔の健康づくりに関する目標

三 歯・口腔の健康づくりに関し、県が総合的かつ計画的に講ずべき施策

四 前各号に掲げるもののほか、歯・口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 知事は、千葉県歯・口腔保健計画を定め、又は変更するに当たっては、あらかじめ、千葉県歯・口腔保健審議会及び市町村その他関係者の意見を聴くとともに、その案を公表し、広く県民等の意見を求めなければならない。

4 知事は、千葉県歯・口腔保健計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

(基本的施策の推進)

第十条 県は、県民の歯・口腔の健康づくりを図るための基本的施策として、次の各号に掲げる事項の実施を推進するものとする。

一 歯・口腔の健康づくりの推進に資する情報の収集及び提供並びに市町村その他関係者の連携体制の構築に関すること。

二 市町村その他関係者がフッ化物応用等のむし歯の予防対策を行う場合、その効果的な実施に関すること。

三 市町村その他関係者が行う母子保健、学校保健、成人保健、産業保健、高齢者保健等を通じた生涯にわたる効果的な歯・口腔の健康づくりに関すること。

四 障害を有する者、介護を必要とする者等の適切な歯・口腔の健康づくりに関すること。

五 歯・口腔の健康づくりの業務に携わる者の確保及び資質の向上に関すること。

六 歯・口腔の健康づくりの効果的な実施に資する調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、歯・口腔の健康づくりを図るために必要な施策に関すること。

(財政上の措置)

第十一条 県は、県民の歯・口腔の健康づくりの推進に関する施策を実施するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

(県民の歯科疾患等実態調査の実施)

第十二条 県は、県民の歯・口腔の健康づくりの推進を図るための基礎資料とするため、県民の歯科疾患等の実態について必要な調査を行うものとする。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成二十二年四月一日から施行する。

(千葉県行政組織条例の一部改正)

2 千葉県行政組織条例（昭和三十二年千葉県条例第三十一号）の一部を次のように改正する。

別表第二中健康福祉センター運営協議会の項の次に次のように加える。

千葉県歯・口腔保健審議会	歯・口腔の健康づくりの推進に関する事項について調査審議し、これに関し必要と認める事項を知事に答申し、又は建議すること。
--------------	---

別表第三中健康福祉センター運営協議会の項の次に次のように加える。

千葉県歯・口腔保健審議会	会 長	一 市町村を代表する者	十五人以 内	二年
	副 会 長	二 保健医療福祉関係者を代表する者		
	委 員	三 教育関係者を代表する者		
		四 事業者又は保険者を代表する者		
		五 学識経験を有する者		

生涯を通じた歯・口腔の健康づくり対策の概要(千葉県)

対象	歯科的特徴	歯科的問題点	歯・口腔の健康づくり対策	
			主な具体策(実施主体)	ねらい
妊産婦	生理的変化	永久歯むし歯の増加 歯周病の急増	妊産婦歯科健診と保健指導(市町村等)	歯科治療の推奨と歯と口腔の清掃の徹底
胎児	歯の形成期	バランスのとれた栄養摂取が必要	母親教室等における保健指導(市町村)	丈夫な歯をつくるための食生活指導
乳児	乳前歯の萌出期		乳児歯科健診、保健指導(市町村)	乳歯むし歯の予防、歯と口腔の清掃の動機づけ
幼児 1～3歳	乳臼歯の萌出時期	乳歯むし歯の発生しやすい時期 (甘味の不規則摂取等)	1歳6か月児歯科健診(市町村)	乳歯むし歯の予防、歯と口腔の清掃の確認、指導、間食等 に対する食生活指導
	乳歯列の完成期	乳歯むし歯の急増期	3歳児歯科健診、保健指導(市町村)	乳歯むし歯、不正咬合等の早期発見、早期治療、予防処 置
幼児 4～5歳	永久歯の萌出開始時 期(第1大臼歯)	永久歯むし歯の発生しやすくなる 時期	保育所・幼稚園における歯科健診(保育所・幼稚園)	むし歯予防と早期治療 (特に永久歯)
心身障害(児)者	歯の形成不全及び唇 顎口蓋裂等	広範性のむし歯発生等 咀嚼・発音障害	心身障害児(者)歯科保健巡回診療指導事業(県)	早期治療、歯科保健状況の改善、形態と機能の早期回復
児童(小学校) 6歳～	乳歯と永久歯の交換期	永久歯むし歯の多発期	就学時歯科健診(小学校)	永久歯むし歯の予防と早期治療の推進
生徒(中学校) 12歳～	永久歯列完成期 歯周組織の過敏期	歯肉の炎症が始まる時期	定期歯科健診と保健教育(小中高等学校)	知識の普及啓発 不正咬合の予防
生徒(高等学校) 15歳～	第3大臼歯萌出	むし歯が放置されやすく歯周病の 発生が始まる時期		知識の普及啓発 歯周病の予防
成人 学校卒業後～	歯周組織の脆弱期	歯周病の急増	歯周病の予防と早期歯科健診(市町村等) 保健指導(市町村等)	歯科治療の推奨と歯と口腔の清掃の徹底
成人 40歳～	歯の喪失開始時期	咀嚼機能の低下が始まる時期	健康増進事業における歯の健康教育、健康相談、 歯周疾患検診、事業等における歯科健診(市町村、 事業所等)	歯周病の早期治療推進 歯の喪失予防
高齢者 65歳～ 「寝たきり」	歯の喪失急増期	咀嚼機能の低下 (義歯装着者急増)	義歯等に対する保健指導(市町村等) 訪問口腔衛生指導(市町村等)	咀嚼機能の回復、歯と口腔の清掃の徹底 (義歯の手入れ等)

出典 2010年/2011年「国民衛生の動向・生涯を通じた歯科保健対策の概要」改編

県民の行動指針

乳幼児

- ◇適切な時期に卒乳をしましょう。
- ◇薄味のものから食べさせ、味覚を豊かにしましょう。
- ◇毎日、保護者が仕上げ磨きをしましょう。
- ◇食べたら歯を磨く習慣をつけましょう。
- ◇甘いおやつや飲み物は適量を決まった時間に摂りましょう。
- ◇よく噛んで食べる習慣をつけましょう。
- ◇フッ化物歯面塗布を受けましょう。

児童生徒

- ◇食べたら歯を磨く習慣を身につけ、毎回ていねいに磨きましょう。
- ◇歯磨剤（練り歯みがき粉等）を使いましょう。
- ◇デンタルフロス等を使いましょう。
- ◇週1回以上鏡で自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣をつけましょう。
- ◇かかりつけ歯科医をもち、個人に応じた歯磨き指導を受けましょう。
- ◇歯や骨の成長のために、バランスのよい食生活をとりましょう。
- ◇いろいろな味を覚え、味覚を豊かにしましょう。
- ◇30回以上よく噛んで食べましょう。

成人

- ◇食べたら歯をていねいに磨きましょう。
- ◇歯間ブラシやデンタルフロス等を使いましょう。
- ◇週1回以上鏡で自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣をつけましょう。
- ◇かかりつけ歯科医をもち、歯科健診や歯石除去を受けましょう。

高齢者

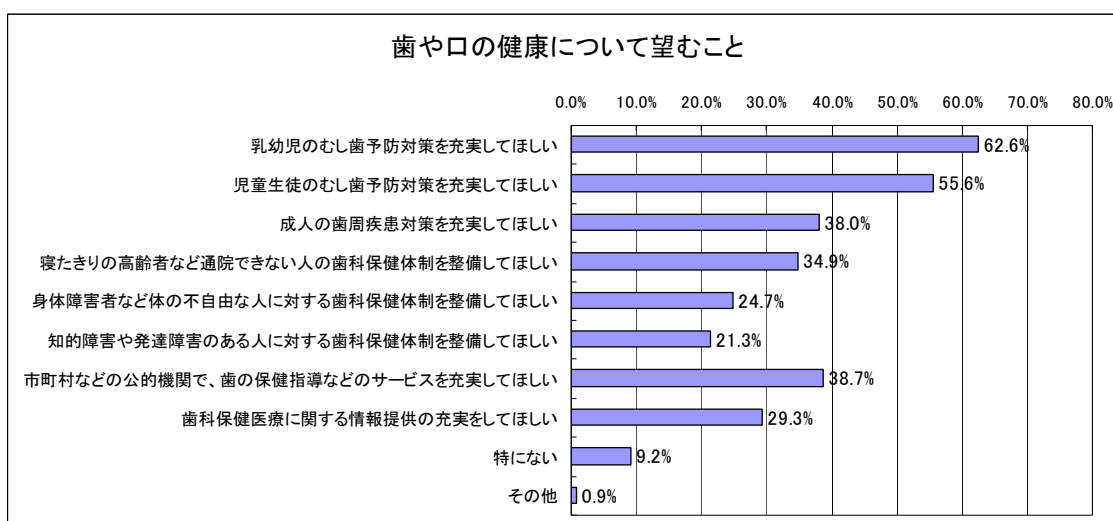
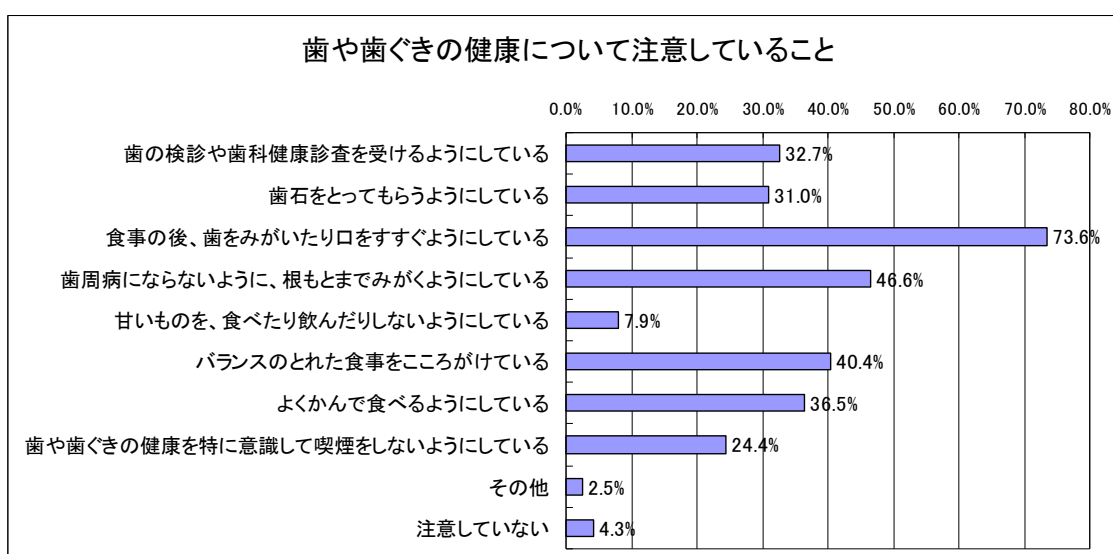
- ◇成人の指針に加え、次のことも生活に取り入れましょう。
- ◇自分の歯と一緒に、義歯（入れ歯）も、毎日手入れしましょう。
- ◇唾液がよく出るように、よく噛んで食べましょう。

計画（案）に関するの県民アンケート調査結果の概要

1 一般県民対象の調査結果

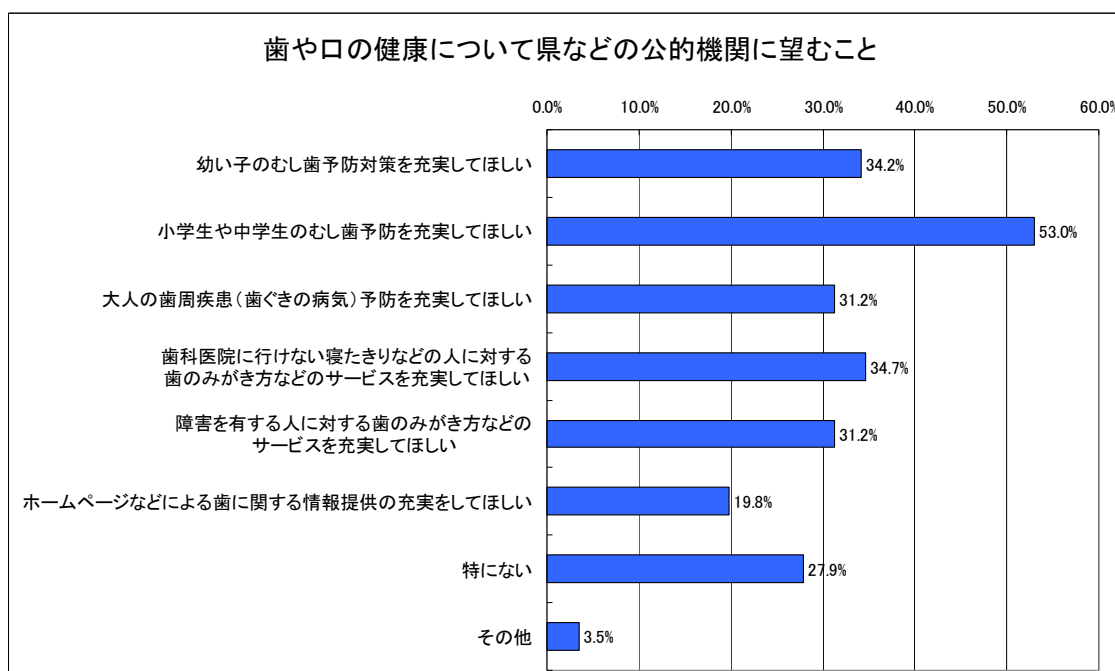
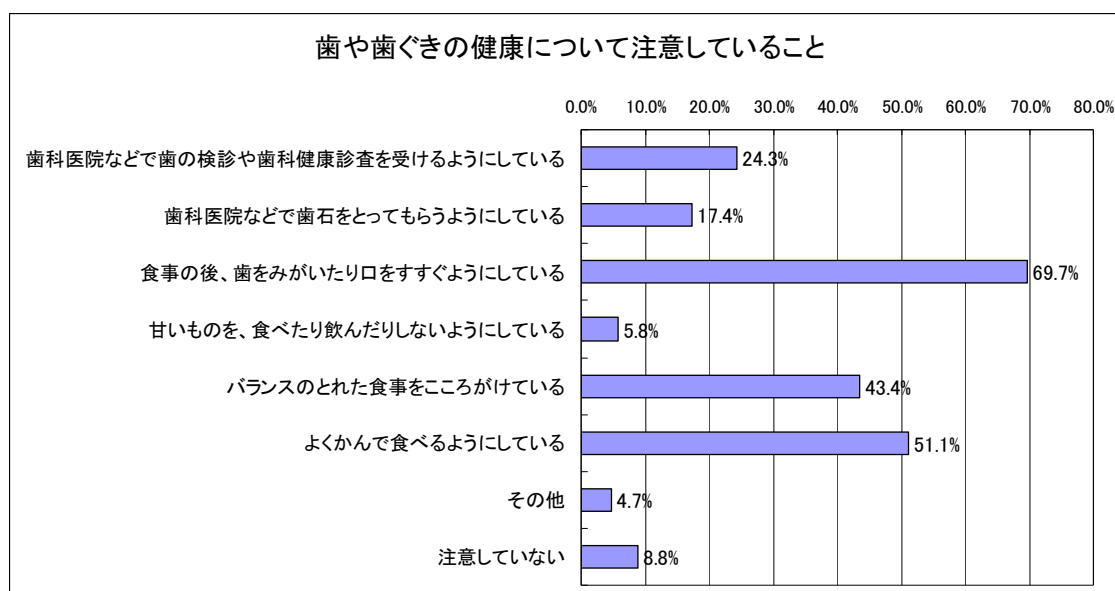
パブリックコメント期間中（平成23年1月26日から2月21日）、県と31の市町村において、1,883名の県民の方々がアンケート調査に協力していただきました。

アンケート調査に回答していただいた方々の性別は、男性が11.4%、女性が88.6%、年齢は30～39歳が最も多く44.5%、次いで20～29歳が15.0%、70～79歳11.4%でした。



2 児童生徒対象の調査結果

パブリックコメント期間中(平成23年1月26日から2月21日)、2小学校、2中学校において、781名の児童生徒(小学校第5学年から中学校第3学年)の方々がアンケート調査に協力していただきました。



用語解説

【こ】

誤嚥性肺炎

嚥下機能が十分働かず、誤って食物等が気道から肺に入り、その浸透圧の影響や細菌感染によって起こる肺炎であり、重症になると命を奪うことがある。

【し】

歯間部清掃用器具

歯ブラシでは取り除き難い歯と歯の間の歯垢を取り除く補助器具のこと。デンタルフロスや歯間ブラシなどがある。

歯垢

歯の表面に付着した黄白色を帯びた粘着物で、いわゆる細菌のかたまり。プラークともいう。

歯周炎

炎症が歯ぐきだけでなく、歯を支えている骨は歯の膜などに波及したもの。進行すると歯ぐきから膿が出たり、歯ぐきが下がったり、歯が動くようになる。

歯周病

歯の周囲の組織（歯ぐきや歯を支えている骨、歯の根の膜など）の病気である。

歯肉炎

炎症が歯ぐきだけにあるもので、歯周病の早期段階である。適切な歯みがき等で改善することが多い。

C P I T N

1982年にWHOが提唱した地域における歯周疾患の実態と治療必要度を把握する指標のこと。特別の探針を用いて歯周ポケットの深さ・出血・歯石の有無等を判定する。

C P I T Nの判定基準

コード	所 見
0	健全
1	出血あり
2	歯石あり
3	4～5mm に達するポケット
4	6mm を超えるポケット

【せ】

摂食嚥下障害

脳血管疾患や老化などの様々な原因によって、「食べ物を食べる・飲み込む」機能が低下し、起こる障害のこと。むせ、誤嚥、窒息等がある。

【そ】

咀嚼

食べ物をかみ切り、砕き、すりつぶし、飲み込みや消化をしやすくすること。

咀嚼・嚥下機能

食べ物を口から食べ、飲み込む機能のこと。

【た】

第一大臼歯（6歳臼歯）

5～6歳頃に生えそろった乳歯の奥に新たに生えてくる永久歯のこと。永久歯全体の歯並びやかみ合わせの柱となる重要な歯である。

【ふ】

フィッシャーシーラント

歯ブラシの毛先が入りにくく、むし歯になりやすい奥歯（臼歯）のかみ合わせの溝を合成樹脂などで封鎖し、歯垢が入り込まないようにする方法

フッ化物

フッ素を含む化合物のこと。むし歯予防に利用されるのは、主にフッ化ナトリウムやリン酸酸性フッ化ナトリウムなどである。

フッ化物歯面塗布

むし歯予防のため、フッ化物を含む薬剤を歯に直接塗る方法のこと。歯科医師、または、歯科医師の判断のもと歯科衛生士が行う。年数回定期的に実施することでより効果が得られる。

フッ化物洗口

低濃度のフッ化ナトリウム溶液を少量口に含んで洗口（ブクブクうがい）を行う方法である。

フッ化物配合歯磨剤

フッ化物が入っている歯磨剤のこと。

【よ】

予防処置

歯・口腔の健康を保持するための、フッ化物歯面塗布、フィッシャーシーラント、歯石除去等の処置である。

なお、ハイリスク児に対するむし歯の予防処置は、フッ化物歯面塗布やフィッシャーシーラント等である。

学校法人明海大学職員定年規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人明海大学就業規則第17条の規定に基づき、職員の定年に関する事項を定める。

(定年年齢)

第2条 職員の定年は、教育職員及び研究職員は満65歳、その他の職員は満63歳とする。

(適用除外)

第3条 学長は、この規程を適用しない。

(定年延長の特例)

第4条 第2条の規定にかかわらず、本法人が特に認めるものについては、理事会において年数、待遇等を定めて定年を延長することができる。

2 第2条の規定にかかわらず、本法人が学部・学科・大学院等の設置のため、特に教員組織を編成するなど必要と認めた場合は、別に定める特例措置により定年の延長を認めることができる。

(定年退職の日)

第5条 定年に達した職員は、定年に達した日の属する年度の末日をもって定年退職となる。

附 則

この規程は、昭和54年1月1日から施行する。

附 則

1 この規程施行時に定年に達している者及び施行後2年以内に定年に達する者は、昭和56年1月1日以降到来するその者の誕生日の属する年度の末日をもって定年とする。

2 この規程は、昭和56年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

学校法人明海大学特定契約職員就業規則

(目的)

第1条 この規則は、学校法人明海大学就業規則（以下「本法人就業規則」という。）第2条の6に基づき、特定契約により採用され一定期間又は常時勤務する職員（以下「特定契約職員」という。）の就業等に関し、定めることを目的とする。

(適用範囲)

第2条 この規則は、本法人に特定契約により採用された、次に掲げる職員にして第2項に定める者に適用する。

- (1) 教育職員
- (2) 研究職員
- (3) 事務職員
- (4) 技術職員
- (5) 技能職員
- (6) 労務職員
- (7) 医療職員

2 前項第1号及び第2号の職員については満65歳、それ以外の号の職員については満63歳を超えた者であつて、本法人が必要とする高度な業務又は特殊な業務を行う能力を有する特定の者とする。

(雇用期間)

第3条 前条に規定する職員の雇用期間は、定年に達した日の属する年度の末日を限度として契約により定める。

(給与等)

第4条 特定契約職員の給与等については、契約により定める。

2 退職金は支給しない。

(定年)

第5条 特定契約職員の定年は満70歳とする。

2 本法人が特に認める者については、理事会において期間を定めて定年を延長することができる。

(採用時提出書類)

第6条 特定契約職員を採用するときは、次の書類を提出させるものとする。ただし、本法人が認めるときは、その一部を省略することができる。

- (1) 履歴書（本法人所定様式）
- (2) 卒業証明書及び成績証明書
- (3) 身上調書（本法人所定様式）
- (4) 免許その他資格証明書（写）
- (5) 健康診断書
- (6) 住民票記載事項証明書
- (7) その他採用に関して必要と認められる書類

(採用試験)

第7条 特定契約職員を採用するときは、本法人が定める試験及び面接を行う。

(提出書類)

第8条 特定契約職員として採用された者は、採用後2週間以内に、次の書類を提出しなければならない。ただし、本法人が認めるときは、その一部を省略することができる。

- (1) 誓約書（本法人所定様式）
- (2) 身元保証書（本法人所定様式）
- (3) 源泉徴収票（前職者のみ）
- (4) その他本法人の指定するもの

2 前項及び第5条の提出書類の記載事項に変更を生じた場合には、その都度届け出なければならない。

(配置転換及び職務の変更)

第9条 本法人は、業務の都合により特定契約職員に勤務の配置転換、役職の任免、職種並びに資格の変更、出向及び派遣を命ずることがある。

2 前項の配置転換又は職務の変更等の命令を受けた者は、これを拒むことができない。ただし、やむを得ない事情がある者は、その理由を具した書面をもって、所属長を経由して理事長に上申することができる。

3 所属長は、前項の書面を受理したときは、これに対する意見を具して理事長に提出するものとする。

(休職)

第10条 特定契約職員が次の各号の一に該当するときは、休職を命ずることができる。

(1) 業務以外の事由による傷病のため、事由発生後1年以内に通算して90日を超えて勤務できないとき。

(2) 家事の都合その他の事情により引き続き30日を超えて欠勤したとき。

(3) 前2号以外に1年以内に90日以上業務に従事できないとき。

(4) 刑事事件に関し起訴されたとき。

(5) 留学、研修及び講習等のため引き続き90日を超えて職を離れたとき。

(6) 業務上やむを得ない事情があるとき。

(7) 前各号のほか、本法人が特別の事情により必要と認めたとき。

(休職期間)

第11条 前条の規定による休職期間は、次のとおりとする。

(1) 前条第1項第1号及び第3号の規定による休職期間は、3か月以内とする。ただし、結核性疾患による休職期間は、勤続年数にかかわらず2年以内とする。

(2) 前条第1項第2号の規定による休職期間は、3か月以内とする。

(3) 前条第1項第4号の規定による休職期間は、本法人がその都度定める。

(4) 前条第1項第5号の規定による休職期間は、本法人がその都度定める。

(5) 前条第1項第6号及び第7号の規定による休職期間は、12か月を超えない範囲で本法人がその都度定める。

2 前項各号に定める休職期間は、当該雇用契約年度内とする。ただし、契約更新をする場合は、この限りでない。

(復職)

第12条 休職期間満了前に休職事由が消滅したときは、復職させる。ただし、休職前の職務と異なる職務に配置することがある。

2 第10条第1項第1号により休職した職員については、勤務に支障ない旨の本法人指定の医師の診断書により本法人が就業可能と認めたとき、復職させる。

(自然退職)

第13条 休職期間が満了して復職を命じないときは、自然退職とする。

(休職及び休職期間の延長)

第14条 特定契約職員のうち特に勤務成績が優秀な者については、理事会の決定により第10条及び第11条に定められた期間を延長することができる。

(退職)

第15条 特定契約職員が次の各号の一に該当したときは、その日を退職の日とし、職員としての資格を失う。

(1) 死亡したとき。

(2) 期間を定めて雇用した者の雇用期間が満了したとき。

(3) 本人の都合により退職を願い出て雇用契約が終了したとき。

(4) 休職期間が満了して復職を命じないとき。

(5) 定年に達した日の属する年度の末日。

(退職手続)

第16条 特定契約職員が退職を希望するときは、1か月以前(教育職員及び研究職員は3か月)にその理由を記した退職願を所属長を経て、理事長に提出しなければならない。

(解雇)

第17条 特定契約職員が次の各号の一に該当したときは、解雇する。

- (1) 事業不振のため解雇の必要が生じたとき。
- (2) 第4条の契約に基づく義務を履行しなかったとき。
- (3) 勤務成績若しくは勤務能力又は勤務態度が不良で就業に適さないと認められたとき。
- (4) 身体又は精神の障害及びその他の理由により業務にたえられないと認められたとき。
- (5) 業務の縮小又は廃止により職員に余剰が生じたとき。
- (6) その他、前各号に準ずる場合及び本法人の都合によりやむを得ない事由があったとき。

(解雇予告)

第18条 前条により解雇する場合は、30日前に本人に予告するか、又は労働基準法に規定する平均賃金の30日分に相当する予告手当を支給して行う。

(解雇制限)

第19条 特定契約職員が業務上の傷病により療養のため休業する期間及びその後30日間並びに産前産後の女子が休業する期間及びその後30日間は、解雇しない。ただし、業務上傷病の場合において療養開始後3年を経過しても傷病がなおらないで打切補償を支払った場合(法律上打切補償を支払ったとみなされる場合を含む。)は、この限りでない。

(勤務時間)

第20条 特定契約職員の始業時刻は9時、終業時刻は17時とする。なお、土曜日の終業時刻は13時とする。ただし、職務の性質上これにより難しい業務については、1週38時間の範囲で交替制等勤務とすることができる。

- 2 入学試験、入学式、体育祭、文化祭、学位記授与式その他業務上必要がある場合には、前項の始業並びに終業時刻を変更し、若しくは時季によって短縮又は延長することもある。ただし、1週間の労働時間は40時間を超えることはない。
- 3 所属長は、前項の規定により勤務時間の変更を行う場合には、その前日までに当該職員にその旨を通知する。

(教育職員及び研究職員の勤務時間)

第21条 特定契約職員(教育職員及び研究職員)は、原則として前条に準じて教育、研究及び診療等に支障をきたさないよう勤務しなければならない。

- 2 特定契約職員(教育職員及び研究職員)は、あらかじめ承認をうけて勤務の場所を離れて勤務(自宅研修含む)することができる。

(休憩時間)

第22条 休憩時間は、原則として12時から13時までとする。

- 2 業務上必要がある場合は、休憩時間を変更することがある。

(時間外勤務)

第23条 業務上必要がある場合は、勤務時間外に勤務させることがある。ただし、特定契約職員(教育職員及び研究職員)が自己の業務の必要上勤務時間外に自発的に執務した時間については、自宅研修としてとりあつかう。

(出張及び旅費)

第24条 業務上必要がある場合には、に特定契約職員に出張を命ずることがある。

- 2 出張中の勤務時間を算定しがたいときは、通常の勤務時間を勤務したものとみなす。
- 3 特定契約職員の出張に関する事項は、学校法人明海大学旅費規程を準用する。

(休日)

第25条 特定契約職員の休日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日(祝日と日曜日が重なった場合は翌日を休日とする。)
- (3) 国民の休日

- (4) 創立記念日（5月17日）
- (5) 年末年始（12月29日から1月7日まで）
- (6) その他本法人が臨時に定めた日

2 別に定める特殊勤務者の日曜日に相当する休日（以下「指定休日」という。）については、別に指定する。

（休日勤務）

第26条 業務上必要がある場合は、休日に勤務させることができる。

（休日の振替）

第27条 業務上必要があるときは、休日を他の日に振替えることができる。

- 2 前項の場合には、前日までに振替による休日を指定して職員に通知する。
- 3 前項の規定にかかわらず、振替の休日を与えないこともある。

（臨時勤務）

第28条 天災その他緊急を要する事由のため、臨時に勤務を命ぜられた者は、その勤務が時間外又は休日であっても勤務しなければならない。

（勤務時間・休憩時間・休日の適用除外）

第29条 特定契約職員のうち管理・監督の地位にある者は、勤務時間、休憩时间及び休日に関する規定は適用しない。

2 次の各号の業務に従事する特定契約職員（以下「特殊勤務者」という。）については、本規則第20条、第25条及び第31条の規定にかかわらず、本法人就業規則第35条第2項別表のとおりとする。

- (1) オープンカレッジ業務
- (2) 看護業務
- (3) 警備業務

3 前項の特定契約職員の休憩時間は、その特定契約職員に割り振られた勤務時間内において業務の状況により1時間を限度として所属長がこれを定める。

（宿日直）

第30条 業務上必要があるときは、宿直又は日直をさせることがある。

（年次有給休暇）

第31条 年次有給休暇は、1年間継続勤務し全就業日の8割以上出勤した者に対して1年（計算期間は4月1日から翌年3月31日まで）を通じて、20日の年次有給休暇を与えることができる。ただし、新たに採用された特定契約職員のその年の年次有給休暇は次の表による。

採用月	4月	5月～10月	11月～1月
日数	20日	10日	5日

- 2 年次有給休暇は、1日を単位として与える。ただし、法定を超える年次有給休暇については、半日を単位として与えることができる。
- 3 年次有給休暇をうけようとする際は、あらかじめ所属長に所定の届け出をしなければならない。ただし、業務に支障のある場合には、その時期及び期間を変更させることができる。
- 4 当該年度の年次有給休暇は、次年度に限り繰り越すことができる。
- 5 年次有給休暇により休んだ期間については、給与を支払う。

（傷病休暇）

第32条 本法人が相当と認めたときは、業務以外の負傷又は疾病のため引き続き（勤務を要しない日を除く。）5日を超えて療養する必要がある、勤務できない場合、医師の証明書等に基づき非結核性疾患は90日、結核性疾患は1年を限度として、傷病休暇を与えることができる。ただし、本法人が特に認めた場合は、期間を延長することができる。

2 承認を得た傷病休暇は有給とする。

（特別休暇）

第33条 特別休暇及びその期間は、次のとおりとする。

(1) 慶弔休暇

- ア 本人が結婚するとき。 連続して7日以内
- イ 子（養子を含む。以下同じ。）が結婚するとき。 連続して3日以内
- ウ 妻が出産するとき。 3日以内
- エ 父母（養父母を含む。）、配偶者又は子が死亡したとき。 連続して7日以内
- オ 祖父母、伯叔父母、兄弟姉妹、孫又は配偶者の父母が死亡したとき。 連続して3日以内
- カ 曾祖父母、配偶者の兄弟姉妹又は兄弟姉妹の配偶者が死亡したとき。 連続して2日以内

(2) 公傷休暇

特定契約職員が業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため勤務ができない場合、医師の診断に基づいて本法人の必要と認めた期間

(3) 災害休暇

天災又は本人の責任に帰することのできない事由によって勤務できない場合、所属長が認めた期間

(4) 公用休暇

ア 選挙権その他公民としての権利を行使し、又は本法人の承認を得て公職についた者が公務を執行する場合、必要な時間若しくは日数

イ 証人、鑑定人又は参考人として国会、裁判所、地方公共団体の議会その他官公庁へ出頭する場合、必要な時間若しくは日数

（届出の義務）

第34条 前条の特別休暇をうけようとする者は、あらかじめその所属長に届け出なければならない。やむを得ない事由のため事前に届け出ができないときは、事後直ちに所属長に届け出て承認を受けなければならない。

2 前項の場合、所属長は必要により証明書を提出させることがある。

3 承認を得た特別休暇は、有給とする。ただし、公傷休暇の場合は、災害補償の規定による。

（介護休業）

第35条 要介護状態にある家族を介護する特定契約職員には、申し出により介護休業を与える。

2 前項に定める介護休業は、当該雇用契約年度内とする。ただし、契約更新をする場合は、この限りでない。

3 介護休業中の待遇、その他の労働条件に関する事項については、別に定める。

（遵守事項）

第36条 特定職員は、常に次の事項を守り職務に精励しなければならない。

(1) 本法人の名誉を重んじ、職員としての品位と秩序の保持につとめなければならない。

(2) 本法人の諸規程及び上司の職務上の指示に忠実に従うこと。

(3) 勤務時間中は担当する職務の遂行に専念し、みだりに離席してはならない。

(4) 業務上の都合により職務の変更を命ぜられた場合は、7日以内に正確に職務を引き継がなければならない。

(5) 設備備品の取扱いを丁重にし、消耗品の適正な使用及び節約に努める。

(6) 金銭、物品及び備付諸表簿の出納を明確にし、所定の場所に保管すること。

(7) 職場の整理整頓に努め、常に清潔に保つようしなければならない。

(8) 職員は火災、盗難の防止に努めなければならない。

(9) 相手方の意に反する性的言動により他の職員に不利益を与えたり、勤務環境を害すると判断される行為をしてはならない。

（承認事項）

第37条 特定契約職員は、所属長に届け出て承認を受けず次の各号の一に該当する行為

をしてはならない。ただし、第3号ないし第6号の場合は、本法人の承認を得なければならない。

- (1) 欠勤する場合。ただし、やむを得ない場合は事後直ちに届け出るものとする。病欠欠勤が5日以上におよぶ場合には、医師の診断書を提出しなければならない。
 - (2) 遅刻、早退及び私用外出の場合
 - (3) 本法人以外の業務に従事し、又は本法人以外の職場に勤務する場合
 - (4) 本務以外の医療業務にたずさわる場合
 - (5) 所定の納金以外の金銭を学生から徴収する必要が生じた場合
 - (6) 職員が本法人所有の施設内において業務以外の講習、集会、演説、放送又は文書などの配布及び掲示を行おうとする場合
- (禁止事項)

第38条 特定契約職員は、次の各号に該当する行為をしてはならない。

- (1) 職務上の地位を利用して個人的利益をはかること。
- (2) 職務上の権限をこえ、又は権限を濫用して専断的な行為をすること。
- (3) 職務上知り得た秘密事項（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に定める個人番号、特定個人情報及び特定個人情報ファイルを含む。）を他に漏らし、又は本法人の不利益となるおそれのある事を他に告げること。退職後も同様とする。

(出退勤)

第39条 特定契約職員は、所定の出入口から出退するものとする。

- 2 特定契約職員は、出退勤時自らタイムカードに打刻しなければならない。
- 3 特定契約職員は次の第1号、第2号、第4号及び第5号に該当する行為をしてはならず、また次の各号の一に該当する場合は学内から排除する。
 - (1) 業務に必要でない火器、凶器その他危険と認められるものを所持する場合
 - (2) 衛生上有害と認められる場合
 - (3) 出勤停止の処分を受け、又は就業が禁止されている場合
 - (4) 業務を妨害し、若しくは本学の風紀秩序をみだし、又はみだすおそれのある場合
 - (5) その他前各号に準ずる場合

(届出事項)

第40条 特定契約職員は氏名、本籍地（外国人職員は国籍）、現住所、家族状況その他身上に関し変更のあった場合は、その都度届け出なければならない。

- 2 本法人に願い、又は届を提出する場合は、特に定めのある場合を除き、所属長を経由して届け出るものとする。

(保健衛生)

第41条 特定契約職員は、保健及び衛生に関する法令を守り、健康を保持し衛生に努めなければならない。

(就業の禁止)

第42条 次の各号に該当する者は就業させない。

- (1) 精神病患者
- (2) 法定伝染病その他の伝染病患者及びこれらの擬似症患者
- (3) 就業すれば病気の悪化するおそれのある者
- (4) 伝染病又は重病に罹った者で健康状態が十分回復していない者
- (5) その他就業不相当と認められる者

(健康診断)

第43条 特定契約職員には毎年定期的に健康診断を行うほか、必要に応じて職員の全員または一部に対して臨時に健康診断または予防接種を行うことがある。

- 2 前項の健康診断の結果必要な場合には、就業の禁止、職場の転換、勤務時間の短縮など、職員の健康保持の為必要な措置をとる。
- 3 結核患者として療養の必要があると認められた場合は、結核予防法（昭和26年法律第96号）第28条に基づいて就業を禁止し、療養をさせる。

(療養補償)

第44条 特定契約職員が業務上負傷し、又は疾病にかかった場合は、その職員に対し必要な療養を行うか、又はその費用を負担する。

(休業補償)

第45条 前条の規定による療養のため休業する期間は、有給とする。

(障害補償)

第46条 特定契約職員が業務上負傷し、又は疾病にかかりなおったとき、身体に障害が存する場合においては、労働基準法の規定に従い障害補償を行う。

(休業補償及び障害補償の特例)

第47条 特定契約職員が重大な過失によって業務上負傷し、又は疾病にかかった場合は、労働基準法により、休業補償又は障害補償を行わない。

(遺族補償)

第48条 特定契約職員が業務上死亡した場合においては、遺族又は死亡当時その収入によって生計を維持していた者に対し、労働基準法の規定に従い遺族補償を行う。

(葬祭料)

第49条 前条の場合、葬祭を行う者に対し、労働基準法の規定により葬祭料を支給する。

(打切補償)

第50条 第46条の規定によって補償をうける職員が療養開始後3年を経過しても負傷又は疾病が治らない場合には、労働基準法の規定に従い打切補償を行い、その後はこの規程による補償は行わない。

(保険)

第51条 特定契約職員は、法令の定めるところに従い、日本私立学校振興・共済事業団に加入するものとする。

(表彰)

第52条 特定契約職員が次の各号の一に該当すると認定されたときは、表彰する。

- (1) 職務に関し、特に優秀な研究の成果をあげたとき。
- (2) 職務に関し、抜群の努力をし成績顕著なとき。
- (3) 特に献身的努力をもって職務に精励したとき。
- (4) 職務に関し、特に他の模範とすべき行為のあったとき。
- (5) 本法人に多大の利益をもたらしたとき。
- (6) その他特に表彰の価値があると認められたとき。

(表彰の方法)

第53条 表彰は、理事長が表彰状及び記念品等を授与して行う。

(表彰の返還)

第54条 表彰状を授与された者が懲戒を受け、若しくは被表彰者たることの体面を汚す行為があったときは、表彰状を返還させることがある。

(懲戒)

第55条 特定契約職員が次の各号の一に該当するときは、次条の規定により懲戒を行う。

- (1) 本法人の規則、規程その他遵守すべき事項に違反したとき。
- (2) 経歴を偽って採用されたとき。
- (3) 本法人の名誉を傷つける行為をしたとき。
- (4) 勤務成績がよくないとき。
- (5) 素行不良にして本法人の風紀又は秩序を乱したとき。
- (6) 正当な理由なく無届け又は虚偽の届出によってしばしば欠勤したとき
- (7) 刑事犯罪にあたる行為をしたとき。
- (8) 許可なく本法人の物品を持ち出し、又は持ち出そうとしたとき。
- (9) 学生に合法的な限度を超えて懲戒を行ったとき。
- (10) 業務上の指揮命令に違背したとき。
- (11) 本法人の承認を受けないで本法人以外の業務に従事し、又は本法人以外の職場に勤務したとき。

- (12) 職務上の不注意、怠慢又は監督不行届により業務に支障をおこしたとき。
- (13) みだりに職員及び学生を煽動して本法人に不利益な行動をしたとき。
- (14) その他前各号に準ずる不都合な行為のあったとき。

(懲戒の種類)

第56条 懲戒の処分は、戒告、減給、出勤停止、諭旨解雇及び懲戒解雇とし、その情状により次の区分に従って行う。

- (1) 戒告は、始末書を提出させ将来を戒める。
- (2) 減給は、1回の額が平均賃金の1日分の半額を超えず、総額はその月の給与総額の10分の1以内で減給する。
- (3) 出勤停止は、7日以内の出勤を停止し、その期間の給与を支給しない。
- (4) 諭旨解雇は、諭旨して退職せしめる。
- (5) 懲戒解雇は、予告期間をおかないで解雇する。ただし、労働基準法第20条の規定に従うものとする。

2 前項の処分は、理事会で行う。

(就業の禁止)

第57条 前条第1項の各号に該当し、懲戒処分が確定するまでの間就業を禁止することがある。

(雑則)

第58条 この規則の定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、2013年4月1日から施行する。

2 この規則第29条の管理・監督の地位にある職員とは、事務局長、部長、次長、室長、課長、主幹、薬局長、総看護師長、診療放射線技師長、歯科衛生士長、臨床検査技師長、看護師長相当職以上の者をさす。

附 則

この規則は、2016年2月1日から施行する。

学校法人明海大学教育職員採用及び昇任手続規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人明海大学管理運営基本規則第2条第3項の規定に基づき、学校法人明海大学（以下「本法人」という。）教育職員（以下「教員」という。）の採用及び昇任（以下「採用等」という。）の手続き等に関する事項を定める。

(教員の定義)

第2条 この規程において、本法人の教員とは、教授、准教授、講師及び助教をいう。

(教員の職務内容)

第3条 前条に規定する教員の職務内容は、別表1のとおりとする。

(採用等に係る資格基準)

第4条 第2条に規定する教員の採用等に係る資格基準は、別表2に定めるもののほか、各学部の教員の採用等に係る教員資格基準、教員資格基準細則及び教員資格内規その他これに準じるものとする。

(採用等に係る申出)

第5条 教員の採用等が必要となったときは、各学部の学部長（以下「学部長」という。）は学長を経由して理事長に教員選考申出書（第1号様式）、公募を行う場合は、公募申出書（第1号様式）により申し出を行い、その承認を受けなければならない。

(委員会の設置)

第6条 学長は、前条の規定に基づき承認を受けた候補対象者の審査を行うため、学長のもとに該当学部に教員資格審査委員会（以下「委員会」という。）を設置し、候補対象者の資格審査を付託する。

(委員会の構成等)

第7条 委員会は、次の各号に定める者をもって組織する。ただし、歯学部においては、学長が学部長の意見を聴き当該学部の役職にある者若干名を加えることができる。

(1) 学部長

(2) 学科主任（歯学部においては教務部長）

(3) 学長が学部長の意見を聴き指名した教授3名

2 学長は、前項の各号に掲げる者のほか、学部長の意見を聴き候補対象者の専門分野等を考慮し、その審査に必要な教授を指名することができる。

3 前項の委員の任期及び権限は、当該資格審査に必要とされる範囲に限るものとする。

4 委員会に委員長を置き、第1項第1号の委員をもって充てる。

(委員の任期)

第8条 第7条第1項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の会議)

第9条 委員会は委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

3 委員会は3分の2以上の委員の出席をもって成立する。

4 前項の場合において、あらかじめ委任状を提出した者は、出席者とみなす。

(委員会の任務)

第10条 委員会は、学長が学部長の意見を聴き資格審査の発議があった候補対象者につき、次の各号に掲げる事項（以下「教員としての適格性」という。）について審査を行う。

(1) 第4条に定める資格基準との適合性

(2) 授業科目担当者としての適合性

(3) その他本学の教員としての適合性

(候補者の推薦手続)

第11条 委員会は、資格審査の経過及び結果につき、委員会報告書（第2号様式）を作成し、学部長を通じて学長に提出するものとする。

2 学部長は、学長の命により教授会の審議の前に候補対象者についての資格審査資料を専任

の教授の閲覧に供するものとする。

- 3 学部長は、学長の命により委員会の資格審査の経過及び結果について教授会に報告し、委員会報告書に基づき、票決以外の任意の方法により教授会の意見を聴取する。
- 4 学部長は、各候補対象者についての教授会の意見及び学部長の意見をもとに、教授会並びに学部長意見書（第2号様式）を作成し、委員会報告書とともに学長に提出する。
- 5 学長は、第13条各号の該当性に加え、教育職員としての協調性や誠実さ、学長の大学運営に対する積極的な協力姿勢及び態度等を総合し、相当と認めるときは、前項に定める意見書及び報告書を基に、学長意見書（第3号様式）及び教員候補者推薦書（第3号様式）を作成し、理事長に候補者を推薦するものとする。

（候補者の面接）

第12条 理事長は、学長が推薦した候補者に対して面接を行う。ただし、理事長が面接を行う必要がないと認めるときはこの限りでない。

- 2 理事長は、面接に際して、法人役員、学長及び候補者が所属又は所属予定学部等の所属長その他関係者の同席を求めることができる。

（採用等の決定並びに任命）

第13条 理事長は、前条に定める面接に基づき、理事会に採用等の議案を提出し、理事会は、次の各号に該当する者について、採用等を決定する。

- (1) 採用については、本学の教員としての適格性があり、かつ、建学の精神の具現化に協力する意欲がある者と認められる者
- (2) 昇任については、本学の教員としての適格性があり、かつ、建学の精神の具現化に強い意欲がある者と認められる者

（非専任者の特例）

第14条 非専任の教員の採用等については、この規程の定める手続の一部を省略することができる。

（総合教育センター等の教員の特例）

第15条 総合教育センター、複言語・複文化教育センター、教職課程センター及び別科教員の採用等についてはこの規程を準用する。ただし、この規程の定める手続の一部を省略することができる。

（委員会事務）

第16条 委員会の事務は、各キャンパス事務部の庶務課において行う。

（改正）

第17条 この規程の改正は、理事会が決定する。

附 則

- 1 この規程は、平成17年9月13日から施行する。
- 2 この規程の制定に伴い下記各号の規程等を廃止する。
 - (1) 明海大学外国語学部教員候補者審査規程
 - (2) 明海大学外国語学部教員審査委員会規程
 - (3) 明海大学経済学部教員候補者審査規程
 - (4) 明海大学経済学部教員審査委員会規程
 - (5) 明海大学不動産学部教員候補者審査規程
 - (6) 明海大学不動産学部教員審査委員会規程
 - (7) 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教員資格審査委員会規程
 - (8) 明海大学歯学部教授候補者選考規程
 - (9) 明海大学歯学部教授選考委員会規程
 - (10) 明海大学歯学部教員資格審査委員会規程
 - (11) 明海大学学長裁定（平成11年11月1日明海大学教員選考手続について）
- 3 前項2、4、6、7、9、10号の規定に基づき、選任された各学部（歯学部を除く）の教員審査委員会及び歯学部教員資格審査委員会並びに歯学部教授選考委員会の委員は、各規程の定める任期中は本規程の委員会の委員とみなす。

附 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 次の各号の規程は、この規程第4条の各学部の教員資格基準を定める規程とみなす。
 - (1) 教員資格内規 (昭和48年4月1日制定)
 - (2) 明海大学大学院教員資格に関する申し合わせ事項 (昭和53年10月3日制定)
 - (3) 明海大学外国語学部教員資格基準 (平成3年12月17日制定)
 - (4) 明海大学外国語学部教員資格基準細則 (平成3年12月17日制定)
 - (5) 明海大学経済学部教員資格基準 (平成3年12月17日制定)
 - (6) 明海大学経済学部教員資格基準細則 (平成3年12月17日制定)
 - (7) 明海大学不動産学部教員資格基準 (平成7年10月17日制定)
 - (8) 明海大学不動産学部教員資格基準細則 (平成7年10月17日制定)
 - (9) 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教員資格基準 (平成17年4月1日制定)
 - (10) 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教員資格基準細則 (平成17年4月1日制定)
- 3 前項各号の規程で助教授とあるのは准教授、助手とあるのは助教とみなす。
- 4 この規程施行の際、教授、助教授、講師、助手である者はこの規程及び基準により選考された教授、准教授、講師及び助教とみなす。
- 5 この規程施行前の助教授、助手としての在籍は、准教授、助教としての在籍とみなす。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2013年11月19日から施行する。

附 則

この規程は、2014年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、2015年4月1日から施行する。
- 2 改正前に選出されている委員については、改正後の第6条第1項の規定により指名されたものとみなし、任期は残任期間とする。

附 則

- 1 この規程は、2015年5月19日から施行する。
- 2 改正前に選出されている委員については、改正後の第7条の規定により指名されたものとみなし、任期は残任期間とする。

附 則

この規程は、2015年12月15日から施行する。

附 則

この規程は、2016年4月1日から施行する。

別表1（第3条関係 教育職員の職務内容）

- 1 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 2 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 3 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。
- 4 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

別表2（第4条関係 採用等に係る資格基準）

1 教授

教授となることのできる者は、次のア～カのいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

ア 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、研究上の業績を有する者

イ 研究上の業績が前アの者に準ずると認められる者

ウ 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する実務上の業績を有する者

エ 大学において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

オ 芸術、体育等については、特殊な技能に秀でていと認められる者

カ 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

2 准教授

准教授となることのできる者は、次のア～オのいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

ア 前項のア～カのいずれかに該当する者

イ 大学において助教又はこれらに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

ウ 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

エ 研究所、試験所、調査所等に在職し、研究上の業績を有する者

オ 専攻分野について、優れた知識を有すると認められる者

3 講師

講師となることのできる者は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する能力を有し、次のいずれかに該当する者とする。

ア 前2項に規定する教授又は准教授となることのできる者

イ その他特殊な専攻分野について、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

4 助教

助教となることのできる者は、次のア～ウのいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

ア 第1項ア～カ又は第2項ア～オのいずれかに該当する者

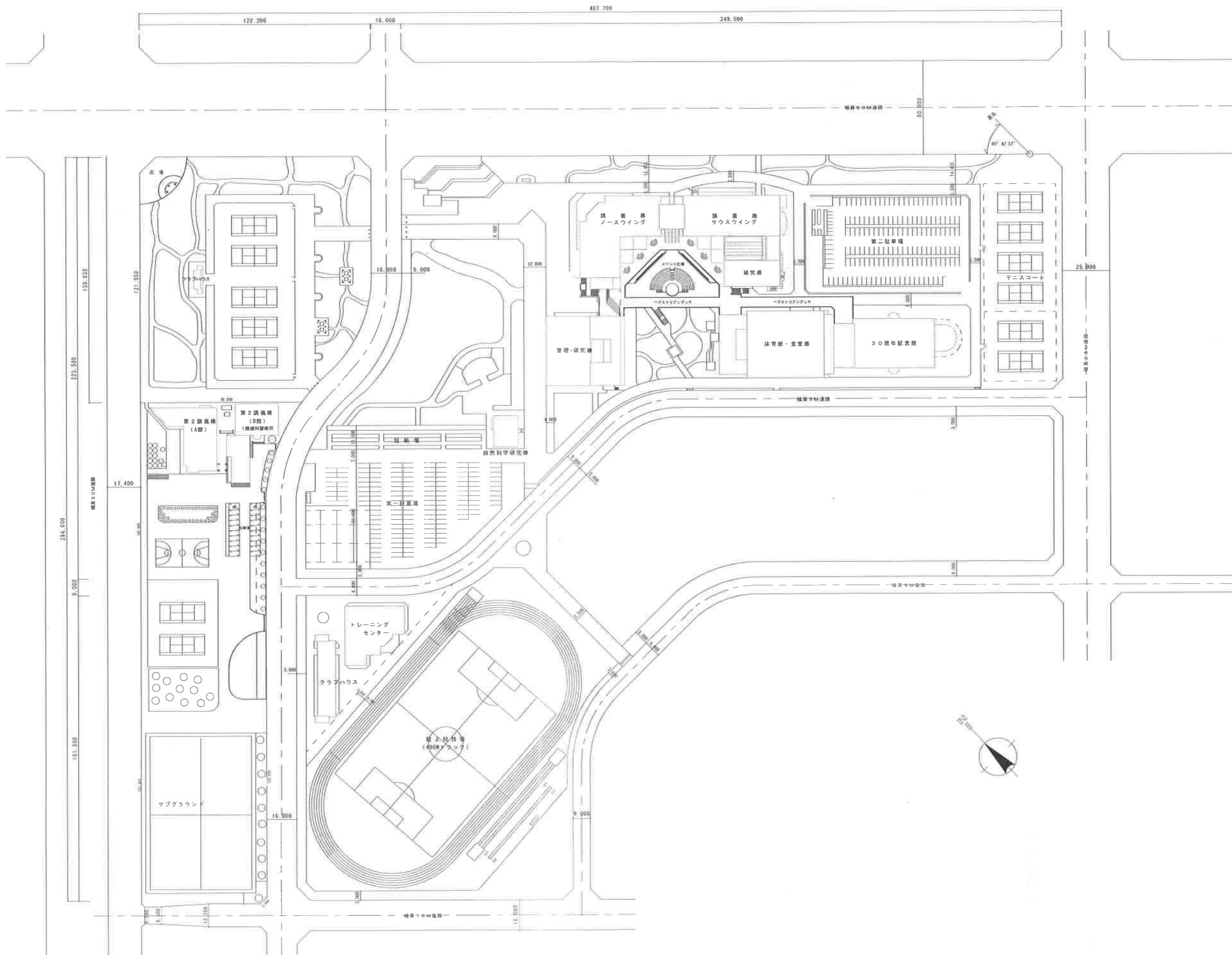
イ 修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち、臨床に係る実践的な能力を培うことを目的とするもの又は獣医学の履修課程を修了した者については、学士の学位）又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

ウ 専攻分野について、知識及び経験を有すると認められる者

保健医療学部口腔保健学科履修モデル

○:必修 ·:選択 ():単位数

授業科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件単位数	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通科目	基礎教育	○学修の基礎Ⅰ(2) ○学修の基礎Ⅱ(2) ○学修の基礎Ⅲ-a(2) ○学修の基礎Ⅲ-b(2) * 外国人留学生にあっては、アカデミック日本語Ⅰ～Ⅳ(各2単位)の修得をもって代えることができる。								8	
	人間力形成教育	人間形成		・社会生活と倫理(2)	・心理学(2)					4	
		国際理解						・国際貢献論(2)	・異文化コミュニケーション論(2)	4	
		社会生活						・経済のしくみ(2)	・行動科学(2)	4	
* 人間力形成教育科目は、卒業要件単位数にかかわらず1年から4年次にかけて学修の深度と知的好奇心又は将来の進路目標等に応じ、3分野からバランスよく多様な科目を選択履修することが望ましい。											
キャリア形成教育		(自由選択)	(自由選択)	(自由選択)	(自由選択)	(自由選択)	(自由選択)			—	
専門科目	基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活	人間科学	○生命哲学(2)	○医療心理学(2)					4	
			自然科学	○生物学(2)	○化学(2)					4	
			英語コミュニケーション		○歯学基礎英語(1)	○歯学臨床英語(1)	○英会話Ⅰ(1)	○英会話Ⅱ(1)		4	
	専門基礎分野	人体の構造と機能		○解剖学(2) * 解剖実習見学を含む。 ○生理学(2)							4
		歯・口腔の構造と機能		○口腔解剖学(2) ○口腔生理・機能学(2)	○口腔組織・発生学(2)						6
		疾病の成り立ち及び回復過程の促進			○口腔病理・微生物学(2)	○生化学・栄養生化学(2) ○薬理学・歯科薬理学(2)					6
		歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		○公衆衛生学(2) * 衛生行政を含む。	○口腔衛生学(2) * 衛生統計、医療倫理を含む。			○介護福祉(2) ○臨床医科学(2)			8
	専門分野	歯科衛生士概論		○口腔保健学概論(2) * 臨床見学を含む。							2
		臨床歯科医学				○歯科保存学(2) ○歯科補綴学(2) ○小児・矯正歯科学(2)	○臨床検査・放射線学(2) ○口腔外科・麻酔学(2) ○高齢者・スペシャルニーズ歯科学(2) ○摂食嚥下リハビリテーション学(2)				14
		歯科予防処置論			○歯科予防処置論Ⅰ(2) ○歯科予防処置実習Ⅰ(1)	○歯科予防処置論Ⅱ(2) ○歯科予防処置実習Ⅱ(1)		○臨床歯科衛生活動論(2)	○口腔保健管理学実習(1)		9
歯科保健指導論				○歯科保健指導論Ⅰ(2) ○歯科保健指導実習Ⅰ(1)	○歯科保健指導論Ⅱ(2) ○歯科保健指導実習Ⅱ(1)			○摂食嚥下リハビリテーション実習(1)		7	
歯科診療補助論			○歯科診療補助論Ⅰ(2) ○歯科診療補助実習Ⅰ(1)	○歯科診療補助論Ⅱ(2) ○歯科診療補助実習Ⅱ(1)	○歯科診療補助実習Ⅲ(1)	○チーム歯科医療学実習Ⅰ(1)	○チーム歯科医療学実習Ⅱ(1)			9	
臨地実習(臨床実習を含む。)							○チーム歯科医療学実習Ⅰ(1)	○チーム歯科医療学実習Ⅱ(1)		20	
総合演習								歯科総合演習(4) * 通年科目		4	
卒業研究								卒業研究(4) * 通年科目 * 卒業論文又は症例研究発表とする。特に将来の進路として、教育者又は研究者をめざし大学院に進学しようとする学生は、卒業論文の提出を必須とする。		4	
年次・学期別授業科目数		9	9	10	12	8	6	5	4	63	
年次・学期別単位数		18	16	16	20	20	15	12	8	125	
		34		36		35		20			



資料 9

S:1/2000

明海大学浦安キャンパス 現況配置図

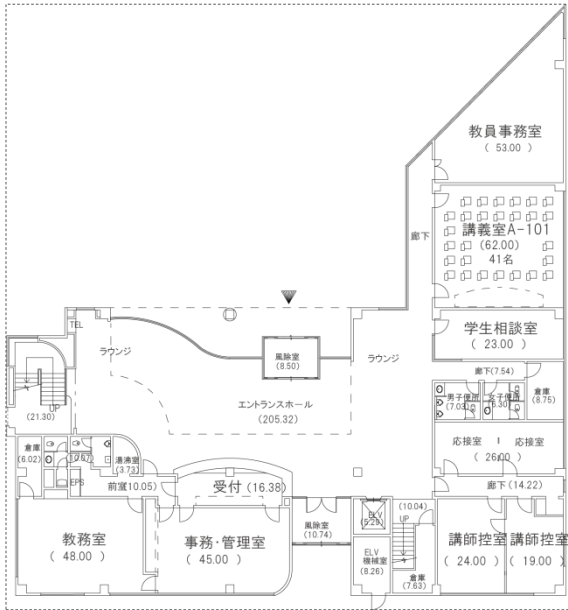
実習室改修図面

1 趣旨

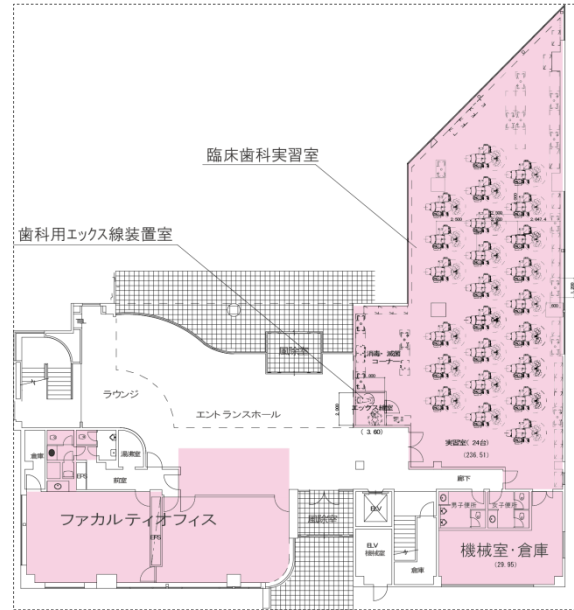
当該計画は保健医療学部口腔保健学科設置に伴い、現在別科日本語研修課程で使用している第2講義棟A館を、保健医療学部専用施設に改修するものである。

2 工事計画内容 ー第2講義棟A館ー

(1)1階



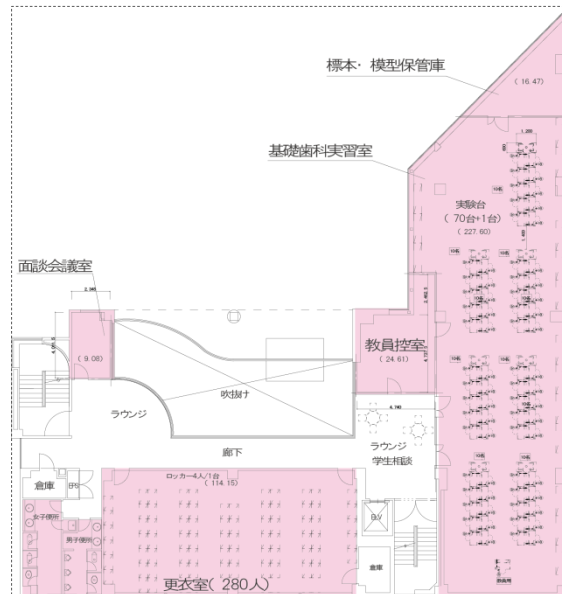
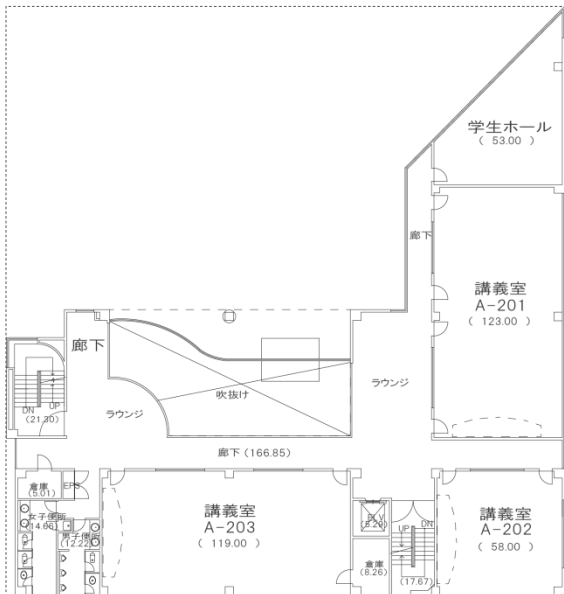
【現状】



【改修後】

主な計画	
1	教務室、事務室をファカルティオフィスに改修。
2	教員事務室、講義室、相談室等を臨床歯科実習室に改修。歯科診療台24台を設置する。実習室の一部は歯科用エックス線装置室を設置し、撮影補助を行うために必要な実習を行う場所として整備する。
3	講師控室を倉庫及びトイレに改修。
4	老朽化対策として、既設トイレを改修。
5	空調機器を更新。
6	照明器具をLEDに更新。

(2)2階

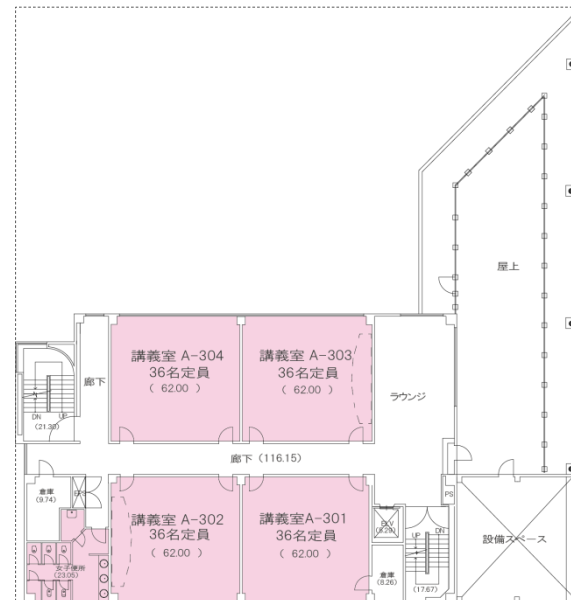
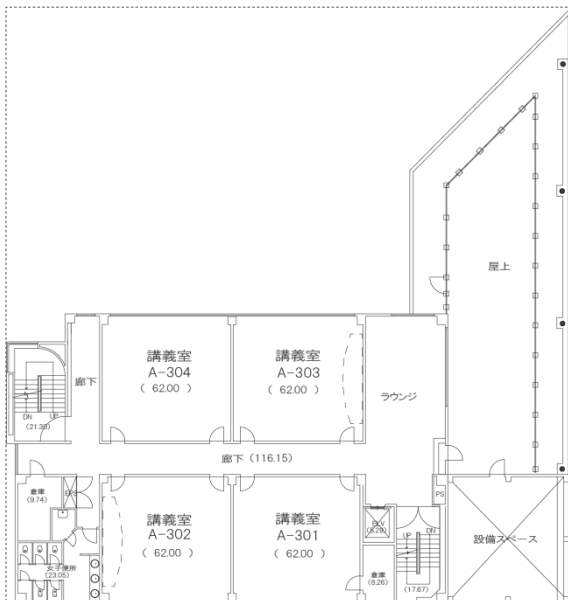


【現状】

【改修後】

主な計画	
1	学生ホールの一部を標本・模型保管庫として改修。
2	講義室(201、202)、ラウンジ及び学生ホールの一部を基礎歯科実習室として改修。最大70人が1人1台のマネキンを使用できるよう、70台整備する。予防措置及び診療補助で使用するバキューム等も備える。
3	廊下の一部を面談会議室として改修。
4	講義室(203)を学生ロッカー室として改修。白衣への更衣を行うため、全学生分を備える。
5	老朽化対策として、既設トイレを改修。
6	空調機器を更新。
7	照明器具をLEDに更新。

(3)3階

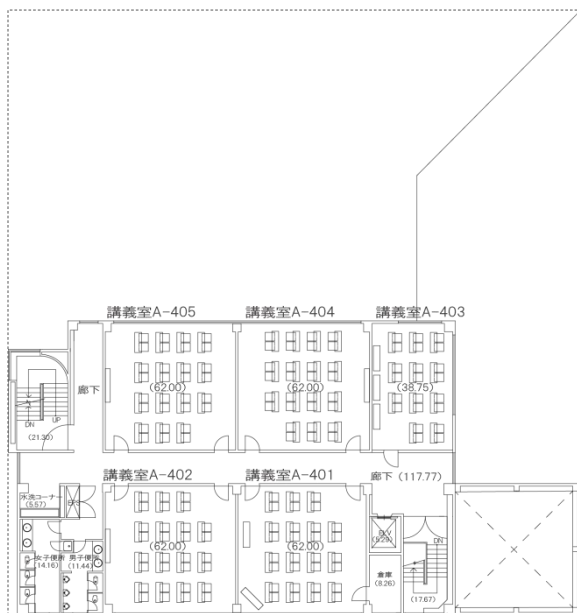


【現状】

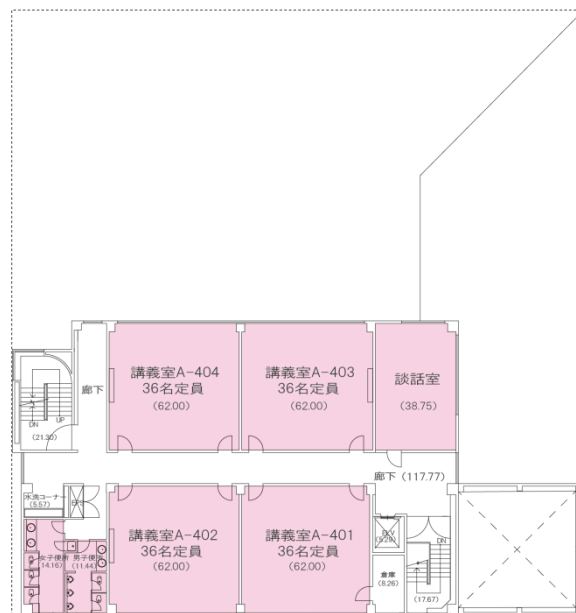
【改修後】

主な計画	
1	老朽化対策として床、壁、天井、建具等内装を改修。
2	老朽化対策として、既設トイレを改修。
3	空調機器を更新。
4	照明器具をLEDに更新。

(4)4階



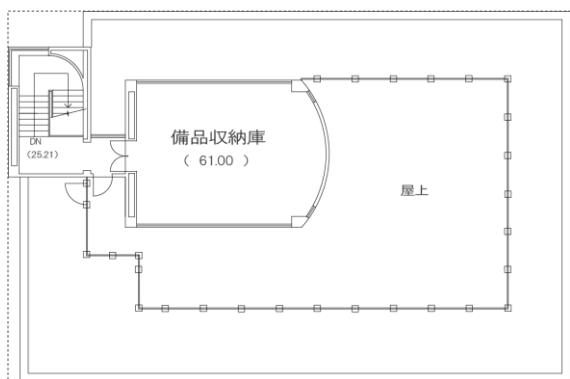
【現状】



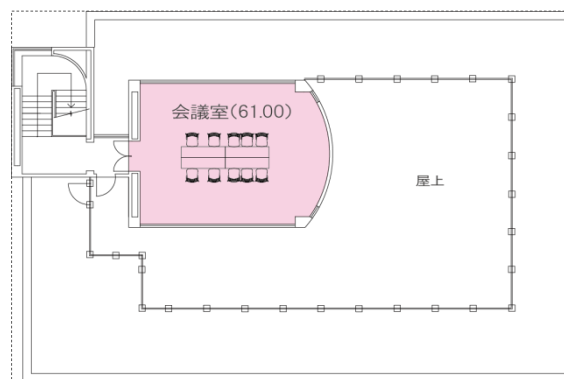
【改修後】

主な計画	
1	老朽化対策として床、壁、天井、建具等内装を改修。
2	講義室(403)を談話室に改修。
3	老朽化対策として、既設トイレを改修。
4	空調機器を更新。
5	照明器具をLEDに更新。

(5)5階



【現状】



【改修後】

主な計画	
1	備品収納庫を会議室に改修。
2	空調機器を更新。
3	照明器具をLEDに更新。

以上

保健医療学部 口腔保健学科専門図書等一覧リスト（総括表）

資料区分	内外区分	数量
図書	内国	800冊
	外国	200冊
	合計	1,000冊
学術雑誌	内国	12種
	外国	5種
	合計	17種
視聴覚資料	内国	26点
	合計	26点

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
1	標準解剖学	第1版	坂井建雄	医学書院	201703	1	8,748
2	イラスト解剖学	第9版	松村讓兒	中外医学社	201701	1	7,387
3	プロメテウス解剖学アトラス. 解剖学総論/運動器系	第3版	ミハエル・シュンケ:エリック・シュルテ	医学書院	201612	1	11,664
4	ネッター解剖学アトラス	原書第6版	フランク・H. ネッター:相磯貞和	エルゼビア・ジャパン(発売:南江堂)	201609	1	9,720
5	臨床のための解剖学	第2版	キース・L. ムア:アーサー・F. ダリー	メディカル・サイエンス・インターナショナル	201602	1	13,608
6	解剖学カラーアトラス	第8版	ヨハネス・W. ローエン:横地千俣	医学書院	201602	1	11,664
7	標準病理学	第5版	北川昌伸:仁木利郎	医学書院	201504	1	10,692
8	プロメテウス解剖学アトラス. 胸部/腹部・骨盤部	第2版	ミハエル・シュンケ:エリック・シュルテ	医学書院	201412	1	10,692
9	プロメテウス解剖学コアアトラス	第2版	アン・M. ギルロイ	医学書院	201412	1	9,234
10	プロメテウス解剖学アトラス. 頭頸部/神経解剖	第2版	ミハエル・シュンケ:エリック・シュルテ	医学書院	201401	1	10,692
11	基礎医学:人体の構造と機能		岩谷良則:岩谷良則	医学書院	201310	1	5,637
12	新病理学	フルカラー新装版	山本雅博:坂田一美	日本医事新報社	201205	1	3,402
13	解剖学講義	改訂3版高野廣	伊藤隆(解剖学)	南山堂	201204	1	10,692
14	病理学・病理検査学		仁木利郎:福嶋敬宜	医学書院	201203	1	3,888
15	新解剖学	フルカラー新装版	加藤征:福島統	日本医事新報社	201103	1	3,402
16	新病理学各論	第4版	山本雅博:坂田一美	日本医事新報社	200804	1	2,818
17	新病理学総論	第4版	山本雅博:坂田一美	日本医事新報社	200804	1	2,527
18	脳単:語源から覚える解剖学英単語集脳・神経編		原島広至:河合良訓	エヌ・ティー・エス	200504	1	2,527
19	肉単:語源から覚える解剖学英単語集筋肉編		原島広至:河合良訓	エヌ・ティー・エス	200409	1	2,527
20	骨単:語源から覚える解剖学英単語集		原島広至:河合良訓	エヌ・ティー・エス	200403	1	2,527
21	カラー図解よくわかる生理学の基礎	第2版	ステファン・シルバーナゲル	メディカル・サイエンス・インターナショナル	201708	1	6,609
22	トートラ人体解剖生理学	原書10版	ジェラルド・J. トートラ:ブライアン・デリクソン	丸善出版	201701	1	6,706
23	新生理学	フルカラー新装版	竹内昭博	日本医事新報社	201509	1	3,110
24	標準生理学	第8版	本間研一:小澤澁司	医学書院	201404	1	11,664
25	ガイドン生理学		アーサー・C. ガイトン:ジョン・E. ホール	エルゼビア・ジャパン	201008	1	19,440
26	症例問題から学ぶ生理学	原書3版	リンダ・S. コスタンゾ:鯉淵典之	丸善出版	200911	1	4,665
27	コスタンゾ明解生理学		リンダ・S. コスタンゾ:岡田忠	エルゼビア・ジャパン	200712	1	5,832
28	咬合学と歯科臨床:よく噛めて、噛み心地の良い咬合を目指して		中野雅徳:坂東永一	医歯薬出版	201108	1	15,552
29	中沢勝宏の誰にでもわかる咬合論		中沢勝宏	デンタルダイヤモンド社	201102	1	9,720
30	主機能部位に基づく実践咬合論:第1大臼歯のミステリー-咀嚼のランドマークを探せ		加藤均	デンタルダイヤモンド社	201011	1	8,359
31	歯科臨床のための前半期の萌出と咬合:佐藤貞勝遺稿集		佐藤貞勝:佐藤歯学研究所	一世出版	201007	1	4,860
32	新組織学	フルカラー新装版	野上晴雄:野上晴雄	日本医事新報社	201606	1	3,207
33	食べる・飲むメカニズム:発生学、摂食・嚥下の現場、関連研究から学ぶ		摂食研究会:氏家賢明	日本歯科新聞社	201502	1	1,944
34	口腔組織・発生学	第2版	脇田稔:前田健康	医歯薬出版	201501	1	10,692
35	基礎歯科生理学	第6版	森本俊文:山田好秋	医歯薬出版	201401	1	9,720
36	カラーアトラス機能組織学	原著第2版	ジェフリー・B. カー:河田光博	エルゼビア・ジャパン(発売:医歯薬出版)	201301	1	9,720
37	新発生学	フルカラー新装版	白澤信行:白澤信行	日本医事新報社	201209	1	3,207
38	新微生物学		舘田一博:松本哲哉	日本医事新報社	201606	1	3,110
39	歯科アレルギー-NOW:疾患の基礎と臨床のエッセンシャル		海老原全:松村光明	デンタルダイヤモンド社	201604	1	9,234

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
40	標準微生物学	第12版	中込治:神谷茂	医学書院	201502	1	6,804
41	微生物学・臨床微生物学・医動物学		一山智:田中美智男	医学書院	201312	1	5,248
42	口腔病変クローズアップ		高田隆:小川郁子	デンタルダイヤモンド社	201003	1	6,804
43	イラストレイテッド ハーパー・生化学	原書30版	ハロルド・アンソニー・ハーパー	丸善出版	201611	1	7,678
44	口腔生化学サイドリーダー	第6版	金森孝雄	学建書院	201604	1	3,499
45	スタンダード生化学・口腔生化学	第3版	池尾隆:加藤靖正	学建書院	201604	1	8,553
46	カラー図解見てわかる生化学	第2版	ジャン・クールマン	メディカル・サイエンス・インターナショナル	201504	1	6,804
47	レーニンジャーの新生化学:生化学と分子生物学の基本原理 下	第6版	アルバート・L. レーニンジャー	広川書店	201503	1	8,553
48	レーニンジャーの新生化学:生化学と分子生物学の基本原理 上	第6版	アルバート・L. レーニンジャー	広川書店	201502	1	8,553
49	ストライヤー生化学	第7版	ジェレミー・M. バーグ:ジョン・L. ティモクスコ	東京化学同人	201303	1	13,510
50	標準生化学		藤田道也	医学書院	201208	1	4,860
51	口腔生化学	第5版	畑隆一郎:早川太郎	医歯薬出版	201106	1	9,234
52	はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学:生物学を学んでいない人でもわかる目で見える教科書	改訂第2版	前野正夫:磯川桂太郎	羊土社	200802	1	3,693
53	今日の治療薬:解説と便覧. 2018年版		浦部晶夫:島田和幸	南江堂	201801	1	4,471
54	歯科薬物療法学	第6版	筒井健夫	一世出版	201703	1	4,860
55	イラストレイテッド薬理学	原書6版	リチャード・A. ハーヴェイ:カレン・ウェイレン	丸善出版	201612	1	7,581
56	よくわかる! 疾患別歯科医療面接:服用薬剤とサンプル症例から学ぶ		長坂浩:山口秀紀	クインテッセンス出版	201606	1	8,262
57	薬. '17/'18		朝波惣一郎:王宝禮	クインテッセンス出版	201603	1	4,860
58	新薬理学	フルカラー新装版	安原一	日本医事新報社	201506	1	3,110
59	標準薬理学	第7版	飯野正光:鈴木秀典	医学書院	201504	1	6,318
60	歯科医薬品処方集:ポケット版		全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会	医歯薬出版	201501	1	3,888
61	歯科におけるくすりの使い方. 2015-2018		金子明寛:須田英明	デンタルダイヤモンド社	201410	1	7,776
62	薬. '15/'16		朝波惣一郎:王宝禮	クインテッセンス出版	201409	1	4,860
63	歯科用薬剤ガイド:症例別処方プログラム		日本歯科薬物療法学会	デンタルダイヤモンド社	201406	1	3,499
64	はじめの一歩のイラスト薬理学:薬がどうして効くのか目で見えてよくわかる教科書		石井邦雄	羊土社	201312	1	2,818
65	現代歯科薬理学	第5版	大谷啓一:鈴木邦明	医歯薬出版	201202	1	8,748
66	乳幼児から高齢者まですべての患者さんへのフッ化物活用ガイド:高濃度フッ化物配合歯磨剤対応版		荒川浩久	インターアクション	201712	1	6,220
67	歯科衛生士のためのペリオ・インプラント重要12キーワードベスト240論文		和泉雄一:佐藤秀一	クインテッセンス出版	201712	1	8,553
68	オーラルフレイルQ&A:口からはじまる健康長寿		平野浩彦:飯島勝矢	医学情報社	201711	1	2,916
69	歯科衛生士のための地域ケア会議必携マニュアル		日本歯科衛生士会:秋野憲一	医歯薬出版	201711	1	1,944
70	ライフステージに沿ったこれからの予防実践book		深川優子	デンタルダイヤモンド社	201710	1	3,888
71	地域包括ケアと口腔ケア		田村清美:渋谷恭之	口腔保健協会	201708	1	2,430
72	すぐに知りたい! 口腔内規格写真クイックQ&A		片山章子:片山達治	デンタルダイヤモンド社	201708	1	3,888
73	疾患を有する高齢者の口腔健康管理		下山和弘:羽村章	口腔保健協会	201707	1	3,888
74	世界最強の歯科保健指導:診療室から食育まで. 上巻		岡崎好秀	クインテッセンス出版	201707	1	11,664
75	3D根管解剖:CGを操作してイメージする髓腔開拓・根管形成		木ノ本嘉文	医歯薬出版	201707	1	11,664
76	口腔ケア基礎知識:口腔ケア4級・5級認定基準準拠	改訂版	日本口腔ケア学会	永末書店	201706	1	3,402
77	チェアサイドオーラルフレイルの診かた:歯科医院で気づく, 対応する口腔機能低下症		菊谷武	医歯薬出版	201706	1	5,832
78	新編専門的口腔ケア要介護・有病者・周術期・認知症への対応		角保徳:大野友久	医歯薬出版	201706	1	4,082

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
79	母子にやさしい歯科医院:“女性のライフステージ”と口腔管理		和泉雄一	デンタルダイヤモンド社	201706	1	7,776
80	オーラルケアバイブル:女性のためのOral Health教室	新訂版	濱田真理子	医学情報社	201705	1	2,916
81	超高齢社会におけるドライマウスへの対応:いま、ドライマウスにどう取り組むべきか		斎藤一郎	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201704	1	3,693
82	Impact:Color and internal shape		山本尚吾	医歯薬出版	201704	1	14,580
83	歯科保健指導関係資料. 2017年版			口腔保健協会	201703	1	2,916
84	口腔保健・予防歯科学		安井利一・宮崎秀夫	医歯薬出版	201702	1	9,720
85	ハイジニストワークのクリニカルQA:DHが知りたい“技術”と“コミュニケーション”の悩		長谷ますみ・大坪保子	デンタルダイヤモンド社	201701	1	4,665
86	99%保険治療でも他院に負けない予防を超える与防歯科		小島理史	クインテッセンス出版	201611	1	5,346
87	実践!オーラルフレイル対応マニュアル		平野浩彦・飯島勝矢	東京都福祉保健財団	201610	1	2,430
88	新お口でこんな動きできるかな?:口の適応力向上トレーニング		藤木辰哉	医学情報社	201610	1	4,374
89	生活参加を支援する口腔ケアプログラムの作り方		館村卓	永末書店	201609	1	3,402
90	がん患者の口腔マネージメントテキスト:看護師がお口のことで困ったら		上野尚雄・山田みつぎ	文光堂	201607	1	4,374
91	基礎からわかる高齢者の口腔健康管理		下山和弘	医歯薬出版	201606	1	4,276
92	日本におけるフッ化物製剤:フッ化物応用の過去・現在・未来	第10版	日本むし歯予防フッ化物協会	口腔保健協会	201605	1	1,166
93	歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル:高齢者編		森戸光彦:日本歯科衛生士会	医歯薬出版	201605	1	3,596
94	撮れる!活かせる!口腔内規格写真		落合真理子	デンタルダイヤモンド社	201604	1	3,402
95	多職種協働チーム先制医療での口腔ケアFAQ50		鴨井久一・菊谷武	一世出版	201603	1	3,402
96	口腔衛生学. 2016		松久保隆:八重垣健	一世出版	201603	1	4,860
97	歯科保健指導関係資料. 2016年版			口腔保健協会	201603	1	2,916
98	新PMTC:予防・メンテナンス・SPTのためのプロケアテクニック		内山茂:波多野映子	医歯薬出版	201603	1	4,276
99	史上最大の暗殺軍団デンタルブラック		奥田克爾	医歯薬出版	201603	1	3,110
100	洗口液なるほど活用術		竹中彰治:興地隆史	デンタルダイヤモンド社	201603	1	3,790
101	口腔診査法:WHOによるグローバルスタンダード	第5版	小川祐司:眞木吉信	口腔保健協会	201602	1	1,749
102	セルフケアのための歯磨剤ガイド:どの成分が何に効くの?	第2版	歯磨剤研究会:伊藤春生	クインテッセンス出版	201602	1	3,693
103	5疾病の口腔ケア. 続		藤本篤士:武井典子	医歯薬出版	201601	1	3,888
104	かとうひさこのブラッシングガイド		加藤久子	医歯薬出版	201511	1	3,693
105	歯科口腔抗菌考		二川浩樹	メディア(文京区)	201511	1	2,624
106	口腔ケア歯科衛生士の役割を問う		鴨井久一:石井拓男	クインテッセンス出版	201509	1	6,804
107	ウィルキンス歯科衛生士の臨床	原著第11版	エスター・M. ウィルキンス:松井恭平	医歯薬出版	201506	1	27,216
108	造血細胞移植患者の口腔ケアガイドライン		日本口腔ケア学会	口腔保健協会	201505	1	1,166
109	よくわかる歯科衛生過程		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版	201505	1	3,110
110	歯科衛生ケアプロセス実践ガイド		佐藤陽子:齋藤淳	医歯薬出版	201504	1	2,916
111	はじめましょう有病者の口腔ケア:歯科衛生士のためのチェックポイント		神部芳則:井上千恵子	学建書院	201504	1	3,402
112	歯科衛生研究の進め方論文の書き方	第2版	武井典子:金澤紀子	医歯薬出版	201504	1	2,818
113	歯科保健指導関係資料. 2015年版			口腔保健協会	201503	1	2,916
114	脳卒中患者の口腔ケア	第2版	植田耕一郎	医歯薬出版	201503	1	4,665
115	ウォールフェルの歯科解剖学図鑑	最新第8版 ペー	リッケン・C. シャイド:ガブリエラ・ワイス	ガイアブックス	201503	1	9,525
116	歯科衛生過程HAND BOOK:やさしく学べる・これならわかる		吉田直美:遠藤圭子	クインテッセンス出版	201502	1	3,110
117	基礎から学ぶ歯の解剖		前田健康:酒井英一	医歯薬出版	201412	1	2,916

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
118	健康寿命の延伸をめざした口腔機能への気づきと支援: ライフステージごとの機能を守り育てる		向井美恵: 井上美津子	医歯薬出版	201411	1	3,693
119	歯の比較解剖学	第2版	後藤仁敏: 大泰司紀之	医歯薬出版	201404	1	9,720
120	歯科保健指導関係資料. 2014年版			口腔保健協会	201403	1	2,916
121	ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック: 歯科口腔保健の推進に向けて		日本歯科衛生士会	医歯薬出版	201403	1	3,499
122	徹底ガイド口腔ケアQ&A: すべての医療従事者・介護者のために	第2版	吉田和希	総合医学社	201403	1	3,110
123	歯の形態標本ガイド: 人の歯の詳細図版集決定版!		チャールズ・J. グッドエーカー: 金英姫	ガイアブックス	201402	1	1,749
124	“ホント”を学びたい人のための口腔ケア		泉沢勝憲	デンタルダイヤモンド社	201401	1	5,832
125	周術期口腔機能管理の基本がわかる本: 基礎知識から口腔管理の実践まで		梅田正博	クインテッセンス出版	201312	1	7,776
126	フッ化物をめぐる誤解を解くための12章		眞木吉信	医歯薬出版	201312	1	2,332
127	口腔ケアのプロになる		角保徳	医学と看護社	201311	1	3,402
128	がん患者さんの口腔ケアをはじめましょう		槻木恵一: 神部芳則	学建書院	201310	1	2,430
129	基礎から学ぶ口腔ケア: 口をまもる生命をまもる	第2版	菊谷武	学研メディカル秀潤社(発売: 学研プラス)	201309	1	2,332
130	口腔ケアの疑問解決Q&A: 評価・アセスメントから病態にあわせたアプローチまで		渡邊裕(歯科)	学研メディカル秀潤社(発売: 学研プラス)	201309	1	2,332
131	歯科医院力を高める保健指導実践ガイド		深井穂博	医歯薬出版	201308	1	3,499
132	はじめて学ぶ歯科衛生士のための歯科介護	第3版	本間和代: 江川広子	医歯薬出版	201307	1	5,248
133	5疾病の口腔ケア: チーム医療による全身疾患対応型口腔ケアのすすめ		藤本篤士	医歯薬出版	201304	1	3,888
134	オーラルヘルスケア事典: お口の健康を守るために		松田裕子: 麻賀多美代	学建書院	201303	1	2,527
135	歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック		尾崎哲則: 埴岡隆	医歯薬出版	201303	1	2,332
136	なぜ「黒岩恭子の口腔ケア&口腔リハビリ」は食べられる口になるのか		北村清一郎: 柿木隆介	デンタルダイヤモンド社	201303	1	4,860
137	口腔と全身の健康: 第22回日本歯科医学会総会記念出版		日本歯科医学会	医歯薬出版	201211	1	1,263
138	息さわやかにQ&A: 口臭予防の基礎知識		川口陽子(歯科学): 植野正之	医学情報社	201211	1	2,916
139	イラスト顎顔面解剖学		松村譲児: 島田和幸	中外医学社	201210	1	4,082
140	新編5分でできる口腔ケア: 介護のための普及型口腔ケアシステム		角保徳	医歯薬出版	201209	1	2,332
141	4疾病のオーラルマネジメント: がん/脳卒中/糖尿病/急性心筋梗塞/周術期の口腔機能管理		足立了平	金芳堂	201206	1	5,443
142	きちんと噛める口が健康をつくる: 頭のてっぺんからつま先まで若返る		辻野元博	パブラボ(発売: 星雲社)	201206	1	1,458
143	歯科衛生学総論		遠藤圭子	医歯薬出版	201206	1	2,624
144	歯科から発信! あなたにもできる禁煙支援		稲垣幸司: 植木良恵	クインテッセンス出版	201205	1	3,110
145	口腔ケアガイド		日本口腔ケア学会	文光堂	201204	1	2,721
146	歯科衛生士のための口腔介護実践マニュアル: 手作り媒体で楽しくお口の健康教育!		浜元一美: 祖父江鎮雄	メディカ出版	201203	1	2,721
147	歯ブラシ事典	第6版	松田裕子: 及川智香子	学建書院	201202	1	1,944
148	磨ける・伝わるブラッシング指導: 6日間で極める!		橋田康子: 山本静	クインテッセンス出版	201201	1	3,110
149	お口の健康ア・ラ・カルト		鴨井久一	医歯薬出版	201111	1	2,527
150	地域歯科医院による有病者の病態別・口腔管理の実践		菊谷武: 阪口英夫	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201109	1	4,374
151	歯科衛生士のための高齢者看護と生活援助		森田婦美子: 祖父江鎮雄	久美(発売: 電気書院)	201105	1	2,332
152	新フッ化物ではじめるむし歯予防		筒井昭仁: 八木稔	医歯薬出版	201103	1	3,693
153	黒岩恭子の口腔ケア: 在宅・施設・入院患者の口腔を悪化させないために		黒岩恭子	デンタルダイヤモンド社	201103	1	3,888
154	認知症高齢者の口腔ケアの理解のために		日本口腔ケア学会: 夏目長門	口腔保健協会	201101	1	1,944
155	オーラルヘルスアトラス: 世界の口腔健康関連地図		ロビー・ビーグルホール: ハビブ・ベンジアン	口腔保健協会	201101	1	4,082
156	歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学		井出吉信: 山田好秋	医歯薬出版	201101	1	4,276

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
157	では、予防歯科の話をしようか：マーロウ先生の北欧流レッスン		大野純一(歯科医)	医歯薬出版	201012	1	2,527
158	口腔顎顔面疾患学：臨床口腔病理診断学		立川哲彦	学建書院	201012	1	6,415
159	口腔機能の維持・向上による全身状態改善のためのオーラルケア・マネジメント実践マニュアル		奥田聖介：武井典子	医歯薬出版	201010	1	2,721
160	フッ化物応用の科学		日本口腔衛生学会	口腔保健協会	201009	1	3,304
161	一歩進んだ口腔ケア		足立了平	金芳堂	201009	1	3,693
162	エナメル質・象牙質・補綴物のプロフェッショナルケア：歯面研磨から歯面修復へのパラダイムシフト		加藤正治	クインテッセンス出版	201008	1	8,359
163	これからはじめる口腔機能向上事業ガイドブック：介護の味方		秋房住郎	永未書店	201006	1	2,430
164	歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック	第2版	宮田孝義：三浦英司	学建書院	201803	1	1,458
165	歯科衛生士のための歯科診療報酬入門		日本歯科衛生士会	医歯薬出版	201705	1	3,596
166	歯科衛生士パスポート+Web。「全身疾患医療面接」編		山口秀紀：藤井一維	メディア(文京区)	201606	1	2,673
167	歯科衛生士の仕事：歯科衛生士は診療室の司令塔		筋野真紀：高橋裕美	グレードル	201602	1	3,207
168	プロフェッショナルワークバランス：ハイジニストワークでつまづかないための78の秘訣		土屋和子	医歯薬出版	201509	1	2,916
169	教えて先輩！ハイジニストワークお悩み相談室へようこそ		青木薫	デンタルダイヤモンド社	201506	1	3,304
170	事例から学ぶ歯科衛生士のグッドコミュニケーション		中村千賀子：白田千代子	医歯薬出版	201503	1	2,721
171	みるみる身につく歯科衛生士のコミュニケーション力		中村千賀子：吉田直美	口腔保健協会	201408	1	1,944
172	審美歯科		末瀬一彦：土屋和子	医歯薬出版	201307	1	4,276
173	プロフェッショナルコミュニケーション：土屋和子のデンタルNLP&LABプロフィール		土屋和子	医歯薬出版	201302	1	2,332
174	新・上間京子のシャープニングそのまんま図鑑		上間京子	デンタルダイヤモンド社	201210	1	2,916
175	歯科衛生士のためのホワイトニング	新版	近藤隆一：加藤久子(歯科衛生士)	医歯薬出版	201210	1	3,693
176	歯科衛生士のための看護学大意	第3版	柴原孝彦	医歯薬出版	201204	1	2,332
177	DHが行うインプラントメンテナンスのスタンダード		岩崎美和：木津康博	デンタルダイヤモンド社	201111	1	3,499
178	歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション		金子芳洋：日本歯科衛生士会	医歯薬出版	201104	1	2,916
179	有病者の対応チェアサイドSOSブック：歯科衛生士必携！		山近重生：中川達哉	クインテッセンス出版	201010	1	5,054
180	目で見るペリオドンタルインスツルメンテーション. 4		ジル・S. ニールド・ゲリッグ：和泉雄一	医歯薬出版	201004	1	4,860
181	歯科衛生士のためのインプラントメンテナンス		加藤久子(歯科衛生士)	医歯薬出版	201004	1	3,693
182	The悩める歯科衛生士：インスツルメンテーション&コミュニケーション編		荒井郷子：歯科衛生士編集部	クインテッセンス出版	201002	1	4,082
183	Ru：歯科衛生士・アシスタントポケットブック		蓮井義則：三木千津	デンタルダイヤモンド社	201001	1	2,527
184	目で見るペリオドンタルインスツルメンテーション. 2	原著第6版	ジル・S. ニールド・ゲリッグ：和泉雄一	医歯薬出版	201001	1	4,860
185	目で見るペリオドンタルインスツルメンテーション. 3	原著第6版	ジル・S. ニールド・ゲリッグ：和泉雄一	医歯薬出版	200912	1	4,860
186	Asunaro：歯科衛生士臨床ポケットブック		蓮井義則：三木千津	デンタルダイヤモンド社	200911	1	3,110
187	The悩める歯科衛生士：私の悩みを聞いてください！判断力・診査編		荒井和美：歯科衛生士編集部	クインテッセンス出版	200910	1	6,318
188	目で見るペリオドンタルインスツルメンテーション. 1	原著第6版	ジル・S. ニールド・ゲリッグ：吉田直美	医歯薬出版	200910	1	4,860
189	歯科衛生士のための歯周治療ガイドブック：キャリアアップ・認定資格取得をめざして		日本歯周病学会	医歯薬出版	200909	1	5,637
190	土屋和子のプロフェッショナルハイジニストワーク		土屋和子	医歯薬出版	200812	1	4,082
191	歯科衛生士さんのためのシャープニング：誰でもできる新田式シャープニング法		新田浩(歯科医)：茂木美保	デンタルダイヤモンド社	200707	1	8,748
192	歯科衛生士さんのための成功する定期健診のすすめ方		黒田昌彦：品田和美	デンタルダイヤモンド社	200704	1	8,748
193	歯科衛生士のための話せる・わかりあえるコミュニケーション事始め		阿部恵	クインテッセンス出版	200703	1	2,916
194	Osarai：歯科衛生士ポケットブック		蓮井義則：尾崎和美	デンタルダイヤモンド社	200703	1	3,110
195	輝く華の歯科衛生士：これからの歯科医院経営をチームで考える		小原啓子：竹元雅彦	医歯薬出版	200611	1	2,721

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
196	歯科衛生士のための障害者歯科	第3版	足立三枝子:緒方克也	医歯薬出版	200610	1	3,499
197	歯科衛生士のための感染予防スタンダード		井上孝	医歯薬出版	200610	1	2,332
198	歯科衛生士さんのためのブラッシング指導		丸森英史	デンタルダイヤモンド社	200604	1	8,748
199	歯科衛生士さんのための症例でみるオーダーメイドのPMTC		村上充:村上恵子	デンタルダイヤモンド社	200604	1	8,748
200	歯科衛生士のためのヘルスカウンセリング	改訂版	宗像恒次:足立優	クインテッセンス出版	200601	1	6,318
201	歯科衛生士のためのクリニカルインストルメンテーション		佐々木妙子	クインテッセンス出版	200511	1	12,636
202	歯科衛生士さんのための口腔内撮影術:デジカメ		丸茂義二	デンタルダイヤモンド社	200504	1	8,748
203	歯科衛生士のための高齢者歯科学		渡邊誠(生理学):岩久正明	永末書店	200503	1	2,624
204	歯科衛生士のためのステップアップ!歯周治療:初診からメンテナンスまで		大住祐子	クインテッセンス出版	200210	1	12,636
205	歯科衛生士のための高齢者とのグッドコミュニケーション		中村千賀子	医歯薬出版	200110	1	2,721
206	ひとことじゃいえないモチベーション		浦野直子:野村正子	医歯薬出版	200002	1	3,693
207	公衆衛生		高橋茂樹:西基	海馬書房	201711	1	5,054
208	いますぐはじめる!やさしい感染管理		山口千緒里:小宮山弥太郎	デンタルダイヤモンド社	201606	1	3,402
209	Health Dentistry:0歳から“噛む”で健康長寿		増田純一	グレードル	201503	1	4,860
210	新衛生・公衆衛生学	改訂第6版	大井田隆:兼板佳孝	日本医事新報社	201202	1	3,110
211	標準公衆衛生・社会医学	第2版	岡崎勲:豊嶋英明	医学書院	200904	1	5,540
212	ジャパニーズエステティックデンティストリー:日本発・世界を牽引する最新審美症例集		山崎長郎	クインテッセンス出版	201712	1	6,220
213	下野先生に聞いてみた. 1		下野正基	クインテッセンス出版	201712	1	4,665
214	日本外傷歯学会学術用語集	第1版	日本外傷歯学会	クインテッセンス出版	201712	1	3,693
215	インプラント材料Q&A臨床の疑問に答えるマテリアル編		吉成正雄	医歯薬出版	201712	1	8,748
216	病気がみえる. vol. 7		医療情報科学研究所	メディックメディア	201711	1	3,790
217	包括的歯科診療入門:現象と時間の視点から		小川廣明	デンタルダイヤモンド社	201711	1	12,636
218	口から見える貧困:健康格差の解消をめざして		兵庫県保険医協会	クリエイツかもがわ	201710	1	1,555
219	歯科がかかわる地域包括ケアシステム入門		市川哲雄:白山靖彦	医歯薬出版	201709	1	4,374
220	PRD YEAR BOOK:世界が認めた「あの」テクニクの臨床応用		岩田健男:山崎長郎	クインテッセンス出版	201708	1	6,220
221	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. 11		医療情報科学研究所	メディックメディア	201706	1	3,693
222	歯科発アクティブライフプロモーション21:健康増進からフレイル予防まで		花田信弘:武内博朗	デンタルダイヤモンド社	201704	1	7,776
223	日本人に適した審美修復治療の理論と実際		貞光謙一郎	医歯薬出版	201704	1	15,552
224	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 5	第2版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201703	1	3,110
225	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 2	改訂第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201703	1	3,499
226	臨床歯科医学・口腔外科学:言語聴覚士のための基礎知識	第2版	夏目長門	医学書院	201612	1	4,082
227	ジャパニーズエステティックデンティストリー. ISSUE 2016/2017			クインテッセンス出版	201611	1	5,832
228	PRD YEAR BOOK:選ばれた最高の論文と世界が認めたテクニック症例集. 2016		岩田健男:山崎長郎	クインテッセンス出版	201609	1	5,832
229	病気がみえる:チーム医療を担う医療人共通のテキスト. vol. 1	第5版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201603	1	3,499
230	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学:器質性構音障害	第2版	道健一:今井智子	医歯薬出版	201603	1	4,082
231	スタンダード社会歯科学	第6版	石井拓男:尾崎哲則	学建書院	201603	1	4,374
232	医療に恵まれないところでの歯科保健の手引き	改訂版	マレイ・ディクソン:村居正雄	口腔保健協会	201506	1	3,304
233	災害時の歯科保健医療対策:連携と標準化に向けて		中久木康一:北原稔	一世出版	201506	1	1,944
234	学びなおしEBM GRADEアプローチ時代の臨床論文の読みかた:論文が読める!着眼点がわかる!		豊島義博:南郷里奈	クインテッセンス出版	201506	1	8,748

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
235	医療安全HAND BOOK		眞木吉信:松田裕子	クインテッセンス出版	201504	1	3,110
236	インシデントの事例と対策:歯科衛生士のヒヤリ・ハット		松田裕子	口腔保健協会	201503	1	2,527
237	はじめよう在宅歯科医療:在宅療養を支える“かかりつけ歯科医の役割”と“地域		細野純:富田かをり	デンタルダイヤモンド社	201503	1	4,665
238	イラストで見る天然歯のための審美形成外科		ジョヴァンニ・ズッチェリ:ガイド・ゴリ	クインテッセンス出版	201410	1	48,600
239	病気がみえる. 8	第2版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201409	1	3,207
240	病気がみえる. 3	第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201409	1	3,207
241	病気がみえる. 9	第3版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201303	1	3,110
242	病気がみえる. 4	第2版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201303	1	3,402
243	病気がみえる. 10	第3版	医療情報科学研究所	メディックメディア	201303	1	3,402
244	病気がみえる. 6		医療情報科学研究所	メディックメディア	200911	1	2,916
245	歯科医院での実用英会話:1ヶ月で身につく! 音声DL付	第2版	土田和範:廣島英雄	医歯薬出版	201712	1	3,499
246	疾患別歯学英语単語1000		近藤真治	クインテッセンス出版	201711	1	2,916
247	8か国語基本歯科用語集		川口陽子:竹原祥子	口腔保健協会	201605	1	1,555
248	ベーシック歯科医学英語ワークブック		藤田淳一:岡村友玄	金芳堂	201505	1	2,527
249	歯科矯正学事典	新版	亀田晃	クインテッセンス出版	201801	1	17,496
250	歯科衛生士のためのポケット版最新歯科用語辞典:すぐひける、現場で役立つ		栢豪洋:升井一朗	クインテッセンス出版	201612	1	3,402
251	常用歯科辞典	第4版	中原泉:藤井一維	医歯薬出版	201605	1	14,580
252	老年歯科医学用語辞典	第2版	日本老年歯科医学会	医歯薬出版	201605	1	4,082
253	歯科聞き言葉辞典:ポケット版		小島三知長:三鶯雅子	医歯薬出版	201009	1	2,332
254	ハインマン歯科英和辞典	第2版	ジュニファー・E. H. フェアルポ	医歯薬出版	200411	1	5,637
255	ポケット英和医学用語・略語辞典	第20版	「ポケット英和医学用語・略語辞典」編集委員会	南山堂	201801	1	972
256	医学の歴史大図鑑		スティーヴ・パーカー:酒井シヅ	河出書房新社	201710	1	7,581
257	必ずアクセプトされる医学英語論文:完全攻略50の鉄則		康永秀生	金原出版	201601	1	3,110
258	南山堂医学大辞典	第20版		南山堂	201503	1	13,608
259	医学英語の基本用語と表現:これだけは知っておきたい	第3版	藤枝宏寿:玉巻欣子	メジカルビュー社	201312	1	1,944
260	和英で引ける医学英語フレーズ辞典:もうプレゼンで困らない!		伊達勲	メジカルビュー社	201303	1	2,721
261	最新医学略語辞典	第5版	斎藤泰一:清水哲也	中央法規出版	201005	1	4,471
262	医学書院医学大辞典	第2版	伊藤正男:井村裕夫	医学書院	200902	1	17,496
263	ステッドマン医学大辞典:英和・和英	改訂第6版	ステッドマン医学大辞典編集委員会	メジカルビュー社	200802	1	15,552
264	医学英和大辞典	改訂12版	西元寺克礼:佐藤登志郎	南山堂	200503	1	9,720
265	ステッドマン医学略語辞典		高久史麿	メジカルビュー社	200111	1	6,318
266	メロー二図解医学辞典	改訂第2版	ピアジオ・ジョン・メローニ:高久史麿	南江堂	199303	1	8,964
267	医学英語論文執筆のための医学英語実用語法辞典:和英索引付		海老塚博	メジカルビュー社	199011	1	5,346
268	知っておきたい顎・歯・口腔の画像診断		山下康行:金田隆	学研メディカル秀潤社(発売:学研プラス)	201708	1	7,192
269	Case Based Review画像診断に強くなる顎口腔領域の疾患		金田隆:久山佳代	永末書店	201706	1	8,748
270	新歯科放射線学	第2版	金田隆:櫻井孝	医学情報社	201703	1	9,234
271	歯科における放射線の役割:一万枚のパノラマ写真から学んだ		橋本光二	口腔保健協会	201703	1	1,555
272	デジタルデンティストリー:医療情報とデジタル画像超入門		有地榮一郎:勝又明敏	永末書店	201501	1	5,346
273	歯科放射線学	第5版	岡野友宏:小林馨	医歯薬出版	201310	1	9,720

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
274	臨床検査医学総論		矢富裕: 矢富裕	医学書院	201204	1	3,110
275	生理検査学・画像検査学		谷口信行: 谷口信行	医学書院	201203	1	4,471
276	標準放射線医学	第7版	西谷弘: 遠藤啓吾	医学書院	201108	1	9,720
277	歯科放射線学サイドリーダー	第5版	代居敬: 山田英彦	学建書院	201007	1	3,888
278	一からわかる抜歯の臨床テクニック: 動画DVD付	第2版	角保徳	医歯薬出版	201707	1	11,664
279	落ちない接着: その理論と臨床的ストラテジー		宮崎真至	永末書店	201703	1	5,346
280	保存修復学専門用語集	第2版	日本歯科保存学会	医歯薬出版	201703	1	3,693
281	一から学ぶスケーリング・ルートプレーニング: 一歯ずつわかるパーフェクトSRP&メンテナンス		金子真弓: 佐野明美	医歯薬出版	201610	1	5,346
282	かとうひさこのパーフェクトスケーリングテクニック		加藤久子	医歯薬出版	201609	1	4,860
283	歯は抜かないでも治りますよ! : 安心してください		野口道生	ルネッサンス・アイ(発売: 白順社(ゆうプロジェ))	201604	1	1,263
284	10ポイントで上達SRP: デキるDHを目指して!		藤森直子	医学情報社	201601	1	3,693
285	抜歯器具: その奇妙なものたちの物語		坂下英明	口腔保健協会	201508	1	1,749
286	歯牙破折の分類・診査・診断・マネージメント		石井宏: 尾上正治	デンタルダイヤモンド社	201506	1	7,776
287	科学的根拠に基づく抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン	2015年改訂版	日本有病者歯科医療学会: 日本口腔外科学会	学術社	201503	1	2,721
288	抜歯テクニックコンプリートガイド: 安全にうまく抜歯するためのさまざまなアプローチ		坂下英明: 近藤壽郎	クインテッセンス出版	201503	1	11,664
289	歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック		渡辺孝章: 小林一行	学建書院	201412	1	1,458
290	自家歯牙移植	増補新版	月星光博	クインテッセンス出版	201405	1	14,580
291	MTAの臨床: よりよいエンドの治癒を目指して		小林千尋	医歯薬出版	201312	1	4,471
292	スケーリングの基礎力アップ! DHTレーニングドリル		加藤久子(歯科衛生士)	医歯薬出版	201305	1	2,916
293	歯の長期保存の臨床: 私はこうして歯を守る!		下地勲: 千葉英史	デンタルダイヤモンド社	201304	1	4,665
294	保存修復学	第6版	千田彰: 寺下正道	医歯薬出版	201301	1	8,748
295	新・上間京子のシャープニングそのまんま図鑑		上間京子	デンタルダイヤモンド社	201210	1	2,916
296	保存修復		片山直: 小松正志	クインテッセンス出版	201209	1	2,916
297	保存修復学サイドリーダー	第4版	河野善治: 平山聡司	学建書院	201207	1	2,527
298	スキルアップ! スケーリングテクニック: ベーシックからアドバンスまで		加藤久子(歯科衛生士)	医歯薬出版	201109	1	4,082
299	Dr. EZAWAのルートプレーニングのエキスパートになろう!		江澤庸博	医歯薬出版	201109	1	3,888
300	SRPのArt & Science: 長谷ますみ流クリニカルメソッド		長谷ますみ	デンタルダイヤモンド社	201108	1	4,860
301	保存修復学21	第4版	赤峰昭文: 田上順次	永末書店	201104	1	8,748
302	月刊下地勲: 歯はここまで残せるーセカンドオピニオンの実践ー		下地勲	デンタルダイヤモンド社	201103	1	2,916
303	必ず上達抜歯手技		堀之内康文	クインテッセンス出版	201009	1	9,331
304	歯の硬組織・歯髄疾患保存修復・歯内療法		千田彰: 中村洋	医歯薬出版	201004	1	4,082
305	Suction Denture/パーフェクトガイド: 義歯のスペシャリストが伝授する吸着下顎総義歯のコツ		佐藤勝史	デンタルダイヤモンド社	201801	1	7,776
306	The Fabric of the Modern Implantology: 近代インプラント治療のテクニックとサイエンス		船登彰芳: 山田将博	医歯薬出版	201712	1	14,580
307	CAD/CAMマテリアル完全ガイドブック: 臨床に役立つ材料選択と接着操作		伴清治	医歯薬出版	201712	1	4,665
308	This is Suction Denture!		佐藤勝史	デンタルダイヤモンド社	201712	1	8,748
309	患者さんの心をつかむ総義歯臨床		森谷良彦: 深水皓三	インターアクション	201711	1	7,095
310	下顎総義歯吸着テクニックザ・プロフェッショナル: Class1/2/3の臨床と技工、そしてエステティック		阿部二郎: 岩城謙二	クインテッセンス出版	201711	1	11,664
311	パーシャルデンチャー治療失敗回避のためのポイント47		山下秀一郎: 佐々木啓一	クインテッセンス出版	201711	1	11,664
312	総義歯治療で最も大事なことは何か?		阿部二郎: 亀田行雄	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201711	1	4,665

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
313	そうだったのか！CR修復：CR修復に悩んでいる人に読んでほしい本		須崎明	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201709	1	7,776
314	デンチャーメンテナンス		谷田部優・前畑香	デンタルダイヤモンド社	201709	1	3,402
315	基礎から学ぶCAD/CAMテクノロジー		日本デジタル歯科学会	医歯薬出版	201708	1	6,804
316	Step by stepでみえる・わかる成功するインプラント治療の基本原則		河津寛・渡辺隆史	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201708	1	7,776
317	インプラント治療の理論と実践：低侵襲で長期安定のために		中村社綱	医歯薬出版	201708	1	24,300
318	ベーシックプレスセラミックス：失敗しないためのプレスセラミックスガイド		赤坂政彦	クインテッセンス出版	201707	1	5,054
319	続このインプラントなに？：他医院で治療されたインプラントへの対応ガイド		築瀬武史：竹島明道	医歯薬出版	201706	1	9,720
320	冠橋義歯補綴学テキスト	第2版	會田雅啓：魚島勝美	永末書店	201706	1	8,748
321	歯周病患者のインプラント治療		弘岡秀明：古賀剛人	医歯薬出版	201706	1	17,982
322	訪問診療における義歯修理のコツ：限られた時間・限られた器材で行う		水口俊介：戸原玄	医歯薬出版	201706	1	4,665
323	写真でマスターする寒天アルジネート連合印象による誰でもできる簡単精密印象		新井俊樹：山崎隼	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201706	1	6,318
324	インプラント周囲炎とレーザー：効果的で安全なテクニックとエビデンスによる検証		日本レーザー歯学会：渡辺久	クインテッセンス出版	201705	1	8,262
325	コンプリートデンチャー：ランクアップのための知恵と技		鈴木哲也：古屋純一	デンタルダイヤモンド社	201704	1	11,664
326	歯科技工管理工学		全国歯科技工士教育協議会	医歯薬出版	201703	1	5,248
327	インプラントオーバーデンチャーの臨床とエビデンスQ&A		前田芳信：和田誠大	クインテッセンス出版	201703	1	14,094
328	有床義歯技工学：最新歯科技工士教本		全国歯科技工士教育協議会	医歯薬出版	201702	1	7,387
329	アナトミーからのインプラント外科手順チェックリスト		ルーイ・アル・ファラジュ：坪井陽一	クインテッセンス出版	201702	1	3,499
330	インプラントのための軟組織マネジメントを極める		牧草一人：小川洋一	クインテッセンス出版	201702	1	4,665
331	よくわかる口腔インプラント学	第3版	赤川安正：松浦正朗	医歯薬出版	201701	1	9,720
332	天然歯審美修復のセオリー 図解Q&A：疑問を即解決！		北原信也：西山英史	クインテッセンス出版	201701	1	9,720
333	「かみつきがいい」入れ歯：かめない義歯のイニシャルプレパレーション		河原英雄	生活の医療	201612	1	4,374
334	補綴装置製作のための汎用CADヒント集：汎用CADによるデジタルデザインthe BASIC		中野田紳一	クインテッセンス出版	201612	1	5,443
335	みるみる理解できる図解スタッフ向けインプラント入門	新版	中島康：柏井伸子	クインテッセンス出版	201612	1	3,499
336	オーラル・フレイルおよびサルコペニアを予防するためのMFTとインプラントの活用		庄野太一郎：五十嵐一	クインテッセンス出版	201610	1	17,010
337	絶対知りた義歯のこと：診療室・病院・訪問・介護の現場すべてに対応		藤本篤士：糸田昌隆	医歯薬出版	201609	1	3,888
338	新・磁性アタッチメント：磁石を利用した最新の補綴治療		田中貴信：會田英紀	医歯薬出版	201609	1	15,552
339	一■刀■両■断■！高齢者補綴治療のお悩み解決：Q&Aで学ぶ理論と70のコツ		佐藤裕二	医歯薬出版	201609	1	5,832
340	超高齢社会に適應する補綴治療のための電鍍加工		林昌二	医歯薬出版	201609	1	4,860
341	デンチャースペース義歯：その理論と製作法		田中五郎	デンタルダイヤモンド社	201609	1	5,832
342	いまこそ知りたいそろそろ知りたいデンチャーQ&A		谷田部優・前畑香	デンタルダイヤモンド社	201609	1	3,110
343	全部床義歯実況講義：フルマウスリコンストラクションの第一歩		水口俊介	デンタルダイヤモンド社	201605	1	6,318
344	口腔インプラント治療指針 2016		日本口腔インプラント学会	医歯薬出版	201605	1	2,430
345	全部床義歯学サイドリーダー	第5版	黒岩昭弘	学建書院	201605	1	3,888
346	アナトミー：インプラントのための外科術式と画像診断		ルーイ・アル・ファラジュ：坪井陽一	クインテッセンス出版	201605	1	24,300
347	総義歯吸着への7つのステップ+Q&A：コピーデンチャーテクニックと総義歯臨床Q&A	増補版	村岡秀明	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201604	1	7,776
348	ザベーシックプレーンズフォアトウースプレパレーション：支台歯形成の面基準		西川義昌：桑田正博	クインテッセンス出版	201604	1	6,804
349	SAFE Troubleshooting Guide. volume 1(機械・構造的)		寺本昌司：山羽徹	クインテッセンス出版	201604	1	12,150
350	補綴後のメンテナンス：患者さんと歯科医師のために		石上彦彦：加藤均	口腔保健協会	201604	1	3,888
351	寒天アルジネート連合印象を再考する		吉田恵一：加藤均	口腔保健協会	201603	1	3,304

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
352	DENTURE 1st book:ビジュアルでわかる総義歯作製“超”入門		前畑香	デンタルダイヤモンド社	201603	1	6,804
353	スタンダードパーシャルデンチャー補綴学	第3版	藍稔:五十嵐順正	学建書院	201603	1	7,290
354	NEXT! コンポジットレジン修復:8 STEPS & 8 CASES		田代浩史:田上順次	テコム出版事業部	201602	1	11,664
355	パーシャルデンチャー活用力:ライフコースに沿った基本から使いこなしまで		和田淳一郎:高市敦士	医歯薬出版	201602	1	7,776
356	インプラントの長期予後確立に向けた治療戦略		牧草一人:小川洋一	クインテッセンス出版	201602	1	4,665
357	無歯顎補綴治療学	第3版	市川哲雄:大川周治	医歯薬出版	201601	1	9,720
358	オーラルリハビリテーションコンセンサス会議議事録		マルコ・エスポージト: ジェロウム・リンデブーム	クインテッセンス出版	201512	1	4,860
359	接着歯学	第2版	日本接着歯学会	医歯薬出版	201512	1	9,720
360	歯科臨床のための顎骨の再生・増生の科学:インプラント治療成功のベシニック		西村正宏	医学情報社	201512	1	4,860
361	evolution前歯部インプラントの最新プロトコル		イナーキ・ガンボレーナ: マルクス・B. プラッツ	クインテッセンス出版	201511	1	40,824
362	補綴臨床テクニカルノート. 咬合編		河野正司:金田恒	医歯薬出版	201510	1	3,304
363	ファイナルレストレーション装着後の口腔周囲筋ケア		鈴木仙一:五十嵐一	クインテッセンス出版	201510	1	17,010
364	修復と補綴のLongevity:治療のRelにサヨナラしよう		坪田有史:柵木寿男	デンタルダイヤモンド社	201510	1	4,860
365	本音を教えて! GPが知りたいインプラント外科Q&A67		岸本裕充:吉竹賢祐	医歯薬出版	201509	1	8,748
366	口腔インプラント治療とリスクマネジメント. 2015		日本口腔インプラント学会	医歯薬出版	201508	1	1,749
367	コンポジットレジン修復のサイエンス&テクニック	改訂版	宮崎真至	クインテッセンス出版	201508	1	6,998
368	今, 保険の義歯をどう作るか:より良いものを, より効率よく		村岡秀明:内田雄望	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201508	1	6,804
369	デジタルデンティストリーイヤーブック. 2015		日本デジタル歯科学会	クインテッセンス出版	201507	1	5,832
370	内藤正裕の補綴臨床:オーバーロードと向き合う		内藤正裕	医歯薬出版	201506	1	15,552
371	自費診療のためのステップアップ審美修復		井上優:荒木秀文	医歯薬出版	201506	1	7,192
372	コンポジットレジン修復の発想転換		田代浩史	医歯薬出版	201506	1	9,331
373	症例から学ぶ咬合論:Dr. 鈴木尚の臨床Advice 深い咬合をやさしく		鈴木尚	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201506	1	7,776
374	インレー修復:たしかな手技・臨床のかんどころ		笹崎弘己	クインテッセンス出版	201506	1	7,776
375	インプラント		末瀬一彦:水木信之	医歯薬出版	201506	1	4,471
376	The CAD/CAMジルコニアセラミックス		浅野正司	医歯薬出版	201505	1	13,608
377	ノンメタルクラスプデンチャー:長く使える設計の原則からメンテナンスまで		谷田部優	クインテッセンス出版	201505	1	7,970
378	要介護者の義歯治療の勤所		下山和弘	医歯薬出版	201505	1	5,637
379	補綴臨床テクニカルノート. 床義歯編		河野正司:金田恒	医歯薬出版	201504	1	3,693
380	総義歯臨床成功へのロードマップ:クラニオフェイスナルパターンに基づく診断から治療戦		吉松繁人	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201504	1	7,776
381	ザ・セラミックワークス:青嶋仁歯科技工臨床写真集		青嶋仁	クインテッセンス出版	201504	1	11,664
382	行田克則の臨床アーカイブ補綴メインの長期100症例		行田克則	デンタルダイヤモンド社	201504	1	19,440
383	これで解決! 欠損補綴とブリッジ修復		森本達也:鈴木尚	医歯薬出版	201504	1	5,832
384	1歯欠損から1歯残存までを補綴するBest Denture Design		谷田部優	デンタルダイヤモンド社	201503	1	6,998
385	補綴治療に必要な咬合の基礎知識:迷ったら原点に戻ろう		田村勝美:田村英之	クインテッセンス出版	201503	1	8,748
386	インプラント治療に役立つ外科基本手技:切開と縫合テクニックのすべて	改訂新版	河奈裕正:朝波惣一郎	クインテッセンス出版	201503	1	8,942
387	プレステクニック実践ガイド:オールセラミックスへの第一歩		川端利明	医歯薬出版	201503	1	5,832
388	インプラントパーシャルデンチャーIARPDの臨床		亀田行雄	デンタルダイヤモンド社	201503	1	8,262
389	歯科補綴学専門用語集. 2015		日本補綴歯科学会	医歯薬出版	201502	1	3,110
390	必ず上達支台歯形成:イラストで見るビギナーのためのパー操作ステップバイステップ		岩田健男	クインテッセンス出版	201502	1	10,692

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
391	パーシャルデンチャー成功のための設計3原則動かない汚さない壊れない		五十嵐順正	クインテッセンス出版	201502	1	6,998
392	デジタルデンティストリーの進化と検証		小川勝久:勝山英明	クインテッセンス出版	201501	1	4,665
393	歯科補綴学模型実習マニュアル	改訂版	矢谷博文:前田芳信	大阪大学出版会	201412	1	4,860
394	インプラントデンティストリーエンサイクロペディア		田中収:嶋田淳	クインテッセンス出版	201412	1	17,496
395	GDS総義歯の真髄		松本勝利	クインテッセンス出版	201412	1	21,384
396	その補綴に根拠はあるか:冠・ブリッジ・義歯・インプラントに対応		前田芳信:池邊一典	クインテッセンス出版	201411	1	9,720
397	誰もが遭遇するインプラント補綴の合併症:原因・対処法・予防策		萩原芳幸	クインテッセンス出版	201411	1	7,290
398	インプラント治療30年:誤解だらけのインプラント治療		松田成彦	一粒書房(発売:学研プラス)	201411	1	972
399	オールセラミック修復成功するための戦略:基礎と臨床応用		岡村光信:坪田有史	医歯薬出版	201410	1	9,720
400	クラウンブリッジ補綴学	第5版	矢谷博文:三浦宏之	医歯薬出版	201410	1	9,720
401	プロビジョナルレストレーション装着期間中の口腔周囲筋トレーニング		五十嵐一:鈴木仙一	クインテッセンス出版	201410	1	17,010
402	実践内部ステインテクニック:True to nature		渡邊一史:青嶋仁	医歯薬出版	201409	1	11,664
403	デジタルデンティストリーイヤーブック. 2014		日本デジタル歯科学会	クインテッセンス出版	201409	1	5,832
404	写真でマスターするインプラント埋入のための前処置, 6つのテクニック		高橋哲	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201409	1	6,318
405	総義歯治療失敗回避のためのポイント45:なぜ合わないのか、なぜ噛めないのか		鱒見進一:大久保力廣	クインテッセンス出版	201409	1	10,692
406	ライフステージに応じたインプラント補綴:「人生90年時代」を見据えた診断と設計		武田孝之:田中秀樹	医歯薬出版	201408	1	11,664
407	歯学生の口腔インプラント学		尾関雅彦:井出吉昭	医歯薬出版	201408	1	7,776
408	口腔インプラント学学術用語集	第3版	日本口腔インプラント学会	医歯薬出版	201407	1	3,402
409	ドクタースタッフ「+患者」のインプラントメンテナンス		吉野敏明:田中真喜	デンタルダイヤモンド社	201407	1	3,888
410	生体と調和する歯周組織にやさしい歯冠修復物:その考え方とラボワーク		遊亀裕一	クインテッセンス出版	201406	1	8,359
411	変化する顎関節と咬合:咬合採得の実践		福島俊士	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201405	1	11,664
412	前歯部欠損補綴のトリートメントデザイン		小川勝久:木本克彦	デンタルダイヤモンド社	201404	1	8,748
413	写真で学ぶ即! 実践臨床技工テクニカルヒント		市川正幸:三山善也	医歯薬出版	201403	1	3,693
414	写真でマスターするきちんと確実にできる全部床義歯の試適・装着		水口俊介:飼馬祥頼	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201403	1	6,318
415	インプラント周囲炎の科学と臨床		小川勝久:勝山英明	クインテッセンス出版	201402	1	4,665
416	インプラント治療の根拠とその実践:スペシャリストが考えるoptimal treatment		米国歯科大学院同窓会	クインテッセンス出版	201401	1	14,580
417	CAD/CAM時代の最新インプラント上部構造		田中譲治	クインテッセンス出版	201401	1	14,580
418	長期経過症例から導く欠損補綴設計のフォーカスポイント		武藤晋也	医歯薬出版	201312	1	11,664
419	総義歯臨床のHands-on:“保険&自費”どちらにも対応します		松下寛:杉山雅規	デンタルダイヤモンド社	201311	1	6,998
420	阿部二郎の総義歯難症例:誰もが知りたい臨床の真実		阿部二郎	医歯薬出版	201310	1	10,692
421	こうすれば防げるインプラントオーバーデンチャーのリペア		石川高行:山森翔太	クインテッセンス出版	201310	1	6,318
422	インプラントレストレーション		山崎長郎	医歯薬出版	201310	1	33,048
423	Cr-Br咬合のルーツ:Gnathologyと対峙した石原咬合論・顎頭安定		河野正司:大石忠雄	医歯薬出版	201309	1	5,054
424	インプラント治療こんなときどうする?		築瀬武史:江黒徹	医歯薬出版	201308	1	7,776
425	102症例で知るインプラント日常臨床:サイナスフロアエレベーションとGBR		日本インプラント臨床研究会	クインテッセンス出版	201308	1	6,804
426	写真でマスターするきちんと確実にできる全部床義歯の咬合採得		水口俊介:飼馬祥頼	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201308	1	6,318
427	歯周病患者におけるインプラント治療のガイドライン		日本臨床歯周病学会:宮本泰和	クインテッセンス出版	201306	1	3,110
428	インプラント修復の臨床基本手技. 1			デンタルダイヤモンド社	201306	1	6,804
429	「補綴力」を高める:今日から活かせるインテリジェンスとテクニック		山影俊一	クインテッセンス出版	201306	1	10,692

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
430	部分床義歯の設計と咬合：インプラントより義歯で治す31提言		丹羽克味	学建書院	201305	1	4,860
431	ひとつではない、噛める総義歯の姿		阿部二郎：生田龍平	クインテッセンス出版	201305	1	4,471
432	審美領域の抜歯即時埋入成功の法則：10年の軌跡から		武田孝之：林揚春	医歯薬出版	201305	1	11,664
433	保険総義歯のススめ：箸の文化に適応した、前歯で噛み切れる		河原英雄：松岡金次	クインテッセンス出版	201304	1	4,374
434	クラウン・ブリッジ補綴学サイドリーダー	第5版	菅沼岳史	学建書院	201304	1	3,110
435	Denture World：義歯で口福になるために		戸田篤	デンタルダイヤモンド社	201304	1	3,304
436	パーシャルデンチャーを得意になろう！：設計原則からトラブル対応までの臨床ガイド		五十嵐順正：若林則幸	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201302	1	7,387
437	これで解決！前歯部補綴		森本達也：鈴木尚	医歯薬出版	201302	1	6,415
438	1からはじめるインプラント治療		小川勝久	クインテッセンス出版	201302	1	7,776
439	塩田博文の義歯力		塩田博文	デンタルダイヤモンド社	201302	1	8,359
440	安全・安心なインプラント治療のために：ジアズ推薦頼れる歯科医		JIADSClub：中村公雄	ダイヤモンド社	201301	1	972
441	「欠損歯列」の読み方、「欠損補綴」の設計：見目が変わる！		本多正明：宮地建夫	クインテッセンス出版	201301	1	15,552
442	写真でマスターする支台歯形成の基本テクニック		小川匠：平林里大	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201211	1	6,318
443	月刊木村洋子：私を魅了したオールオンフォー臨床		木村洋子（歯科医師）	デンタルダイヤモンド社	201211	1	2,916
444	安心・安全なインプラント治療のための環境づくり・治療システム		井島喜弘	医歯薬出版	201210	1	5,832
445	パーシャルデンチャーテクニック	第5版	五十嵐順正	医歯薬出版	201210	1	8,748
446	歯科インプラント治療のリスク度チェックとその対応：全身疾患別にわかる！		永原國央：松浦正朗	クインテッセンス出版	201210	1	7,776
447	こうすれば防げるインプラント周囲炎		石川高行：山森翔太	クインテッセンス出版	201210	1	6,318
448	1からわかるコンポジットレジン修復：レジンが簡単にとれないためのテクニック		猪越重久	クインテッセンス出版	201210	1	9,720
449	デンチャースペースの回復できる総義歯のかたち		本郷英彰	医歯薬出版	201210	1	11,664
450	インプラントオーバーデンチャーの基本と臨床：磁性アタッチメントを中心に		田中譲治	医歯薬出版	201209	1	10,692
451	歯科衛生士が知っておきたいよくわかる口腔インプラント		松浦正朗：矢島安朝	医歯薬出版	201209	1	5,443
452	義歯・口腔ケアの知恵と工夫：訪問歯科診療どうする？…こうする！		岡崎定司：足立裕康	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201209	1	6,318
453	インプラント歯科における骨再生誘導法の20年	第2版	ダニエル・ブサー：松下容子	クインテッセンス出版	201209	1	17,496
454	これで解決！チャレンジ総義歯		横倉正典：鈴木尚	医歯薬出版	201208	1	6,026
455	これで完璧！歯科インプラント手術のための局所麻酔テクニック		工藤勝	クインテッセンス出版	201208	1	6,220
456	コンポジットレジンと審美修復		月星光博：泉英之	クインテッセンス出版	201207	1	11,664
457	最新インプラント読本. 2012		中沖泰三：上田倫生	小学館スクウェア	201205	1	1,110
458	支台歯形成のかんどころ：うまい形成下手な形成		嶋倉道郎：田中卓男	クインテッセンス出版	201205	1	7,776
459	CAD/CAMデンタルテクノロジー		末瀬一彦：宮崎隆	医歯薬出版	201204	1	5,832
460	アストラテックインプラントのすべて		OSSEOSKARPINSTI TUT	クインテッセンス出版	201204	1	12,636
461	これで解決！欠損歯列の臨床診断		鈴木尚	医歯薬出版	201204	1	5,832
462	今後の難症例を解決する総義歯補綴臨床のナビゲーション		上濱正：阿部伸一	クインテッセンス出版	201203	1	13,608
463	これからの義歯治療とインプラントオーバーデンチャー		亀田行雄	デンタルダイヤモンド社	201203	1	7,387
464	インプラント修復の臨床基本手技. 2			デンタルダイヤモンド社	201203	1	7,387
465	インプラント長期症例成功失敗の分岐点：OJ 10年の軌跡		船登彰芳：鈴木真名	クインテッセンス出版	201202	1	4,665
466	インプラント治療と医療安全：チーム医療としての安全・安心マニュアル		九州インプラント研究会	医学情報社	201202	1	4,860
467	インプラントのトラブル解決FAQ		原正幸：インプラントを考える会	デンタルダイヤモンド社	201202	1	5,832
468	全部床義歯の痛み：原因の解明と対策		丹羽克味	学建書院	201112	1	5,832

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
469	DHが行うインプラントメンテナンスのスタンダード		岩崎美和:木津康博	デンタルダイヤモンド社	201111	1	3,499
470	写真でマスターするきちんと確実にできる全部床義歯の印象		水口俊介:飼馬祥頼	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201111	1	6,318
471	よい義歯だめな義歯:鈴木哲也のコンプリートデンチャー17のルール		鈴木哲也	クインテッセンス出版	201111	1	9,331
472	基本審美修復治療のマネジメント		植松厚夫:北原信也	医歯薬出版	201110	1	7,776
473	患者さんに喜ばれる少数歯残存症例のトリートメント		永田省藏	医歯薬出版	201110	1	12,636
474	歯科技工学用語集		日本歯科技工学会	医歯薬出版	201110	1	5,443
475	支台歯形成のベーシックテクニック		岩田健男	デンタルダイヤモンド社	201110	1	8,748
476	インプラント修復の臨床基本手技. 4			デンタルダイヤモンド社	201110	1	6,804
477	このインプラントなに?:他医院で治療されたインプラントへの対応ガイド		築瀬武史:村上弘	医歯薬出版	201108	1	9,720
478	補綴臨床テクニカルノート. クラウン・ブリッジ編		河野正司:金田恒	医歯薬出版	201107	1	3,304
479	症例でみる欠損歯列・欠損補綴:レベル・パターン・スピード		宮地建夫	医歯薬出版	201105	1	11,664
480	少ない色でスピーディに仕上げるためのコンポジットレジン充填テクニック		西川義昌:小野寺保夫	クインテッセンス出版	201103	1	6,123
481	99症例で知るインプラント日常臨床:骨造成の予後とトラブルシューティング		日本インプラント臨床研究会	クインテッセンス出版	201101	1	6,804
482	自家骨によるインプラント治療のための骨造成法		澤裕一郎	デンタルダイヤモンド社	201101	1	13,413
483	Dr. さとうの入れ歯相談所		佐藤満	ブイツーソリューション(発売:星雲社)	201101	1	1,166
484	パーシャルデンチャー・クリニシャンズガイド:実践的なプランニングとプラクティス		ジョン・D. ジョーンズ:リリー・T. ガルシア	医歯薬出版	201011	1	7,581
485	インプラント治療まるわかりBOOK:安心・安全・痛くない		海苑社	海苑社	201011	1	777
486	支台歯形成と咬合の基本		小林賢一:真鍋頭	医歯薬出版	201009	1	11,664
487	スタンダード部分床義歯補綴学	第2版	藍稔:五十嵐順正	学建書院	201009	1	7,290
488	リンガライズドオクルージョン:義歯の咬合・インプラントの咬合		松本直之:市川哲雄	医歯薬出版	201009	1	6,998
489	インプラント新辞典		勝山英明:ウィリアム・R. レイニー	クインテッセンス出版	201009	1	9,234
490	CTで検証するサイナスフロアエレベーションの落とし穴		野阪泰弘	クインテッセンス出版	201009	1	12,636
491	入れ歯治療の新発想		脇田一慶	海苑社	201009	1	972
492	曇り時々インプラント:歯科インプラント治療は、皆さんを晴れに出来るか?		高村剛	市田印刷出版(発売:星雲社)	201008	1	1,263
493	93症例で知るインプラント日常臨床:予知性のある審美領域の抜歯後即時インプラント埋入		日本インプラント臨床研究会	クインテッセンス出版	201007	1	6,804
494	クラウンブリッジの臨床	第3版	ステファン・F. ローゼンステール	医歯薬出版	201006	1	36,936
495	歯の欠損から始まる病気のドミノ:命の質と量を守るためのインプラント治療		武田孝之:林揚春	医歯薬出版	201006	1	2,721
496	ナゾジルコニアを活かしたオールセラミック修復:新たなメタルフリー修復の時代		三浦宏之:宮崎隆	医歯薬出版	201006	1	11,664
497	インプラント周囲炎を治療する:エビデンスに基づく診断・治療とリスクコントロール		和泉雄一:吉野敏明	医学情報社	201006	1	8,748
498	磁性アタッチメントのDos! & Don'ts!:最大効果を引き出す理論とテクニック		前田芳信:権田知也	クインテッセンス出版	201006	1	4,082
499	咀嚼機能を支える臨床咬合論:欠損補綴とインプラントのために		河野正司	医歯薬出版	201004	1	12,636
500	インプラント歯科学における即時機能と審美		ピーター・K. モイ:パトリック・パラッチ	クインテッセンス出版	200910	1	8,262
501	3Dイラストで見るペリオドンタルプラスチックサージェリー天然歯編		中田光太郎:木林博之	クインテッセンス出版	201711	1	16,038
502	やってる?歯の移植・再植:成功への道		塚原宏泰:新井俊樹	デンタルダイヤモンド社	201710	1	5,248
503	最新口腔外科学:Oral and Maxillofacial Surgery	第5版	榎本昭二:道健一	医歯薬出版	201709	1	28,188
504	プロフェッショナルが語る顎関節症治療		中沢勝宏:田口望	医歯薬出版	201707	1	5,054
505	日本顎関節学会学術用語集. 2017	第1版	日本顎関節学会	クインテッセンス出版	201707	1	3,693
506	顎関節症のリハビリトレーニング:よく動く関節は痛くない!		木野孔司	医歯薬出版	201706	1	7,581
507	顎関節症Q&A:自分でできる予防と治療のアドバイス		中沢勝宏	医学情報社	201705	1	2,916

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
508	顎関節症は自分で治せる！		齋藤道雄	主婦の友社	201704	1	1,166
509	口の中がわかるビジュアル歯科口腔科学読本		全国医学部附属病院歯 科口腔外科科長会議	クインテッセンス出版	201703	1	5,346
510	口腔外科学	第2版	古森孝英	永末書店	201701	1	3,888
511	新編口腔外科病理診断アトラス		安彦善裕・尾尻博也	医歯薬出版	201701	1	21,384
512	知ると得する歯科麻酔:ようこそ!歯科麻酔の世界へ		大井久美子	口腔保健協会	201701	1	1,555
513	キーワードでわかる顎関節症治療ガイドブック		田口望	医歯薬出版	201612	1	6,998
514	歯周外科のハプニング&リカバリー:早わかりQ&A 96		和泉雄一・小田茂	クインテッセンス出版	201611	1	9,234
515	臨床口腔外科学:一からわかる診断から手術		角保徳・樋口勝規	医歯薬出版	201610	1	9,720
516	よくわかる歯科小手術の基本:拔牙から歯周外科まで		齋藤淳:中川種昭	デンタルダイヤモンド社	201610	1	4,860
517	口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック	第2版	日本口腔顔面痛学会	医歯薬出版	201609	1	8,359
518	顎関節症診療ハンドブック		本田和也:松本邦史	メディア(文京区)	201607	1	5,832
519	なぜかと考える口腔外科疾患の成り立ちと治療への手がかり		奥村一彦	クインテッセンス出版	201606	1	7,581
520	顎関節症スプリント療法ハンドブック		顎関節症臨床医の会: 中沢勝宏	医歯薬出版	201606	1	8,748
521	歯の移植・再植:これから始めるために		下地勲	医歯薬出版	201604	1	17,496
522	口腔外科学	第5版	大木秀郎:近藤壽郎	学建書院	201604	1	7,776
523	歯科麻酔・生体管理学	第2版	吉田和市:飯島毅彦	学建書院	201603	1	7,581
524	現代の歯性上顎洞炎:医科と歯科のはざままで	改訂第2版	佐藤公則	九州大学出版会	201512	1	3,596
525	標準口腔外科学	第4版	内山健志:近藤壽郎	医学書院	201512	1	12,150
526	拔牙・小手術・顎関節症・粘膜疾患の迷信と真実		湯浅秀道:安藤彰啓	クインテッセンス出版	201510	1	6,804
527	TCHのコントロールで治す顎関節症	第2版	木野孔司	医歯薬出版	201507	1	5,443
528	これって本当に顎関節症?:歯科医院で鑑別診断するためのAtoZ		和気裕之:澁谷智明	デンタルダイヤモンド社	201507	1	5,832
529	顎関節症運動療法ハンドブック		顎関節症臨床医の会: 中沢勝宏	医歯薬出版	201407	1	5,832
530	口・あご・顔の痛みと違和感の対処法:原因のはっきりしないケースで困ったら		和気裕之:玉置勝司	ヒューロン・パブリッシャー ーズ	201303	1	3,888
531	臨床家のための口腔顔面痛マニュアル		正司喜信	医歯薬出版	201302	1	4,082
532	口腔外科学・歯科麻酔学		池邊哲郎:升井一朗	クインテッセンス出版	201302	1	3,304
533	コンセプトをもった予知性の高い歯周外科処置	改訂第2版	小野善弘:宮本泰和	クインテッセンス出版	201301	1	19,051
534	顎変形症の術前歯科矯正治療のすすめ方:ベーシックテクニック		根津浩:永田賢司	ヒューロン・パブリッシャー ーズ	201206	1	8,748
535	図解患者が知りたい顎関節症の真実:歯科医師選別に役立つ		外川正	医学と看護社	201206	1	2,721
536	新編チャートでわかる顎関節症の診断と治療		依田哲也	医歯薬出版	201204	1	6,998
537	歯科麻酔・全身管理学の手引き	第3版	古屋英毅:東理十三雄	学建書院	201203	1	7,776
538	これで解決!局所麻酔		牧宏佳:鈴木尚	医歯薬出版	201111	1	4,860
539	サクシント口腔外科学:カラーアトラス	第3版	内山健志:大関悟	学建書院	201111	1	11,664
540	現代口腔外科学		ジェームズ・R. ハップ: エドワード・エリス	わかば出版(発売:シエン社)	201110	1	17,496
541	口腔顎顔面外科学専門用語集		日本口腔外科学会	医歯薬出版	201108	1	5,832
542	TMDを知る:最新顎関節症治療の実際	改訂第2版	井川雅子:村岡渡	クインテッセンス出版	201106	1	8,359
543	標準麻酔科学	第6版	古家仁:稲田英一	医学書院	201105	1	5,054
544	歯科麻酔学	第7版	福島和昭:原田純	医歯薬出版	201103	1	10,692
545	顎・口腔粘膜疾患口腔外科・歯科麻酔		山根源之	医歯薬出版	201102	1	3,304
546	完全図解顎関節症とかみ合わせの悩みが解決する本		木野孔司	講談社	201102	1	1,360

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
547	写真でマスターする顎関節症治療のためのスプリントのつくり方・つかい方		鱒見進一: 皆木省吾	ヒューロン・パブリッシャーズ	201102	1	6,318
548	これならわかるビスフォスフォネートと抗血栓薬投与患者への対応		朝波惣一郎: 王宝禮	クインテッセンス出版	201101	1	6,415
549	困ったときに役立つ口腔外科症例集:これは何か? どう治すか?		鎌田仁	クインテッセンス出版	201011	1	6,804
550	ビスフォスフォネートの有用性と顎骨壊死		ビスフォスフォネート関連顎骨壊死検討委員会	大阪大学出版会	201009	1	1,944
551	一般臨床家、口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル:口腔外科YEAR BOOK. '10		日本口腔外科学会	クインテッセンス出版	201007	1	5,832
552	口腔外科学	第7版	飯塚忠彦: 吉武一貞	金芳堂	201004	1	5,637
553	わかる! できる! 歯科麻酔実践ガイド		嶋田昌彦: 相山加綱	医歯薬出版	201004	1	6,609
554	口腔外科学	第3版	白砂兼光: 古郷幹彦	医歯薬出版	201003	1	23,328
555	新スタンダード歯科小手術		伊東隆利	デンタルダイヤモンド社	201003	1	9,136
556	臨床家のための歯科小手術ベーシック		白川正順: 石垣佳希	医歯薬出版	201002	1	6,804
557	麻酔科	第3版	高野義人	海馬書房	200805	1	3,693
558	おとみんのよくばりレッスン! 小児の口腔機能編		宮坂乙美	デンタルダイヤモンド社	201801	1	3,499
559	おとみんのよくばりレッスン! 小児の食育編		宮坂乙美	デンタルダイヤモンド社	201801	1	3,499
560	咬合の謎を解く!:なぜ、咬合は見た目では診断できないのか?		中村健太郎	クインテッセンス出版	201712	1	13,608
561	矯正歯科治療:この症例にこの装置	第2版	後藤滋巳: 清水典佳	医歯薬出版	201712	1	18,468
562	小児歯科学	第5版	白川哲夫: 飯沼光生	医歯薬出版	201712	1	12,636
563	早期治療:成長発育のエビデンスと治療戦略		アリアクバル・パフレマン: 嶋浩人	クインテッセンス出版	201710	1	27,216
564	フルデジタルによるカスタムリング矯正 治療のコンセプトとテクニック		杉山晶二: 広瀬圭三	医歯薬出版	201710	1	22,356
565	外科的矯正治療カラーアトラス		上山吉哉: 森悦秀	九州大学出版会	201709	1	4,665
566	Q&AでわかるMuscle Wins! の矯正歯科臨床		近藤悦子	医歯薬出版	201709	1	21,384
567	「無理しない」「無駄にしない」矯正歯科治療13の視点と実践例: GP・矯正歯科医のための指図書		北園俊司	クインテッセンス出版	201706	1	9,720
568	プレマと赤ちゃんの歯と口の健康Q&A		井上美津子: 藤岡万里	医学情報社	201706	1	2,916
569	子どもの歯・口・食の問題をめぐる育児支援ガイド: 保護者の素朴な質問で困った時に役立つ手引き		小児科と小児歯科の保健検討委員会	日本小児医事出版社	201704	1	1,944
570	小児歯科技工学		全国歯科技工士教育協議会: 内川喜盛	医歯薬出版	201702	1	2,721
571	プレオルソで治す歯ならび&口呼吸:子どもにやさしいマウスピース型矯正装置		大塚淳: 田代芳之	クインテッセンス出版	201701	1	6,804
572	下顎平衡機能から考える直立二足歩行と歯科医療		臼井五郎	医歯薬出版	201611	1	3,693
573	小児のエンド:病理組織像からみた診断と治療のヒント		長坂信夫	クインテッセンス出版	201611	1	5,832
574	バイオリジナルMTM:ライトフォースによる歯周病患者への矯正治療		池田雅彦: 大出博司	ヒューロン・パブリッシャーズ	201609	1	8,748
575	咬合のサイエンスとアート		マーティン・グロス: 古谷野潔	クインテッセンス出版	201608	1	36,936
576	口腔機能をはぐくむバイオセラピープロモーション: 床矯正治療の1st choice		鈴木設矢: 大河内淑子	デンタルダイヤモンド社	201608	1	7,776
577	はじめる・深めるMFT:お口の筋トレ実践ガイド		山口秀晴: 大野肅英	デンタルダイヤモンド社	201602	1	4,860
578	咬合治療失敗回避のためのポイント38:なぜ咬み合わないのか、なぜ破折するのか		普光江洋: 武井順治	クインテッセンス出版	201601	1	12,636
579	必ず上達GUMMETAL矯正歯科治療		長谷川信	クインテッセンス出版	201512	1	4,860
580	チェアサイド・ラボサイドの新矯正装置ビジュアルガイド:患者さんに渡せる装置の説明リーフレット付		後藤滋巳: 石川博之	医歯薬出版	201511	1	14,580
581	やさしくわかる矯正歯科治療:歯並びコーディネーター入門書		日本成人矯正歯科学会	医歯薬出版	201509	1	5,346
582	分析ソフトでこんなに簡単! デジタルセファロ分析入門		佐藤亨至	医歯薬出版	201509	1	5,637
583	臨床の疑問に答える! リンガルブラケット矯正Q&A 60		相澤一郎	医歯薬出版	201507	1	11,664
584	Occlusion		丹羽克味	学建書院	201507	1	11,664
585	新矯正歯科治療論:次世代を切り拓くためのメソッド		中島栄一郎: 市川和博	クインテッセンス出版	201507	1	7,581

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
586	子どもの歯と口のトラブルQ&A:妊娠期・幼児期・学童期の心配事		井上美津子	医学情報社	201503	1	2,916
587	埋伏歯:その矯正歯科治療と外科処置		ヴィンセント・G. コキッチ	クインテッセンス出版	201502	1	9,331
588	かみつき子にはわけがある		岩倉政城	大月書店	201502	1	1,555
589	アライナー矯正治療:診断/治療計画/矯正治療/顎位整復治療		ワナー・シュープ:ユリア・ハウブリヒ	丸善プラネット(発売:丸善出版)	201501	1	21,384
590	歯科矯正学		葛西一貴:新井一仁	クインテッセンス出版	201501	1	2,916
591	子どもの歯を守るキーワード59		朝田芳信:重田優子	学建書院	201501	1	2,430
592	小児歯科学		木村光孝:牧憲司	クインテッセンス出版	201412	1	2,916
593	基本からわかる! 歯科矯正用アンカースクリュー:エビデンスに基づく安全・確実な使用法		黒田晋吾:田中栄二	クインテッセンス出版	201410	1	7,581
594	歯科矯正用アンカースクリューの基礎と実践:安全な植立と臨床応用例		本吉満:清水典佳	クインテッセンス出版	201410	1	7,290
595	なぜ?からはじまる床矯正治療のQ&A 1st step		鈴木設矢:大河内淑子	デンタルダイヤモンド社	201410	1	7,776
596	小児歯科学基礎・臨床実習	第2版	前田隆秀:福田理	医歯薬出版	201410	1	9,136
597	歯科衛生士にも知ってほしいかみあわせの本:ペリオにもかかわるの?		中沢勝宏	医歯薬出版	201409	1	4,082
598	小出馨の臨床が楽しくなる咬合治療		小出馨	デンタルダイヤモンド社	201403	1	7,776
599	フルバッシュ矯正の理論と臨床:生理的機構に調和した安定度の高い咬合をめざして		田村元:丸山成暢	デンタルダイヤモンド社	201403	1	19,440
600	成人矯正歯科治療		日本成人矯正歯科学会:佐藤元彦	クインテッセンス出版	201402	1	13,219
601	必携! 矯正装置:簡便な矯正装置で最大の治療効果を得るために		遠藤敏哉	クインテッセンス出版	201401	1	9,331
602	咬合再構成その理論と臨床:咬合と全身との調和		山崎長郎:山地正樹	クインテッセンス出版	201311	1	9,331
603	矯正臨床:一般歯科医のための理論と実務		高橋正光:保田好隆	デンタルダイヤモンド社	201310	1	14,580
604	安心・安全歯科矯正用アンカースクリューこの症例にこの方法		後藤滋巳	医歯薬出版	201301	1	21,384
605	知りたい・聞きたい矯正歯科Q&A		中島栄一郎:楢宏太郎	クインテッセンス出版	201205	1	7,290
606	臨床医のための床矯正・矯正治療:反対咬合篇		鈴木設矢	弘文堂	201205	1	23,328
607	歯周一矯正治療STOP & GO:成人矯正を成功させるためのクリニカルポイント		伊藤公一(歯学):保田好隆	クインテッセンス出版	201202	1	11,664
608	歯列矯正治療の失敗と再治療:臨床現場からのレポート		菅原準二	デンタルダイヤモンド社	201107	1	16,524
609	たったこれだけ! MTM写真でマスターする基本の「き」		山本英之:鈴木博(歯科医)	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201006	1	6,318
610	診断力のつくセファログラム読みとりのテクニック		村松裕之:市川和博	クインテッセンス出版	201006	1	7,387
611	必ず上達ワイヤーベンディング		中島栄一郎	クインテッセンス出版	200905	1	4,665
612	歯科矯正学	第5版	相馬邦道:飯田順一郎	医歯薬出版	200803	1	11,664
613	歯周矯正:GPがすべき五つの矯正治療		前田早智子	クインテッセンス出版	200708	1	18,468
614	高齢者の歯科診療はじめの一歩介護・介助の基本スキル		内藤徹:秋竹純	医歯薬出版	201711	1	2,916
615	高齢者への戦略的歯科治療:自立高齢者にしてほしいこと 寝たきり高齢者にできること		北村知昭:藤井航	医歯薬出版	201709	1	6,804
616	知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療:歯科医療につながる医学知識	新訂版	小谷順一郎:砂田勝久	永末書店	201706	1	8,748
617	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科	第2版	日本障害者歯科学会:森崎市治郎	医歯薬出版	201701	1	9,234
618	老年歯科医学		森戸光彦:山根源之	医歯薬出版	201509	1	9,720
619	健康長寿の栄養学ハンドブック:食のフロントランナーを目指して		日本アンチエイジング歯科学会	草隆社	201502	1	3,402
620	全身的偶発症とリスクマネジメント:高齢者歯科診療のストラテジー		大渡凡人	医歯薬出版	201208	1	9,720
621	高齢者歯科診療ガイドブック		下山和弘:櫻井薫	口腔保健協会	201005	1	3,888
622	食育とむし歯予防の本:ママになった歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士が伝えたい!		丸森秀史:神山ゆみ子	医歯薬出版	201801	1	3,110
623	歯科衛生士のための齶蝕予防処置法	第2版	中垣晴男:加藤一夫	医歯薬出版	201712	1	3,499
624	知る・診る・対応する酸蝕症:問診・視診による診断ポイントから予防指導・修復治療		北迫勇一:岩切勝彦	クインテッセンス出版	201709	1	8,553

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
625	う蝕予防の実際フッ化物局所応用実施マニュアル		日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会	社会保険研究所	201706	1	2,916
626	酸蝕から歯を守ろう！: 飲食物で歯が溶ける？！		北迫勇一: 田上順次	クインテッセンス出版	201601	1	1,555
627	歯科臨床におけるガム徹底活用法: 齲蝕予防から咬合育成、筋機能改善、口腔リハまで		姫野かつよ: 竹内正敏	医学情報社	201506	1	3,693
628	偶発症・難症例への対応: 病態・メカニズムから考える予防と治療戦略		木ノ本喜史	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201403	1	8,553
629	歯周病と全身の健康Q&A: 歯周病の予防と治療は健康を守る第一歩！		和泉雄一: 和泉雄一	医学情報社	201302	1	2,916
630	イラストで楽しく学ぶデンタルオフィス入門	第2版	高橋英登: 対馬ゆか	医歯薬出版	201801	1	3,110
631	スウェーデンのすべての歯科医師・歯科衛生士が学ぶトータルペリオドントロジー		ビョルン・クリンゲ: アンダース・グスタフソン	オーラルケア	201712	1	4,665
632	インプラント材料Q&A臨床の疑問に答えるクリニカル編		吉成正雄	医歯薬出版	201712	1	8,748
633	信頼がうまれる患者対応の技術: 歯科医院のための医療面接スタートガイド		西田亙	クインテッセンス出版	201712	1	3,304
634	歯周病なんか怖くない: 歯学部教授が書いたやさしい歯と歯ぐきの本		村上伸也	大阪大学出版会	201711	1	1,263
635	象牙質知覚過敏症: 目からウロコのパーフェクト治療ガイド	第3版	富士谷盛興: 千田彰	医歯薬出版	201710	1	3,596
636	歯周外科見て学んで始めるガイド: 歯周基本治療から手技習得のポイント、術後のケアまで		小方頼昌	クインテッセンス出版	201710	1	10,692
637	臨床にあった歯科用レーザー活用法: これからの臨床に欠かせない最新5機種徹底ガイド			クインテッセンス出版	201710	1	4,082
638	歯内療法のレベルアップ&ヒント: 珠玉のアイデア&テクニック		北村和夫(歯科医)	デンタルダイヤモンド社	201710	1	8,262
639	Endodontology		石井宏	デンタルダイヤモンド社	201710	1	13,608
640	このまま使える Dr. もDHも！ 歯科医院で患者さんにしっかり説明できる本		朝波惣一郎: 伊藤加代子	クインテッセンス出版	201710	1	6,706
641	CBCTがエンドを変える		小林千尋: 戸田賀世	医歯薬出版	201709	1	5,832
642	臨床に一滴！ デンタルアロマセラピー		日本デンタルアロマセラピー協会: 中村真理	医歯薬出版	201709	1	2,721
643	外来・訪問診療のためのデンタル・メディカルの接点			クインテッセンス出版	201709	1	5,832
644	全国100医院の歯科訪問診療: 診療室からシームレスにかかわり続ける		米山武義	クインテッセンス出版	201708	1	6,609
645	がん口腔支持療法: 多職種連携によるがん患者の口腔内管理		アンドリュー・N. デビス	永末書店	201707	1	8,262
646	5分で読める！ 知りたい全身疾患29		中川洋一	デンタルダイヤモンド社	201707	1	3,499
647	歯科衛生士の質的研究: ~患者に寄り添う支援のために		隅田好美	医歯薬出版	201707	1	3,790
648	臨床で困らない歯内療法の基礎: 治療のStep-by-Stepで理解する！		吉岡隆知	クインテッセンス出版	201706	1	11,664
649	治療効率がUP！ 良好な予後につながるラバーダム法		宮崎真至: 阿部修	医歯薬出版	201706	1	3,499
650	GPのためのマイクロスコープを応用したウルトラニックインスツルメンテーション		阿部修: 大野純一	医歯薬出版	201706	1	5,832
651	歯科医師・歯科衛生士のための超音波デブライドメント		松久保隆: 齋藤淳	一世出版	201705	1	4,860
652	ステップアップ歯科衛生士7Stepで挑戦！ ザ・シャープニング		佐藤昌美	医歯薬出版	201705	1	4,374
653	やればできる！ やらねばならぬ！ 歯科領域の院内感染予防対策		田口正博	クインテッセンス出版	201705	1	8,262
654	できる、効果がわかる！ つまようじ法: 歯周治療における宿主強化療法		渡邊達夫	口腔保健協会	201704	1	1,360
655	歯周病と全身疾患: 最新エビデンスに基づくコンセンサス		日本臨床歯周病学会: 二階堂雅彦	デンタルダイヤモンド社	201704	1	7,290
656	歯周病悪化の原因はこれだ: リスクファクターを知れば難症例も怖くない		稲垣幸司: 南崎信樹	デンタルダイヤモンド社	201704	1	7,387
657	若手Dr & DHのための全身疾患別で学ぶくすりの知識		金子明寛: 川辺良一	デンタルダイヤモンド社	201703	1	4,374
658	歯科機器		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版	201703	1	3,110
659	歯科保健関係統計資料: 口腔保健・歯科医療の統計. 2017年版			口腔保健協会	201703	1	2,916
660	新よくわかる顎口腔機能: 咬合・摂食嚥下・発音を理解する		日本顎口腔機能学会	医歯薬出版	201701	1	7,776
661	知って得した！ 歯周治療に活かせるエビデンス	増補改訂版	内藤徹: 稲垣幸司	クインテッセンス出版	201701	1	3,596
662	Periodontics for Special needs Patients: 障害者・有病者の歯周治療		長田豊: 和泉雄一	デンタルダイヤモンド社	201701	1	8,748
663	女性患者さんを診る: 少女期～妊娠期～高齢期までの歯科医療のかんどころ		滝川雅之: 松村誠士	クインテッセンス出版	201612	1	8,748

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
664	歯内療法三種の神器:すぐに役立つ世界標準のテクニック&最新トレンド		北村和夫(歯科医)	デンタルダイヤモンド社	201611	1	7,776
665	アンチエイジング歯科医からの積極的治療食		清水百合	フレグランスジャーナル社	201610	1	2,721
666	歯が割れてもあきらめないで!「歯根破折」で歯を失いたくないと思ったら読む本		真坂信夫・真坂こづえ	医歯薬出版	201610	1	2,332
667	一歩進んだ臨床のためのエンド治療Q&A		吉岡隆知:吉岡隆知	医歯薬出版	201610	1	7,290
668	ゼロから見直す根尖病変:診断・治療コンセプト編		倉富覚、	医歯薬出版	201609	1	8,262
669	歯科医院の感染管理常識非常識:Q&Aで学ぶ勘所と実践のヒント	増補改訂版	柏井伸子:又賀泉	クインテッセンス出版	201609	1	6,026
670	フローチャートでわかる歯科医院における50の痛み:診断手順と治療法		福田謙一	医歯薬出版	201607	1	8,262
671	抜髄Initial Treatment:治療に導くための歯髄への臨床アプローチ		木ノ本喜史	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201607	1	17,496
672	歯科チェアサイドマニュアル有病者はこう診る:全身疾患のある患者が来院したら		和田健:岡田定	医歯薬出版	201607	1	4,860
673	「TCH」見逃していませんか?:診査・診断・是正・指導のポイント		木野孔司:佐藤文明	デンタルダイヤモンド社	201607	1	7,776
674	歯科臨床ファーストレシピ. 2.		西田哲也	学建書院	201607	1	5,832
675	誰も教えてくれなかった患者さんの心をつかむデンタルコミュニケーションメソッド		杉岡英明:熊倉百音子	医歯薬出版	201607	1	2,332
676	歯科衛生士パスポート+Web。「全身疾患医療面接」編		山口秀紀:藤井一維	メディア(文京区)	201606	1	2,673
677	これでカンベキ歯科衛生士の歯周治療の本. 2016-17		小原啓子:畠山知子	医歯薬出版	201606	1	3,110
678	歯科医院のための訪問歯科診療6W1H		藤井一維:白野美和	メディア(文京区)	201606	1	4,179
679	患者さんの不安疑問に答える:選ばれる歯科医院になるための治療時の説明		金田冽:安田登	クインテッセンス出版	201606	1	6,804
680	歯科臨床ファーストレシピ. 1.		西田哲也	学建書院	201605	1	4,860
681	歯周病と全身の健康		日本歯周病学会	医歯薬出版	201604	1	1,944
682	線を引かない歯科臨床		押見一	医歯薬出版	201604	1	19,440
683	歯ぎしりQ&A:よくわかる、睡眠時ブラキシズムの原因と対策		馬場一美	医学情報社	201604	1	2,916
684	診査・診断ナビゲーション:日常臨床でのヒント集		牧宏佳:谷本幸司	デンタルダイヤモンド社	201604	1	4,860
685	歯科衛生士のための歯科臨床概論		松井恭平:もりさきいちじろう	医歯薬出版	201603	1	2,332
686	ブラキシズム:歯ぎしり・咬みしめは危険!!	第2版	牛島隆:栃原秀紀	医歯薬出版	201603	1	2,332
687	根管治療で失敗する本当の理由:難症例・トラブル・再根管治療を克服するための指針と鉄則		鶴町保	クインテッセンス出版	201603	1	7,776
688	患者さんに語るシンプル歯周治療		吉江弘正:和泉雄一	医歯薬出版	201603	1	5,637
689	歯科理工学		全国歯科技工士教育協議会:大島浩	医歯薬出版	201603	1	5,443
690	スタンダード歯科理工学:生体材料と歯科材料	第6版	中島裕:西山典宏	学建書院	201603	1	8,262
691	日常臨床のレベルアップ&ヒント72		北村和夫(歯科医):岩淵博史	デンタルダイヤモンド社	201512	1	7,776
692	包括歯科臨床. 2			クインテッセンス出版	201510	1	40,824
693	世界基準の臨床歯内療法		石井宏	医歯薬出版	201509	1	19,440
694	安心・安全な臨床に活かす!歯科衛生士のための病氣とくすりパーフェクトガイド		一戸達也:河合峰雄	医歯薬出版	201509	1	3,693
695	がんと歯科治療		臼淵公敏	デンタルダイヤモンド社	201508	1	6,318
696	歯周治療の疑問に答えますQ&A47:歯周組織の仕組みと働きから最新の治療法まで		澁川義宏:永山元彦	医歯薬出版	201508	1	6,220
697	歯科治療総合医療管理料算定のために:チェアサイドで活用!全身疾患のマネジメント		野口いづみ:中川洋一	医歯薬出版	201508	1	3,693
698	抜かずに治せる根管治療:虫歯で歯を失わないために	複製版	深田邦雄	青月社	201507	1	1,555
699	歯科衛生士のための21世紀のペリオドントロジーダイジェスト:あなたの知識は最新ですか?		天野敦雄	クインテッセンス出版	201507	1	3,693
700	医療安全ワンポイント31:院内勉強会のためのワークブック		一戸達也	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201507	1	3,402
701	口を診る・生活を読む		三上直一郎:下野正基	医歯薬出版	201504	1	3,693
702	歯科臨床の基礎と概論		栢豪洋:升井一朗	クインテッセンス出版	201504	1	2,624

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
703	レーザー歯学の手引き		横瀬敏志:日本レーザー歯学会	デンタルダイヤモンド社	201504	1	6,804
704	口の中からはじまる医療革命:内科診療と歯科診療の和合が不調を改善させる!		陰山康成	ピオ・マガジン	201504	1	1,166
705	歯科診療における放射線の管理と防護:人体への影響の正しい知識と理解	新版(第2版)	佐々木武仁:岡野友宏	医歯薬出版	201503	1	6,998
706	歯科医のための救急処置マニュアル:フローチャート式	第4版	見崎徹:伊東隆利	医歯薬出版	201503	1	6,706
707	チェアサイドの有病者歯科治療ガイドブック	改訂	熊本市歯科医師会	デンタルダイヤモンド社	201503	1	2,430
708	見分けて治そう! 歯科金属・材料アレルギー		高永和:高理恵子	クインテッセンス出版	201502	1	4,665
709	エビデンスに基づく一般歯科診療における院内感染対策実践マニュアル	改訂版	日本歯科医学会	永末書店	201502	1	4,471
710	新歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄		ICHG研究会	医歯薬出版	201501	1	3,402
711	歯科診療NGフレーズ集:患者さんのホンネに学ぶ対応術97		患者対応研究会:小林晋一郎	クインテッセンス出版	201412	1	2,721
712	歯周病とう蝕の健康管理ファイル	第2版	熊谷崇	医歯薬出版	201411	1	2,332
713	マイクロスコープとNiTiロータリーファイルによるGPのAdvanced Endodontics		阿部修	医歯薬出版	201411	1	6,804
714	地域包括ケアを支える医科歯科連携実践マニュアル		日本リハビリテーション病院・施設協会	三輪書店	201411	1	2,430
715	メディカル・ダイアログ入門:患者はなぜあなたの話を聞かないのか?		尾谷幸治:大野純一(歯科医)	医歯薬出版	201410	1	2,916
716	患者が求める「医療安全」「院内感染」対策		泉福英信	ヒューロン・パブリッシャーズ	201410	1	3,888
717	歯科医院で取り組むTCHコントロール入門		齋藤博:木野孔司	医歯薬出版	201409	1	4,860
718	知っておきたいデンタルスタッフのためのアシスタントワーク		山口博康:加藤保男	医歯薬出版	201409	1	6,804
719	新しいNi-Ti製ファイルの歯内療法:Single Patient Use時代の到来		須田英明	クインテッセンス出版	201409	1	14,580
720	「下川エンド」20年の臨床:長期症例でみるエンド治療成功への道		木村英生	医歯薬出版	201409	1	9,720
721	金属アレルギーとメタルフリー治療Q&A		白川正順:石垣佳希	医学情報社	201409	1	2,916
722	ペリオバカ養成講座:学びの門戸を開くための100の質問		山本浩正	医歯薬出版	201408	1	4,665
723	歯医者に聞きたい歯の治療:歯が痛み出した時に読む本	改訂版	太田武雄	口腔保健協会	201408	1	2,721
724	3年目からの歯科衛生士臨床:リスクが読める!患者さんが動く!		落合真理子:河野正清	クインテッセンス出版	201408	1	6,415
725	歯科医療最前線:治療を受ける前に知っておきたい歯科情報		中垣直毅:小沼正樹	現代書林	201408	1	1,263
726	最新歯科用マテリアル120%活用法:もっと使えて、もっと活かせる!		須崎明	クインテッセンス出版	201408	1	5,832
727	エンド・ペリオ日常臨床のレベルアップコース. 1			クインテッセンス出版	201407	1	14,094
728	おさえておきたい全身疾患のポイント		高杉嘉弘	学建書院	201407	1	3,693
729	歯科衛生士の最新・歯周治療の本:これでチョ～カンベキ		小原啓子:畠山知子	医歯薬出版	201406	1	3,110
730	歯内・歯周・補綴治療の臨床判断:「こんなときどうする?」を解決するヒント26		赤野弘明:岡崎英起	クインテッセンス出版	201406	1	11,664
731	人はなぜ歯周病になってしまうのか?:環境遺伝学からみた最新ペリオドントロジー		山本浩正	クインテッセンス出版	201405	1	6,804
732	歯内療法における臨床思考の技術		高橋慶壮	デンタルダイヤモンド社	201404	1	11,664
733	ザ・ペリオドントロジー	第2版	和泉雄一	永末書店	201403	1	8,748
734	歯肉を診る・歯肉を読む		三上直一郎	医歯薬出版	201403	1	3,304
735	毎日の歯科診療で生かせる新内科のツボ:診療室、訪問診療時に引ける・わかるハンドブック		港北歯科内科研究会:和田知雄	クインテッセンス出版	201403	1	3,888
736	慢性疾患としての歯周病へのアプローチ:患者さんの生涯にわたるQOLに貢献するために		野口俊英:林潤一郎	医歯薬出版	201403	1	8,748
737	歯科衛生士のためのインスツルメンテーション		小森朋栄:塩浦有紀	ヒューロン・パブリッシャーズ	201402	1	3,596
738	IDAトリートメントマニュアル:最新歯科治療のスタンダードとマテリアル		保母浩児:窪谷保則	クインテッセンス出版	201402	1	6,026
739	器材準備マニュアル	第6版	松井恭平:近藤健示	口腔保健協会	201402	1	2,916
740	ピエゾのススメ:毎日の臨床を1ランクUPするために		糸瀬正通:島田昌明	クインテッセンス出版	201401	1	7,776
741	成功に導くエンドの再治療		牛窪敏博	医歯薬出版	201312	1	6,609

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
742	イザというとき慌てない！必ず習得しておきたい歯科医院のための救命救急処置		怡土信一：横山武志	クインテッセンス出版	201312	1	9,720
743	新・歯科人間ドック基本マニュアル：これさえあれば明日からできる！		小川智久：日本歯科人間ドック学会	クインテッセンス出版	201312	1	4,471
744	新歯内療法学サイードリーダー		河野哲	学建書院	201312	1	3,596
745	医者は口を診ない、歯医者は口しか診ない：医科歯科連携で医療は大きく変わる		相田能輝	医薬経済社	201310	1	1,458
746	かかりつけ歯科医からはじめる口腔がん検診Step 1・2・3		柴原孝彦	医歯薬出版	201310	1	5,443
747	デンタルカリエス：その病態と臨床マネージメント	原著第2版	オレ・フェジェルスコフ：エドウィナ・キッド	医歯薬出版	201310	1	23,328
748	写真でよくわかる正確なシャープニング安全なスクレーパー操作：教えて！先輩のチエとワザ！		福池久恵：鈴木秀典	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201309	1	3,596
749	歯内療法の場合アセスメントと臨床：根管形態からみる・ストラテジーを選ぶ		興地隆史	医歯薬出版	201308	1	11,664
750	そのままつかえる照会状の書き方		矢郷香：片倉朗	クインテッセンス出版	201308	1	6,318
751	垂直歯根破折歯を救え！：いざという時使いたいサイエンス&テクニック		菅谷勉：海老原新	クインテッセンス出版	201307	1	8,164
752	やさしい治療のしくみとはたらき：歯周組織編		下野正基	医歯薬出版	201307	1	4,276
753	これで解決！齶蝕治療・トゥースウェア		熊谷真一：鈴木尚	医歯薬出版	201307	1	6,026
754	歯科医院のための全身疾患医療面接ガイド		藤井一維：宮脇卓也	メディア(文京区)	201306	1	5,637
755	創傷の治療：歯髄・歯根膜・歯槽骨・歯肉そしてインプラントを病態		井上孝：武田孝之	医歯薬出版	201306	1	10,692
756	歯周基本治療で治る！歯周基本治療で治す！		牧野明	医歯薬出版	201306	1	7,970
757	根尖病変：治療へ向けた戦略を究める		木ノ本喜史	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201306	1	7,776
758	臨床根管解剖：基本的知識と歯種別の臨床ポイント		木ノ本喜史	ヒョーロン・パブリッシャーズ	201306	1	9,720
759	マイクロエンドをはじめよう超！入門テキスト		北村知昭：北村知昭	医歯薬出版	201304	1	3,888
760	“医療連携”に役立つ有病者歯科マニュアル		白川正順：今井裕	医学情報社	201304	1	2,721
761	低侵襲で質の高いCO2レーザー臨床		荒川義浩	デンタルダイヤモンド社	201304	1	6,804
762	歯周病学用語集	第2版	日本歯周病学会	医歯薬出版	201303	1	3,110
763	臨床歯周病学	第2版	吉江弘正：伊藤公一(歯学)	医歯薬出版	201302	1	9,720
764	新しいエビデンスに基づく歯周基本治療のコンセプト		吉野敏明：田中真喜	医歯薬出版	201301	1	7,970
765	削るう蝕削らないう蝕		林美加子：伊藤中	クインテッセンス出版	201301	1	10,692
766	歯科診療で知っておきたい全身疾患の知識と対応		高杉嘉弘	学建書院	201301	1	8,748
767	口の中に毒がある：その安全な除去法と健康回復		釣部人裕	ダイナミックセラーズ出版	201301	1	1,166
768	口の中に潜む恐怖：アマルガム水銀中毒からの生還		ダニー・D. スタインバーグ：山田純	ダイナミックセラーズ出版	201212	1	1,166
769	本当に怖い歯の詰め物：誰も知らなかった病気の原因		ハル・A. ハギンズ：田中信男	ダイナミックセラーズ出版	201212	1	1,360
770	歯周病学の迷信と真実：その論文の解釈は正しいか？		関野愉：小牧令二	クインテッセンス出版	201211	1	5,443
771	歯科用レーザー120%活用術：よくわかる		青木章：和泉雄一	デンタルダイヤモンド社	201210	1	3,304
772	臨床家のためのオーラルアプライアンス入門		杉山義祥：竹内正敏(歯科医)	医学情報社	201210	1	2,916
773	NiTiロータリーファイルを効果的に使う実践歯内療法：Evidence & Technique		阿部修	医歯薬出版	201208	1	8,164
774	妊産婦と歯科治療		滝川雅之	デンタルダイヤモンド社	201208	1	5,054
775	歯周病は怖くない：正しく理解し、抜かずに治す		小西昭彦：小西かず代	医歯薬出版	201206	1	2,721
776	生きる力を支える医療：歯科からはじまる医療革命		鶴蒔靖夫	IN通信社	201206	1	1,749
777	歯周病コーチングのヒントと応用：毎日の診療が楽しくなる		石田恵子(歯科衛生士)	口腔保健協会	201205	1	2,138
778	ビジュアル歯周病を科学する		天野敦雄：岡賢二	クインテッセンス出版	201205	1	15,552
779	歯周抗菌療法：感染症医的な視点から		山本浩正	クインテッセンス出版	201203	1	7,192
780	新築しくわかるクリニカルエンドメトリロジー		小林千尋	医歯薬出版	201202	1	8,748

	書名	版次	著者名	出版社	出版年月	数量	8%税込価
781	歯内治療学	第4版	中村洋:須田英明	医歯薬出版	201201	1	9,720
782	歯内治療		笠原悦男:林宏行	クインテッセンス出版	201112	1	2,430
783	再根管治療を極める:根管治療の精度を向上させる 専門医からのアドバイス		牛窪敏博	クインテッセンス出版	201111	1	9,331
784	Wide & Focus現場とつながる口腔病理診断の 基礎		大内知之	学建書院	201110	1	5,054
785	エンドに強くなる本	新装版	林宏行	クインテッセンス出版	201110	1	5,054
786	新編治癒の病理:臨床の疑問に基礎が答える		下野正基	医歯薬出版	201109	1	17,076
787	ATLASで学ぶ歯科用コーンビームCT診断のポイント64		水上哲也:糸瀬正通	クインテッセンス出版	201109	1	12,216
788	歯科理工学教育用語集	第2版	日本歯科理工学会	医歯薬出版	201108	1	2,916
789	日常臨床の疑問に答えますQ&A70:今さら聞けない! でも知っておきたい歯科医療の基礎知識		武藤晋也	医歯薬出版	201107	1	7,192
790	ステップアップ歯科助手ガイドブック	第2版	埼玉県歯科医師会	口腔保健協会	201106	1	2,916
791	POSに基づく歯科診療とPOMR		天笠光雄:上田奈穂子	金芳堂	201104	1	7,776
792	知っておきたい歯科衛生士のためのくすりの知識		佐野公人:永合徹也	デンタルダイヤモンド社	201104	1	2,721
793	歯周病学		上田雅俊:音琴淳一	クインテッセンス出版	201102	1	3,304
794	歯周治療失敗回避のためのポイント33:なぜ歯周 炎が進行するのか、なぜ治らないのか		高橋慶壮	クインテッセンス出版	201102	1	11,249
795	歯科衛生士臨床ビジュアルハンドブック:日常臨床& チーム医療に活かせる		山口幸子(歯科衛生 士):寺西邦彦	クインテッセンス出版	201012	1	7,290
796	治癒の歯内療法		月星光博:福西一浩	クインテッセンス出版	201011	1	16,104
797	歯科用貴金属合金の科学:基礎知識と鑄造の実際		安楽照男:伊藤充雄	学建書院	201011	1	7,776
798	下歯槽神経・舌神経麻痺:カラーグラフィックス	第2版	野間弘康:佐々木研一	医歯薬出版	201009	1	16,104
799	Dr. 弘岡に訊く臨床的ペリオ講座. 1		弘岡秀明:中原達郎	医歯薬出版	201005	1	4,082
800	歯科医療面接アートとサイエンス	改訂版	伊藤孝訓:藤澤盛一郎	砂書房	201004	1	5,637
				合 計		800	5,500,000

	著者名	書名	巻号	版次	出版社名	出版年月	数量	8%税込価
1	Brand, Richard W./ Isselhard, Donald E.	Anatomy of Orofacial Structures : A Comprehensive Approach		8 FLC PAP/	Mosby Inc	201802	1	17,210
2	Fehrenbach, Margaret J. (EDT)	Dental Anatomy Coloring Book		3 CLR CSM	W B Saunders Co	201801	1	7,068
3	Matthews, Nigel Sh.	Dislocation of the Temporomandibular Joint : A Guide to Diagnosis and Management			Springer	201712	1	23,359
4	Liebgott, Bernard, Ph.D.	The Anatomical Basis of Dentistry		4 PAP/PSC	Mosby Inc	201711	1	19,679
5	Berkovitz, B. K. B., Ph.D.	Oral Anatomy, Histology and Embryology		5TH	Elsevier Science Health Science	201708	1	15,981
6	Larheim, Tore A.	Maxillofacial Imaging		2ND	Springer	201704	1	27,606
7	vonArx, T./ Lozanoff, S.	Clinical Oral Anatomy : A Comprehensive Review for Dental Practitioners and Researchers			Springer	201701	1	56,068
8	Norton, Neil S., Ph.d.	Netter's Head and Neck Anatomy for Dentistry (Netter Basic Science)		3 PAP/PSC	Elsevier Science Health Science	201611	1	9,664
9	Scheid, Rickne C./ Weiss, Gabriela	Woelfels Dental Anatomy		9 PAP/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201602	1	16,397
10	Fehrenbach, Margaret J.	Illustrated Anatomy of the Head and Neck		5 FLC PAP/	W B Saunders Co	201601	1	16,391
11	Bennun, Ricardo D. (EDT)	Cleft Lip and Palate Management : A Comprehensive Atlas			Blackwell Pub	201512	1	21,576
12	Hupp, James R., M.D.	Head, Neck, and Orofacial Infections : A Multidisciplinary Approach			Elsevier Science Health Science	201511	1	22,442
13	Navarro Vila, C.	Reconstructive Oral and Maxillofacial Surgery			Springer	201509	1	25,482
14	Perry, Michael/ Brown, Andrew	Fractures of the Facial Skeleton		2ND	Blackwell Pub	201506	1	8,631
15	Quinn, Peter D., M.D. (EDT)	Atlas of Temporomandibular Joint Surgery		2 HAR/PSC	Blackwell Pub	201504	1	22,267
16	Baker, Eric W./ Schuenke, Michael	Head and Neck Anatomy for Dental Medicine		2ND	Thieme	201503	1	14,864
17	Fehrenbach, Margaret J.	Illustrated Dental Embryology, Histology, and Anatomy		4TH	W B Saunders Co	201502	1	14,665
18	Fehrenbach, Margaret J.	Students Workbook for Illustrated Dental Embryology, Histology and Anatomy		4TH	Saunders	201501	1	6,895
19	Mitchell, David A.	An Introduction to Oral and Maxillofacial Surgery		2ND	CRC Pr I Llc	201412	1	16,227
20	Erverdi, N./ Motro, M.	Alveolar Distraction Osteogenesis : ArchWise Appliance and Technique			Springer	201411	1	21,234
21	Devlin, Hugh (EDT)	Oxford Handbook of Integrated Dental Biosciences		2ND	Oxford Univ Pr	201805	1	7,374
22	Chiego, Daniel J., Jr.	Essentials of Oral Histology and Embryology : A Clinical Approach		5TH	Elsevier Science Health Science	201803	1	15,528
23	Sperber, Geoffrey H	Craniofacial Embryogenetics and Development -- Paperback		3 Revised	Pmph-usa Limited	201801	1	11,385
24	Nanci, Antonio, Ph.D.	Ten Cate's Oral Histology : Development, Structure, and Function		9TH	Elsevier Science Health Science	201710	1	22,788
25	Hand, Arthur R./ Frank, Marion E.	Fundamentals of Oral Histology and Physiology		PAP/PSC	Blackwell Pub	201501	1	12,599
26	Greenwood, Mark	Essentials of Human Disease in Dentistry (Essentials Dentistry)		2ND	Wiley	201804	1	11,221
27	Bergmeier, Lesley (EDT)	Oral Mucosa in Health and Disease : A Concise Handbook			Springer	201802	1	28,668
28	Delong, Leslie/ Burkhart, Nancy W.	General and Oral Pathology for the Dental Hygienist		3 PAP/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201801	1	18,987
29	Kuriakose, Moni Abraham (EDT)	Contemporary Oral Oncology			Springer	201709	1	71,351
30	Odell, E. W., Ph.D.	Cawson's Essentials of Oral Pathology and Oral Medicine		9TH	Elsevier Science Health Science	201706	1	13,522
31	Laskaris, George (EDT)	Color Atlas of Oral Diseases : Diagnosis and Treatment		4TH	Thieme	201705	1	36,102
32	Ibsen, Olga A. C.	Oral Pathology for the Dental Hygienist : With General Pathology Introductions		7TH	W B Saunders Co	201702	1	18,816
33	Woo, Sook-bin	Oral Pathology : A Comprehensive Atlas and Text		2 HAR/PSC	Elsevier Science Health Science	201611	1	39,704
34	Bruch, J. M. (EDT)/ Treister, N. (EDT)	Clinical Oral Medicine and Pathology		2ND	Springer	201610	1	19,111
35	Diz Dios, Pedro, M.D., Ph.D.	Oral Medicine and Pathology at a Glance (At a Glance)		2ND	Blackwell Pub	201607	1	5,609
36	Kidd, Edwina/ Fejerskov, Ole	Essentials of Dental Caries		4 Reprint	Oxford Univ Pr	201607	1	7,374
37	Marsh, Philip D., Ph.D.	Marsh and Martin's Oral Microbiology		6TH	Churchill Livingstone	201606	1	12,292
38	Grumezescu, Alexandru Mihai	Nanobiomaterials in Dentistry : Applications of Nanobiomaterials			Elsevier Science Ltd	201606	1	33,663
39	Termeie, Deborah A. (EDT)	Avoiding and Treating Dental Complications : Best Practices in Dentistry			Blackwell Pub	201606	1	15,534

	著者名	書名	巻号	版次	出版社名	出版年月	数量	8%税込価
40	Gehrig, Jill S./ Sroda, Rebecca	Fundamentals of Periodontal Instrumentation & Advanced Root Instrumentation		8 SPI PAP/	Lippincott Williams & Wilkins	201604	1	19,504
41	Langlais, Robert P., Ph.D.	Color Atlas of Common Oral Diseases		5 PAP/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201604	1	15,016
42	Creanor, Stephen (EDT)	Essential Clinical Oral Biology (Essentials)			Blackwell Pub	201604	1	7,768
43	Slootweg, P. (EDT)	Dental and Oral Pathology (Encyclopedia of Pathology)			Springer	201604	1	55,006
44	Regezi, Joseph A., DDS	Oral Pathology : Clinical Pathologic Correlations		7TH	W B Saunders Co	201602	1	25,895
45	Pedersen, A. M. (EDT)	Oral Infections and General Health : From Molecule to Chairside			Springer	201512	1	25,482
46	Van der Waal, I.	Atlas of Oral Diseases : A Guide for Daily Practice			Springer	201511	1	31,854
47	Zhou, X.-D. (EDT)	Dental Caries : Principles and Management			Springer	201510	1	25,482
48	Perdigao, Jorge	Restoration of Root Canal-Treated Teeth : An Adhesive Dentistry Perspective			Springer	201510	1	25,482
49	Rosa, E. (EDT)	Oral Candidosis : Physiopathology, Decision Making, and Therapeutics			Springer	201509	1	21,234
50	Hollins, Carole	Basic Guide to Dental Procedures		2ND	Blackwell Pub	201507	1	5,609
51	Fejerskov, Ole (EDT)	Dental Caries : The Disease and Its Clinical Management		3RD	Wiley-Blackwell	201505	1	19,852
52	Zhou, Xuedong / Li, Yuqing	Atlas of Oral Microbiology : From Healthy Microflora to Disease			Academic Pr	201502	1	17,254
53	Stegeman, Cynthia A.	The Dental Hygienist's Guide to Nutritional Care		5TH	Elsevier	201803	1	14,319
54	Sroda, Rebecca/ Reinhard, Tonia	Nutrition for Dental Health		3 PAP/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201702	1	13,290
55	Jeske, Arthur H., Ph.D. (EDT)	Mosby's Dental Drug Reference (Mosby's Dental Drug Reference)		12 PAP/PSC	Mosby Inc	201705	1	11,212
56	Dowd, Frank J., Ph.D.	Pharmacology and Therapeutics for Dentistry		7 HAR/PSC	Mosby Inc	201609	1	22,269
57	Sonis, S. T. (EDT)	Genomics, Personalized Medicine and Oral Disease			Springer	201509	1	31,754
58	Giraudeau, Nicolas (EDT)	e-Health Care in Dentistry and Oral Medicine : A Clinician's Guide			Springer	201801	1	28,668
59	Subramani, Karthikeyan	Emerging Nanotechnologies in Dentistry (Micro and Nano Technologies)		2ND	Elsevier Science Ltd	201710	1	29,347
60	Folayan, Morenike Oluwatoyin (EDT)	A Compendium of Facts on Oral Health of Children around the World : Early Childhood Caries			Nova Science Pub Inc	201710	1	39,706
61	U.S. Government Accountability	Oral Health			Createspace Independent Pub	201709	1	4,140
62	U.S. Government Accountability	Oral Health			Createspace Independent Pub	201708	1	4,312
63	Francis, Emmanuel W.	90 Dental Tips for Parents : A Practical Approach to Oral Healthcare in Children		LRG	Createspace Independent Pub	201708	1	1,723
64	Clark, Dave (EDT)	Oral Healthcare and Dentistry			Ingram Pub Services	201706	1	24,169
65	Greenwall, Linda (EDT)	Tooth Whitening Techniques		2ND	CRC Pr I Llc	201705	1	30,738
66	Bird, Doni L.	Student Workbook for Modern Dental Assisting		12TH	Saunders	201704	1	9,141
67	Bird, Doni L.	Modern Dental Assisting (Modern Dental Assisting)		12 HAR/PSC	W B Saunders Co	201704	1	22,615
68	Egea, Jean- Christophe	Sport and Oral Health : A Concise Guide			Springer	201704	1	28,668
69	Information Resources Management	Oral Healthcare and Technologies : Breakthroughs in Research and Practice			Medical Info Science Reference	201703	1	55,244
70	Prajer, Renee/ Grosso, Gwen	DH Notes : Dental Hygienist's Chairside Pocket Guide		2 POC SPI	F a Davis Co	201702	1	6,895
71	Jones, Keith (EDT)	Dental Care and Oral Health Sourcebook (Health Reference Series)		5TH	Omnigraphics Inc	201702	1	16,399
72	Weinstein, G. M. / Zientz, M. T.	The Dental Reference Manual : A Daily Guide for Students and Practitioners			Springer	201701	1	23,359
73	Gehrig, Jill S.	Patient Assessment Tutorials : A Step-by-Step Guide for the Dental Hygienist		4 SPI PAP/	Lippincott Williams & Wilkins	201701	1	15,534
74	Thomas, Princy/ Dave, Bhavna	Oral Health Care: Pregnancy through Infancy		2017. 140 S	LAP LAMBERT ACADEMIC	201700	1	11,870
75	Kumar, Yeturu Srvan	Tobacco and Oral Health : A Review		2017. 100 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201700	1	10,595
76	Maashi, Manal	Assessment of Changes in Oral Health-Related Quality of Life		2017. 196 S.	SCHOLAR'S PRESS	201700	1	11,021
77	Puri, Chahat/ Jindal, Vikas	Nutrition and Oral health : From Periodontal point of View		2017. 112 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201700	1	10,595
78	Sabir, Sheeri/ Malik, Aastha	Oral Health Related Quality Of Life : What, Why, How, Future Consequences		2017. 140 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201700	1	11,870

	著者名	書名	巻号	版次	出版社名	出版年月	数量	8%税込価
79	Sharma, Niharika/ Pandey, Anil	Smokeless Tobacco and Oral Health		2017. 108 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201700	1	10,595
80	Yoshino, Koichi/ Ishizuka, Yoichi	The effect of night shift, stress, and overtime work on oral health		2017. 72 S.	SCHOLAR'S PRESS	201700	1	6,348
81	Joshi, Parth/ Dave, Bhavna	Oral Health Care For ADOLESCENT		2017. 112 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201700	1	10,595
82	Abdul Rahiman, Shereefa	Infant Feeding and Oral Health		2017. 80 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201700	1	7,622
83	Correa, Joe	46 Cavity Preventing Meal Recipes			Createspace Independent Pub	201611	1	2,759
84	Robinson, Debbie S./ Bird, Doni L.	Student Workbook for Essentials of Dental Assisting		6TH	Saunders	201610	1	7,414
85	Robinson, Debbie S./ Bird, Doni L.	Essentials of Dental Assisting		6 PAP/PSC	W B Saunders Co	201610	1	16,391
86	Halpern, Leslie R./ Kaste, Linda M.	Impact of Oral Health on Interprofessional Collaborative Practice			Elsevier Science Health Science	201609	1	17,087
87	Perdigao, J. (EDT)	Tooth Whitening : An Evidence-Based Perspective			Springer	201608	1	33,340
88	Henderson, Sara	A Step by Step Guide to Improve Oral Health			Createspace Independent Pub	201608	1	1,205
89	Jean-Pierre, Dds Mds Jean	Your Mouth - Your Life: The Connection of Oral Health to Whole Body Health			Jmjp Consulting	201608	1	2,241
90	Palmer, Carole A./ Boyd, Linda D.	Diet and Nutrition in Oral Health		3RD	Pearson	201607	1	18,609
91	Scully, Crispian, M.D., Ph.D. (EDT)	Churchill's Pocketbooks Clinical Dentistry (Churchill's Pocketbooks)		4TH	Churchill Livingstone	201606	1	7,129
92	Mount, Graham J. (EDT)	Preservation and Restoration of Tooth Structure		3RD	Blackwell Pub	201606	1	12,084
93	Kay, Elizabeth (EDT)	Dentistry at a Glance (At a Glance)		1 PAP/PSC	Blackwell Pub	201605	1	7,768
94	Gaylor, Linda J.	The Administrative Dental Assistant		4 PAP/PSC	W B Saunders Co	201603	1	14,492
95	Gaylor, Linda J.	Student Workbook for The Administrative Dental Assistant		4TH	Saunders	201603	1	6,205
96	Blue, Christine M.	Darby's Comprehensive Review of Dental Hygiene		8 PAP/PSC	Mosby Inc	201603	1	13,456
97	Beatty, Christine French, Ph.D.	Community Oral Health Practice for the Dental Hygienist		4TH	W B Saunders Co	201603	1	13,111
98	Jepsen, Sren (EDT)	Cell-to-Cell Communication : Oral Health and General Health		1 HAR/DVD	Quintessence Pub Co	201603	1	22,096
99	Henry, Rachel Kearney	Dental Hygiene : Applications to Clinical Practice		1 HAR/PSC	F a Davis Co	201602	1	20,706
100	Okuji, Michael M. (EDT)	Dental Benefits and Practice Management : A Guide for Successful Practices			Blackwell Pub	201601	1	12,081
101	Wyche, Charlotte J	Active Learning Workbook for Clinical Practice of the Dental Hygienist		12TH	Lippincott Williams & Wilkins	201601	1	7,247
102	Wilkins, Esther M./ Wyche, Charlotte J.	Clinical Practice of the Dental Hygienist		12 HAR/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201601	1	20,713
103	Polverini, P. J. (EDT)	Personalized Oral Health Care : From Concept Design to Clinical Practice			Springer	201601	1	23,148
104	Thopte, Shameeka	Oral Health and Perimenopause. Oral Manifestations in Perimenopausal women		2016. 92 S.	GRIN VERLAG	201600	1	9,553
105	Vohra, Puneeta	Oral Health- A mirror of systemic health		2016. 284 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201600	1	15,906
106	Hau, Keith/ Poh, Catherine	Explaining the Oral Health of an Inner-City Low- Income Community		2016. 132 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201600	1	11,870
107	Ahuja, Nikhil/ Ahuja, Nirmal	Oral Health - Equity and Social Determinants : A Step Towards Sustainability		2016. 112 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201600	1	10,595
108	Sharma, Ripika	An overview of health behavior models-Its application to oral health		2016. 128 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201600	1	10,595
109	Salam T. A., Abdul/ Shenoy, Rekha P	Oral health related quality of life: A comprehensive view		2016. 168 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201600	1	13,781
110	Mangla, Mohit/ Sharma, Preeti	Oral Health Awareness Among Different Professionals		2016. 56 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201600	1	7,622
111	Ghosh, Abhishek/ Pallavi, S. K	Nutrition and Oral Health : Includes all key nutrients needed to maintain oral & dental health		2016. 232 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201600	1	14,843
112	Summers, Jessica	Bad Breath: How to Exterminate Smelly Breath Now - Home Remedies, Oral Health & Oral Hygiene			Createspace Independent	201511	1	1,029
113	Gehrig, Jill S./ Willmann, Donald E.	Foundations of Periodontics for the Dental Hygienist		4 PAP/PSC	Wolters Kluwer Health	201508	1	15,361
114	Aka, P. Sema, Ph.D	Primary Tooth Development in Infancy : A Text and Atlas			CRC Pr I Llc	201508	1	35,903
115	Miller, Mary/ Scully, Crispian	Mosby's Textbook of Dental Nursing		2 PAP/PSC	Mosby Inc	201507	1	7,129
116	Barnes, Julia Renee (EDT)	Oral Health : Anesthetic Management, Social Determinants			Nova Biomedical	201507	1	27,622
117	Glosson, Alyssa Walker	A Quick Guide to Children's Oral Health			Createspace Independent Pub	201506	1	948

	著者名	書名	巻号	版次	出版社名	出版年月	数量	8%税込価
118	Krishnan, Vinod (EDT)	Biological Mechanisms of Tooth Movement		2ND	Blackwell Pub	201504	1	30,210
119	Haveles, Elena Bablenis	Applied Pharmacology for the Dental Hygienist		7TH	Mosby Inc	201503	1	16,736
120	P, Piero Dds	Never Brush Your Teeth Again			P., Piero D.D.S.	201503	1	2,062
121		Ageism in Health Care: Are Our Nation's Seniors Receiving Proper Oral Health Care?			Scholar's Choice	201502	1	3,754
122	Stuart, Regina (EDT)	Oral Health Care : Pediatrics and Clinical Analysis			Ingram Pub Services	201502	1	25,196
123	Stuart, Regina (EDT)	Oral Health Care Handbook			Ingram Pub Services	201502	1	26,758
124	Gupta, Bhuvan Deep	Oral Health Behaviour in Adolescents		2015. 172 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201500	1	13,781
125	Pereira, Roleen/ Shetty, Vabitha	Therapeutic effects of honey and neem in oral health care		2015. 68 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201500	1	7,622
126	Prasad, Keerthi	To assess the relationship between HLOC and oral health		2015. 104 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201500	1	10,595
127	Kataria, Sakshi	Oral Health Care for the Elderly		2015. 248 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201500	1	14,843
128	Aschheim, Kenneth W.	Esthetic Dentistry : A Clinical Approach to Techniques and Materials		3RD	Mosby Inc	201412	1	44,885
129	Sheiham, Aubrey/ Moyses, Samuel	Promoting the Oral Health of Children : Theory and Practice		2ND	Quintessence Pub Co	201412	1	18,989
130	Carpenter, G. (EDT)	Dry Mouth : A Clinical Guide on Causes, Effects and Treatments			Springer	201411	1	25,482
131	Robinson, Peter G., Ph.D. (EDT)	Dentine Hypersensitivity : Developing a Person-Centred Approach to Oral Health			Academic Pr	201408	1	25,895
132	Lamster, Ira B. (EDT)	Diabetes Mellitus and Oral Health : An Interprofessional Approach			Blackwell Pub	201405	1	14,326
133	Verma, Shikha	Genetics and oral health		2014. 236 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201400	1	14,843
134	Khurana, Suchi	Geriatric Oral Health : Oral Health of Elderly		2014. 184 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201400	1	13,781
135	Verma, Shikha	Geriatric Oral Health		2014. 52 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201400	1	7,622
136	Centers for Disease Control	Trends in Oral Health Status (Vital and Health Statistics)			Createspace Independent Pub	201312	1	2,759
137	Felton, Ann/ Chapman, Alison	Basic Guide to Oral Health Education and Promotion		2ND	John Wiley & Sons Inc	201312	1	6,032
138	U. S. Department of Health	Dental Caries Prevention : The Physician's Role in Child Oral Health: Systematic Evidence Review			Createspace Independent Pub	201306	1	3,105
139		A Pediatric Guide to Children's Oral Health Flip Chart and Reference Guide			Amer Academy of Pediatrics	201305	1	9,485
140	Adamu, Ve/ Eneajo, Nif	Your Mouth : A Pragmatic Expos of Informed Self-care & Astute Decision			West Bow Pr	201301	1	2,062
141	Badiyani, Bhumika Kamal	Fluoride Varnish : A Universal, Affordable, Accessible & Sustainable Oral Health Care		2013. 104 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201300	1	10,405
142	Alhadainy, Hatem	Oral Health and Heart		2013. 108 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201300	1	10,595
143	Engeswick, Lynnette M.	Cross-Cultural Competency Adaptability of Dental Hygiene Educators		2013. 164 S.	LAP LAMBERT ACADEMIC	201300	1	14,441
144	Chestnutt, Ivor G., Ph.d.	Dental Public Health at a Glance (Dentistry at a Glance)			Blackwell Pub	201603	1	5,609
145	Moule, Alex J. (EDT)	Diagnosing Dental and Orofacial Pain : A Clinical Manual			Blackwell Pub	201611	1	8,631
146	Beemsterboer, Phyllis L.	Ethics and Law in Dental Hygiene		3RD	W B Saunders Co	201603	1	12,075
147	Stabulas-Savage, Jeanine J.	Frommer's Radiology for the Dental Professional		10TH	Mosby Inc	201804	1	15,528
148	Hubar, J. Sean/ Caballero, Paula	Fundamentals of Oral and Maxillofacial Radiology (Fundamentals : Dentistry)			Wiley-Blackwell	201707	1	17,260
149	Koong, Bernard	Atlas of Oral and Maxillofacial Radiology			Blackwell Pub	201704	1	19,852
150	Reynolds, Tim	Basic Guide to Dental Radiography (Basic Guide)			Blackwell Pub	201610	1	5,609
151	Langlais, Robert P., Ph.D.	Exercises in Oral Radiology and Interpretation		5 CSM	W B Saunders Co	201609	1	13,801
152	Iannucci, Joen	Dental Radiography : A Workbook and Laboratory Manual		5TH	Saunders	201606	1	7,759
153	Tamimi, Dania/ Hatcher, David	Temporomandibular Joint (Specialty Imaging)		1 HAR/PSC	Elsevier Science Health Science	201606	1	51,788
154	Iannucci, Joen M	Dental Radiography : Principles and Techniques		5 PAP/PSC	W B Saunders Co	201602	1	16,391
155	Fuhrmann, Andreas	Dental Radiology			Thieme	201505	1	10,616
156	Malet, Jacques/ Mora, Francis	Implant Dentistry at a Glance (At a Glance)		2ND	Wiley	201804	1	7,768

	著者名	書名	巻号	版次	出版社名	出版年月	数量	8%税込価
157	Komabayashi, Takashi	Clinical Cases in Endodontics (Clinical Cases)			Wiley-Blackwell	201712	1	20,713
158	Karimbux, Nadeem (EDT)	Clinical Cases in Implant Dentistry (Clinical Cases)			Blackwell Pub	201701	1	20,713
159	Peters, O. A.	The Guidebook to Molar Endodontics			Springer	201612	1	28,668
160	Jain, Priyanka (EDT)	Current Therapy in Endodontics			Blackwell Pub	201610	1	19,850
161	Fayad, M. /Johnson, B. R.	3D Imaging in Endodontics : A New Era in Diagnosis and Treatment			Springer	201606	1	23,359
162	Cullum, Daniel R. (EDT)	Minimally Invasive Dental Implant Surgery			Blackwell Pub	201512	1	25,893
163	Banerjee, Avijit/ Watson, Timothy F.	Pickard's Guide to Minimally Invasive Operative Dentistry		10TH	Oxford Univ Pr	201508	1	11,063
164	Wennerberg, A. (EDT)	Implant Surfaces and their Biological and Clinical Impact			Springer	201501	1	28,668
165	Shen, Zhijian/ Liu, Yihong	Customized All-Ceramic Dental Prostheses			Butterworth-Heinemann	201801	1	31,074
166	Carr, Alan B./ Brown, David T.	Mccracken's Removable Partial Prosthodontics		13TH	Mosby Inc	201512	1	25,032
167	Rosenstiel, Stephen F.	Contemporary Fixed Prosthodontics		5TH	Mosby Inc	201509	1	29,175
168	Klineberg, Iven (EDT)	Functional Occlusion in Restorative Dentistry and Prosthodontics		1 HAR/PSC	Mosby Inc	201509	1	17,210
169	Girdler, N. M./ Hill, C. M./ Wilson, K. E.	Conscious Sedation for Dentistry		2ND	Blackwell Pub	201711	1	9,494
170	Malamed, Stanley F.	Sedation : A Guide to Patient Management		6TH	Mosby Inc	201706	1	17,781
171	Rogers, Nicola/ Pickett, Cinzia	Basic Guide to Oral and Maxillofacial Surgery			Blackwell Pub	201706	1	6,472
172	Logothetis, Demetra Daskalos	Local Anesthesia for the Dental Hygienist		2 PAP/PSC	Mosby Inc	201603	1	15,355
173	Bosack, Robert C., DDS (EDT)	Anesthesia Complications in the Dental Office			Blackwell Pub	201506	1	17,260
174	Huang, Greg J. (EDT)	Evidence-Based Orthodontics		2ND	Wiley	201805	1	17,260
175	Welbury, Richard (EDT)	Paediatric Dentistry		5TH	Oxford Univ Pr	201803	1	13,030
176	Raked, Tina	Orthodontics for Dental Hygienists and Dental Therapists			Blackwell Pub	201711	1	7,768
177	Askari, Marjan	Atlas of Orthodontic Case Reviews			Blackwell Pub	201709	1	21,576
178	Thilander, Birgit, Dr., Ph.D., D.D.S.	Essential Orthodontics (Dentistry Essentials)			Blackwell Pub	201707	1	8,631
179	Cobourne, Martyn (EDT)	Orthodontic Management of the Developing Dentition : An Evidence-Based Guide			Springer	201706	1	28,668
180	Koch, Goran/ Poulsen, Sven	Pediatric Dentistry : A Clinical Approach		3 HAR/PSC	Blackwell Pub	201701	1	21,579
181	Campbell, C. (EDT)	Dental Fear and Anxiety in Pediatric Patients : Practical Strategies to Help Children Cope			Springer	201701	1	28,668
182	Swennen, G.	3D Virtual Treatment Planning of Orthognathic Surgery			Springer	201611	1	46,511
183	Philipone, E./ Yoon, A. J.	Oral Pathology in the Pediatric Patient			Springer	201611	1	28,668
184	Graber, Lee W	Orthodontics : Current Principles and Techniques		6 HAR/PSC	Mosby Inc	201608	1	50,582
185	Shroff, B. (EDT)	Biology of Orthodontic Tooth Movement : Current Concepts and Applications in Orthodontic Practice			Springer	201606	1	28,668
186	Nanda, Ravindra, Ph.D.	Atlas of Complex Orthodontics			Mosby Inc	201604	1	32,813
187	Berg, Joel H.	Early Childhood Oral Health		2ND	Blackwell Pub	201510	1	20,899
188	Cobourne, Martyn T., Ph.D.	Handbook of Orthodontics		2ND	Elsevier Science Health Science	201510	1	12,047
189	Dean, Jeffrey A. (EDT)	Mcdonald and Avery's Dentistry for the Child and Adolescent		10 HAR/PSC	Mosby Inc	201509	1	22,788
190	Wilson, S. (EDT)	Oral Sedation for Dental Procedures in Children			Springer	201508	1	23,941
191	Soxman, Jane A.	Handbook of Clinical Techniques in Pediatric Dentistry		PAP/PSC	Wiley-Blackwell	201504	1	14,326
192	Nightingale, Claire/ Sandy, Jonathan	Illustrated Questions in Orthodontics		2 ILL	Oxford Univ Pr	201501	1	6,145
193	Rossi, Massimo	Orthodontics in Clinical Practice			Anshan	201411	1	29,197
194	Holm-Pedersen, Poul (EDT)	Textbook of Geriatric Dentistry		3RD	Wiley-Blackwell	201508	1	17,263
195	Polansky, Barry	Complete Dentist : Positive Leadership and Communication Skills for Success			Wiley-Blackwell	201711	1	10,355

	著者名	書名	巻号	版次	出版社名	出版年月	数量	8%税込価
196	Stewart, Marcia (Gladwin)	Clinical Aspects of Dental Materials : Theory, Practice, and Cases		5TH	Lippincott Williams & Wilkins	201711	1	14,153
197	Boyd, Linda R. Bartolomucci	Dental Instruments : A Pocket Guide		6 POC SPI	W B Saunders Co	201703	1	9,141
198	Coluzzi, D. J./ Parker, S.	Lasers in Dentistry (Textbooks in Contemporary Dentistry)			Springer	201703	1	21,818
199	Miller, Chris H., Ph.D.	Infection Control and Management of Hazardous Materials for the Dental Team		6TH	Mosby Inc	201701	1	12,248
200	Stefanac, Stephen J.	Diagnosis and Treatment Planning in Dentistry		3 PAP/PSC	Mosby Inc	201602	1	17,102
					合 計		200	3,550,000

学術雑誌 内国書					
No.	誌名	出版社	刊行頻度	本体価	スタート年月
1	歯界展望 (含別冊)	医歯薬出版	月刊+別冊2	42,158	2019年1月より
2	デンタルハイジーン (含別冊)	医歯薬出版	月刊+別冊2	25,452	2019年1月より
3	デンタルダイヤモンド	デンタルダイヤモンド社	月刊	26,827	2019年1月より
4	日本歯科評論 (含増刊・別冊)	ヒューロパブリッシャーズ	月刊+増刊1+別冊1	42,338	2019年1月より
5	歯科衛生士	クインテッセンス出版	月刊	17,496	2019年1月より
6	ザ・クインテッセンス	クインテッセンス出版	月刊	29,160	2019年1月より
7	DH STYLE	デンタルダイヤモンド社	月刊	16,329	2019年1月より
8	公衆衛生	医学書院	月刊	26,710	2019年1月より
9	医療と介護Next	メディカ出版	隔月刊	12,020	2019年1月より
10	臨床栄養	医歯薬出版	月刊+増刊2	23,085	2019年1月より
11	日本嚥下リハ学会誌	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	年3回	5,625	2019年1月より
12	日本静脈経腸栄養学会誌	ジェフ コーポレーション	隔月刊	10,800	2019年1月より
合 計				278,000	

学術雑誌 外国書					
No.	誌名	出版社	購読形態	合計価(税込)	スタート年月
1	Clinical Oral Investigations	Springer Nature	PR+FO	158,760	JAN:2019
2	Community Dentistry & Oral Epidemiology	John Wiley	PR	236,520	JAN:2019
3	Gerodontology	John Wiley	PR	182,520	JAN:2019
4	International Journal of Dental Hygiene	John Wiley	PR	132,840	JAN:2019
5	Dysphagia	Springer Nature	PR+FO	204,360	JAN:2019
合 計				915,000	

	タイトル	出版社	数量	8%税込価
1	口腔機能を向上させる症状別アプローチ	オーラルケア(鍬谷書店)	1	7,541
2	歯科衛生士さんのためのブラッシング指導	デンタルダイヤモンド社	1	8,748
3	歯科衛生士さんのためのシャープニング	デンタルダイヤモンド社	1	8,748
4	歯科衛生士さんのための口腔内撮影術	デンタルダイヤモンド社	1	8,748
5	歯科衛生士の「心地よいメインテナンスの流れ」～コミュニケーション・施術のためのポイント～	ジャパンライム	1	4,860
6	デキる歯科衛生士を目指す！SRP上達のための10ポイント	ジャパンライム	1	4,860
7	これができる！歯科衛生士のための口腔内写真撮影法	ジャパンライム	1	4,860
8	新訂版 魅力UPのスタッフ入門 歯科医療接遇	ジャパンライム	1	4,860
9	知っておきたい！「口腔粘膜疾患」	ジャパンライム	1	4,860
10	ドライマウス口腔乾燥症の原因と対処法	ジャパンライム	1	4,860
11	口腔ケア	医学映像教育センター	1	27,216
12	先生、いっしょに磨こうよ！(全2巻)	テレマック	1	32,076
13	MASA日本語版 嚥下障害アセスメント DVDビデオ付	医歯薬出版	1	3,499
14	高齢者の口腔機能評価NAVI DVDビデオ付	医歯薬出版	1	4,471
15	DVD&ブックレット 摂食・嚥下障害検査のための内視鏡の使い方 60分DVDビデオ付	医歯薬出版	1	8,164
16	CGと機能模型でわかる！器官の異常と誤嚥・摂食嚥下のメカニズム DVD-ROM付	医歯薬出版	1	5,248
17	DVDで学ぶ神経内科の摂食嚥下障害	医歯薬出版	1	7,192
18	Dr. 弘岡に訊く臨床的ペリオ講座 2 歯科医師と歯科衛生士に必要なエビデンス 付録DVDビデオ付	医歯薬出版	1	6,318
19	胃ろうPEGケアのすべて 見てわかるDVD付	医歯薬出版	1	3,888
20	目でみる嚥下障害(DVD付) 嚥下内視鏡・嚥下造影の所見を中心として	医歯薬出版	1	3,304
21	Dr.野原のナルホド！摂食・嚥下障害マネジメント ～キュアからケアへ～	株式会社ケアネット	1	21,870
22	“もっと”嚥下の見える評価をしよう！頸部聴診法トレーニング	メディカ出版	1	6,025
23	生きる力を育む保育ビデオシリーズ 心と身体の発達	東映株式会社 教育映像部	1	31,946
24	生きる力を育む保育ビデオシリーズ 自発性と意欲	東映株式会社 教育映像部	1	31,946
25	生きる力を育む保育ビデオシリーズ 生活習慣としつけ	東映株式会社 教育映像部	1	31,946
26	生きる力を育む保育ビデオシリーズ 遊びと人とのかかわり	東映株式会社 教育映像部	1	31,946
		合 計	26	320,000

保健医療学部口腔保健学科実習施設一覧

(病院、診療所関係)

実習施設名	所在地	授業科目	受入可能人数	備考
明海大学歯学部付属明海大学病院	埼玉県坂戸市けやき台1番1号	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	70人	3年次前期
		口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ	70人	3年次後期
明海大学 PDI 埼玉歯科診療所	埼玉県入間市豊岡5丁目1番3号	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	50人	3年次前期
		口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ	50人	3年次後期
明海大学 PDI 東京歯科診療所	東京都渋谷区代々木1丁目38番2号	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	30人	3年次前期
		口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ	30人	3年次後期
明海大学 PDI 浦安歯科診療所	千葉県浦安市明海1丁目1番20号	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	70人	3年次前期
		口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ	70人	3年次後期

上記のほか、一般社団法人千葉県歯科医師会、一般社団法人浦安市歯科医師会及び一般社団法人市川市歯科医師会から実習協力の承諾を得ている。

(社会福祉施設関係)

実習施設名	所在地	授業科目	受入可能人数	備考
浦安エデンの園 (社会福祉法人聖隷福祉事業団)	千葉県浦安市日の出1丁目2番1号	口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ	70人	介護付き有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護) 明海大学 PDI 浦安歯科診療所が当該施設の協力医療機関となっている。 4年次前期
舞浜倶楽部 新浦安フォーラム (株式会社舞浜倶楽部)	千葉県浦安市高洲1丁目2番1号	口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ	70人	介護付き有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護) 4年次前期

(健康センター)

実習施設名	所在地	授業科目	受入可能人数	備考
浦安市健康センター	千葉県浦安市猫実1丁目2番5号	口腔保健学臨床実習Ⅲ	70人	保健・医療・福祉が連携した総合的施設。急病診療所や休日歯科診療のほか、総合健康診査、各種健康相談、健康教育などを実施。高齢者デザイナーセンターも併設している。 4年次前期

(学校関係)

実習施設名	所在地	授業科目	受入可能人数	備考
浦安市立浦安小学校	千葉県浦安市猫実4丁目9番1号	口腔保健学臨床実習Ⅲ	70人	実地を行う学校及び学校ごとの受入れ人数は、実習年度ごとに教育委員会及び各学校と事前打合せを行った上で決定する。 4年次前期
浦安市立南小学校	千葉県浦安市堀江5丁目4番1号			
浦安市立北部小学校	千葉県浦安市北栄3丁目20番1号			
浦安市立見明川小学校	千葉県浦安市弁天3丁目1番2号			
浦安市立富岡小学校	千葉県浦安市富岡1丁目1番1号			
浦安市立美浜南小学校	千葉県浦安市美浜3丁目15番1号			
浦安市立東小学校	千葉県浦安市猫実1丁目11番1号			
浦安市立舞浜小学校	千葉県浦安市舞浜2丁目1番1号			
浦安市立美浜北小学校	千葉県浦安市美浜5丁目12番1号			
浦安市立日の出小学校	千葉県浦安市日の出3丁目1番1号			
浦安市立明海小学校	千葉県浦安市明海2丁目13番4号			
浦安市立高洲小学校	千葉県浦安市高洲4丁目2番1号			
浦安市立日の出南小学校	千葉県浦安市日の出5丁目4番4号			
浦安市立明海南小学校	千葉県浦安市明海5丁目5番1号			
浦安市立高洲北小学校	千葉県浦安市高洲2丁目2番1号			
浦安市立東野小学校	千葉県浦安市東野1丁目7番3号			
浦安市立入船小学校	千葉県浦安市入船3丁目66番1号			

実習施設承諾書 一覧

No	種類	実習施設名	所在地
1	病院	明海大学歯学部附属明海大学病院	埼玉県坂戸市けやき台1番1号
2	診療所	明海大学PDI埼玉歯科診療所	埼玉県入間市豊岡5丁目1番3号
3	診療所	明海大学PDI東京歯科診療所	東京都渋谷区代々木1丁目38番2号
4	診療所	明海大学PDI浦安歯科診療所	千葉県浦安市明海1丁目1番20号
5	保健所	浦安市健康センター	千葉県浦安市猫実1丁目2番5号
6	高齢者施設	浦安エデンの園	千葉県浦安市日の出1丁目2番1号
7	高齢者施設	舞浜倶楽部新浦安フォーラム	千葉県浦安市高洲1丁目2番1号
8	浦安市小学校	浦安小学校	千葉県浦安市猫実4丁目9番1号
9	浦安市小学校	南小学校	千葉県浦安市堀江5丁目4番1号
10	浦安市小学校	北部小学校	千葉県浦安市北栄3丁目20番1号
11	浦安市小学校	見明川小学校	千葉県浦安市弁天3丁目1番2号
12	浦安市小学校	富岡小学校	千葉県浦安市富岡1丁目1番1号
13	浦安市小学校	美浜南小学校	千葉県浦安市美浜3丁目15番1号
14	浦安市小学校	東小学校	千葉県浦安市猫実1丁目11番1号
15	浦安市小学校	舞浜小学校	千葉県浦安市舞浜2丁目1番1号
16	浦安市小学校	美浜北小学校	千葉県浦安市美浜5丁目12番1号
17	浦安市小学校	日の出小学校	千葉県浦安市日の出3丁目1番1号
18	浦安市小学校	明海小学校	千葉県浦安市明海2丁目13番4号
19	浦安市小学校	高洲小学校	千葉県浦安市高洲4丁目2番1号
20	浦安市小学校	日の出南小学校	千葉県浦安市日の出5丁目4番4号
21	浦安市小学校	明海南小学校	千葉県浦安市明海5丁目5番1号
22	浦安市小学校	高洲北小学校	千葉県浦安市高洲2丁目2番1号
23	浦安市小学校	東野小学校	千葉県浦安市東野1町名7番3号
24	浦安市小学校	入船小学校	千葉県浦安市入船3丁目66番1号

実習協力承諾書 一覧

No	種類	名称	所在地
1	歯科医師会	一般社団法人 千葉県歯科医師会	千葉県千葉市美浜区新港3-2-17
2	歯科医師会	一般社団法人 浦安市歯科医師会	千葉県浦安市猫実1丁目2番5号
3	歯科医師会	一般社団法人 市川市歯科医師会	千葉県市川市八幡2丁目9番9号

臨地実習要項

明海大学

保健医療学部口腔保健学科

学籍番号	
氏名	

1 実習の意義

歯科医療の高度化、専門化が進展する中、質の高い臨地実習（臨床実習を含む。）経験に裏打ちされた口腔保健の基礎的知識及び基本的な技術・態度を備え、口腔保健に関する実践能力とともに、倫理性を持ち、的確な問題解決能力を身につけ、チーム医療を支えることのできる能力を養う。

2 実習の目的

- (1) 学内で修得した口腔保健の実践に必要な専門的知識、技術及び態度を実際の場面に応用し、総合的な実践力を修得する。
- (2) 対象を全人的に捉え、理論と実践を結びつけた包括的な口腔保健活動を展開する能力を養う。
- (3) 実習を通じて、歯科衛生士としての自覚と責任感を養い、保健、医療及び福祉の分野における医療職としての理解を深める。
- (4) 実習を通じて、歯科衛生士に求められる倫理性を養い、自己の人間の成長と専門職業人としての自覚を育む。

3 実習の目標

- (1) 口腔保健の対象者と良好な人間関係を築きながら、総合的に理解し、援助的関係を形成することができる。
- (2) 多様な対象の特性や状態を理解した上で、根拠に基づき口腔保健の方向性を決定し、問題解決法による計画と口腔保健の実践・評価・改善を行い、それらを記録することができる。
- (3) 修得した専門知識に基づき、基本的な口腔保健に関する技術を実践でき、論理的・科学的に実践することの重要性を認識することができる。
- (4) 歯科医療従事者の役割を理解し、チーム歯科医療についての知識と実践を理解するとともに、保健・医療チームの一員としての歯科衛生士の責任と役割、医療関連従事者との連携が理解できる。
- (5) 実習を通じて、自己の歯科衛生士観を深め、豊かな人間性を養う。
- (6) 実習を通じて、自己の口腔保健学に対する実践能力の充実・向上を図るために、研究的視点を持つことの重要性が理解できる。

4 実習の計画

本学部学科における臨地実習（臨床実習を含む。）は、次のとおりとなっている。

なお、グループ分け及びグループごとの実習スケジュール等の詳細は、実習開始前にそれぞれの授業科目のオリエンテーションで発表する。

時 期	授業科目名	単位数	時間数	概 要
3 年次 前期	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	8	360 時間	臨床臨地実習を通じて、様々な対象者に接する中で歯科医療の実践を通じ、歯科衛生士として必要な基本的な知識、態度、技能を修得する。 実習先は、本学の PDI 埼玉・浦安・東京歯科診療所と歯学部付属病院を予定している。
3 年次 前期	口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ	8	360 時間	臨床臨地実習を通じて、様々な対象者に接する中で歯科医療の実践を通じ、歯科衛生士として身に付けた基本的な知識、態度、技能を、臨床実践できる能力を修得する。 実習先は、本学の PDI 埼玉・浦安・東京歯科診療所と歯学部付属病院を予定している。
4 年次 前期	口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ	4	180 時間	臨床臨地実習を通じて、歯科衛生士の三大業務及び歯科衛生士活動の実際を実践的に修得する。 実習先は、浦安市内の社会福祉施設、健康センター及び小学校を予定している。

5 成績の評価と単位の認定

臨地実習の評価は、各施設の「実習指導教員」及び「実習指導者」の意見を参考に、次の（ア）及び（イ）に掲げる事項を加味して授業科目担当責任者である「実習責任者」が総合評価する。

（ア）各実習とも、原則として所定の時間数の 80%以上出席しなければならない。

（イ）評価には、各実習施設における到達度と習熟度の項目と、出席状況、態度、協調性、積極性及び実習の記録や課題レポートの内容の評価を含める。

なお、成績は、明海大学学則第 38 条の規定により、A (100～80 点)、B (79～70 点)、C (69～60 点)、D (59 点以下) の 4 種とし、A、B 及び C を合格、D を不合格とし、合格した授業科目につき所定の単位が認定される。

6 実習を欠席した場合の措置

次に掲げる事情により実習を欠席した場合は、「欠席届」（診断書、遅延証明書等添付）を「実習指導教員」へ提出することにより、実習期間の延長又は補講の措置を受けることができる。

ア 感染症又は感染症の疑いで大学が出校停止した場合

イ 交通機関の遅延その他止むを得ない事情により遅刻、欠席又は早退をした場合（事前に実習先及び臨地実習指導教員へ連絡すること。）

7 実習における倫理

実習においては、歯科衛生士をめざす保健医療学部口腔保健学科の学生として、「歯科衛生士憲章（「公益社団法人 日本歯科衛生士会」制定）」をもとに、責任ある行動と態度をとることが求められる。

実習の場で、倫理的な問題や判断に迷うことがあれば、「実習指導者」や「実習指導教員」に相談、あるいはカンファレンスに取上げるなどして積極的に課題に取り組む、歯科衛生士をめざす学生としての責任を果たすことが望まれる。

歯科衛生士憲章

私たちは、職業の重要性と社会的使命を強く自覚し、ここに歯科衛生士憲章を制定し、その実践を期するものである。

1. 私たちは国民の歯科衛生を担う者として誇りと責任をもって、社会に貢献する。
1. 私たちは常に地域住民の立場を理解し誠実に業務を遂行する。
1. 私たちは社会の信頼に応えるよう常に人格の形成、知識及び技術の向上に努める。
1. 私たちは関係諸法令を遵守し歯科保健医療の向上に寄与する。
1. 私たちは常に歯科衛生士業務発展のため相互の融和と団結に努める。

8 実習における注意事項

(1) 実習施設内での行動

ア 医療専門職としての意識

歯科衛生士は国家資格のもとに専門業務を行う職業である。現在は学生といった身分ではあるものの、医療専門職としての意識を持って責任ある行動をとらなければならない。

イ 挨拶の励行

挨拶は対人関係を円滑にし、社会生活を円滑にする。また、医療現場においては、チームワークを高め、質の高い医療を提供することができる。

対象者とのコミュニケーションや信頼関係を築く第一歩は敬意のこもった挨拶から始まる。対象者のみならず、実習施設の職員の方々、学生同士も同様に心のこもった挨拶の励行に心掛ける必要がある。

ウ 言葉づかい

- (ア) 明瞭で、学生として相応しい言葉づかいを心がける。これは対象者や実習施設の職員の方々はもちろんのこと、学生同士においても呼称や言葉づかいに常日頃から留意する。
- (イ) 学生同士の私語や談笑を慎む。
- (ウ) 言葉だけでなく、表情や動作にも注意する。

エ 実習態度

- (ア) 解らないことは放置せず、必ず問題解決する。実習中の質問は、状況や時間を考慮して行う。
- (イ) 不明なことは曖昧にせず、必ず「実習指導者」や「実習指導教員」に報告・相談し、指導を受ける。
- (ウ) 学生としての立場を自覚し、自己判断や勝手な行動をしない。
- (エ) 実習中、周囲の状況等の異変に気付いた時は、迅速かつ正確に「実習指導者」や「実習指導教員」に報告する。
- (オ) 「実習指導者」や職員の方々への挨拶や返事、報告などは、実習生として相応しい言葉づかいと態度で行う。
- (カ) 実習施設への行き帰りも実習中であることを意識し、公共の交通機関等におけるマナーにも配慮する。
- (キ) 周囲の方々を不快にさせないように、足音、話し声、笑い声などにも注意する。
- (ク) 狭い廊下やエレベーター、階段などでは、車いすや外来者の方々を優先する。また、廊下や階段では、必要に応じて立ち止まり端に避けるなどの配慮をする。
- (ケ) 登下校を含め喫煙は認めない。

オ 時間厳守と出欠席の取扱い

- (ア) 実習施設にはグループ全員揃って入室し、少なくとも実習開始 5 分前には実習ができる態勢を整える。
- (イ) 実習は、全期間・時間出席することが原則である。

カ 貴重品の保管

- (ア) 持ち物には名前を書き、貴重品の管理は実習先の指示に従い保管する。
- (イ) 原則として、必要以上の金品は持っていない。

キ 携帯電話

- (ア) 携帯電話の使用は禁止する。実習中は必ず電源を切り、携帯しない。なお、緊急時などやむを得ない事情により携帯電話を使用しなければならない時は、「実習指導者」の許可を得て、指定された時間帯、場所で使用する。

(イ) 実習先の電話番号、「実習指導教員」及び実習事務担当窓口の電話番号は登録しておく。

ク 休憩時間

(ア) 休憩時間、場所は、「実習指導者」の指示に従う。

(イ) 昼食は各自持参する。休憩時間中の外出は原則として認めない。

(ウ) 休憩時間中も実習中であることを認識する。

(2) 身だしなみ

礼節や安全への配慮のため、身だしなみに留意し、自身のおしゃれとは区別する。また、実習開始前には身だしなみチェックリストで確認するとともに、学生同士でもお互いに確認し合う。

ア 既定のユニホームやシューズを着用する。

イ ユニホームやシューズは感染源となり得るので、洗濯やアイロンがけをこまめに行い、常に清潔に保つ。

ウ 冬季防寒には、本学指定のカーディガンを着用する。

エ 爪は短く清潔にし、ヤスリをかけておき、マニキュアや付爪は不可とする。

オ 頭髮は襟につかない程度に短くするか、乱れないよう一つにまとめる。前髪は落ちてこないようピンでとめる。派手な髪染めは禁止する。

カ 華美な化粧は避ける。マスカラ、つけまつげ、ピアスや指輪などのアクセサリ、香水は付けない。

キ 時計は指示のある場合を除き、実習中は外す。

ク 実習施設への行き帰りの服装は、白のブラウス、黒を基調としたスカート又はパンツスーツとする。

ケ 靴は黒色のパンプスを着用し、かばんも華美なものとは避ける。ブーツの着用は不可とする。

コ 冬季はコートの上に着用は認めるが、必ずスーツの上に着用する。

(3) 個人情報の取扱い

実習先では、極めてプライベートな個人情報を取り扱っている。実習で知り得た個人情報は、守秘義務を遵守しなければならない。

ア 実習記録は個人情報が漏えいしないよう最善の注意を払い、取扱いには十分留意する。

(ア) 実習記録物には対象者の実名を書かないなど、個人が特定できないよう配慮する。

(イ) 診療に関する記録などを無断で持ち出さない。

(ウ) 対象者に関する記録物をコンビニエンスストアなどでコピーしたり、公共の場所や電車などで開示しない。特に電車内などの公共の場での会話には注意する。

(エ) 対象者に関するメモなどを人目のつく場所に不用意に置いたり、落したりしないよう細心の注意を払う。

- (オ) パソコンで情報を管理する場合は、ハードディスク、フラッシュメモリー等の電子媒体に情報を残さない。
- イ 実習記録は、実習終了後すみやかに「実習指導教員」へ提出し、その他の資料やメモ類はきめられた方法で破棄する。電子媒体に残されたデータは破棄する。
- ウ カンファレンスなどの資料に記載する個人情報是最小限にとどめ、使用する必要がなくなった時は、すみやかに決められた方法により破棄する。
- エ 実習施設・大学の内外を問わず、対象者やその家族に関する不必要な会話は慎む。
- オ 実習施設や対象者の個人情報等はもちろんのこと、臨地実習に付随する内容を Facebook や Twitter などの SNS に投稿しない。

(4) 実習中の連絡

- ア 「実習指導教員」は各自公用の携帯電話を携帯し、学生への連絡、危急時の相談などに応じる。
- イ 「実習指導教員」からの実習に関する連絡は、学生ポータルサイトや電子メールによるほか、原則として学生グループのリーダーが行う。
- ウ 学生が何らかの事情により遅刻・欠席する場合は、実習開始前までに実習施設及び「実習指導教員」へそれぞれの指定する方法により連絡する。

9 実習中の事故及び感染症対策

学生は、実習及び実習の過程における人身被害及び物損事故を起こさないように、かつ自身にも被害が及ばないよう行動しなければならない。また、事故を生じさせる危険性に気づいた学生は、そのことを「実習指導者」及び「実習指導教員」に相談し、事故を未然に防ぐよう努めなければならない。

実習中の事故にはアクシデントとインシデントがある。アクシデントとは、対象者や本人に障害が起きた事象であり、インシデントとは、対象者や本人などに障害が起こる可能性があったが、未然に（偶然又は意識的に）回避・防止され、結果として対象者に障害が及ばなかった事象のことをいう。

また、気をつけなければならない感染症として、結核、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、風疹、B型肝炎、インフルエンザなどがある。

(1) 事故及び感染症防止のための留意事項

実習中は、予測不可能な出来事や予期しない事故が起こることで、学生自身が当事者（加害者）になることがあり得る。学生は、自学自習を十分に行った上で細心の注意を払って実習に臨み、事故及び感染の発生を未然に防ぐため、次の事項に留意する。

- ア 日頃から自己の衛生管理に細心の注意を払い、感染防止に必要な知識・技術・態度を身につけ感染防御を徹底する。
- (ア) 決められた健康診断を必ず受ける。
- (イ) 麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、風疹などの抗体価が低い場合は、医療機関に相談

の上、実習までにワクチンなどの接種を推奨する。

(ウ) インフルエンザについてもワクチンの接種を推奨する。なお、実習施設によっては、ワクチンなどの接種が未実施の場合、実習受入を行わないケースがある。

イ 直接行為を行う場合は、感染予防のためのグローブ・マスク・防護メガネなどを着用する。

ウ 対象者の安全に配慮した口腔保健技術などの事前学習を十分行う。

エ 対象者を安全にケアできるよう対象者の状況や環境に注意する。

オ 対象者などに不安や疑問を持った場合は、速やかに「実習指導者」或いは「実習指導教員」に相談し、助言を得る。

カ 睡眠や食生活などを整え、体調を万全にして実習に臨み、個人衛生の管理を怠らない。

キ 実習前後には、手洗い、うがいを励行する。

ク 感染兆候などがあれば、すみやかに「実習指導者」又は「実習指導教員」に相談し、医療機関の受診等早めの対処を行う。

(2) 事故及び感染症が発生した場合の対応

ア アクシデント発生時の対応

(ア) 主にアクシデントの種類

- ・対象者の身体に関する事故→転倒、転落、損傷など
- ・学生の身体に関する事故→実習時間内の移動時の事故、注射針刺入血液や体液曝露、切傷、伝染性疾患の感染など
- ・物品の破損・紛失に関する事故→医療物品や備品の破損・紛失、対象者の私物の破損・紛失など

(イ) アクシデント発生時の対応

- ・学生はすみやかに、「実習指導者」及び「実習指導教員」に報告・相談し、その指示のもとに行動・対処する。
- ・対応した内容は、所定の「インシデント・アクシデント報告書」を作成し、「実習指導教員」に提出する。

(イ) アクシデント発生後の対応

臨地実習委員会は、事故発生状況の分析を行うとともに、再発防止策を検討する。

イ インシデント発生時の対応

インシデントに遭遇した学生は、「実習指導教員」に報告する。報告は、原則として所定の様式によるものとするが、緊急性を要する場合は口頭で報告し、後日すみやかに「インシデント・アクシデント報告書」を提出する。

ウ 実習施設での器具の破損や紛失

(ア) 医療器具その他を破損又は紛失した時は、直ちに「実習指導者」又は「実習指導教員」に報告し、各施設の取扱いに準じて対処する。

(イ) 対象者の物品を紛失しないよう留意する。万が一紛失した時は、直ちに「実習指導者」又は「実習指導教員」に報告し、その指示に従って対処する。

(ウ) 大学所定の「器物破損・紛失報告書」を作成し、「実習指導教員」に提出する。

エ 感染症の疑い及び感染症発症時の対応

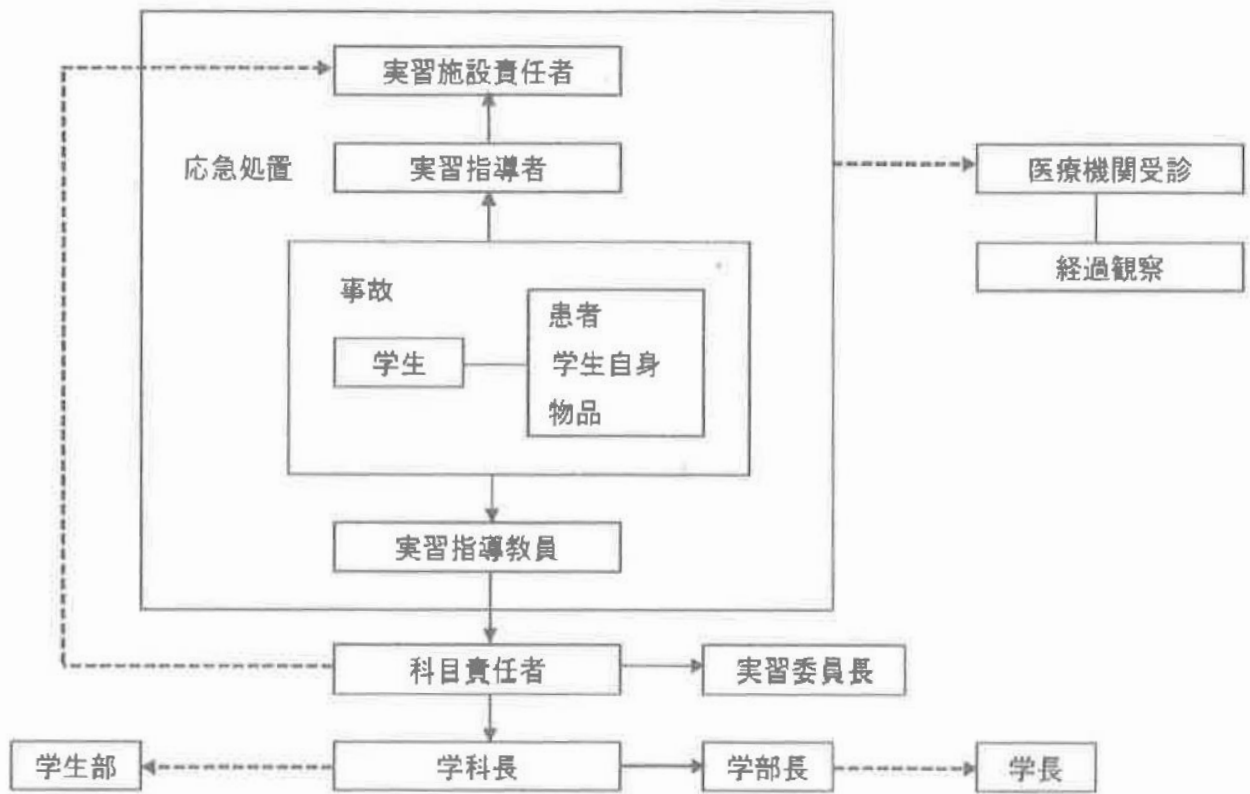
(ア) 実習中に誤って針刺しや鋭利器具により切創事故等を起こし感染を受けた可能性がある時は、直ちに「実習指導者」又は「実習指導教員」に報告し、対処方法の指示を仰ぐ。

(イ) 感染症と診断された時は、学生は医師の指示に従い、指定された欠席期間を遵守し、実習再開についても医師の指示に従う。実習再開を希望する場合は、医師の診断書又は証明書を添えて「実習指導教員」へ申し出る。

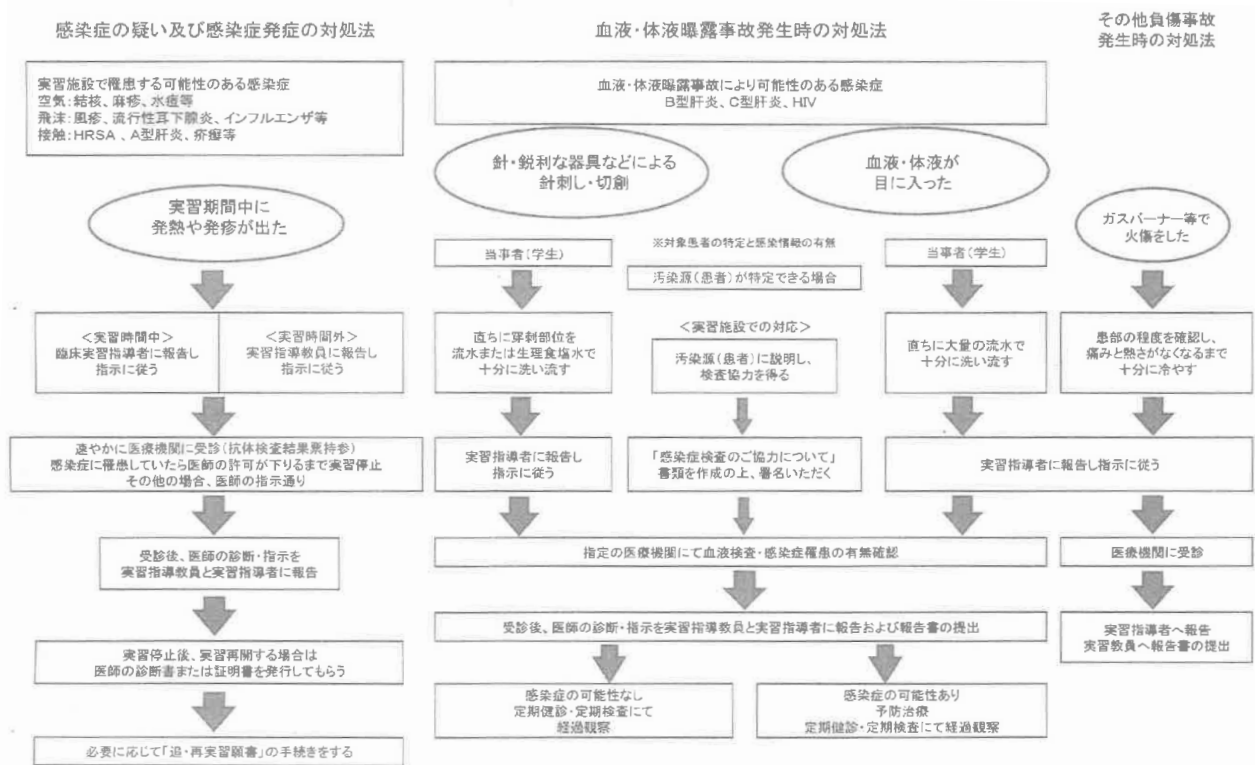
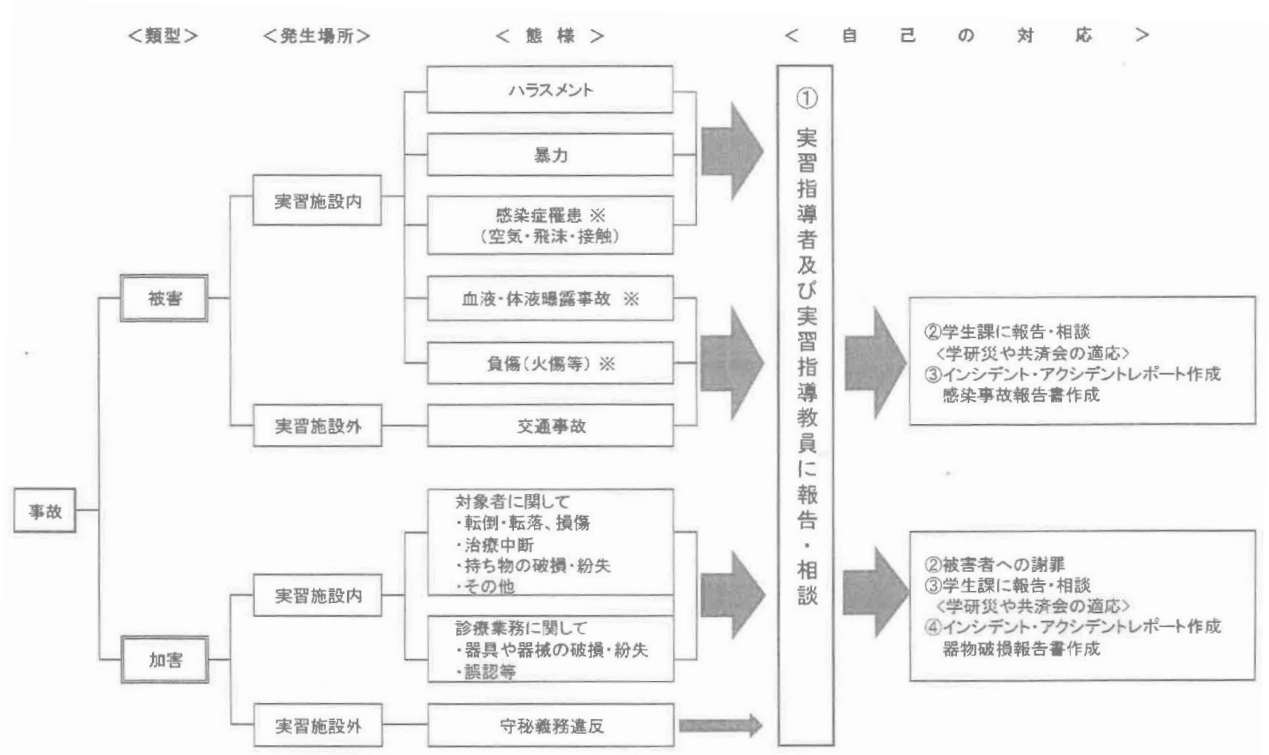
オ 保険

(公財) 日本国際教育支援協会による「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び学研災付帯賠償責任保険に加入している。保険請求等の対応は学生支援課で行っているため、万が一事故等にあった場合は学生支援課にも連絡する。

臨地実習中のインシデント・アクシデント発生時の対応図



事故及び感染症への対応図



諸様式 (サンプル)

臨地実習欠席・遅刻・早退届	
年 月 日	
学 籍 番 号	
氏 名	
授 業 科 目	
実 習 先	
日 時	<input type="checkbox"/> 欠席 月 日 () <input type="checkbox"/> 遅刻 月 日 () : ~ : <input type="checkbox"/> 早退 月 日 () : ~ :
理 由 注：欠席等の事由を 証明する書類を添付	
実習指導者名	(事前連絡 <input type="checkbox"/> 済・ <input type="checkbox"/> 未)
実習指導教員名	(事前連絡 <input type="checkbox"/> 済・ <input type="checkbox"/> 未)
摘 要 (申請者記入不要)	

インシデント・アクシデント報告書

年 月 日

学 籍 番 号	
氏 名	
授 業 科 目	
実 習 先	
報告の種類	<input type="checkbox"/> インシデント <input type="checkbox"/> アクシデント
発生・遭遇日時	月 日 () : ~ :
<p style="text-align: center;">内 容</p> <p style="font-size: small;">注：具体的にわかりやすく記入すること。</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
<p style="text-align: center;">対 応 状 況</p> <p style="font-size: small;">注：具体的にわかりやすく記入すること。</p>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
現任者の氏名等	
実習指導者名	(事前連絡 <input type="checkbox"/> 済・ <input type="checkbox"/> 未)
実習指導教員名	(事前連絡 <input type="checkbox"/> 済・ <input type="checkbox"/> 未)
摘 要 (申請者記入不要)	

(実習記録帳の記入項目サンプル)

授業科目名：		実習施設名：	
1 日目	月 日 () : ~ :	内容	
		課題	
		指摘事項	
		指導者印	
2 日目	月 日 () : ~ :	内容	
		課題	
		指摘事項	
		指導者印	
3 日目	月 日 () : ~ :	内容	
		課題	
		指摘事項	
		指導者印	
∫	∫	∫	∫

学校法人明海大学管理運営基本規則

(目的)

第1条 この規則は、学校教育法、私立学校法及び学校法人明海大学(以下「本法人」という。)寄附行為の規定に基づき、本法人及び本法人が設置する学校等の管理運営の基本に関する事項を定める。

(管理運営)

第2条 本法人の管理運営は、建学の精神に基づき、寄附行為に従い、理事会の決するところにより、理事長が総理して行う。

2 前項に規定する管理運営は、学則の制定・改正、組織、人事(採用、昇任を含む)、労務及び財務、資産・施設の管理並びに業務命令及び経営の秩序維持等一切の管理運営をいう。

3 第1項に規定する管理運営について必要な事項は別に定める。

(教育研究)

第3条 明海大学の教育研究は建学の精神に基づき、学則に従い、理事長の決するところにより、学長が、所属職員を統督して行う。

2 教育研究について必要な事項は、学則に定めるもののほか、別に定める。

(職員の労働条件)

第4条 本法人の職員の賃金、労働条件について必要な事項は就業規則に定める。

附 則

この規則は、平成17年9月13日から施行する。

附 則

この規則は、2013年11月19日から施行する。

明海大学教育基本問題協議会規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人明海大学管理運営基本規則第3条第2項に基づき、明海大学教育基本問題協議会（以下「教育基本問題協議会」という。）に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 教育基本問題協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事長
- (2) 副理事長
- (3) 常務理事
- (4) 学長
- (5) 副学長
- (6) 大学院研究科長
- (7) 学部長
- (8) 事務局長
- (9) その他理事長が指名した者

2 教育基本問題協議会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(任期)

第3条 前条第8号に掲げる委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(任命)

第4条 委員は、理事長が任命する。

(審議事項)

第5条 教育基本問題協議会は、理事長の提案又は諮問に基づき、教育に係わる基本問題及び教学に関する重要事項について意見を述べるものとする。

(会議)

第6条 理事長は、教育基本問題協議会を招集し、その議長となる。ただし、理事長に事故あるときは、常務理事がその職務を代行する。

2 教育基本問題協議会は、原則として月1回開催する。必要ある場合は、臨時に開催することができる。

3 教育基本問題協議会の招集は、開催日の5日前までに会議の目的とする事項を示して各委員に通知しなければならない。ただし、緊急の場合はこの限りでない。

(議事の成立)

第7条 教育基本問題協議会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席者の過半数をもって決め、可否同数の場合は議長がこれを決める。

3 前項前段の議事について、特別の利害関係にある者は議決に加わることはできない。

(議事録)

第8条 議長は、教育基本問題協議会の議決事項及びその他の必要事項について、議事録を作成しなければならない。

(事務)

第9条 教育基本問題協議会の事務は、浦安キャンパス事務部企画広報課において処理する。

(規程の改正)

第10条 この規程の改正は、理事会が学長の意見を聴き決定する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年5月27日から施行する。

附 則

この規程は、2013年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2014年3月18日から施行する。

附 則

この規程は、2015年4月1日から施行する。

明海大学総合協議会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、明海大学(以下「本大学」という。)学則第12条第2項の規定に基づき、明海大学総合協議会(以下「総合協議会」という。)に関し必要事項を定める。

(組織)

第2条 総合協議会は、次の各号に掲げる総合協議会委員(以下「委員」という。)をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 大学院研究科長
- (4) 学部長
- (5) メディアセンター長
- (6) 病院長
- (7) 教務部長
- (8) 学生部長
- (9) 事務局長
- (10) その他学長が指名した者

2 総合協議会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(任期)

第3条 前条第1項第11号に掲げる委員の任期は、学長がその都度定める。

(任命)

第4条 委員は、理事会の議を経て理事長が任命する。

(審議事項)

第5条 総合協議会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該事項を審議し意見を述べるものとする。

- (1) 全学的な教育研究に関する重要事項で、学長が意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- (2) 各学部、大学院及びその他の機関において、相互の調整を必要とする事項
- (3) 国際交流に関する事項
- (4) インスティテューショナル・リサーチ(IR)に関する事項

(会議)

第6条 学長は、総合協議会を招集し、その議長となる。ただし、学長に事故あるときは、副学長がその職務を代行する。

2 総合協議会は、月1回開催する。ただし、必要ある場合は、臨時に開催することができる。

3 総合協議会の招集は、開催日の5日前までに会議の目的とする事項を示して各委員に通知しなければならない。ただし、緊急の場合はこの限りでない。

(議事の成立)

第7条 総合協議会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席者の過半数をもって決め、可否同数の場合は議長がこれを決める。

3 前項前段の議決には、議長は加わることができない。

4 総合協議会の議事について、特別の利害関係にある者は議決に加わることはできない。

(理事長および常務理事の出席)

第8条 理事長および常務理事は、総合協議会に出席して意見を述べることができる。

(議事録)

第9条 議長は、総合協議会の議決事項およびその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、議長および出席委員のうちから互選された委員2名が署名押印しなければならない。

(庶務)

第10条 総合協議会の事務は、歯学部庶務課において処理する。

(規程の改正)

第11条 この規程の改正は、理事会が学長の意見を聴き決定する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

2 明海大学総合運営会議規程（昭和63年3月7日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2014年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2014年8月4日から施行する。

附 則

1 この規程は、2015年4月1日から施行する。

2 明海大学総合協議会規程細則（平成10年4月1日施行）は廃止する。

明海大学保健医療学部教授会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、明海大学学則第13条第2項の規定に基づき、明海大学保健医療学部教授会（以下「教授会」という。）について必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、専任の教授、准教授及び講師をもって組織する。

(議長等)

第3条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。ただし、学部長に事故のあるときは、学部長があらかじめ指名した者がその義務を代行する。

2 定例教授会は月1回開催する。ただし、必要ある場合には、臨時教授会を開くことができる。

3 学部長は、教授会構成員の3分の1以上の要求があったときは、臨時に教授会を招集しなければならない。

4 教授会の招集は、開催日の5日前までに、会議の目的とする事項を示して、各構成員に通知しなければならない。ただし、緊急の場合は、この限りではない。

(学長、副学長及び事務局長の出席)

第4条 学長及び副学長は教授会に出席して審議事項に関し説明し、陳述することができる。

2 事務局長は教授会に出席して所轄事務に関し説明し、陳述することができる。

(議事の成立)

第5条 教授会は構成員総数の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 前項の場合、教授会に付議される事項について書面をもって、あらかじめ意見を表示したものは出席とみなす。

3 議事は出席者の過半数をもって決め、可否同数の場合は議長がこれを決める。

4 前項前段の議決には、議長は加わることができない。

5 教授会の決議については、特別の利害関係を有する者は、その議事の議決に加わることができない。

(審議事項)

第6条 教授会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり当該事項を審議し、意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前各号に規定するもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ意見を述べることができ

る。

3 第1項第3号に規定する学長が定める事項は学長裁定で定める。

(議事録)

第7条 教授会の議事については議事録をつくり、議長がこれに署名することを要する。

(庶務)

第8条 教授会に関する事務は、浦安キャンパス事務部学事課が掌る。

(雑則)

第9条 この規程の改正は、理事会が学長の意見を聴き決定する。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。

明海大学自己点検・評価規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人明海大学管理運営基本規則第3条第2項の規定に基づき、明海大学（以下「本学」という。）の建学の精神を具現化し、教育研究水準の活性化とその質的向上を図り、本学の目的および社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら行う点検および評価に関し、必要な事項を定める。

(全学委員会)

第2条 次の各号に掲げる事項を行うため、学長のもとに明海大学自己点検評価委員会（以下「全学委員会」という。）を置き、委員会は学長の命によりその処理等を行う。

- (1) 本学における自己点検・評価の実施計画を作成すること。
- (2) 全学の自己点検・評価を実施し、理事会へ報告すること。
- (3) 本学の自己点検・評価に関する年次報告書の作成および公表に関すること。

(組織)

第3条 全学委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 大学院研究科長
- (5) メディアセンター長
- (6) 付属病院長
- (7) 教務部長
- (8) 学生部長
- (9) 事務局長
- (10) その他学長が必要と認めた者

(委員の任期)

第4条 前条第1項第11号の委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長)

第5条 全学委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 全学委員会は、委員の過半数の出席によって成立し、その議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。(キャンパス委員会)

(キャンパス委員会)

第7条 本学の浦安キャンパスおよび坂戸キャンパスに、それぞれのキャンパスの各部局の自己点検・評価を行うため、学長のもとにキャンパス自己点検評価委員会（以下「キャンパス委員会」という。）を置く。

- 2 キャンパス委員会は、全学委員会の依頼により、自己点検・評価を実施し、その結果を全学委員会へ報告する。

(浦安キャンパス委員会の組織)

第8条 浦安キャンパス自己点検評価委員会（以下「浦安キャンパス委員会」という。）は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 外国語学部長、経済学部長、不動産学部長及びホスピタリティ・ツーリズム学部長
- (2) 大学院応用言語学研究科長、経済学研究科長および不動産学研究科長
- (3) メディアセンター長
- (4) 教務部長
- (5) 学生部長
- (6) 学科主任および別科長

- (7) 保健管理センター所長
- (8) 事務部長
- (9) その他学長が必要と認めた者

- 2 前項第9号の委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 浦安キャンパス委員会に委員長を置き、第1項第1号の委員の中から学長が指名する。
- 4 委員長は、浦安キャンパス委員会を招集し、その議長となる。
- 5 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
(歯学部委員会の組織)

第9条 歯学部自己点検評価委員会（以下「坂戸キャンパス委員会」という。）は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 歯学部長
- (2) 大学院歯学研究科長
- (3) メディアセンター長
- (4) 附属病院長
- (5) 教務部長
- (6) 学生部長
- (7) 中央研究部長
- (8) 保健管理センター所長
- (9) 事務部長
- (10) その他学長が必要と認めた者

- 2 前項第11号の委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 坂戸キャンパス委員会に委員長を置き、第1項第1号の委員をもって充てる。
- 4 委員長は、坂戸キャンパス委員会を招集し、その議長となる。
- 5 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
(点検評価事項等)

第10条 全学委員会およびキャンパス委員会は、次の各号に掲げる事項について点検および評価を行う。

- (1) 教育理念・目標等
- (2) 学生の受入れ
- (3) 学生生活への配慮
- (4) カリキュラム、授業時間割等の編成
- (5) 教育指導のあり方
- (6) 試験、成績評価、単位認定
- (7) 教育方法の工夫、改善
- (8) 卒業生の進路状況
- (9) 研究活動
- (10) 教員組織
- (11) 施設設備・環境
- (12) 国際交流
- (13) 社会との連携
- (14) 管理運営、財務
- (15) 大学院の教育・研究活動
- (16) 附属病院およびPDI歯科診療所の活動
- (17) 附属研究所・センター等の活動
- (18) 自己点検・評価体制
- (19) その他学長が全学委員会およびキャンパス委員会の意見を聴き必要と認める事項

- 2 前項各号に掲げる事項に係る具体的な点検項目（以下「全学点検項目」という。）は、全学委員会が別に定める。
(実施部会等の設置)

第11条 キャンパス委員会は委員会所掌事項について、点検評価事項の実態調査・検討等を

行うため実施部会（小委員会等）を置くことができる。

（点検評価の実施）

第12条 全学委員会およびキャンパス委員会は、毎年度点検および評価を行う。

2 全学委員会は、全学点検項目のうちから、当該年度に行う点検項目を定める。

（年次報告書）

第13条 全学委員会は、全学委員会およびキャンパス委員会が行った点検および評価を取りまとめ、理事会へ報告のうえ、年次報告書として公表する。（点検評価結果の対応）

（点検評価結果の対応）

第14条 学長、副学長、学部長、大学院研究科長、メディアセンター長、付属病院長、教務部長、学生部長、中央研究部長および事務局長は、全学委員会およびキャンパス委員会が行った点検および評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについて、その改善に努めるものとする。

（事務）

第15条 全学委員会の事務は歯学部庶務課、キャンパス委員会の事務は各キャンパスの事務部庶務課において処理する。

（雑則）

第16条 この規程に定めるもののほか、点検および評価に関し必要な事項は、全学委員会が別に定める。

（改正）

第17条 この規程の改正は、理事会が学長の意見を聴き決定する。

附 則

1 この規程は、平成5年11月16日から施行する。

2 この規程制定後、はじめて第3条第1項第9号、第8条第1項第7号および第9条第1項第11号に規定する委員となった者の任期は、第4条、第8条第2項および第9条第2項の規定にかかわらず平成6年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月21日から施行し、平成10年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年11月15日から施行する。

附 則

この規程は、2014年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は2015年4月1日から施行する。

2 改正前に選出されている委員については、改正後の第3条、第8条及び第9条の規定により指名されたものとみなし、任期は残任期間とする。

学校法人明海大学情報公開規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人明海大学（以下「本法人」という。）管理運営規則第2条第3項の規定に基づき、本法人が公共性の高い法人として社会的説明責任を果たし、もって公正かつ透明性の高い運営を実現することを目的とし、本法人が保有する情報の公開について必要な事項を定める。

(公開する情報の範囲と方法)

第2条 本法人は、次に掲げる情報を公開するものとする。

(1) 法人の基本情報

- ア 建学の精神、使命・目的
- イ 沿革
- ウ 組織
- エ 役員、職員、施設設備の概況等

(2) 法人の経営及び財務に関する情報

- ア 事業報告書
- イ 財務諸表
- ウ 監査報告書

(3) 教育研究活動に関する情報

- ア 教育研究上の目的
- イ 教育研究上の基本組織
- ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績
- エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況
- オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画
- カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
- キ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境
- ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- コ 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力
- サ 国際交流及び社会貢献

(4) 教員の養成の状況（教職課程）に関する情報

- ア 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画
- イ 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目
- ウ 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- エ 卒業者の教員免許状の取得の状況及び卒業者の教員への就職状況
- オ 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

(5) 自己点検・評価及び第三者評価に関する情報

- ア 自己点検評価書
- イ 大学機関別認証評価 評価報告書

(6) その他の情報

- ア 法令により公表しなければならない情報
- イ 理事長が必要と認めた情報

2 前項の情報の公開は、本法人が定める適当な方法により行うものとする。

(財務書類の閲覧)

第3条 本法人は、本法人寄附行為第32条第2項の規定に基づき、財産目録、貸借対照表、収

支計算書、事業報告書及び監査報告書（以下「財務書類」という。）を各事務所に備え置き、本法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

2 前項の財務書類の閲覧に関し必要な事項は、学校法人明海大学財務書類閲覧取扱要領に定めるところによる。

（非公開情報）

第4条 本法人は、次の各号に掲げる情報については非公開とする。

- (1) 本法人の個人情報保護等に関する諸規程等に抵触する情報
- (2) 特定個人を識別することはできないものの、当該情報を公開することで個人の権利利益を侵害するおそれがある情報
- (3) 法人その他の団体（以下「法人等」という。）に関する情報又は事業を営む個人の事業に関する情報であって、公開することにより、法人等又は個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれのある情報
- (4) 第2条に定める情報のうち公開することにより本法人の事業の運営又は事務の執行に支障を及ぼすおそれがある情報
- (5) その他法令等の規定により公開することができない情報

（改廃）

第5条 この規程の改廃は、理事会において行う。

（雑則）

第6条 この規程に定めるもののほか、情報の公開に関し必要な事項は、その都度理事長がこれを定める。

附 則

この規程は、2017年4月1日から施行する。

明海大学浦安キャンパスファカルティ・ディベロップメント
委員会規程

(設置)

第1条 明海大学外国語学部、経済学部、不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部、総合教育センター、複言語・複文化教育センター及び教職課程センター（以下「浦安キャンパス」という。）に、浦安キャンパスファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、ファカルティ・ディベロップメントセンターと連携しつつ、浦安キャンパス教員の教育研究活動に必要な専門的能力を維持し、改善するためのファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という。）を企画・実施することを目的とする。

(業務)

第3条 委員会においては、次の各号に掲げる事項の企画及び実施業務を行う。

- (1) 教員の教育活動に係るFD活動に関すること。
- (2) 教員の研究活動に係るFD活動に関すること。
- (3) その他のFD活動に関すること。

2 委員会は、前項に規定するFD活動の企画及び実施業務を行うに当たり、必要に応じて、事務職員等の教育研究活動の支援業務等に必要な専門的能力を開発するためのスタッフ・ディベロップメント（SD活動）を、関係事務局と連携し行うことができる。

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長が指名した副学長 1名
- (2) 教務部長
- (3) 外国語学部長が指名した教員 3名
- (4) 経済学部長が指名した教員 1名
- (5) 不動産学部長が指名した教員 1名
- (6) ホスピタリティ・ツーリズム学部長が指名した教員 1名
- (7) 総合教育センター長が指名した教員 1名
- (8) 複言語・複文化センター長が指名した教員 1名
- (9) 教職課程センター長が指名した教員 1名
- (10) 庶務課長
- (11) 学事課長
- (12) その他委員会が必要と認めた者

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

(任期)

第6条 第4条第3号から第9号まで及び第12号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集等)

第7条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
- 3 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(議事)

第8条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、その議事は出席者の過半数をもって決する。

(専門委員会等)

第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会又は学部学科若しくはセンターごとの分科会を置き、特定の専門事項等の処理を付託することができる。

2 専門委員会等の組織等に関することは、委員会において定める。

3 専門委員会等は、必要に応じて委員以外の者を加えることができる。

(事務)

第10条 委員会の事務は、関係する事務局各課の協力を得て浦安キャンパス事務部学事課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会において定める。

附 則

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 平成19年4月1日付けで第4条第3号から第7号まで及び第10号により選出された者の任期は、第6条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、2015年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、2016年4月1日から施行する。

学校法人明海大学事務職員研修規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人明海大学管理運営基本規則第2条第3項に基づき、学校法人明海大学（以下「本法人」という。）の事務職員（以下「職員」という。）に、建学の精神に基づく経営と教学の理念及び基本方針を理解させ、また、これを実現するため必要な管理運営、教育研究に係わる業務の遂行に必要な知識、技能、及び能力の取得及び向上並びに職員相互の融和と協力を図ることを目的に行う研修について定める。

(基本方針)

第2条 研修は、職員の積極的な自己啓発並びに研究活動を尊重し、援助すると共に、本法人の長期経営計画に基づき、人事管理の一環として、計画的かつ継続的に行うものとする。

(研修の種類)

第3条 研修の種類は、次のとおりとする。

- (1) 役職者研修
- (2) 一般職員研修
- (3) 新入職員研修
- (4) 職場研修
- (5) 合同研修

(研修の対象)

第4条 研修は、次の対象について行う。

- (1) 役職者研修は、主任以上の役職者を対象とする。
- (2) 一般職員研修は、前号以外の職員を対象とする。
- (3) 新入職員研修は、当該年度の採用者を対象とする。
- (4) 部署別研修は、各職場毎の所属職員を対象とする。
- (5) 合同研修は、前各号の区分にかかわらず、全体又は一部の職員を対象とする。

(実施)

第5条 前条各号の研修については、主管部署において立案し、事務局長の承認を得るものとする。

(予算)

第6条 研修に掛かる予算については、主管部署において措置し執行するものとする。

(報告)

第7条 研修が終了したときは研修の責任者は、1ヵ月以内に研修報告書を作成し、所属長を経て事務局長に提出しなければならないが、事務局長はこれを理事長に提出するものとする。

(事務)

第8条 研修に関する事務は、歯学部事務部庶務課において処理する。

(改正)

第9条 この規程の改正は、理事会が事務局長の意見を聴き決定する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2015年4月1日から施行する。

明海大学浦安キャンパス総合教育センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、明海大学学則第65条の2第2項の規定に基づき、明海大学浦安キャンパス総合教育センター（以下「センター」という。）の管理、運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、外国語学部、経済学部、不動産学部及びホスピタリティ・ツーリズム学部（以下「浦安キャンパス」という。）の学生の学力及び資質の向上を図るため、社会性、創造性及び合理性を備えた質の高い人材を育成する総合的な教育を、各学部及び複言語・複文化教育センターと連携の下、機能的に実施し、もって広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成に資することを目的とする。

(教育部門)

第3条 センターに、前条に規定する教育目的を効果的に達成するため、基礎教育部門、人間力形成教育部門及びキャリア教育部門を置く。

- 2 基礎教育部門は、学士課程教育の基盤を形成し、学修動機の涵養と大学における学修に必要な基礎力や社会生活に必要な汎用的技能の修得等を図るため、効果的な基礎教育（複言語・複文化教育センターにおいて行うものを除く。）を行う。
- 3 人間力形成教育部門は、教養教育の実践を通じて、社会性、創造性及び合理性を涵養し、幅広い教養とともに自ら課題発見・解決を行うための人間力を養成するための効果的な人間力形成教育（複言語・複文化教育センターにおいて行うものを除く。）を行う。
- 4 キャリア教育部門は、キャリアサポートセンターと連携を図り職業観を涵養することで、効果的なキャリア形成教育を行う。

(組織)

第4条 センターは、次の各号に掲げる職員をもって構成する。

- (1) 総合教育センター長（以下「センター長」という。）
 - (2) 基礎教育部門長、人間力形成教育部門長及びキャリア教育部門長（以下「部門長」という。）
 - (3) センターの教育職員（以下「専任教員」という。）
 - (4) センターの授業運営を担当する学部の教育職員（以下「兼任教員」という。）
 - (5) センターの非常勤教育職員（以下「非常勤教員」という。）
- 2 円滑な授業運営を図るため、必要に応じて各教育部門に主任コーディネーターを置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長は、学長の命を受けセンターの管理、運営業務を総括・所掌する。

(部門長)

第6条 部門長は、センター長の命を受け、当該教育部門の管理、運営業務を所掌する。

- 2 部門長は、学長がセンター長の意見を聴き、学長の推薦に基づき理事長が任命する。

(専任教員及び非常勤教員の採用、昇任手続)

第7条 専任教員及び非常勤教員の採用、昇任手続は、学校法人明海大学教育職員採用及び昇任手続規程に基づき行うものとする。

(専任教員及び非常勤教員)

第8条 専任教員及び非常勤教員は、部門長の命を受け、当該教育部門の授業運営を所掌する。

- 2 専任教員及び非常勤教員は、第3条に規定する各教育部門に配置されるものとする。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、部門長の命を受け、当該教育部門の授業運営を所掌する。

- 2 兼任教員は、学長がセンター長の意見を聴き、学長の推薦に基づき理事長が任命する。
- 3 兼任教員は、第3条に規定する各教育部門に配置されるものとする。

(主任コーディネーター)

第10条 主任コーディネーターは、部門長の命を受け、当該教育部門の特定の授業科目について、その運営をコーディネートする。

2 主任コーディネーターは、センター長が部門長の意見を聴き、センター長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

(運営委員会)

第11条 センターに浦安キャンパス総合教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1) センター長

(2) 各部門長

(3) その他センター長が必要と認めた者

3 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

4 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

5 委員会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

6 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

7 学長及び副学長は運営委員会に出席して審議事項に関し説明、陳述することができる。

8 事務局長は運営委員会に出席して所轄事務に関し説明、陳述することができる。

(運営委員会の審議事項)

第12条 運営委員会は、学長が決定を行うに当たり、教育職員の採用、昇任に係る資格審査に関する事項及び教育研究に関する重要事項で、運営委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて審議し、学長の求めに応じ意見を述べることができる。

(専門委員会)

第13条 センター長は、学長の命を受け、必要に応じて専門委員会を置き、特定の専門的事項の処理を付託することができる。

2 専門委員会の組織等に関することは、学長がセンター長の意見を聴き定める。

3 専門委員会は、必要に応じてセンターの構成員以外の職員を加えることができる。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、理事会が学長の意見を聴き決定する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。

2 明海大学浦安キャンパス INT 教育センター規程（平成12年3月21日制定）の全部を改正する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 明海大学浦安キャンパス総合教育センター教授会規程（平成15年2月18日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、2015年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2015年10月1日から施行する。

明海大学浦安キャンパスキャリアサポートセンター規程

(設置)

第1条 この規程は、学校法人明海大学管理運営基本規則第3条第2項及び明海大学学則第69条の規定に基づき、明海大学外国語学部、経済学部、不動産学部及びホスピタリティ・ツーリズム学部（以下「浦安キャンパス」という。）に、学長のもとに明海大学浦安キャンパスキャリアサポートセンター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、浦安キャンパス学生のキャリアサポートに関する基本方針を策定するとともに、各学部及び総合教育センターと連携し、キャリア形成、職業選択及び進路選択のための具体的なキャリアサポートプログラムを効果的に実施し、もって国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条に規定する目的を効果的に達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) キャリアサポートに関する基本方針の策定に関する事項
- (2) キャリアサポートプログラムの企画立案及び実施に関する事項
- (3) キャリアサポートに係る学生の指導に関する事項
- (4) 就職指導及び職業紹介に関する事項
- (5) 求人の開拓に関する事項
- (6) 進路選択に係る情報の収集及び提供に関する事項
- (7) 学生の就職・進路状況の調査及び分析に関する事項
- (8) 各学部及び総合教育センターとの連絡調整に関する事項
- (9) その他センターの目的達成に必要な事項

(組織)

第4条 センターは、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 学科主任
- (4) キャリアアドバイザー
- (5) その他、学長がセンター長の意見を聴き指名した職員

2 前項第3号及び第4号の職員の任期は、原則として2年間とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長)

第5条 センター長は、センターの管理・運営を総括・所掌する。

2 センター長は、学長の推薦に基づき理事長が任命する。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故のあるときは、センター長があらかじめ指名した副センター長がその職務を代行する。

2 副センター長は、学長が推薦する教育職員及び事務局長が推薦する学生支援課の職員（課長又は主幹）をもって充てるものとし、理事長が任命する。

(キャリアアドバイザー)

第7条 キャリアアドバイザーは、センター長の命を受け、センターの業務を遂行する。

2 キャリアアドバイザーは、次の各号に掲げる職員のうちから、センター長の学長経由の推薦に基づき理事長が任命する。

- (1) 総合教育センターの教育職員
- (2) 総合教育センターの非常勤教育職員
- (3) 浦安キャンパス事務部学生支援課の事務職員

(運営委員会)

第8条 センター業務の円滑な運営に必要な事項を協議するため、学長のもとに明海大学浦安キャンパスキャリアサポートセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、第4条第1号から第4号までに掲げる者（兼任教育職員を除く。）をもって構成する。

3 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

4 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

（専門委員会）

第9条 センター長は、必要に応じて専門委員会を置き、特定の専門的事項の処理を付託することができる。

2 専門委員会の組織等に関することは、センターにおいて定める。

3 専門委員会は、必要に応じてセンターの構成員以外の職員を加えることができる。

（事務）

第10条 センターの事務は、浦安キャンパス事務部学生支援課において処理する。

（改廃）

第11条 この規程の改廃は、理事長が学長の意見を聴いて決定する。

（雑則）

第12条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2014年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は2015年4月1日から施行する。

2 改正前に選出されている委員については、改正後の第4条の規定により指名されたものとみなし、任期は残任期間とする。

附 則

この規程は、2016年4月1日から施行する。